

小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡

小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡

－湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書－

－湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書－

二〇一六年三月
公益財団法人 和歌山県文化財センター

2016年3月

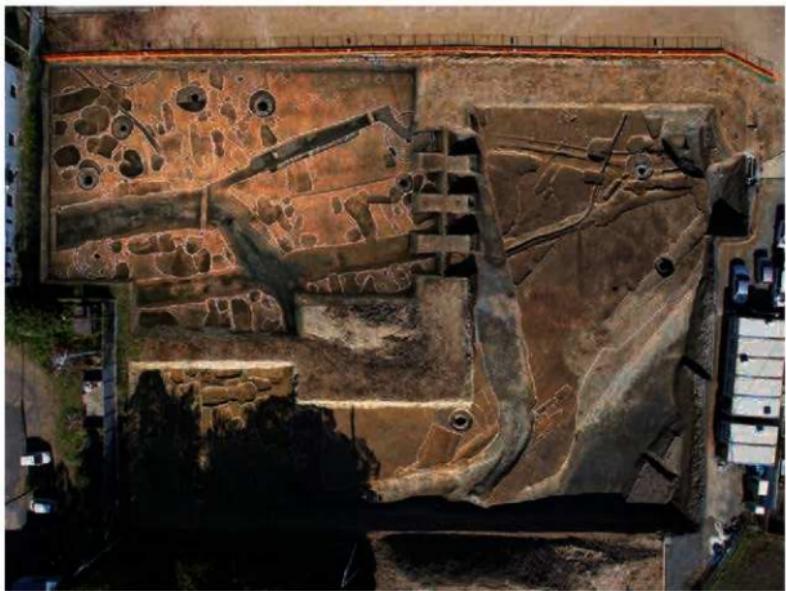
公益財団法人 和歌山県文化財センター

小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡

-湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書-

2016年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



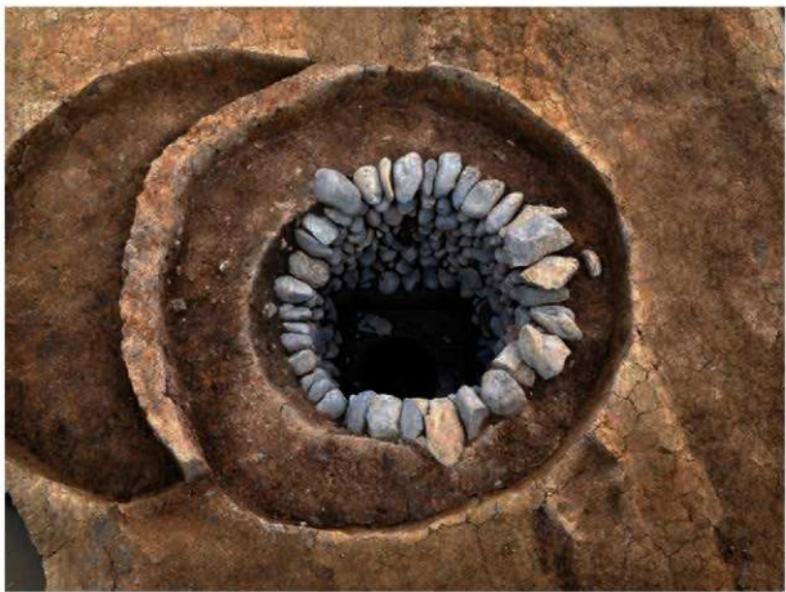
1. 調査区全景（上空から）



2. 調査区 1 全景（西上空から）



1. 003 売穴建物（北から）



2. 008 井戸（西から）

序

御坊市に所在する小松原II遺跡・湯川氏館跡は、日高川河口に広がる日高平野の一画に位置します。周辺には多くの遺跡が集中し、弥生時代以降は各期を通じて日高地方の中核を占めてきたところです。

このたび、御坊市の委託を受けて湯川中学校の改築工事に伴う小松原II遺跡・湯川氏館跡の発掘調査を実施しました。付近では、十数次にわたる調査が行なわれていますが、今回が最も広い面積を調査したことになります。

調査では、弥生時代中期の竪穴建物・溝や奈良時代の溝、鎌倉時代の井戸、室町時代の堀や井戸・池などが見つかりました。これらの成果から、弥生時代中期には集落があり、奈良時代と鎌倉時代には寺院の存在が窺え、室町時代には湯川氏の館が築かれていることが分かりました。

奈良時代の溝からは、道成寺創建期の瓦と同タイプの軒丸瓦が出土し、付近に白鳳期まで遡る寺院が存在した可能性があります。この寺は、「日本書紀」に登場する「別寺」と考えることもできます。

また、湯川氏館の東を限る堀が見つかったことで、館の規模がほぼ想定できるようになり、東西約225m、南北200mの方形居館で、各地で見つかっている守護館に匹敵する規模であることが分かりました。

ここに、発掘調査の成果をまとめ、報告書を刊行いたします。本書が郷土の歴史を知る上で一資料となれば幸いかと存じます。

最後となりましたが、発掘調査並びに報告書作成に当たりご指導・ご協力をいただきました関係各位の皆様方に深く感謝申し上げるとともに、今後とも当文化財センターへの一層のご理解とご支援を賜りますようお願いします。

平成28年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井敏雄

例 言

1. 本書は、御坊市湯川町小松原に所在する小松原II遺跡・湯川氏館跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、湯川中学校改築工事に伴うもので、平成25年度に発掘調査を実施し、平成27年度に報告書作成に伴う出土遺物等整理業務を実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、御坊市の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
4. 発掘調査・整理業務の調査組織は下記のとおりである。

【平成25年度】		【平成27年度】	
事務局長	勝浦久和・里森 修	米田 良博	
埋蔵文化財課長	井石 好裕	土井 孝之	
発掘調査業務担当	川崎 雅史		
遺物整理業務担当		小林 充貴	
		川崎 雅史	

事務局長	勝浦久和・里森 修	米田 良博
埋蔵文化財課長	井石 好裕	土井 孝之
発掘調査業務担当	川崎 雅史	
遺物整理業務担当		小林 充貴
		川崎 雅史

5. 本書の執筆・編集は川崎が行った。
6. 発掘調査及び遺物整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料は、公益財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は御坊市教育委員会が保管している。
7. 発掘調査及び遺物整理業務に際し、下記の方々からご協力を得た。記して感謝を表します。
小賀直樹 坂本亮太 新谷和之 白石博則 中村貞史 森村健一 水島大二 若林邦彦

凡 例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、「財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）」（2006. 4）に準拠して行った。
2. 調査並びに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（世界測地系）第VI系のもので、値m単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位（T.P.+）の数値である。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会事務局監修「新版標準土色帖」（2010年版）に準じ、土質は調査担当者の任意の判断で行っている。
4. 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲する。遺構番号は1からの通し番号で、遺構名は番号の後に遺構種別を記して表示している
5. 遺物番号は、土器類が番号のみで、石器・石製品がS、金属製品・錢貨がM、鍛冶関係・炭化物がC、木器・木製品がW、瓦類がTを冠して、それぞれ1から付している。
6. 調査で使用した調査コード13-24・024/025（2013年度 - 御坊市・小松原II遺跡/湯川氏館跡）で、記録資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

卷頭図版

序・例言・凡例

第1章 環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 経過と経緯	5
第1節 調査の経緯	5
第2節 確認調査	5
第3節 発掘調査	5
第4節 出土遺物等資料の整理	6
1. 出土遺物応急整理	6
2. 出土遺物等整理業務	6
3. 木製品等保存処理	6
第5節 普及活動	7
1. 現地説明会	7
2. 現地見学	7
第3章 既往の調査	8
第4章 調査方法	10
第1節 基準点・水準点測量	10
第2節 地区割り	10
第3節 写真撮影・実測	10
第4節 航空写真撮影	11
第5節 基本層位と遺構面	11
第5章 調査の成果	12
第1節 調査概要	12
第2節 弥生時代の遺構と遺物	12
1. 塚穴建物	15
2. 土坑	24
3. 溝	28
第3節 古代の遺構と遺物	33
第4節 鎌倉時代の遺構と遺物	36
第5節 室町時代の遺構と遺物	41
1. 堀	41
2. 井戸	57
3. 池	67
第6節 近世の遺構と遺物	74

第6章　まとめ	75
第1節　弥生時代	75
第2節　古代	77
第3節　鎌倉時代	78
1. 浄土宗系寺院	78
2. 土器	78
第4節　室町時代	79
1. 湯川氏について	79
2. 土器組成	79
3. 湯川氏館とその周辺	81
4. 湯川氏館の規模	83
5. 庭園と方形区画	84
6. 虎口	84
7. 館の消長	85
遺物観察表（土器類）	87
遺物観察表（石器・石製品）	106
遺物観察表（鍛冶関係・炭化物）	106
遺物観察表（木器・木製品）	107
遺物観察表（金属製品・錢貨）	109
遺物観察表（瓦）	110

挿図目次

図1 周辺の遺跡	1	図16 004堅穴建物 出土遺物（1）	19
図2 尾ノ崎遺跡方形周溝墓群	3	図17 004堅穴建物 出土遺物（2）	20
図3 堅田遺跡（日高郡衙跡）	4	図18 024堅穴建物	21
図4 既往の調査区	8	図19 024堅穴建物 出土遺物	22
図5 地区割り	10	図20 028堅穴建物	23
図6 基本層位	11	図21 028堅穴建物 出土遺物	23
図7 弥生時代の主要遺構	12	図22 弥生時代の土坑・溝	24
図8 遺構全体図	13・14	図23 068土坑	25
図9 002堅穴建物	15	図24 弥生時代の溝・土坑断面	25
図10 002堅穴建物 出土遺物	15	図25 弥生時代の土坑 出土遺物（1）	26
図11 003堅穴建物	16	図26 弥生時代の土坑 出土遺物（2）	27
図12 003堅穴建物 出土遺物	17	図27 005溝 出土遺物（1）	28
図13 036土器棺墓	18	図28 005溝 出土遺物（2）	29
図14 036土器棺墓 出土遺物	18	図29 270溝 出土遺物	30
図15 004堅穴建物	19	図30 弥生時代の石器（1）	31

図31 弥生時代の石器（2）	32	図64 026井戸 出土遺物	60
図32 古代・鎌倉時代の主要遺構	33	図65 048井戸	61
図33 263溝断面	33	図66 048井戸 出土遺物	61
図34 遺構から出土した古代の遺物	34	図67 070井戸	62
図35 原位置を離れた古代の遺物	35	図68 070井戸 出土遺物	63
図36 295井戸	36	図69 131井戸	64
図37 鎌倉時代の遺物（1）	37	図70 131井戸 出土遺物（1）	64
図38 鎌倉時代の遺物（2）	38	図71 131井戸 出土遺物（2）	65
図39 調査区2南壁断面	39・40	図72 261井戸	66
図40 室町時代の主要遺構	41	図73 261井戸 出土遺物	66
図41 001堀断面	42	図74 268井戸	67
図42 001堀内橋脚遺構	42	図75 268井戸 出土遺物	68
図43 001堀内土師器皿出土状況	43	図76 236池 出土遺物（1）	68
図44 001堀 出土遺物（1）	43	図77 236池 出土遺物（2）	69
図45 001堀 出土遺物（2）	44	図78 236池 出土遺物（3）	70
図46 001堀 出土遺物（3）	45	図79 236池 出土遺物（4）	71
図47 001堀 出土遺物（4）	46	図80 室町時代の瓦（1）	72
図48 001堀 出土遺物（5）	47	図81 室町時代の瓦（2）	73
図49 001堀 出土遺物（6）	48	図82 銭貨	73
図50 019堀断面	49	図83 近世の主要遺構	74
図51 019堀 出土遺物	49	図84 近世の遺物	74
図52 027堀	50	図85 弥生時代中期の小松原Ⅱ遺跡周辺	75
図53 027堀 出土遺物	51	図86 小松原Ⅱ遺跡検出の堅穴建物と 出土遺物	76
図54 258堀断面	52	図87 道成寺創建期の瓦	77
図55 258堀 出土遺物	52	図88 鎌倉時代の木製品	78
図56 259堀断面	53	図89 戒名を刻んだ鳥衾瓦	78
図57 259堀内橋脚遺構	54	図90 各遺跡の土器組成	80
図58 259堀出土遺物（1）	55	図91 湯川氏館とその周辺	82
図59 259堀出土遺物（2）	56	図92 湯川氏館推定復元図	83
図60 008井戸	57	図93 湯川氏館変遷図	85
図61 008井戸底の曲物	57	図94 「天正四年」銘の平瓦	86
図62 008井戸 出土遺物	58		
図63 026井戸	59		

図版目次

- | | | | |
|--------|---|------|---|
| 卷頭図版 1 | 1. 調査区全景（上空から）
2. 調査区1全景（西上空から） | 図版11 | 1. 266・270溝（上空から）
2. 270溝 遺物出土状況（東から）
3. 266・270溝 断面（東から） |
| 卷頭図版 2 | 1. 003竪穴建物（北から）
2. 008井戸（西から） | 図版12 | 1. 263溝（上空から）
2. 263溝 断面（南西から）
3. 260谷状遺構 断面（東から） |
| 図版 1 | 1. 遺跡近景（南東上空から）
2. 調査区1（南上空から）
3. 調査区1（上空から） | 図版13 | 1. 295井戸（北東から）
2. 295井戸 断面（北東から）
3. 295井戸 井戸側（北東から） |
| 図版 2 | 1. 調査区2（北上空から）
2. 調査区2（上空から）
3. 調査区2（東上空から） | 図版14 | 1. 001堀（上空から）
2. 001堀 A-A' 断面（東から）
3. 001堀 C-C' 断面（南から） |
| 図版 3 | 1. 調査区1西側 遺構検出状況（北から）
2. 調査区1東側 遺構検出状況（南東から）
3. 調査区1全景（北西から） | 図版15 | 1. 001堀内 橋脚遺構（東から）
2. 001堀内 亂杭遺構（北西から）
3. 001堀内 土師器皿出土状況（北から） |
| 図版 4 | 1. 調査区1 全景（東から）
2. 002竪穴建物（南から）
3. 002竪穴建物 断面（北から） | 図版16 | 1. 019堀（東から） 遺構302
2. 019堀 D-D' 断面（東から）
3. 027堀（上空から） |
| 図版 5 | 1. 003竪穴建物（上空から）
2. 003竪穴建物 遺物出土状況（南から）
3. 003竪穴建物内 172土坑断面（南から） | 図版17 | 1. 027堀内 石垣（北西から）
2. 027堀内 石垣（北東から）
3. 027堀 断面（北東から） |
| 図版 6 | 1. 003竪穴建物内 036土器棺墓（南から）
2. 004竪穴建物（北から）
3. 004竪穴建物 断面（西から） | 図版18 | 1. 258・259堀（南から）
2. 258・259堀（北から）
3. 258堀 断面（南から） |
| 図版 7 | 1. 024竪穴建物（東から）
2. 024竪穴建物 炭化木・遺物検出状況（南東から）
3. 024竪穴建物内 153土坑断面（南西から） | 図版19 | 1. 259堀 断面（南から）
2. 259堀内 橋脚遺構（南から）
3. 259堀内 橋脚遺構（西から） |
| 図版 8 | 1. 028竪穴建物（西から）
2. 028竪穴建物内 143土坑断面（南から）
3. 028竪穴建物内 145土坑断面（北から） | 図版20 | 1. 008井戸（西から）
2. 008井戸 断面（西から）
3. 008井戸内 方形枠・曲物（西から） |
| 図版 9 | 1. 弥生時代の土坑（上空から）
2. 068土坑 遺物出土状況（北東から）
3. 293土坑 断面（南西から） | 図版21 | 1. 026井戸（東から）
2. 026井戸 断面（北から）
3. 026井戸内（東から） |
| 図版10 | 1. 005溝（上空から）
2. 005溝 遺物出土状況（南西から）
3. 005溝 断面（北西から） | | |

図版22	1. 048井戸（東から） 2. 048井戸 断面（東から） 3. 048井戸内（東から）	図版26	1. 268井戸（南から） 2. 268井戸 断面（南から） 3. 268井戸底（南から）
図版23	1. 070井戸（南から） 2. 070井戸 断面（南から） 3. 070井戸内（西から）	図版27	1. 236池（上空から） 2. 236池断面（北東から） 3. 調査区1 近世土坑群（上空から）
図版24	1. 131井戸（西から） 2. 131井戸 断面（東から） 3. 131井戸底（東から）	図版28	1. 調査区2 近世土坑群（東から） 2. 042土坑 断面（東から） 3. 057土坑 断面（南から）
図版25	1. 261井戸（南から） 2. 261井戸 断面（東から） 3. 261井戸内（北から）	図版29～34	弥生土器
		図版35	弥生時代の石器
		図版36	弥生時代の石器・古代の遺物
		図版37・38	鎌倉時代の遺物
		図版39～53	室町時代の遺物

表目次

表1 湯川氏館跡に係る既往の調査………	9	表4 室町時代の遺構の土器組成………	80
表2 小松原Ⅱ遺跡に係る既往の調査…	9	表5 236池の土器組成 ………………	80
表3 260谷状遺構の土器組成・鎌倉時代	79	表6 各遺跡の土器組成……………	81

写真目次

写真1 堅田遺跡環濠集落……………	2	写真7 出土遺物等整理業務・復元作業	6
写真2 堅田遺跡出土の青銅器鋳型……	2	写真8 出土遺物等整理業務・組版作業	6
写真3 小松原銅鐸……………	2	写真9 第2回現地説明会……………	7
写真4 岩内3号墳遺物出土状況………	3	写真10 湯川中学校での説明会………	7
写真5 発掘調査風景……………	5	写真11 航空写真撮影風景………	11
写真6 出土遺物等整理業務・実測作業	6	写真12 基本層位……………	11

第1章 環境

第1節 地理的環境

小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡が所在する御坊市は、紀伊半島の西海岸を占める和歌山県のはば中央に位置し、護摩壇山に源を発する日高川の河口域を占める。市域は南北 16.3km、東西 8.4km と細長く、西で太平洋を臨み、北部で日高郡日高町・美浜町、東部で印南町・日高川町に隣接し、面積約 44 km²を有する。地形的に見ると、市の北端には白馬山脈があり、日高川北岸には県下第2の沖積平野である日高平野が広がる。平野部と山脈の間には比較的緩やかな丘陵が広がり、亀山や八幡山などの独立丘陵が島状に点在する。一方、日高川以南では山並みが海岸近くまで迫り、平野は海岸段丘上とその間析谷に沿う小平野に求められるのみである。

第2節 歴史的環境（図1）

御坊市は肥沃な日高平野を基盤に古くから発達したところであり、多くの遺跡が遺されている。

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は、日高川以南の海岸段丘上で多く見つかっており、和歌山市

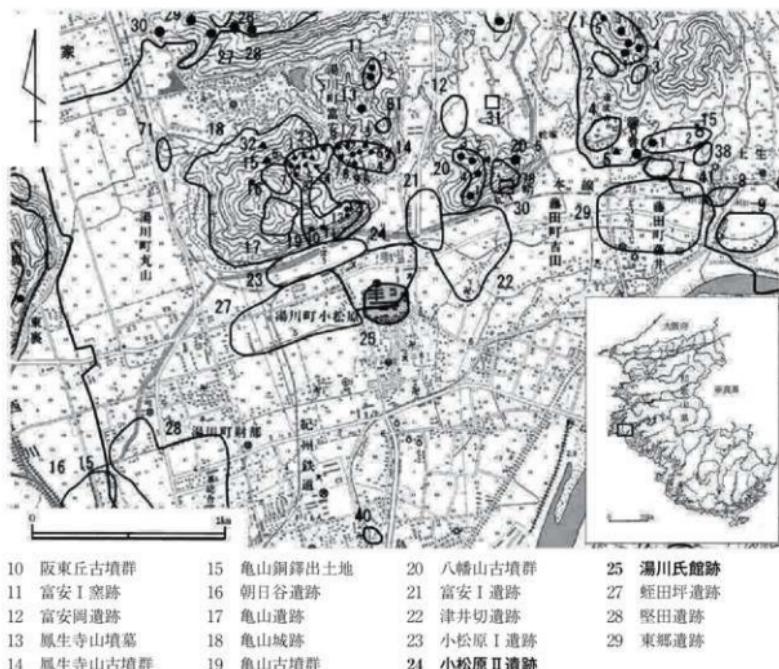


図1 周辺の遺跡



写真1 堅田遺跡環濠集落



写真2 堅田遺跡出土の青銅器鋳型

南東部や紀の川市貴志川町、有田川町などとともに県下では最も古くから人々が生活していた地域として周知されている。当該期の遺跡としては、尾ノ崎遺跡や壁川崎遺跡などがあり、ナイフ型石器・スクレイバー・細石刃などの遺物が出土している。

縄文時代 縄文時代の遺跡としては、日高川以南では海岸段丘上に中村I・II遺跡や尾ノ崎遺跡・壁川崎遺跡などがあり、前期末以降の土器などが出土している。日高川以北の沖積平野部では、後期以降に田井遺跡や小松原II遺跡などが営まれるようになる。

弥生時代 弥生時代の遺跡は、水田を管理しやすい平野部に集中するようになる。古い時期の日高川が形成した自然堤防上には上流域より東郷・津井切・富安I・小松原I・蛭田坪・堅田などの遺跡が連なる。このうち堅田遺跡（写真1・2）は3重の環濠を巡らした前期の集落で、日本最古とされる青銅器の鋳型（ヤリガニナ）が出土した。中期初め頃の集落は今の所明らかになっていないが、隣接する美浜町吉原遺跡でこの時期の方形周溝墓が検出されている。中期中頃以降、日高平野に展開する集落は活況を呈し、東郷遺跡・小松原II遺跡・富安I遺跡が遺物・造構の豊富さからも中心的な集落になると考えられる。中期末頃になると平野部に展開していたほとんどの集落は活動を止め、それと整合するかのように平野部を見下ろす亀山遺跡に高地性集落が営まれる。亀山遺跡は後期中頃まで続き、その後、平野部での集落が再度活発化する。そんな中にあって東郷遺跡は、唯一後期前半段階でも集落は平野部に立地する。一方、日高川以南の中村地区遺跡では、中期末から後期前半頃まで平野部に集落があり、その後、すぐ傍の丘陵上に集落を移し、古墳時代前期まで継続する事が明らかになっている。庄内・布留段階まで丘陵上に集落が立地する現象は、岩内II遺跡や熊野神社遺跡でも確認されており、高地性集落の成立時期が一過的なものではなく、成立の原因も一元的でないことが窺える。

銅鐸は平野部周辺で7個出土している。県下で最も古く位置付けられる外縁付鉢1式横帯文銅鐸が小松原II遺跡



写真3 小松原銅鐸

の近くで（写真3）、扁平鉢式銅鐸3個が亀山遺跡の一画で発見されているのをはじめ、亀山の北側に位置する向山からは突線鉢（3・4）式銅鐸2個が、東郷遺跡の近くからは県下最大の突線鉢5式銅鐸が出土している。

弥生時代後期後半以降、日高川以南の海岸沿いでは製塩が行われるようになり、製塩土器が出土する遺跡が分布する。このうち野島遺跡は当地域ではいち早く製塩を始めた集落と考えられ、多くの製塩土器が出土している。

古墳時代 古墳時代の遺跡は、前期に関しては弥生時代から継続するものが多く、周辺に広く展開するようになる。東郷遺跡では前期初頭に水路の掘削など大規模な開発が行われる。また広域な地域からの搬入土器が多い事が見て活発に交流していた事が窺がえ、この時期の日高平野における中心的な集落であったと考えられる。古墳時代中・後期の集落は、富安I遺跡や東郷遺跡が知られるのみである。

古墳は日高川右岸では平野部北側の丘陵地に、左岸では海岸段丘上に集中しており、御坊市域だけでも約150基の古墳が確認されている。前期末から中期に位置付けられる古墳としては、日高川の北側では鏡・玉類・刀劍類などが出土した阪東丘1・2号墳がある。また、鳳生寺古墳群は古式須恵器や滑石製品が副葬され、西麓に位置し同様な遺物が出土する富安I遺跡との関係が注目される。日高川の南では、岩内3号墳（写真4）が中期古墳として挙げることができる。また、尾ノ崎遺跡の方形周溝墓群（図2）は古墳時代前期初頭から中期初頭にかけて造営され、最終的には前方後方形の周溝墓も現れる。

古墳時代後期になると竪穴式石室や横穴式石室を内部主体とする多くの古墳が築かれ、各所に古墳群を形成する。天田28号墳は当地方では唯一の前方後円墳で、紀中・紀南地方では例が少ない埴輪が出土する。中村1号墳は一つの墳丘に竪穴式石室1基と土坑2基を主体部にもち、土坑からは製塩土器が出土している。

終末期の古墳には、岩内1号墳がある。地



図2 尾ノ崎遺跡方形周溝墓群



写真4 岩内3号墳遺物出土状況

方では珍しい漆塗木棺や銀線蛭巻太刀が出土し、築造時期や遺物内容から有間皇子の墓とする説もある。

古墳時代の須恵器を焼成していた窯跡としては、富安Ⅰ窯跡がある。6世紀後半から7世紀にかけて操業される窯跡で、2基の登窯が小谷部に並列していた。このうち1号窯跡は残存状態がよく、窯体は地面をトンネル状に削り抜いて築造していることが明らかになっている。

古代～中世 日高川下流域は日高郡に属し、この地域に財部・内原・岩淵の3つの郷を比定することができる。日高郡衙は、堅田遺跡周辺に存在したことが発掘調査で明らかにされている。調査では規則正しく配置された大規模な掘立柱建物群が検出され、硯や墨書き土器などが見つかっている。また、小松原Ⅱ遺跡では大きな掘形をもつ掘立柱建物や硯などが見つかっており、役所などの存在を考えることができる。堅田遺跡にあった郡衙が奈良時代後半には廃絶していることや、小松原Ⅱ遺跡で奈良時代から平安時代の遺物が出土することから、郡衙が小松原Ⅱ遺跡周辺に移動した可能性も考えられる。小松原Ⅱ遺跡の最近の調査では、道成寺の創建期の瓦と同形式の白鳳瓦が出土しており、「日本書紀」の説話に郡衙近くの寺として登場する「別寺」の可能性もある。

財部郷からは、調として塩を貢納していたことが平城宮出土の木簡により窺うことができる。岩内Ⅱ遺跡では倉を含む9棟の掘立柱建物が検出されており、硯の出土などからも、岩淵郷の郷家などの可能性も考えられる。

古代の須恵器窯としては、富安Ⅰ窯跡から継続するように7～8世紀にかけて操業される富安Ⅱ窯跡や8世紀のみ操業される猪野Ⅱ窯跡がある。

平安時代前・中期の当地の様子を窺う資料は少ないが、後期になると荘園がつくられるようになり、富安荘・蘿財荘・日高荘があったことが文書資料から窺うことができる。また、朝廷貴族による熊野御幸が行われるようになり、道沿いには王子社が設けられる。

南北朝時代、北朝方として活躍した湯川氏は足利幕府の奉公衆として、小松原館や龟山城を拠点に室町時代末頃には日高をはじめ牟婁・有田まで勢力を拡大するが、天正十三年（1585）の羽柴秀吉の紀州攻めにより退転する。



図3 堅田遺跡（日高郡衙跡）

第2章 経緯と経過

第1節 調査の経緯

御坊市立湯川中学校が改築されることになり、既往の建物を取壊し、敷地南側のグランド・テニスコートに新規に体育館・校舎を建築することになった。開発対象地には弥生時代から中世の遺跡である小松原Ⅱ遺跡及び室町時代の湯川氏館跡が展開し、改築工事に伴い記録保存目的の発掘調査の要否及び記録保存目的を要する範囲を判断するために確認調査が必要となった。

第2節 確認調査

確認調査は、「平成24年度湯川中学校改築工事に伴う小松原Ⅱ遺跡確認調査監理業務」として御坊市から委託された公益財団法人和歌山県文化財センターが技師1名を派遣して、御坊市教育委員会生涯学習課の担当職員の指示を受けて平成24年6月7日～9月10日にかけて実施した。このうち現地調査は、6月15日～7月13日である。調査は体育館・校舎の軸方向で井桁状に基本軸を設け、それに沿うように調査区を設定した。調査区は、幅2mで、長さ4～18mのトレーニング14箇所（総延長143m）と、4m×4mのグリッド1箇所の計15箇所で、総面積は302m²である。

確認調査の結果、開発予定地の全面で弥生時代以降の遺構が検出でき、南側には湯川氏館の池が存在し、東端には湯川氏館の東堀の存在が予想できるなど、小松原Ⅱ遺跡の内容や湯川氏館の構造を知るうえでも全面的な本調査が必要と判断された。

第3節 発掘調査

本調査は、「湯川中学校改築工事に伴う小松原Ⅱ遺跡及び湯川氏館跡発掘調査業務」として御坊市の委託を受けた。当初の調査予定面積は、建物基礎の余掘り分を含めて3,953m²で、業務期間は、平成25年4月23日から平成26年3月30日である。このうち発掘調査は、「小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡発掘調査工事」として、株式会社梶工務店が工事を請け負い、5月17日～12月26日まで和歌山県教育委員会の指導を受けて実施した。また、発掘調査に伴う航空写真撮影と基準点測量は、「小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡発掘調査に伴う航空写真測量・基準点測量」として、株式会社共和に業務委託した。

調査対象地は、体育館部分の調査区1と校舎部分の調査区2に分かれ、順次調査を行った。調査区1の掘削作業は6月から8月末まで、8月29日に第1回航空写真測量・撮影を実施した。9月からは調査区1の埋戻し作業とともに、調査区2の掘削作業をおこない、11月14日に第2回航空写真測量・撮影を実施した。



写真5 発掘作業風景

その後、補足調査の後、調査区2の埋戻し作業を行い、12月26日までに発掘調査工事の作業を終了した。なお、最終的な調査面積は、側溝やフェンスが崩壊する恐れがあったことから、控えを取り内側で調査区を設定したことにより、3,783m²と縮小している。

1月以降は、実績報告書作成、図面・写真整理、航空写真測量図の校正をおこない、1月31日までに発掘調査業務のすべての作業を終了した。

第4節 出土遺物等資料の整理

1. 出土遺物応急整理

調査で出土した遺物については、時期決定を行い、調査方法の判断資料とするため、また、現地説明会等で公開することを目的として、調査現場の監督員詰所において洗浄作業を実施した。作業は土器類・瓦類・石器・石製品・木製品について行い、金属製品については水を使わずハケによって泥落としを行っている。総数量は遺物収納コンテナ197箱と大型水槽に1箱分である。

2. 出土遺物等整理業務

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は、発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。

遺物の登録・注記・接合・補強・復元・実測等の一連の作業を行うとともに、木製品については再洗浄も実施した。また、遺構実測図の調整をおこない、遺物実測図とともにトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。

現場で撮影した遺構写真については、収納・登録等の作業を行った。また、報告書掲載の遺物写真を撮影し、主要な遺構写真とともに組版を行い写真図版を作成した。

また、遺物観察表を作成するとともに、一連の作業を踏まえ原稿執筆を行った。

業務は平成27年4月から実施し、平成28年3月に本書を刊行するに至った。

3. 木製品等保存処理

木製品・金属製品等は、ほぼ原形を保って出土しても、そのまま乾燥させると形が崩れ、場合によっては粉末状になる。木製品は水漬することで、一時的な保存は可能であるが、水替え



写真6 出土遺物等整理業務・実測作業



写真7 出土遺物等整理業務・復元作業



写真8 出土遺物等整理業務・組版作業

が當時必要で長期保存には適さず、展示するのも困難である。このことから、出土した木製品・金属製品および炭化物のうち重要度が高く、また処理の緊急性を要する木製品52点と、金属製品2点、炭化物1点について保存処理を行った。保存処理は、(株)吉田生物研究所に委託して高級アルコール含浸法により実施した。なお、保存処理を実施しなかった木製品については、パキュームシーラーによって真空パックを行っている。

第5節 普及活動

1. 現地説明会

普及活動の一環として、発掘調査で得られた数々の成果を地元をはじめ多くの方々に広く知つてもらうため、調査区1の掘削作業が終了した8月31日（土）に第1回目、調査区2の掘削作業があらかじめ終了した11月17日（土）に第2回目の現地説明会を開催した。当日は現場内において直近で井戸や堀などの遺構を見学してもらうとともに、遺物の展示コーナーを設け弥生時代から室町時代にかけての土器・石器・木製品などを公開した。町名の由来にもなる湯川氏館の調査内容と言う事もあって、参加者は地元区のほか、近隣市町村、県外からも訪れ、第1回目で約60名、第2回目で約70名である。

2. 現地見学

御坊市では近年ない大規模な発掘調査で、多くの成果もあったことから、調査の期間中、学校あるいは教育関係機関からの現地見学が多くあった。小学生の現地見学では、実際に出土した土器や石器を手にしてもらったが、初めて触れた先人が残した遺物に感激していた。なお、湯川中学校の現地見学は現場内に水が溜まっていたことから、中学校体育館においてポイントを使って説明を行った。

- 8月7日 藤田小学校6年生 引率教諭 計46名
- 9月2日 御坊市文化財保護審議委員会 7名
- 9月5日 湯川中学校1・2・3年生 教諭 計約200名
- 10月16日 御坊市教育研究会 社会科部会 中学校教諭 5名
- 11月18日 御坊市文化財保護審議委員会 7名
- 11月20日 湯川小学校6年生 引率教諭 計58名
- 11月21日 湯川小学校5年生 引率教諭 計74名



写真9 第2回現地説明会



写真10 湯川中学校での説明会

第3章 既往の調査

小松原Ⅱ遺跡は、JR御坊駅付近から紀央館高校・湯川中学校付近にかけて広がる遺跡で、日高川右岸に形成された自然堤防上の標高約5mに位置する。周辺は、当方でも遺跡が最も集中する地域であり、各期を通じて日高地方の中核を占めてきた。蛭田坪遺跡とは駅前通りを挟んで分かれるが、一連の遺跡であると解釈できる。

これまで、校舎改築や駅前広場整備工事・店舗建設などに伴って数多くの発掘調査が行われ、断片的ではあるが遺跡の様相が明らかになっている。遺跡で最も遡る遺物として縄文時代後期の土器が出土している。その後、弥生時代前期の遺物が出土するが、遺構などは明らかでなく、集落が最も活況を呈するのが弥生時代中期以降で、御坊駅前から湯川中学校にかけて広く展開し、日高平野における拠点的な集落になると考えられる。弥生時代後期前半から末頃まで遺構・遺物は出土しないが、弥生時代末頃から古墳時代になると、御坊駅前付近から紀央館高校にかけて集落が営まれるようになる。古代では瓦や硯や製塙土器などの土器が広い範囲で出土し、大形の掘立柱建物が検出されるなど、官衙や寺院の存在が考えられ、奈良時代後期以降は郡衙が推定される遺跡もある。また、熊野街道が遺跡付近を南下し、遺跡に接する小松原集落は、日高川の渡河を控えた宿場町であった。

中世には、浄土系寺院が存在したことが窺え、室町時代になると日高地方を拠点として有田・牟婁地方にも勢力を及ぼした湯川氏の館が築かれ、堀・井戸・土坑などとともに多量の遺物が出土している。

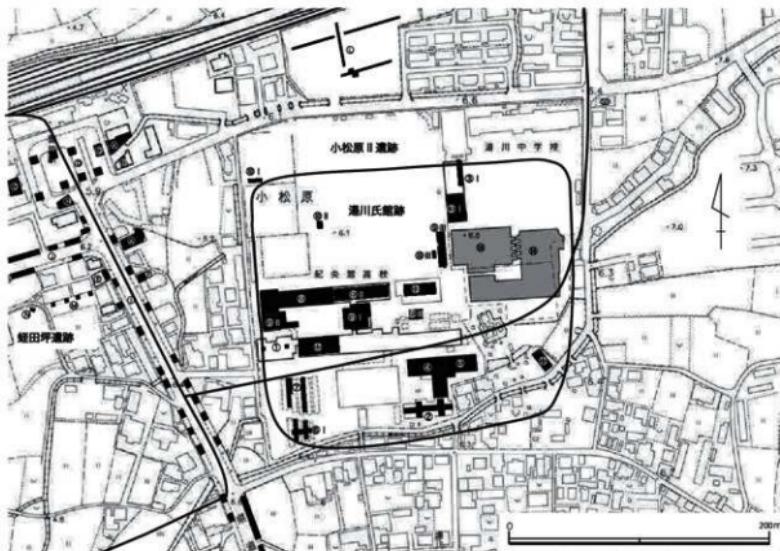


図4 既往の調査区

表1. 湯川氏館跡に係る既往の調査

調査年月	調査の原因	面積 (m)	調査の概要	報告書
1 1978.07	高等学校校舎改築	18	グリッド 2 箇所	-
2 1980.06 ~ 07	高等学校校舎改築	130	室町時代の石列	* 1
3 1980.12 ~ 1981.01	中学校特別教室改築	190	堀の北を画する堀 弥生時代中期の竪穴建物 1 棟 近世の土坑	* 2
4 1981.07 ~ 09	高等学校校舎改築	430	堀の南に位置する東西・南北方向の堀 沖 (2013 年検出の 236 池の続き)	* 3
5 1982.07 ~ 08	高等学校校舎改築	350	池 (2013 年検出の 236 池の続き) 排水溝	* 4
I. 高等学校自転車置場建設				
		135	近世き溝・土坑	
II. 高等学校校舎改築				
6 1983.07 ~ 10		400	弥生時代中期の土坑 2 基・溝または溝状構造 3 条 室町時代の井戸 1 基	* 5
III. 高等学校排水処理工上の建設				
7 1984.08 ~ 09	I・II. 高等学校自転車置場建設	227	江戸時代中期の土坑 2 基・溝または溝状構造 3 条 室町時代の井戸 1 基	* 6
8 1985.04 ~ 08	高等学校校舎改築工事	763	弥生時代中期・古墳時代初期の溝 谷状構造 (縄文時代後期・弥生時代前期の遺物) 堀の西側に画る 2 重の土壘・土塁	* 7
I. 高等学校特別教室改築				
9 1986.07 ~ 10	II. 高等学校特別教室改築	364	弥生時代中期の溝 4 条 古墳時代初期の溝 1 条 室町時代の井戸 3 基・堀・溝 1 条	* 8
III. 高等学校体育器具庫建設				
		234	縄文時代の土坑・溝 室町時代の土坑・外堀の続き 谷状構造	
		183	弥生時代中期の土坑・溝 室町時代の土坑 室町時代の井戸 1 基・堀 (2013 年検出の 001 堀の北側部分) 江戸時代の粘土採掘土坑	
I. 2013 年検出の 001 堀の北側部分				
10 1988.10 ~ 11	高等学校運動場整備工事	125	II. 古代・中世の溝 4 条	* 9
			III. 弥生時代中期の土器棺墓・土坑・溝 古墳時代初頭の竪穴建物 1 棟	
11 1987.11 ~ 12	地区集会場の建設	160	縄文の東部 池 (2013 年検出の 236 池の続き) 堀・土壘 (堀は池に繋がる)	* 10
12 1991.02 ~ 03	高等学校危険校舎改築	511	縄文時代の自然道路・仏教関係の遺物群 室町時代の堀	* 11
13 1996.02 ~ 03	高等学校校舎改築	404	弥生時代中期の土坑 室町時代の井戸 1 基・堀 (2013 年検出の 001 堀の西側部分) 江戸時代の粘土採掘土坑	* 12
14 2013.05 ~ 12	中学校改築工事に伴う調査	3,783	本報告	
合計		8,572		

* 調査原因にある高等学校は和歌山県立御坊商工高等学校(現紀文館高等専修学校) 中学校は御坊市立御坊中学校

表2. 小松原Ⅱ遺跡に係る既往の調査(遺跡が接する坪田坪道路も一部含む また、表1と重複するものは省略する)

調査年月	調査の原因	面積 (m)	調査の概要	報告書
A 1980.07 ~ 08	店舗建設	210	弥生時代の中頃の溝 古代の掘立柱建物 1 棟・土坑 中世の溝	* 13
B 1983.05 ~ 06	住宅建設	123	弥生時代中期の溝 1 基・堀の溝 1 条・土坑	* 14
C 1985.01 ~ 03	店舗建設	210	弥生時代中期の方形周溝溝 2 基 古代の溝	* 15
D 1988.11 ~ 12	御坊駅前広場整備	200	グリッド 8 箇所 弥生時代中期の竪穴建物 1 棟・溝 7 条 古代・奈良時代・中世の溝 1 条	* 16
E 1989.11 ~ 12	住宅建設	8	古代時代の溝・奈良時代の溝 中世の土坑	* 17
F 1989.04	住宅建設	6	古墳時代の溝 1 条	* 18
G 1989.11 ~ 12	御坊駅前広場整備	144	D の調査 グリッド 4 を低減 弥生時代中期の堀失穴建物 1 棟・土坑 1 基・溝 1 条 奈良時代の溝 1 条・土坑 2 基	* 19
H 1990.08 ~ 09	御坊駅前広場整備	140	弥生時代から奈良時代の溝 7 条 奈良時代・中世の溝 3 条	* 20
I 1993.08 ~ 09	御坊駅前吉原線街路整備	150	トレレンチ 19 隻所 弥生時代中期の溝・土坑 古墳時代の竪穴建物・溝 古代の掘立柱建物・溝 中世の掘立柱建物など	* 21
J 1993.12 ~ 1994.01	御坊駅前新川横線街路整備	160	トレレンチ 7 箇所 弥生時代・古墳時代・古代の溝	* 22
K 1995.09	店舗建設		弥生時代中期の竪穴建物・溝 中世の土坑	未報告
L 20.000.05	工場建設	160	奈良時代の掘立柱建物・土坑	* 23
M 2000.10	集合住宅建設	16	弥生時代後期末の竪穴建物 1 棟・溝 古代の溝・土坑	* 24
N 2012.12	店舗建設	11	弥生～古墳時代の土坑・ピット・溝状構造	* 25
合計		1,538		

*「御坊商工高等専修学校埋蔵文化財調査報告書」和歌山県教育委員会 1981.3

*「小松原Ⅱ遺跡(2)(1)」「1980 年度埋蔵文化財発掘調査報告書」御坊市道路調査会 1981.3

*「湯川神社内遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書」御坊市道路調査会 1982.3

*「湯川神社内遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 II」御坊市道路調査会 1983.3

*「湯川神社内遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 III」御坊市道路調査会 1984.3

*「湯川神社内遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 IV」御坊市道路調査会 1985.3

*「小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 V」和歌山県教育委員会 1986.3

*「県立御坊商工高等専修学校埋蔵文化財発掘調査報告書 - 小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)の調査 -」和歌山県教育委員会 1987.3

*「小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 VI」御坊市道路調査会 1988.3

*「小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 VII」御坊市道路調査会 1989.3

*「小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書 VIII」御坊市道路調査会 1990.3

*「御坊駅前広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」御坊市道路調査会 1990.2

*「経田坪遺跡」昭和 63 年度御坊市内遺跡発掘調査報告書 御坊市教育委員会 1990.3

*「小松原Ⅱ遺跡」平成 12 年度御坊市内遺跡発掘調査報告書 I 御坊市道路調査会 1990.2

*「御坊駅前広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II」御坊市道路調査会 1990.2

*「経田坪遺跡」財団法人和歌山県文化センター 1994.3

*「小松原Ⅱ遺跡」平成 12 年度日高郡御坊市内遺跡発掘調査報告書 御坊市道路調査会 2001.3

*「経田坪遺跡」財団法人和歌山県文化センター 2001.3

*「経田坪遺跡」平成 12 年度日高郡御坊市内遺跡発掘調査報告書 II 御坊市教育委員会 2013.3

第4章 調査方法

第1節 基準点・水準点測量

基準点は、世界測地系を座標値とする3級基準点と4級基準点を設置した。3級基準点は、国土地理院設置の電子基準点「広川」「川辺」「みなべ」を既知点として、GPS観測において公共測量作業規程に準じて調査区に隣接する箇所に設置した。4級基準点は、新設した3級基準点を既知点として、結合多角方式及び単路線方式によりTS観測において公共測量作業規程に準じて、調査区に隣接する3箇所に設置した。また、これとは別に3級の引照点を2箇所に設けている。

3級水準点の標高の基準は、直近の一等水準点「I□9185」「I□交9184」の最新の成果(T.P.表示)を既知点として今回新設した3級基準点・4級基準点までの路線において観測を行った。

第2節 地区割り

調査地の地区割りは国土座標第VI系(世界測地系)を使用し、小松原II遺跡・湯川氏館跡の範囲を網羅する北東(X = -231.0km, Y = -77.0km)に基点を設け、その点から南西に大区画・小区画を設けて区割りを行っている。

大区画は基点をA1地点と定めて、西方向へ100mごとにB、C、D…、南方向に2、3、4…という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、C3などと呼称する。次に、この大区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつ西方向へb~y、南方向へ2~25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区~y25区と呼称する。地区名は大区画-小区画(A1-a1区など)で表す。今回の調査区は、大区画でD9・10、E9・10の範囲内に相当する。

第3節 写真撮影・実測

写真撮影は全景のほかに、検出した遺構のうち竪穴建物や井戸など主要な遺構の個別写真、遺

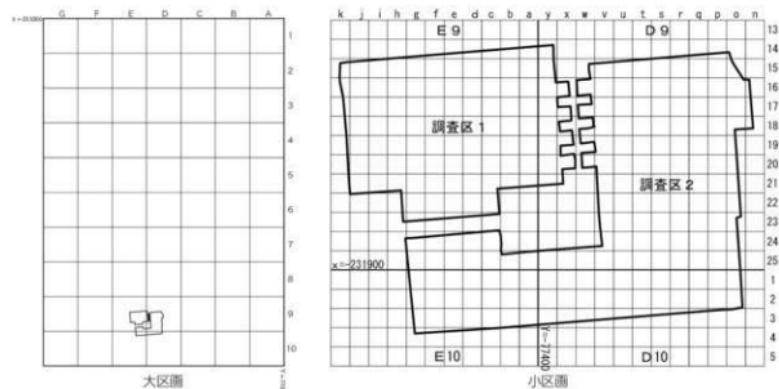


図5 地区割り

構断面・周囲の断面などについて行っている。

平面実測図は、航空写真測量で図化（ $S = 1/50$ ）している。このほか遺構配置図（ $S = 1/100$ ）、調査区壁面土層図（ $S = 1/20$ ）、主要な遺構平面図・断面図（ $1/10 \cdot 1/20$ ）などがあり、主に方眼紙（A2）に作成している。

写真は 4×5 判モノクロ・カラーリバーサル、 6×7 判モノクロ・カラーリバーサル、35mm判モノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラを用いて調査員が撮影した。全景写真は撮影用足場を組んで撮影したのをはじめ、次項に記した航空写真撮影を行った。

第4節 航空写真撮影

航空写真は専門会社に委託し、発掘調査により検出した遺構をラジコンヘリにより、調査区1・調査区2のそれぞれにおいて撮影を行った。各撮影では垂直全体写真、垂直部分写真、周辺部を含めた斜め写真を撮っている。

成果品はデジタルモザイク写真、カラーリバーサル（ 6×6 判）で納入されている。



写真 11 航空写真撮影風景

第5節 基本層位と遺構面

昭和20年以降に施された厚さ0.7～1.0mの盛土下で第1層の水田耕作土となる。第1層は近世以降のものであり、20～40cmの間で2～4面の水田面が確認できる。第1層直下で弥生時代から近世の遺構が検出でき、各期の遺物包含層は存在しない。遺構面は1面のみで、基本的なベースは第2層：10YR5/4（にぶい黄褐）シルトとなるが、南東部で第2層が不在な範囲では第3層：10YR5/3（にぶい黄褐）シルト混の細砂層上でも一部の遺構を検出している。なお、第4層は10YR4/2（灰黄褐）シルト混の砂礫層（ $\phi \sim 3$ cm）となる。

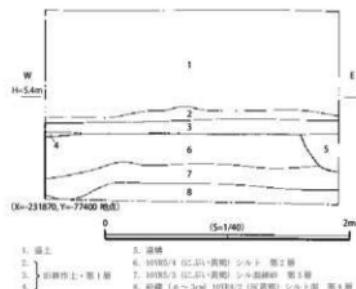


図 6 基本層位



写真 12 基本層位

第5章 調査の成果

第1節 調査概要（図8、巻頭図版1・図版1・2）

調査区は体育館部分の調査区1と校舎部分の調査区2に分かれ、順次調査を行った。二つの調査区は接しており、両調査区に跨って検出した遺構も存在することから、調査区を分けずに時代を追って説明を行う。

検出した遺構には、弥生時代、奈良時代、鎌倉時代、室町時代、近世のものがある。古墳時代、平安時代の遺構および遺物は見つかっていない。

なお、遺構番号は遺構の時代・種類にかかわらず検出した順に1からの通し番号で付している。

第2節 弥生時代の遺構と遺物（図7）

検出した遺構には堅穴建物5棟（002・003・004・024・028）、土器棺墓1基（036）、土坑（025・067・068・074・125・256・257・277・293・300ほか）、溝3条（005・266・270）、柱穴などがある。このほか、並行する細い2本の溝（218）を部分的に検出しているが、堅穴建物の壁溝の可能性が考えられる。この時期の遺構は、調査区1側の北西側に多く、低地に向かう南東側は希薄となっている。弥生時代の遺構の時期は中期後葉を中心とする時期で、後期の遺構・遺物は見つかっていない。

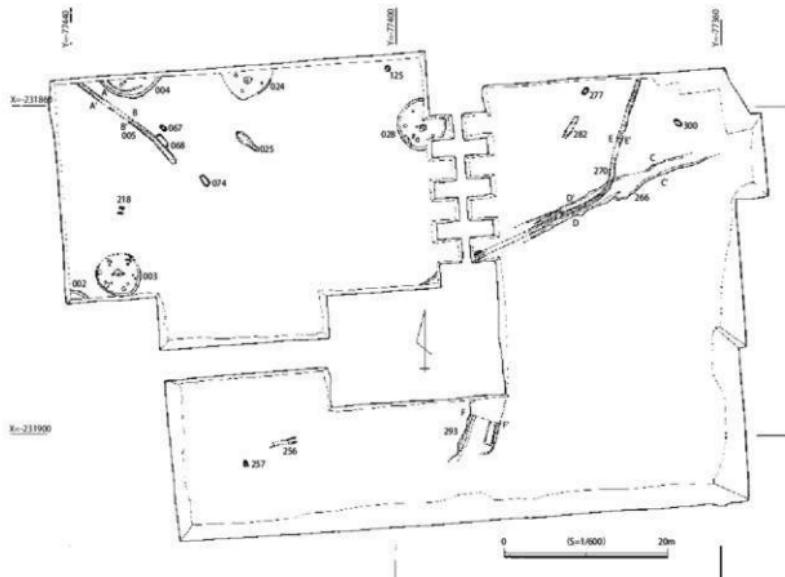


図7 弥生時代の主要遺構

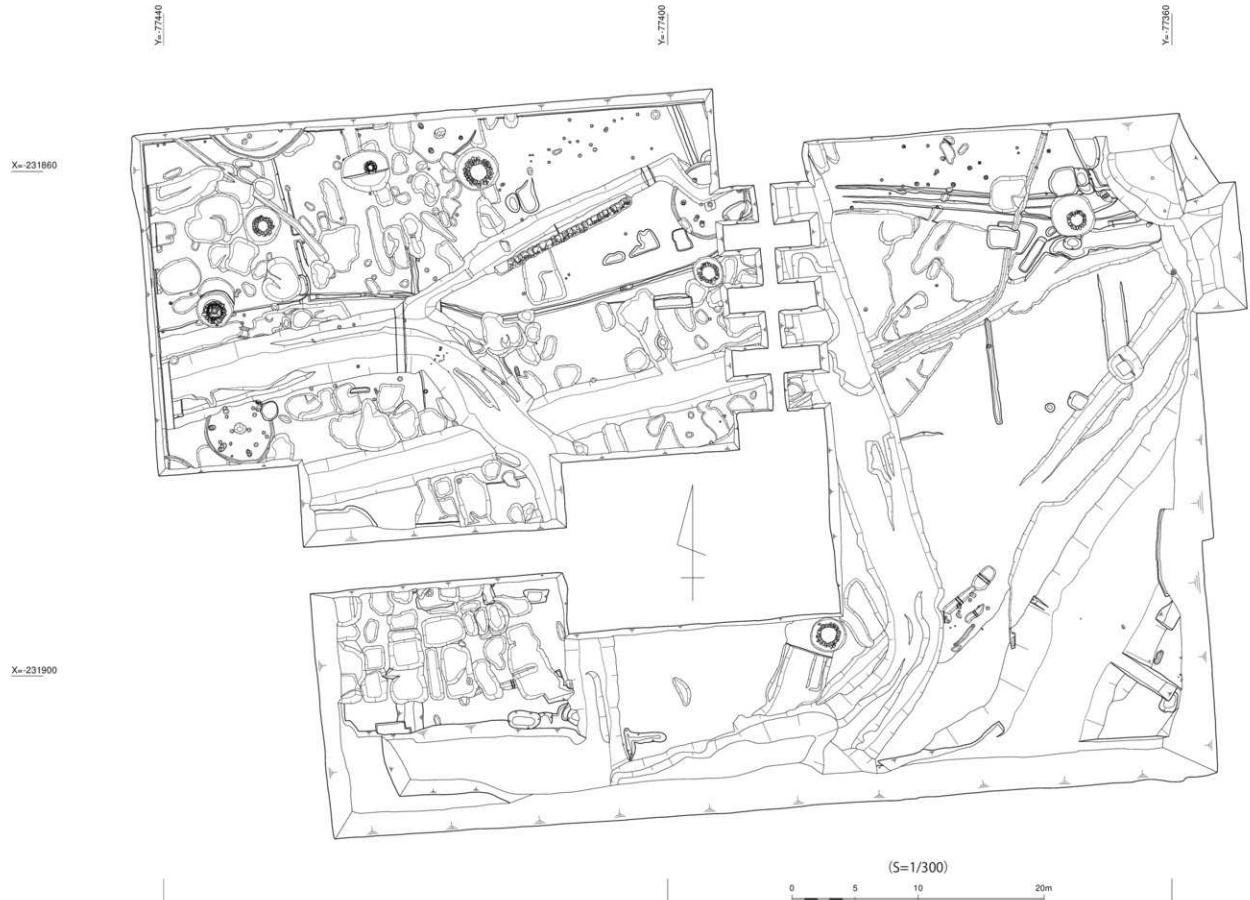


图8 遗構全体図

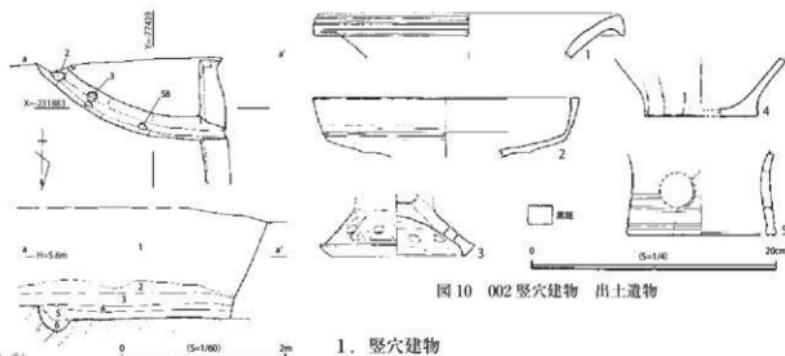


図 9 002 竪穴建物
 1. 墓土
 2. 002A-1 (陶器) シート
 3. 2.5V4-1 (陶器) シート
 4. 002B-1 (陶器) シート
 5. 002B-2 (陶器) シート
 6. 002C-1 (陶器) シート
 7. 002C-2 (陶器) シート
 8. 002E-9 (瓦) シート
 9. 002F-2 (陶器) シート
 S8. 磬石器
 (S=1/40)
 0 2m

図 10 002 竪穴建物 出土遺物

1. 竪穴建物

002 竪穴建物 (図 9・10・30、図版 4・29・35)

調査区 1 の南西隅で検出した平面プランが円形を呈する建物で、南西側の大半が調査区域外となる。003 竪穴建物と約 2.0 m 隔てて位置する。長さ 2.3 m、幅

1.0 m を確認したのみで、規模は明らかでないが、残存する壁の高さは 0.15 m を測る。壁際には幅 0.25 m 前後、深さ 0.15 m の溝が巡るが、床面上からは柱穴などの遺構は検出できなかった。

遺物は、埋土などから弥生土器壺（1）・甕・高杯（2・3）のほか壺または甕の底部（4）・脚台部（5）・礫石器（S8）・サヌカイト剥片などが出土している。

003 竪穴建物 (図 11・12・30、図版 5・29・35)

調査区 1 の南西隅付近で検出した平面プランが円形の建物で、002 竪穴建物の北東に約 2.0 m 隔てて位置する。北側が室町時代の堀によって削平されているが、今回の調査で見つかった建物の中では比較的全容が明らかな建物である。規模は直径 5.5 m で、残存する壁の高さは 0.2 m を測る。壁際には幅 0.25 m 前後、深さ 0.1 m 前後の溝が巡る。上屋を支える主柱は 6 本で、1.7 ~ 2.0 m の間隔をあけ二個一単位で検出できることから、建替えが行われていることが窺える。ただ、その場合、壁溝が一重で重複も確認できないことから、拡張を伴わない建替えと判断できる。柱穴は直径 0.25 ~ 0.4 m、深さ 0.15 ~ 0.6 m を測り、柱の直径は痕跡から 20 cm 前後であると想定できる。建物中央には不整橢円形を呈する長さ 1.0 m、幅 0.8 m、深さ 0.7 m の 172 土坑があり、底部分には厚さ 0.1 m の炭層が堆積していた。土坑の長軸方向の両側には、直径 0.25 ~ 0.3 m、深さ 0.2 m 余りの柱穴が取り付き、所謂「松菊里型住居」の形態をもつ。土坑北側の床面では直径 0.4 m 余りと直径 0.6 m 余りの 2 箇所の地床炉が認められた。地床炉は床面が強く被熱し、赤く硬化していた。中央の 172 土坑には被熱が認められないことからも、土坑自体は炉の機能を持たず、地床炉から出た炭や灰をかき入れた穴であると考えることもできる。

遺物は、床面や埋土から弥生土器壺（6~12）・甕（13~17）・壺または甕の底部（18~21）・高杯（22~25）、石鏃（S1・S2）、サヌカイト剥片、台石などの礫石器（S6~S11）、石器原材（S12）が出土している。台石のいくつかは床面に据え置かれた状態で、土器も原位置を保つと考えられるものが多いことからも、建物の廃絶段階で放棄された状態を示すものと考え

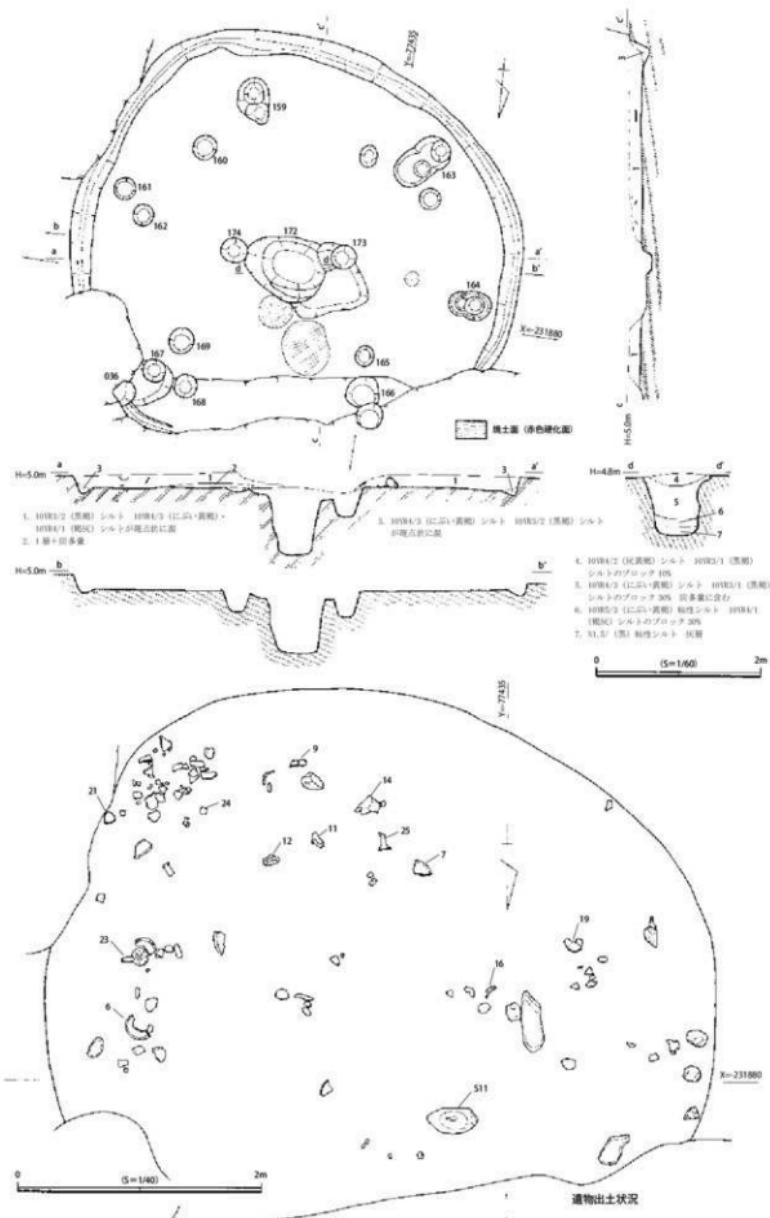


図11 003 竪穴建物

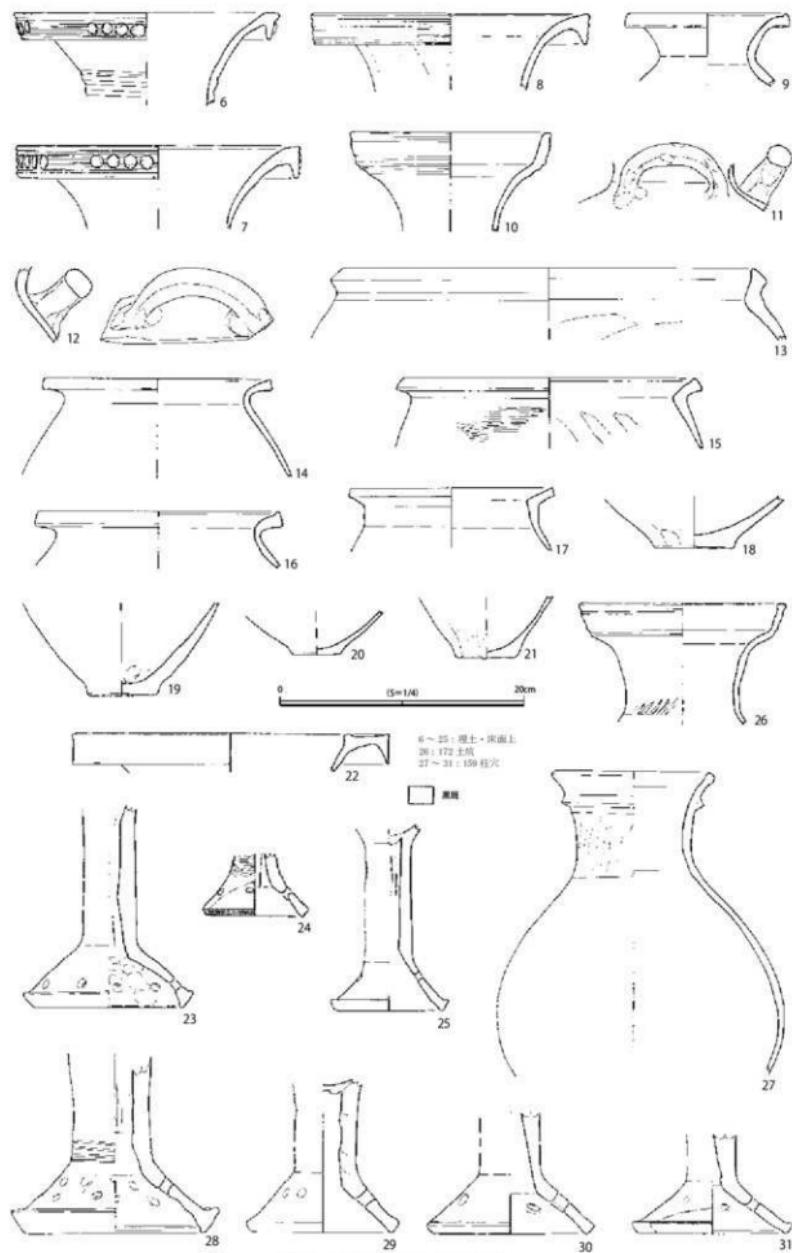


图 12 003 竖穴建物 出土遗物

ることもできる。このほか、172 土坑から弥生土器壺（26）・甕・高杯、159 柱穴から弥生土器壺（27）・高杯（28～31）・器台、礫石器（S 9）などが出土している。

036 土器棺墓（図 13・14・30、図版 6・29・35）

003 竪穴建物の北東側の壁際に位置する。長さ 0.7 m、幅 0.4 m 以上、深さ 0.1 m の小土坑の底に、建物の壁を抉るように直径 0.3 m、深さ 0.25 m の小穴を掘削し、その中央にやや内側に傾けた状態で土器棺を納めたものであるが、南側は搅乱により一部破壊されていた。土器棺は高さ 25 cm、腹径 20 cm の弥生土器甕（33）で、上部を弥生土器台付鉢（32）の鉢部で蓋をしていた。003 竪穴建物に伴う遺構で小児棺と考えられる。また、小土坑からは弥生土器高杯（34）、石錐（S 3）が出土している。

004 竪穴建物（図 15～17・30、図版 6・30・35）

調査区 1 の北西隅付近で検出した平面プランが円形を呈する建物で、024 竪穴建物の西側に約 7.0 m 隔てて位置する。北西側には 1980 年度の校舎建設に伴う発掘調査で見つかった竪穴建物があり、これとほぼ接していると考えられる。また、南西側に約 1 m 隔てて同時期の 005 溝が延びている。北側の 2/3 程度が調査区域外となるが、検出した輪郭から推定して、直径 8.4 m 程度の建物になると考えられ、今回の調査で見つかった建物の中では最大である。残存する壁の高さは残りの良いところで 0.3 m を測り、壁際には幅 0.25 ～ 0.3 m、深さ 0.05 m 前後の溝が巡る。床面の中央付近は一段窪んでおり、壁溝との間には幅 0.35 ～ 1.0 m、高さ 0.05 m 前後のベッド状遺構が構築されている。中央の一段下がった床面上からは柱穴が 3 箇所検出できるが、すべてが上屋を支える主柱であったか明らかでない。柱穴は直径 0.3 ～ 0.35 m、深さ 0.2 ～ 0.45 m を測る。

遺物は、弥生土器壺（35～45）・甕（46～53）・手捏ね土器（54）・壺または甕の底部（55）・高杯（56～59）・鉢（60～62）・脚台（63～65）などが出土している。床面直上から出土したもののが少ないが、ある程度建物が埋まつた段階で堆積している黒色土からは多量の弥生土器が出土している。これは建物廃絶後、窪みとなっていた箇所に土器が一括投棄された結果であると考え

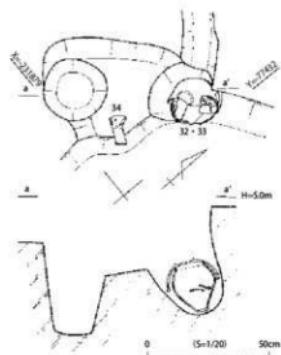


図 13 036 土器棺墓

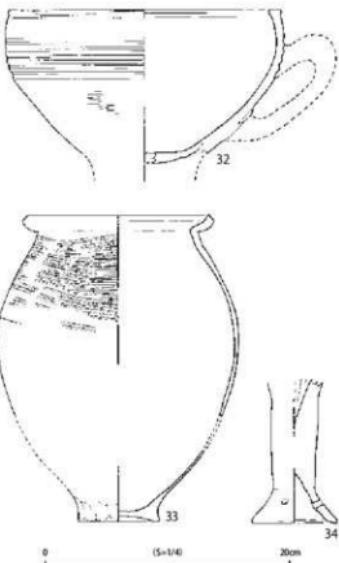


図 14 036 土器棺墓 出土遺物

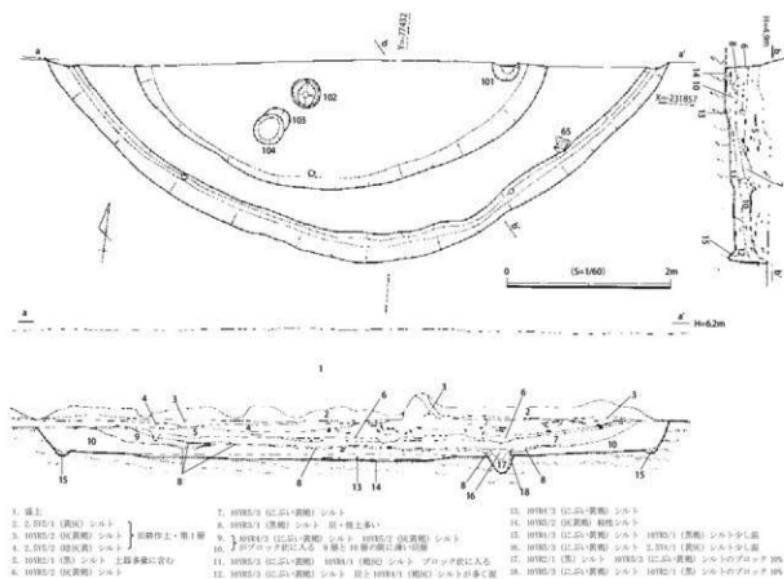


図 15 004 竪穴建物

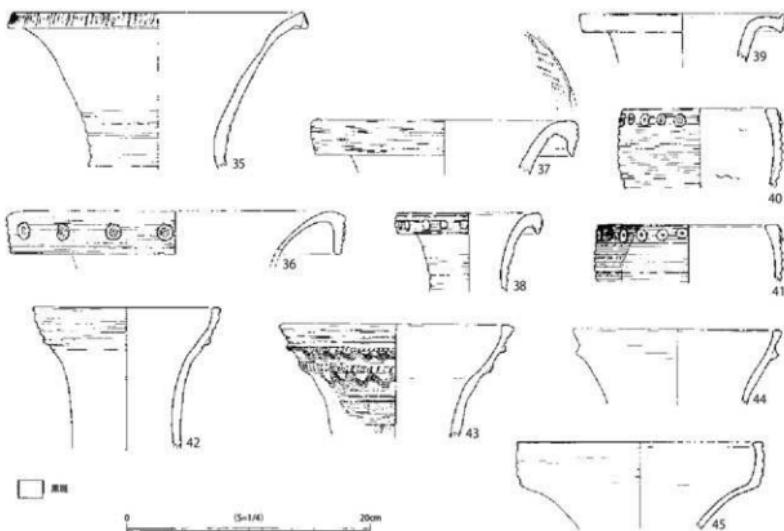


図 16 004 竪穴建物 出土遺物 (1)

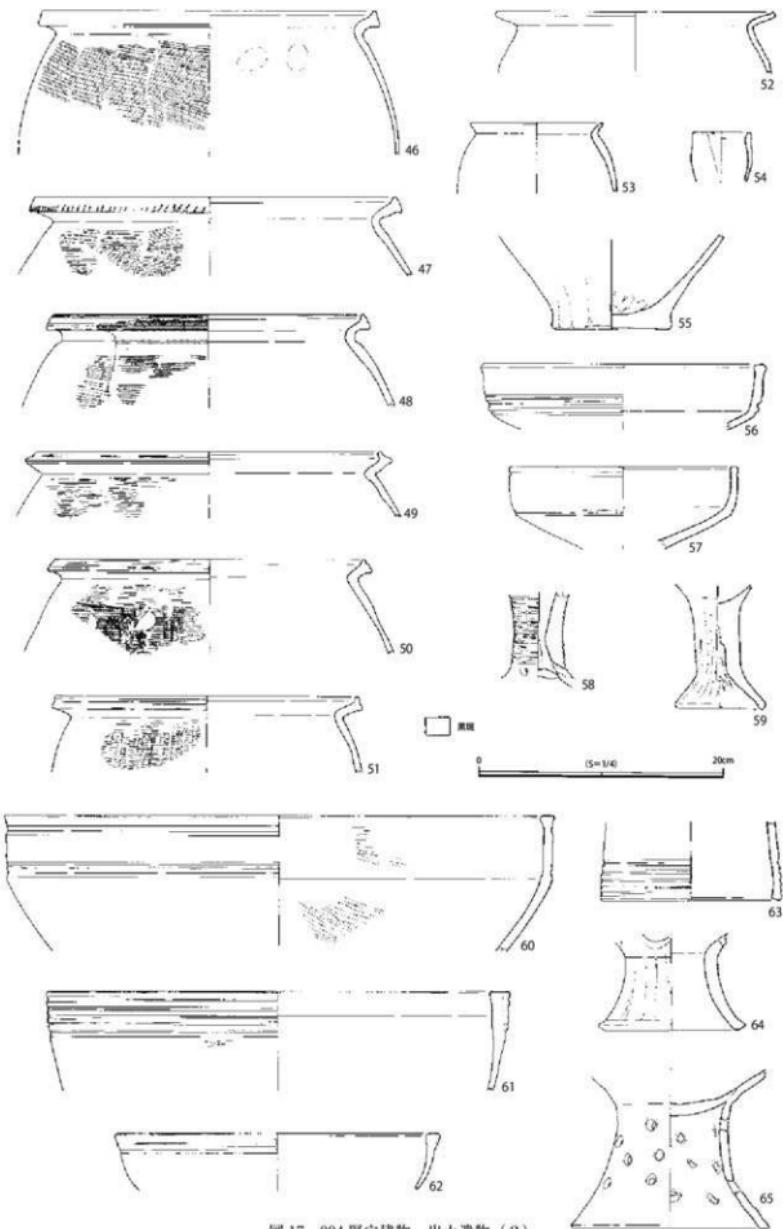


图 17 004 坚穴建物 出土遺物 (2)

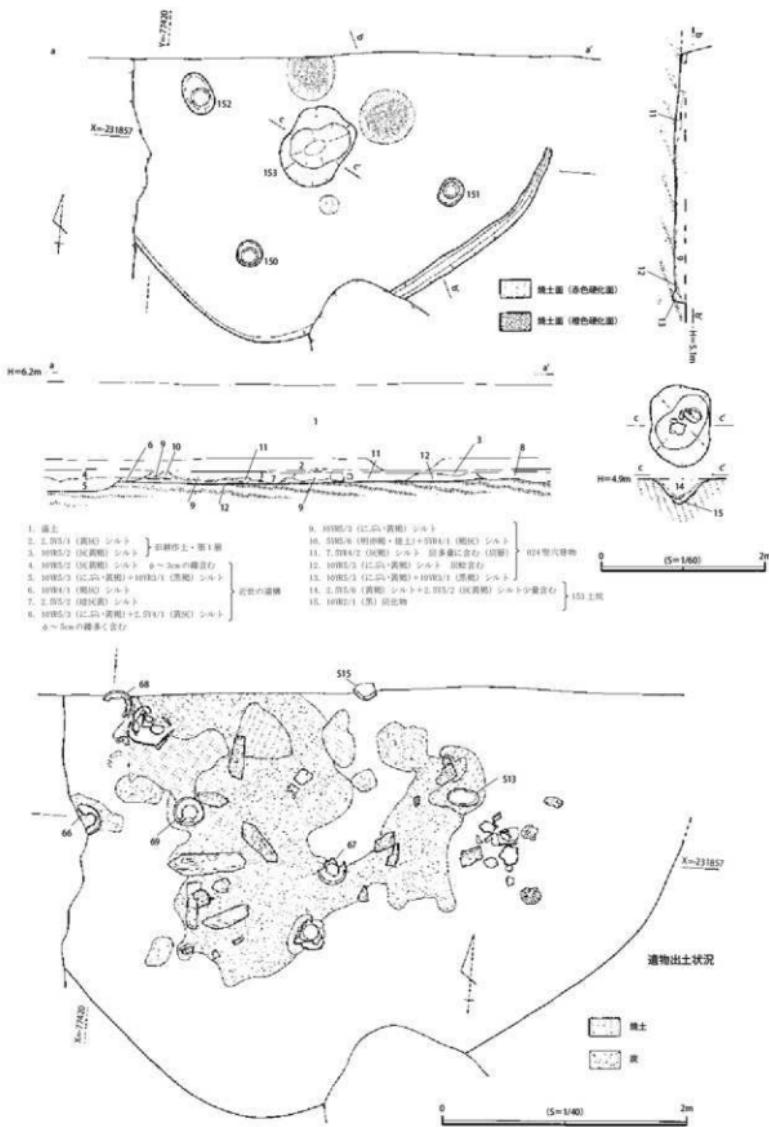


図 18 024 垂穴建物

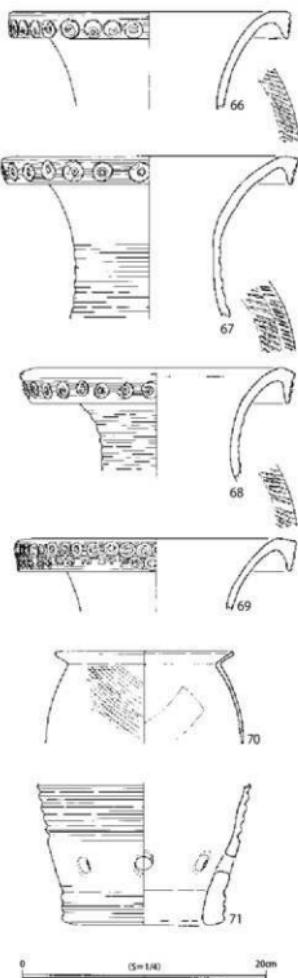


図 19 024 穫穴建物 出土遺物

遺物は上記した以外に弥生土器脚台（71）、石包丁（S 5）や台石などの礫石器（S13～S15）などが、中央の153土坑からは弥生土器甌（70）が出土している。

028 穫穴建物（図 20・21・31、図版 8・31・35）

調査区1の北東隅付近で検出した建物で、平面プランは円形を呈する。建物の北東・南東隅が

えられる。このほか104柱穴から石巒（S 4）が出土している。

024 穫穴建物（図 18・19・30・31、図版 7・30・31・35）

調査区1の北端中央で検出した建物で、平面プランは隅丸方形に近い。北側の約1/3が調査区域外となり、各所で後世の造構によって削平されることから全容は明らかでない。規模は一辺（直径）が5m前後に復元できる。残存する壁の高さは0.1m前後で、南東部の壁際にのみ幅0.1～0.2m、深さ数cmの溝が掘削されている。上屋を支える主柱は4本であったと考えられ、調査区内では3本の柱穴を検出している。柱穴は2.0mと2.5mの間隔をあけて位置し、大きさは直径0.3～0.5m、深さ0.4～0.5mを測る。柱は痕跡から直径20cm前後であると考えられる。建物中央には不整格円形を呈する長さ1.0m、幅0.75m、深さ0.3mの153土坑があり、底には厚さ0.05～0.1mで炭が堆積していた。土坑に接して北と北東側の床面には直径0.65m前後の範囲で地床炉が2箇所存在する。地床炉は周囲が赤色で中央付近が橙色に変色して硬化していることからも、かなり高温の被熱であることが窺える。

建物からは柱や垂木などの建築部材が炭化した状態で出土しており、火災に遭っていることが窺える。炭化木の残存状態は良くないものの、焼け落ちた状態を観察してみると炭化木の上に焼土が認められることからも、上屋を葺いた藁などの上に土を載せていたことが想像できる。また、炭化木や焼土の上からはほぼ同形態の弥生土器広口壺5個（66～69）が伏せられた状態で出土している。二次焼成を受けていない状況からも、建物が焼け落ちた後に置かれたものであると考えられ、儀式に伴う土器の可能性がある。なお、不時の火災にしては床面上の土器類が少ないことから、建物の廃絶などに伴い意図的に建物を焼いたことも想像できる。

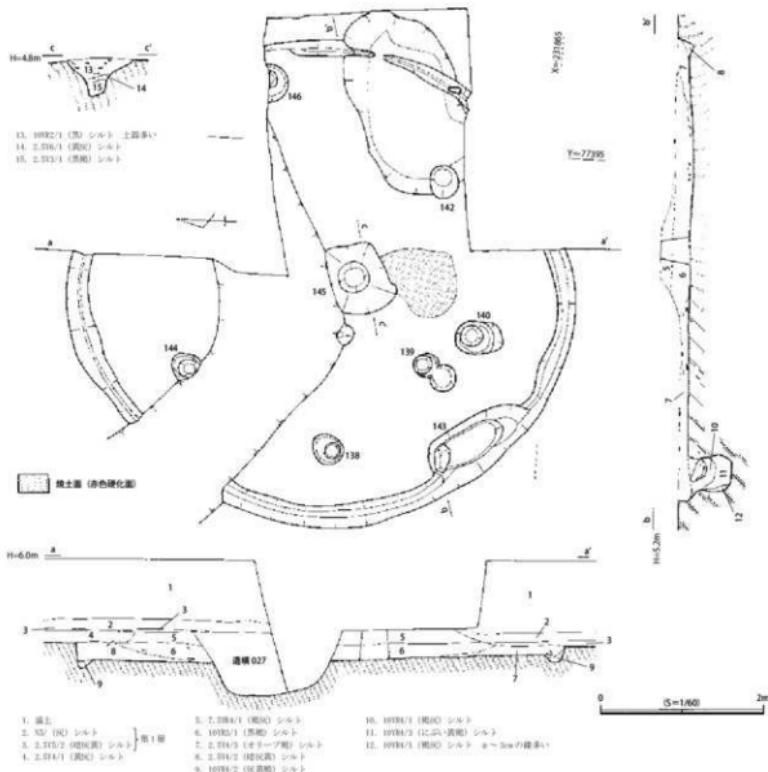


図20 028堅穴建物

調査区域外となり、また、後世の造構などによって部分的に削平されるが、比較的全容を推定することができる。規模は南北6.15m、東西6.0mで、壁の高さは残りのより箇所で0.35mを測る。壁際には幅0.2~0.3m、深さ0.1m程度の壁溝が巡る。上屋を支える主柱は6本であったと考えられ、調査区内ではそのうち5本の柱穴を確認している。柱穴は2.0~2.5m間隔をあけて位置し、大きさは直径0.35~0.4m、深さ0.15~0.55mである。柱の太さ

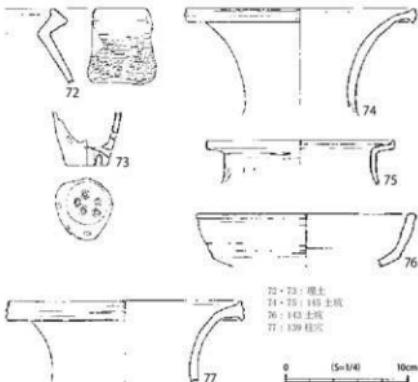


図21 028堅穴建物 出土遺物

は痕跡から20cm前後であったと考えらる。建物中央には、上部が楕円形・下部が円形に掘削された145土坑があり、下部には灰や炭が混ざる土が堆積していた。土坑の規模は長さ1.0m、幅0.9m、深さ0.45mを測る。土坑の南に接して0.8m×0.8mの範囲で地床炉が存在し、床面が被熱して赤く硬化していた。建物南西の壁際には、長さ1.3m、幅0.5m、深さ0.55mの長楕円形を呈する143土坑が掘削されている。土坑は下部がわずかに袋状にひろがり、貯蔵穴の可能性が高い。

遺物は、建物埋土から弥生土器壺(72)・器種不明の多孔土器(73)、礫石器(S17・S18)が、中央の145土坑から弥生土器壺(74)・壺(75)が、143土坑からは弥生土器高杯(76)、礫石器(S20)が、139柱穴からは弥生土器壺(77)、146柱穴からは礫石器(S19)などが出土しているが、他の建物に比して量は少なく、原位置を保つものはない。

2. 土坑

025土坑(図22・25、図版9・31)

調査区1の中央付近で検出した土坑で、北側に約4m隔てて024竪穴建物が位置する。平面形状は長楕円形を呈し、長さ3.55m、幅1.1m、深さ0.1mを測る。断面形状は舟底状を呈する。遺物は弥生土器壺・壺(78)・高杯(79)・手捏ね土器(80)などが出土している。

067土坑(図22・25、図版9・25)

調査区1の北西部で検出した土坑で、068土坑の北側に0.6m隔てて位置する。平面形状は楕円形を呈し、長さ1.0m、幅0.5m、深さ0.06mを測る。断面形状は舟底状を呈する。遺物は弥生土器壺(81)などが出土している。

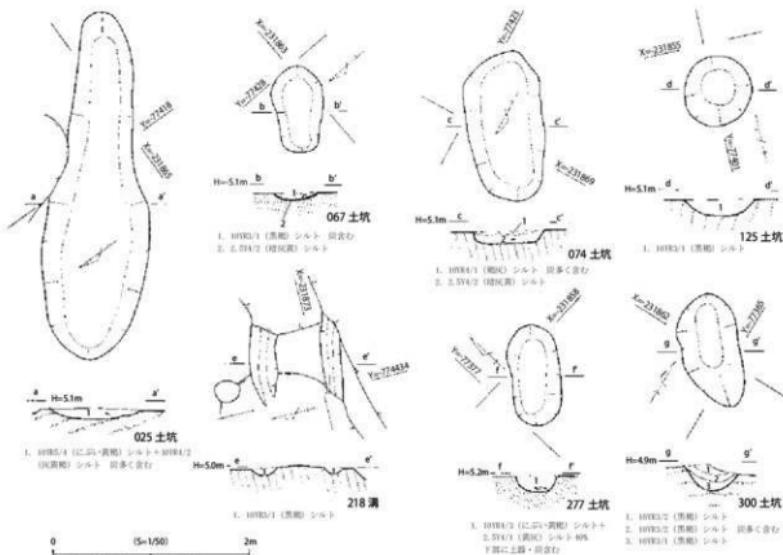


図22 弥生時代の土坑・溝

068 土坑（図 23・25・26・30、図版 9・31・32・36）

調査区 1 の北西部で検出した土坑で、067 土坑の南に位置する。005 溝と重複し、それより新しい。平面形状は梢円形を呈し、長さ 1.9 m、幅 0.85 m、深さ 0.3 m を測る。断面の形状は舟底状であるが、東側の壁がややオーバーハンプしている。遺物は土坑全体を充填するように弥生土器が出土しており、その量はコンテナ約 6 箱分である。出土した弥生土器には壺 (82~97)・甕 (98)・甕蓋 (99)・高杯 (100~103)・台付壺 (106)・台付鉢 (104・105)・脚台部 (107~110)・鳥形土器 (111) のほか石錐 (S 7) や砥石 (S21) などの礫石器が出土している。

074 土坑（図 22、図版 9）

調査区 1 の中央付近で検出した土坑で、平面形状は梢円形を呈し、長さ 1.55 m、幅 0.8 m、深さ 0.13 m を測る。断面形状は舟底状を呈する。周辺で検出した 025・067・068 土坑とともに、長軸方向は、005 溝の軸方向とほぼ同じである。遺物は弥生土器壺・甕・高杯が出土している。

125 土坑（図 22）

調査区 1 の北東部で検出した土坑で、028 壴穴建物の北に位置する。平面形状は円形を呈し、直径 0.7 m、深さ 0.17 m を測る。断面の形状は舟底状である。遺物は弥生土器壺・甕などが出土地している。

277 土坑（図 22・26・31、図版 36）

調査区 2 の北端付近で検出した土坑で、近接して 270 溝が位置する。平面形状は梢円形を呈し、長さ 1.05 m、幅 0.5 m、深さ 0.17 m を測る。断面の形状は舟底状である。遺物は弥生土器壺・甕 (112)・礫石器 (S22・S23) などが出土している。

293 土坑（図 24・26、図版 9・32・33）

調査区 2 の中央南側で検出した遺構で、後世の遺構により削平されるなど本来の形状は不明である。幅 4.0 m、深さ 0.4 m で、長さ

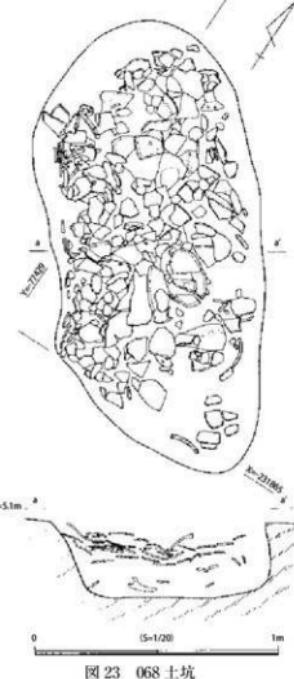


図 23 068 土坑

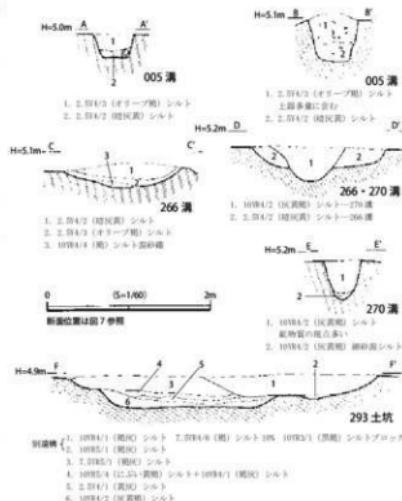


図 24 弥生時代の溝・土坑断面

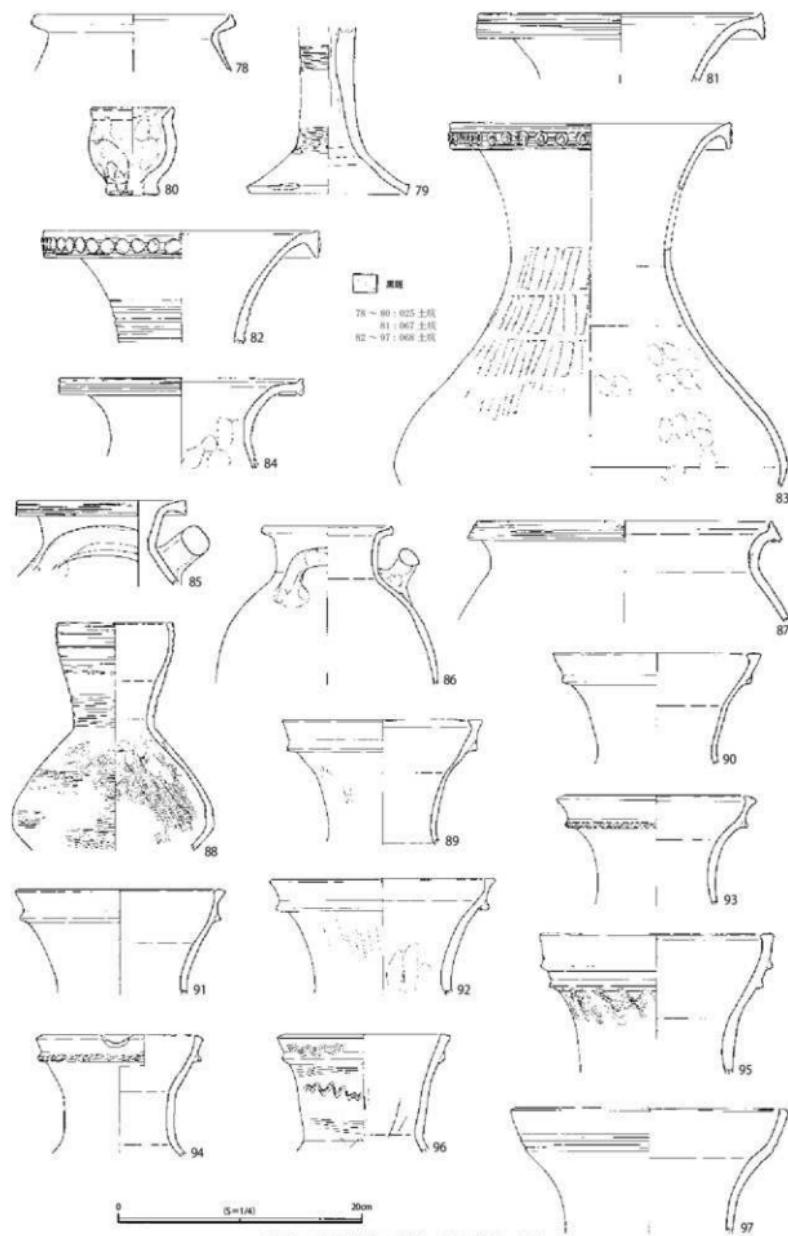


図25 弥生時代の土坑 出土遺物（1）

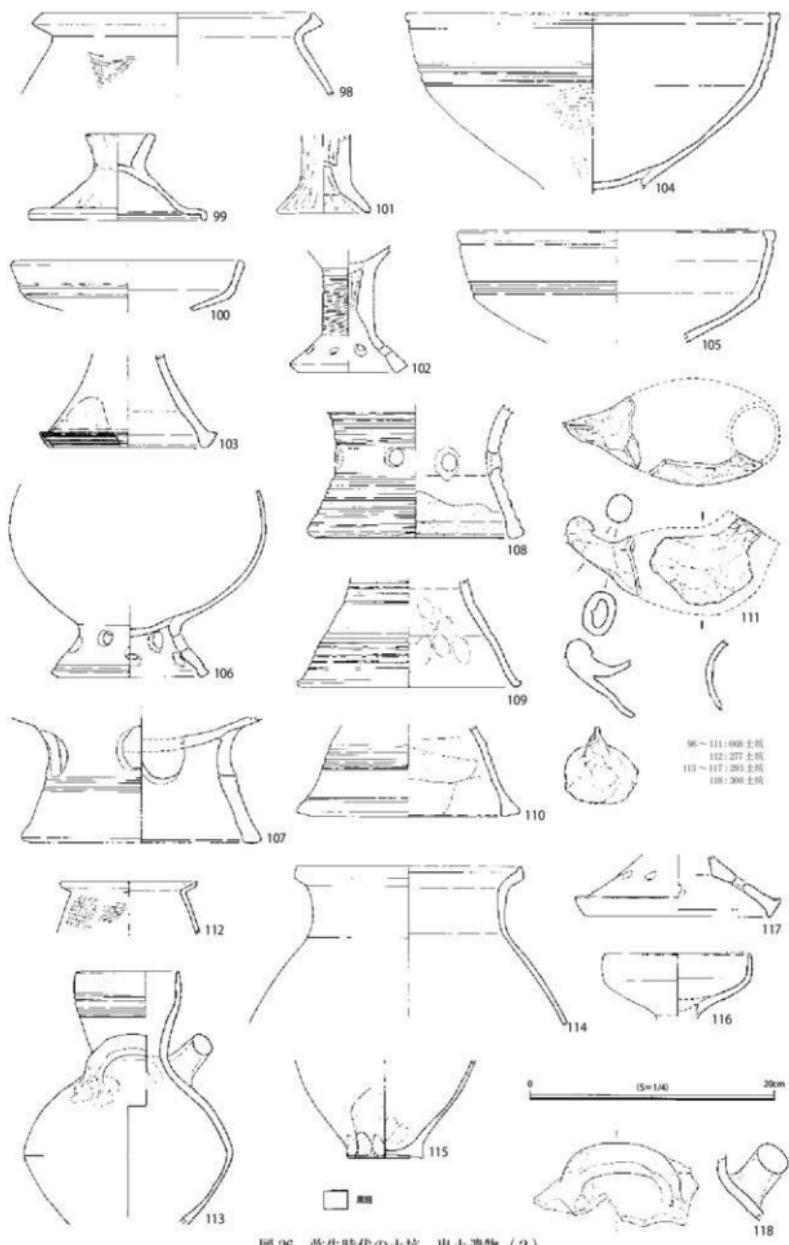


図26 弥生時代の土坑 出土遺物（2）

8.0 m以上を測る。土坑としているものの、溝状遺構の可能性もある。断面形状は舟底状を呈する。遺物は弥生土器壺(113・114)、壺・高杯(116・117)、壺または壺底部(115)などが出土している。

300 土坑(図22・26)

調査区2の北東部検出した土坑で、近接して266・270溝が位置する。平面形状は楕円形を呈し、長さ12m、幅0.6m、深さ0.26mを測る。断面の形状は深い舟底状である。遺物は弥生土器壺(118)などが出土している。

3. 溝

005 溝(図24・27・28・31、図版10・33・34・36)

調査区1の北西部で検出した溝で、004堅穴建物と約1.0mの間隔をあけて北西-南東方向に伸びる。南東端は調査区内で終わり、長さ15.0mを確認している。幅0.5~0.6m、深さ0.5m前後を測る。068土坑と接する付近を中心に多量の弥生土器が出土しているが、北西側では希薄となる。出土した土器には壺(119~127)、壺(128~131)、高杯(134~137)、壺または壺底部(132・133)、鉢(138)、脚台部(139・140)、器台(142)、台形土器(143)のほか、砾石器(S24)がある。

218 溝(図22)

調査区1の西側で検出した溝状遺構で、並行する2本の溝が弧状に延びるが、後世の遺構によって削平され、確認できたのは長さ約0.8mである。溝は幅0.2~0.26mで、深さ0.05mを測る。形状から拡張を伴う建替えを行った堅穴建物の一部である可能性が高い。遺物は溝内や周辺から弥生土器が出土している。

266・270 溝(図24・29、図版11・34)

調査区2の北部で検出したもので、二つの溝は部分的に重複するが、270溝の方が新しい。270溝は弧状を描いて北東-南西方向に延び、両端が調査区外となる。断面形状はU字状を呈し、幅0.5m前後、深さ0.3~0.45mで、調査区内では長さ約28.0mを確認している。遺物は溝全体的に出土するのではなく、部分的に集中して出土している。出土した弥生土器には壺(144~151)、壺(152)、

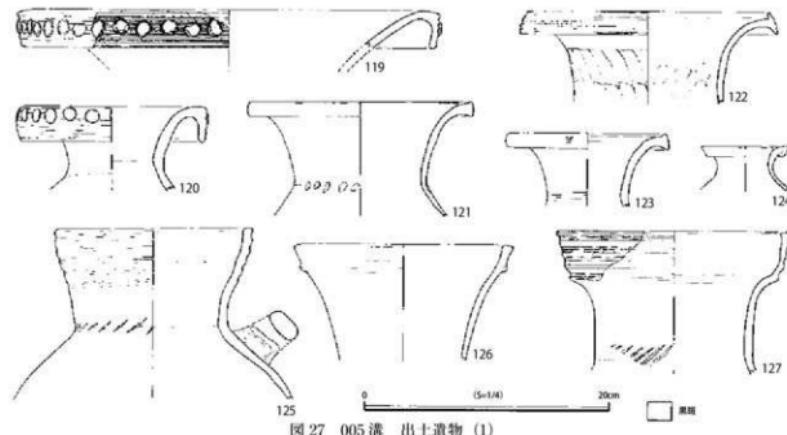


図27 005溝 出土遺物(1)

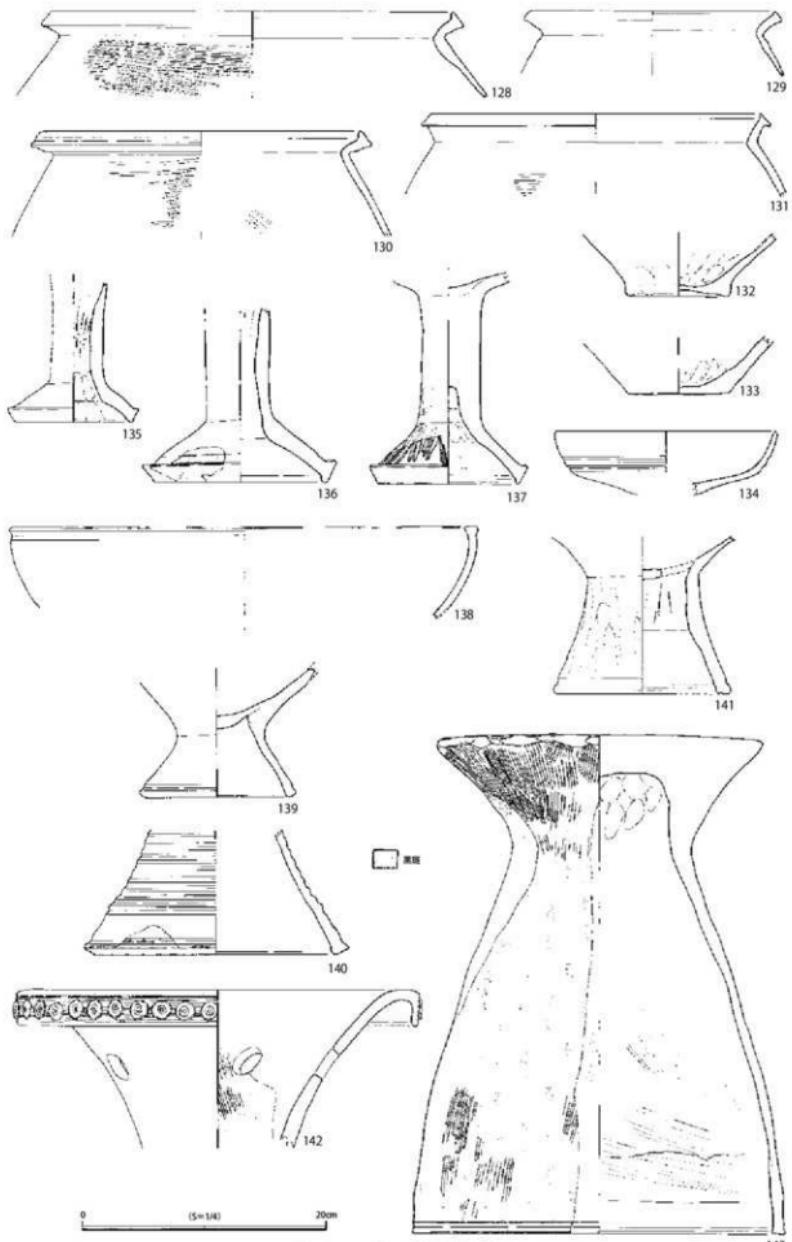


图 28 005 沟 出土遗物 (2)

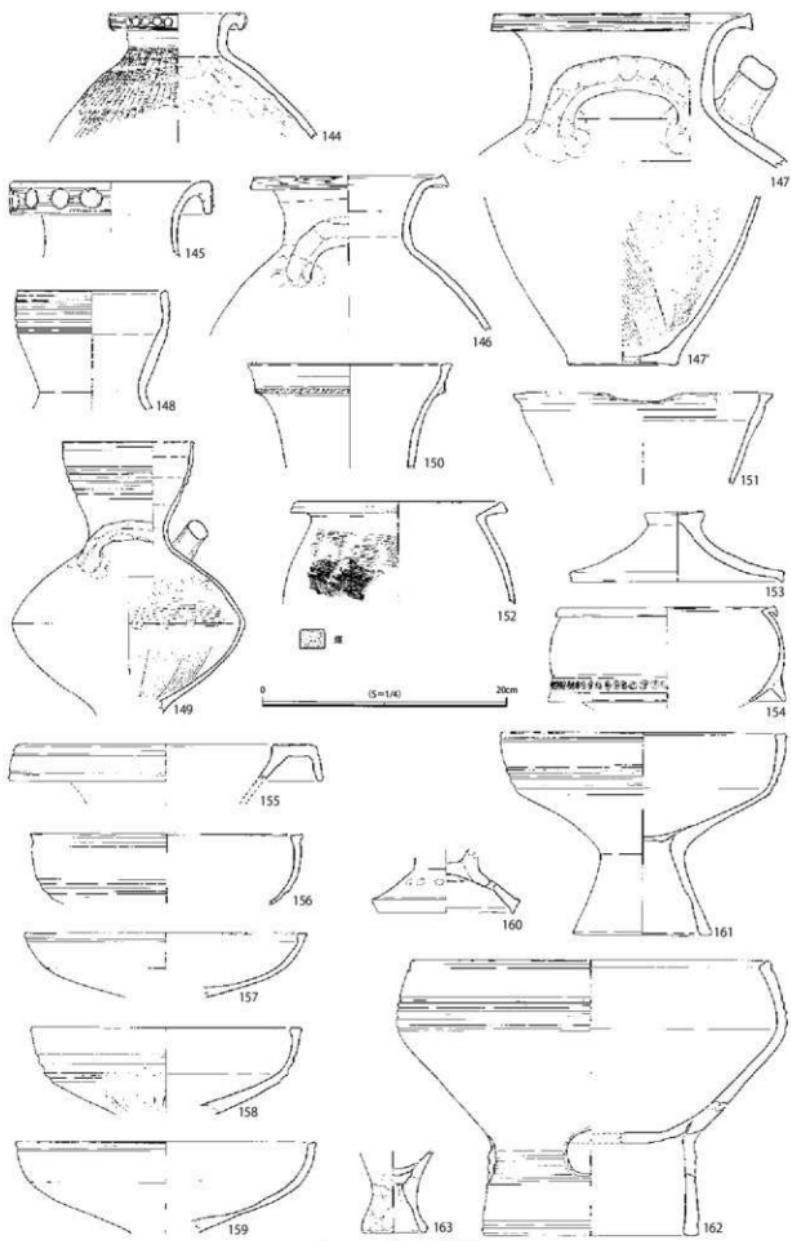


図 29 270 溝 出土遺物

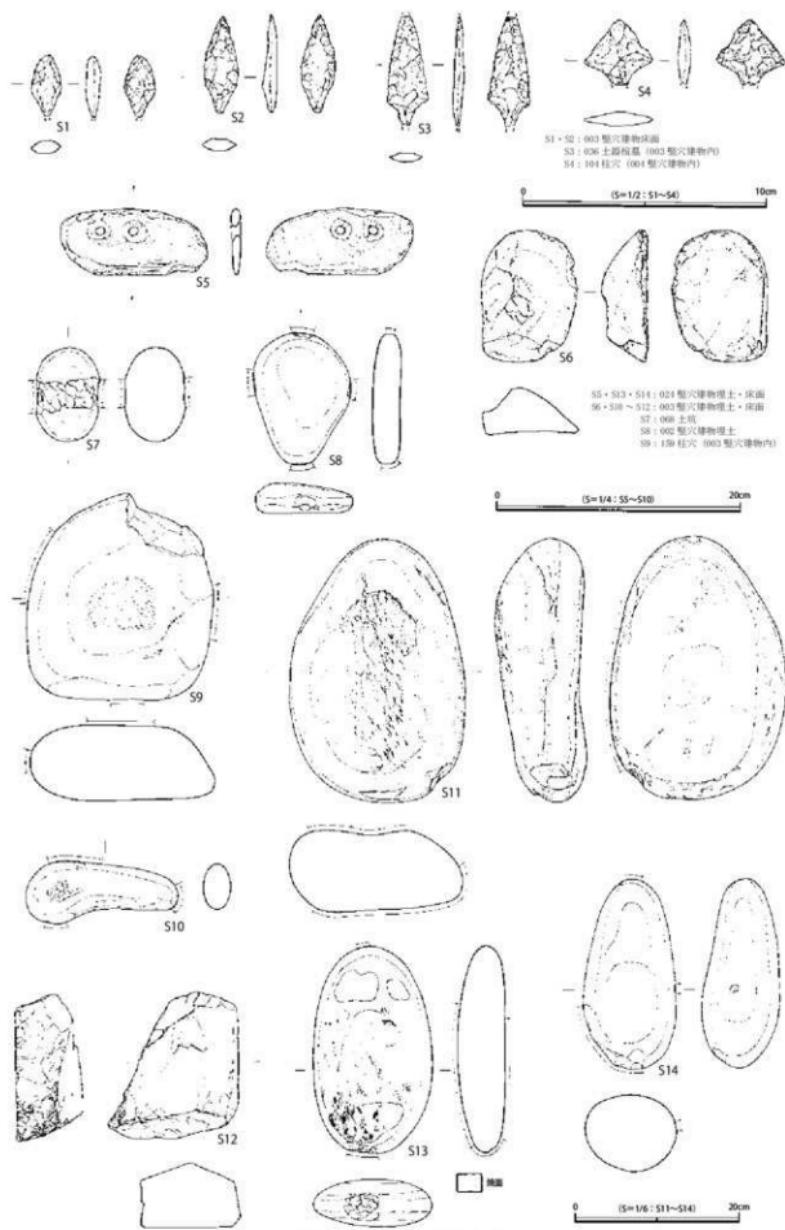


図30 弥生時代の石器（1）

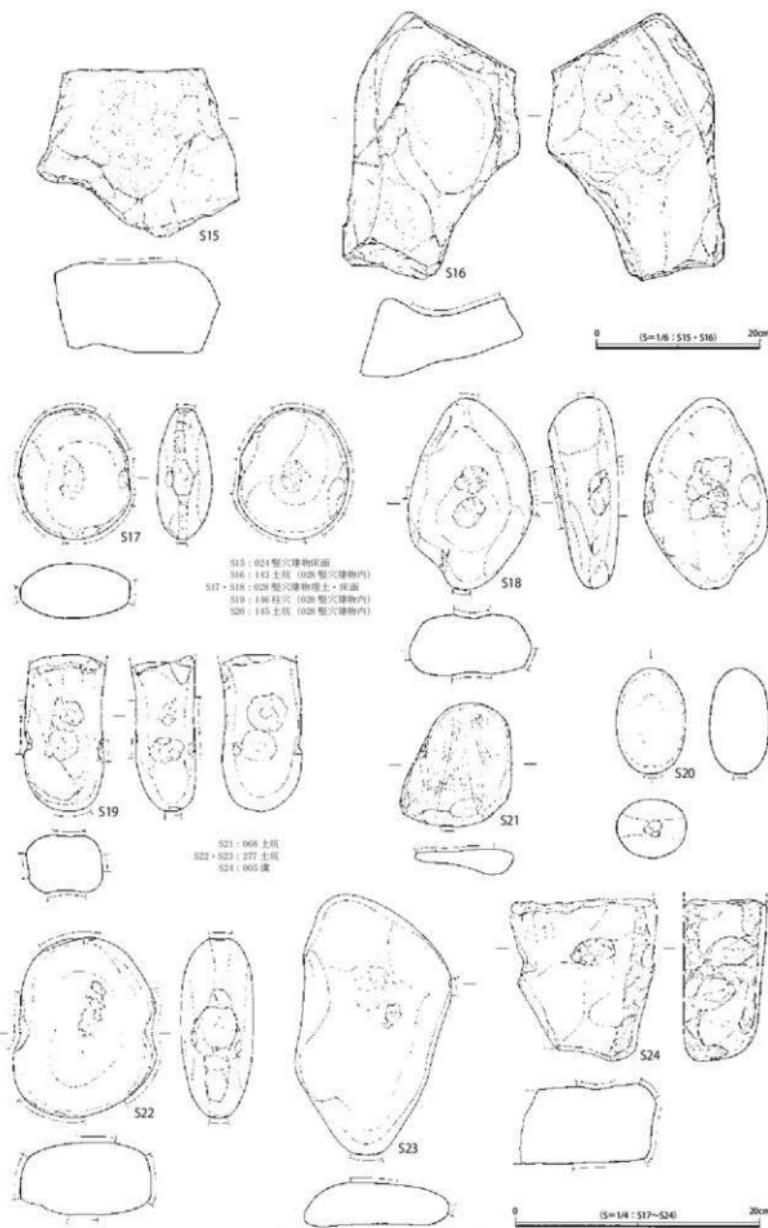


図31 弥生時代の石器（2）

甕蓋（153）、台付無頸壺（154）、高杯（155～160）、台付鉢（161・162）がある。

266溝は東北東～西南西方向に一直線に伸び、一端は室町時代の259堀により削平されるが、さらに東方に伸びていると考えられる。西側は、室町時代の258堀により削平され、それより西側は不明であるが、南方に折れて、293土坑と繋がる可能性も考えられる。断面形状は舟底状を呈し、幅1.8～2.0m、深さ0.2～0.3mで、長さ25.0m以上伸びている。遺物は弥生土器細片が少量出土している。

二つの溝を境に南東側には弥生時代の遺構が少なく、また地形的には南東方向に徐々に下ることからも、集落を区画する溝であった可能性がある。

第3章 古代の遺構と遺物（図32）

検出した明確な古代の遺構は、溝1条のみである。遺物は、調査区2南東部の260谷状遺構の底付近から比較的まとまってこの時期の土器や木製品が出土したのをはじめ、後世の遺構へ混入して土器類が出土している。

263溝（図32～34、図版12・36）

調査区2で検出した溝で、北東～南西方に向一直線に伸びる。両端は後世の遺構により削平され、中程でも途切れた状態になっているが、長さ43.0m以上伸び、さらに調査区外に続いていると考えられる。断面は舟底状を呈し、幅1.8～2.2m、深さ0.2～0.3mを測る。

遺物は古代の須恵器杯（164）・甕、土師器皿、製塩土器、蓮華文を有する軒丸瓦（T1・T2）、布目・繩目を有する平瓦（T3・T4）、結晶片岩などが出土する。

260谷状遺構（図34・39、図版12・36）

調査区2の南東部に位置するが、室町時代の259堀によって削平され形状等は明らかでない。主に259堀底の下部から土師器皿（165・166）・甕（167・168）・鍋（169）・竈（170）・製塩土器（171）、須恵器杯・甕（172）、結晶片岩、木製品（W1～W4）等が出土している。

原位置を離れた遺物（図35、図版36）

後世の遺構への混入遺物として、土師器杯（173）、須恵器杯蓋（174・175）・杯身（176・177）・壺（178・179）・甕（180・181）、平瓦（T5～T9）、丸瓦（T10）

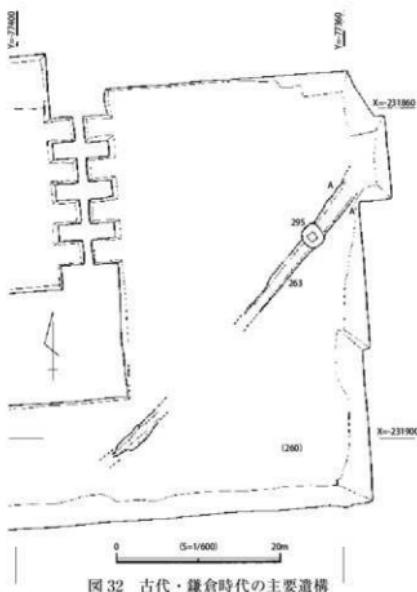


図32 古代・鎌倉時代の主要遺構



図33 263溝断面

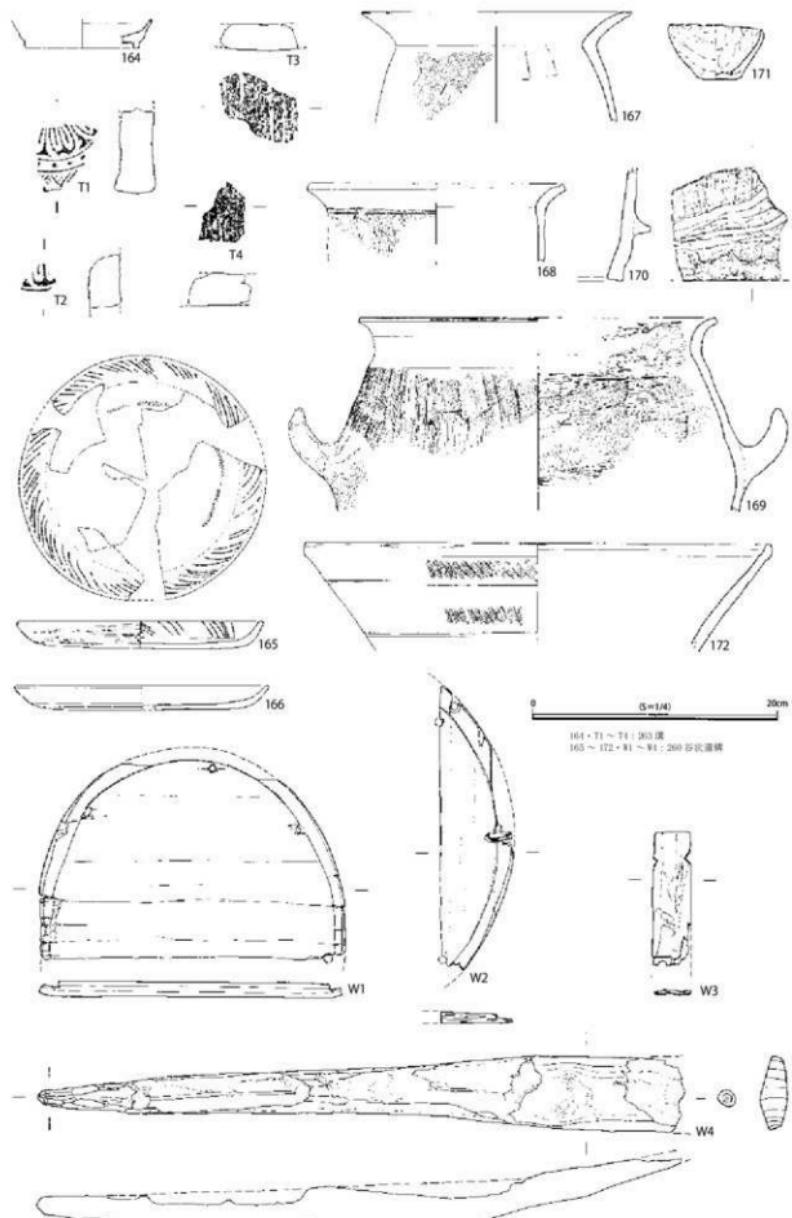


図34 遺構から出土した古代の遺物

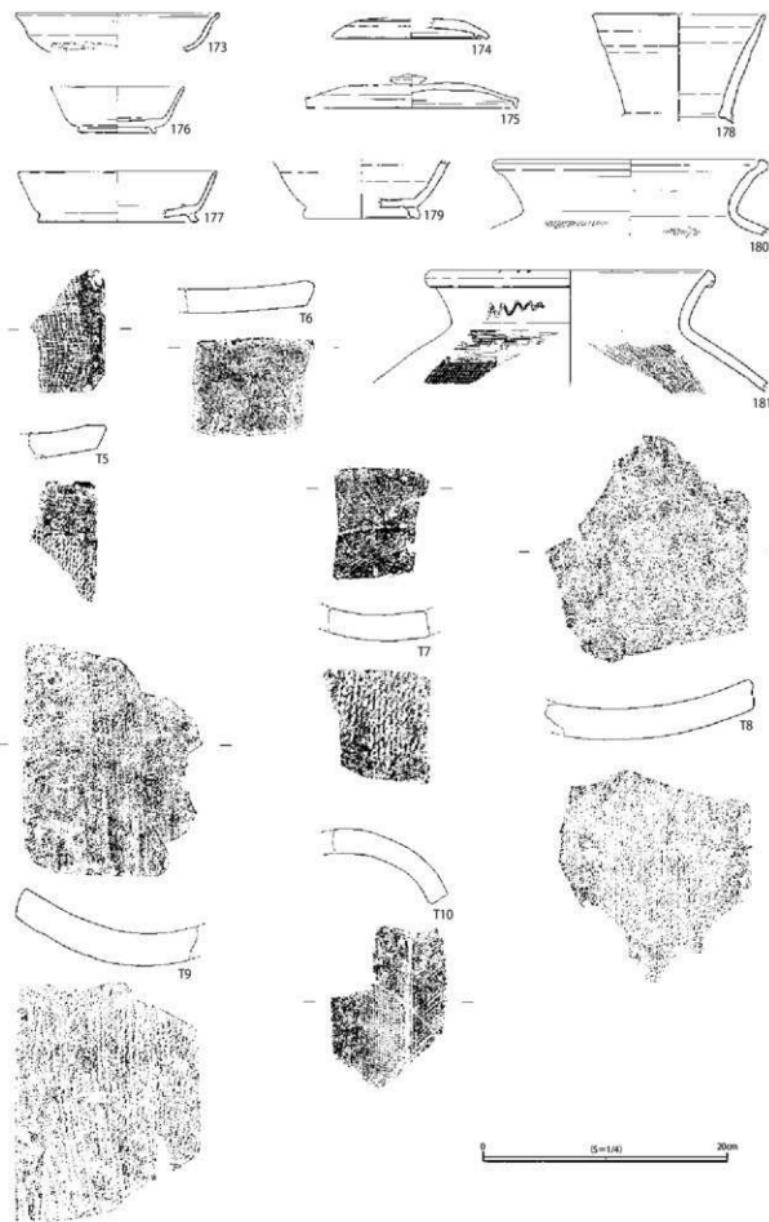


図35 原位置を離れた古代の遺物

などがある。7世紀から8世紀にかけての遺物である。

第4節 鎌倉時代の遺構と遺物（図32）

明確な鎌倉時代の遺構は、井戸1基のみである。遺物は調査区2南東部の260谷状遺構の肩部付近から、多量の土器や木製品が出土したのをはじめ、後世の遺構へ混入して土器類が出土している。

295 井戸（図36・37、図版13）

調査区2の北部で検出した板組井戸で、263溝と重複し、それより新しい。井戸側を構築する掘形は平面形状が隅丸方形を呈し、長さ2.65m、幅2.45m、深さ1.9mを測る。井戸側は底付近のみ腐朽した状態で残存していた。構造は幅10~20cm、厚さ1cm程度の板材を立てて一辺0.8mの方形枠を設け、下端（底から0.4m上位）には横方向に角材を当てて固定していた。その下端から下位は枠の幅が一辻0.65mと小さくなり、幅20cm程度の板材を横向方に当てて固定していた。

遺物は少なく、掘形や井戸側埋土から瓦器椀（182・183）、土師器の破片が出土している。

260 谷状遺構（図37～39、図版37・38）

調査区2の南東部に位置するが、室町時代の259堀によって大きく削平されている。259堀に削平を免れた西側肩部を中心として土師器小皿（184～196）、皿（197～207）、羽釜、瓦器皿（208～217）、椀（218～229）、小椀（230）、瓦質土器甕（231）、東播系須恵器捏鉢、青磁碗、白磁梅瓶、青白磁杯（232）、砥石（S25）、刀子（M1）、輪の羽口（C1）、木製品折敷（W5・W6）、角塔婆（W7）などが出土している。

原位置を離れた遺物（図37）

後世の遺構への混入遺物として、東播系須恵器捏鉢（233）、滑石製鍋（S26）などが出土している。

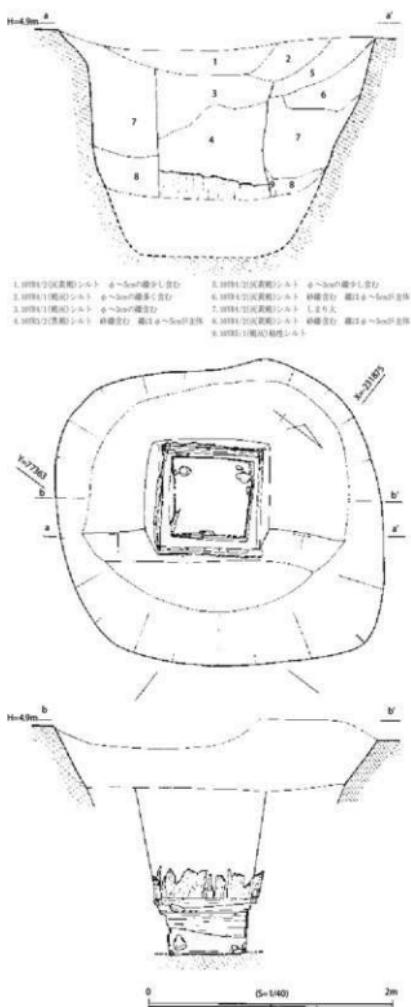


図36 295 井戸

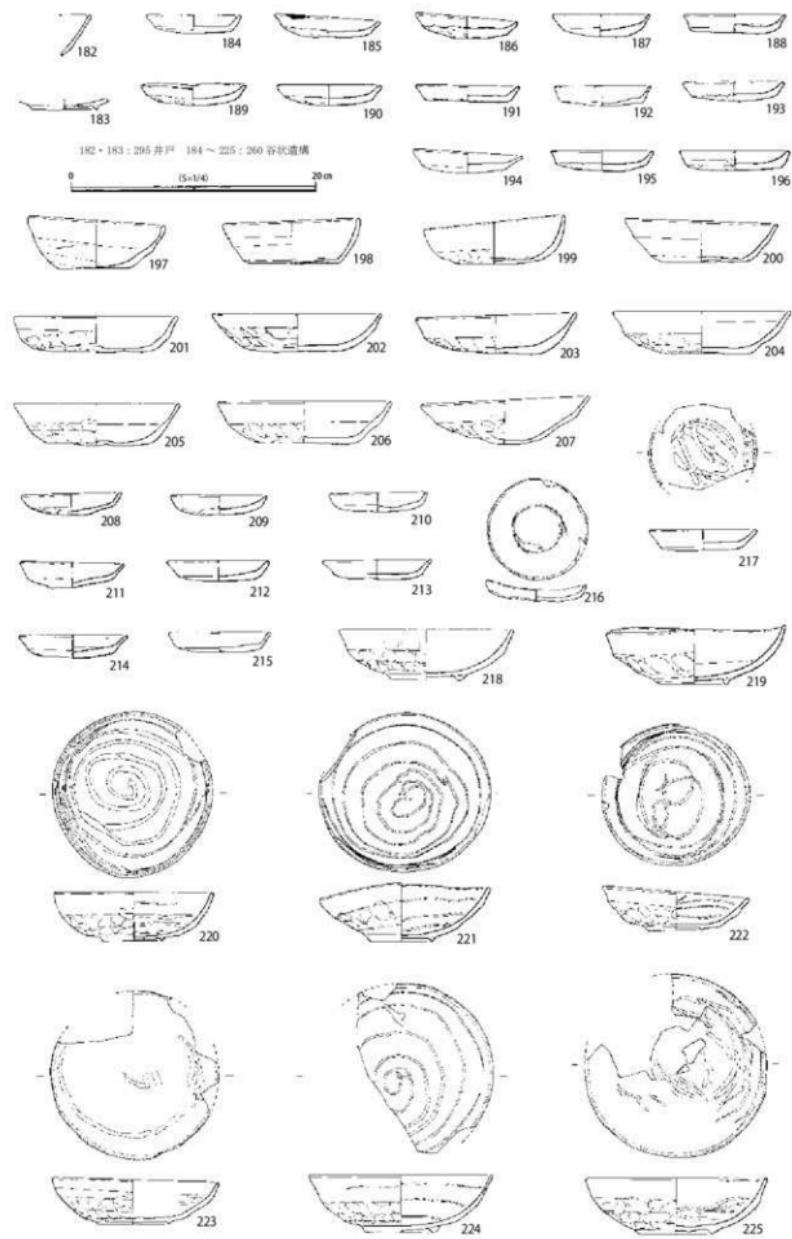


図37 鎌倉時代の遺物（1）

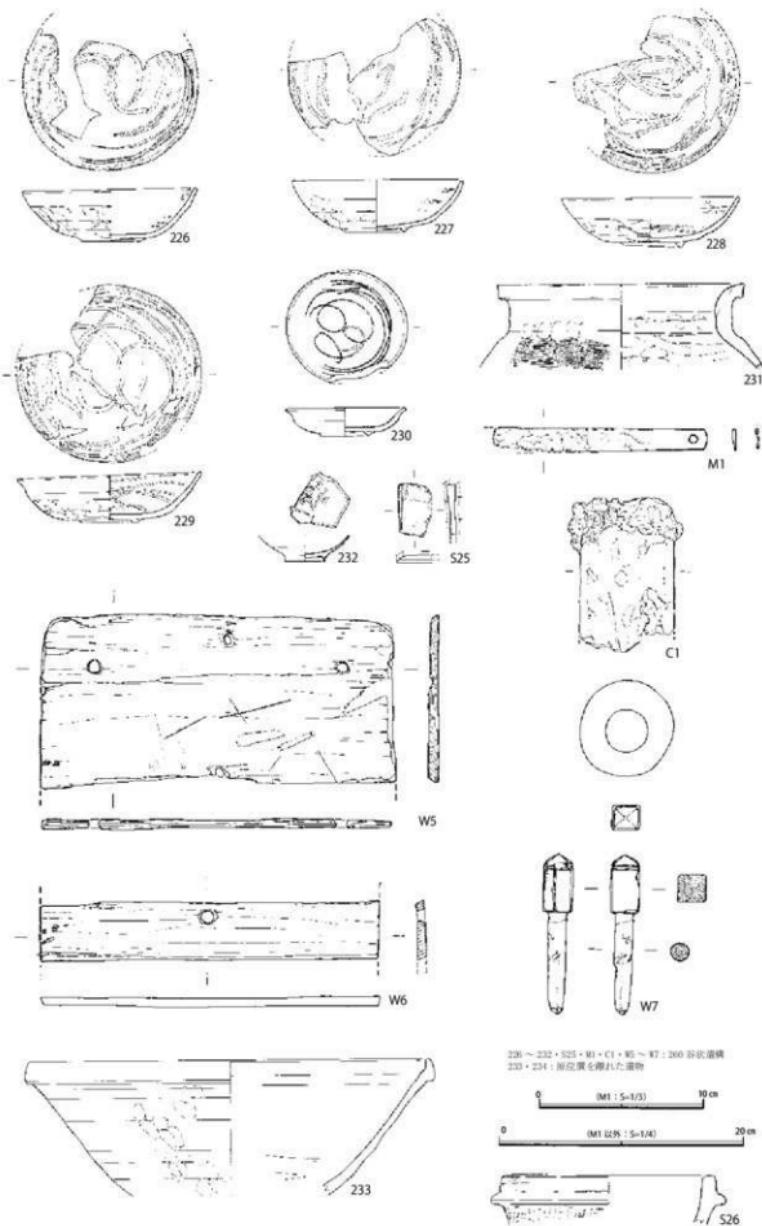
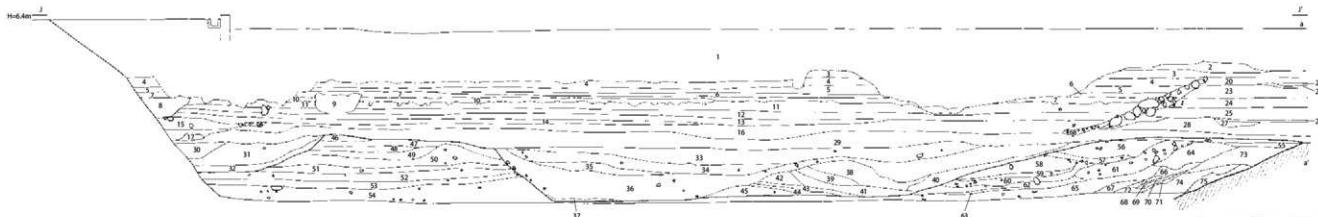


図38 鎌倉時代の遺物 (2)



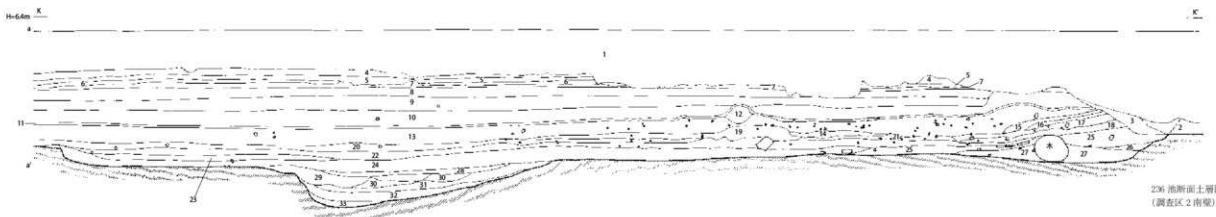
259 畠・260 谷状構造断土層図
(調査区 2 南側)

1. 地上
2. 土質(1)(黒色) シルト
3. 4V(1)(黒色) シルト
4. 5V(1)(黒色) シルト
5. 5V(1)(黒色) 厚い緑泥シルト
6. 5V(1)(黒色) 緑泥シルト
7. 5V(1)(黒色) 厚い緑泥シルト
8. 5V(1)(黒色) シルト
9. 砂礫
10. 10V(1)(黒) 緑泥
11. 10V(1)(黒) 緑泥
12. 10V(1)(黒) シルト
13. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 壓致強度多い
14. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位
15. 2. 5V(1)(黒) シルト 壓致強度多い
16. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位
17. 3G(4)(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥シルト 壓致強度多い
18. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位の緑泥岩が多い
19. 2. 5V(1)(黒) シルト 不規則な位置
20. 5V(1)(黒) 緑泥シルト
21. 10V(1)(黒) 厚い緑泥シルト
22. 5V(1)(黒) シルト
23. 5V(1)(黒) 地下水位
24. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位
25. 10V(1)(黒) 緑泥
26. 10V(1)(黒) 緑泥
27. 10V(1)(黒) シルト 地上・凹・g=10mの緑泥
28. 5V(1)(黒) シルト 地上・凹・g=20mの緑泥
29. 5V(1)(黒) シルト 地上・凹・g=20mの緑泥
30. 5V(1)(黒) シルト 地上・凹・g=20mの緑泥
31. 2. 5V(1)(黒) シルト 地上・凹・g=20mの緑泥
32. 3G(4)(1)(黒) シルト
33. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位
34. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト
35. 2. 5V(1)(黒) シルト 地下水位
36. 5. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥含む 有機物多い
37. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
38. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥含む 有機物多い
39. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥含む 有機物多い
40. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥含む 有機物多い
41. 2. 5V(1)(黒) シルト 緑泥含む 有機物多い
42. 5V(1)(黒) シルト 有機物多く
43. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥含む 有機物多い
44. 2. 5V(1)(黒) シルト 緑泥含む 有機物多い
45. 2. 5V(1)(黒) シルト 緑泥シルト
46. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
47. 5V(1)(黒) シルト
48. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥シルト
49. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥シルト
50. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥シルト 有機物多い
51. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
52. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
53. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
54. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
55. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
56. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
57. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
58. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
59. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
60. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
61. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
62. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
63. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥
64. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト 緑泥

259図 [30]

65. 3G(3)(1)(黒) 緑泥シルト 木片有機物、土器類多い
66. 3G(3)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
67. 3G(3)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位から土壌化する可能性
68. 3V(1) 地下水
69. 3V(1) 地下水
70. 2. 5V(1)(黒) オリーブ色 シルト
71. 5G(4)(1)(黒) シルト
72. 5G(4)(1)(黒) 緑泥シルト
73. 5G(4)(1)(黒) 緑泥シルト
74. 2. 5G(4)(1)(黒) 土壌シルト
75. 2. 5G(4)(1)(黒) 土壌シルト

本図は 258図の選択断面 47番までが緑泥岩層



260 池底断土層図
(調査区 2 南側)

1. 地上
2. 5V(1)(黒) 緑泥シルト 地和物の緑泥層上
3. VA(1)(黒) 緑泥シルト 地和物の緑泥層上
4. DV(2)(1)(黒) 緑泥
5. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹
6. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹
7. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹
8. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹
9. DV(1)(黒) 緑泥シルト
10. 7. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹・g=10mの緑泥、底土多い
11. 7. DV(1)(黒) 緑泥シルト 地上・凹・g=10mの緑泥、底土多い
12. DV(1)(黒) シルト
13. DV(1)(黒) シルト 地上・凹・g=10mの緑泥
14. DV(1)(黒) シルト 地上・凹・g=10mの緑泥
15. DV(1)(黒) シルト 10V(1)(黒) オリーブ色 シルト のブロックあり
16. DV(1)(黒) オリーブ色 シルト
17. DV(1)(黒) シルト 10V(1)(黒) オリーブ色 シルト のブロックあり g=10mの緑・底土・凹・有機物多い
18. 10V(2)(1)(黒) シルト 地和泥シルト 地上底土含む 蔡物多い
19. 10V(2)(1)(黒) シルト 1. 10V(1)(黒) オリーブ色 シルト のブロック 10% 有機物多い
20. 10V(2)(1)(黒) シルト 地上底土含む 蔡物多い
21. 7. 3V(1)(1)(黒) 緑泥シルト g=10mの蔡物
22. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地上底土含む 木片有機物多き
23. 10V(1)(1)(黒) 緑泥シルト g=10mの蔡物
24. 7. 3V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地上底土含む 木片有機物多き
25. 2. 5V(1)(1)(黒) オリーブ色 シルト 地下水位の緑泥岩が多い
26. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
27. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
28. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
29. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
30. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
31. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
32. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い
33. 2. 5V(1)(1)(黒) 緑泥シルト 地下水位の緑泥岩が多い

図 39 調査区 2 南壁断面

第5章 室町時代の遺構と遺物（図40）

検出した遺構には、堀 5 本（001・019・027・258・259）、井戸 7 基（008・026・048・070・131・261・268）、池 1 面（236）のほか、027 堀内に築かれた石垣、001 堀・259 堀内の橋脚遺構などがある。また、調査区 2 の南東隅で検出した遺構 262 は、極一部で詳細は明らかでないが、堀の可能性も考えられる。

遺物は堀や池などから、土師器をはじめ国産陶器・輸入陶磁器・金属製品・石製品・木製品・瓦などが多量に出土している。

なお、遺構の名称で、溝と堀とは区別せず、幅、深さなどの規模にかかわらずすべて堀の名称を使用している。

1. 堀

001 堀（図 41～49・80～82、図版 14・15・39～44・53）

調査区 1 南西部・調査区 2 西部で検出した堀で、019 堀と重複し、それより新しい。また、027 堀と繋がっているが、併存時期はあったと考えられるものの、消長は同じでない。再掘削されることで大きく新（001-b）・旧（001-a）の 2 時期に分かれる。ただ、屈曲部から南側では、再掘削の状況が明確でない。基本的には古い時期の堀の方が幅が広く、逆に新しい堀の方がやや深く掘削されている。調査区 1 内で屈曲し西方は調査区域外に延び、南は調査区 2 で 236 池と繋がる。総延長 60 m 以上にわたって検出した。規模は 001-a で幅 5.0～6.0 m、001-b で約 4.0 m、

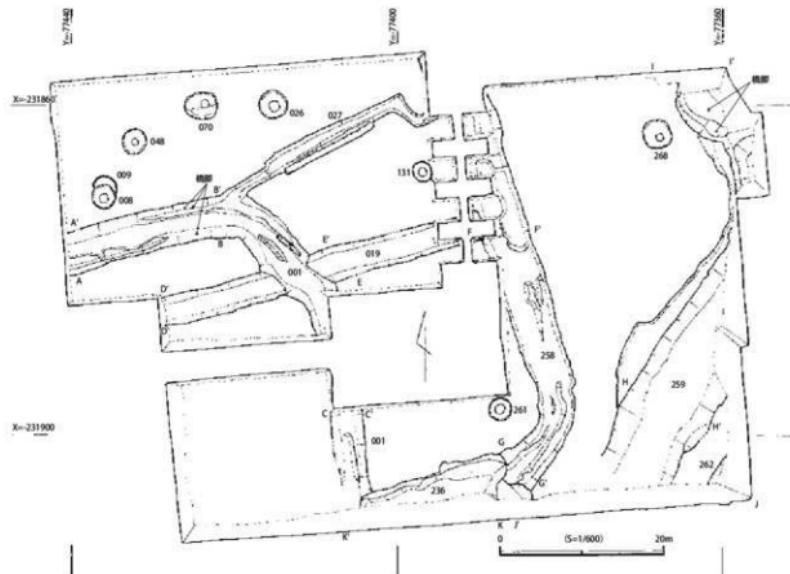


図 40 室町時代の主要遺構

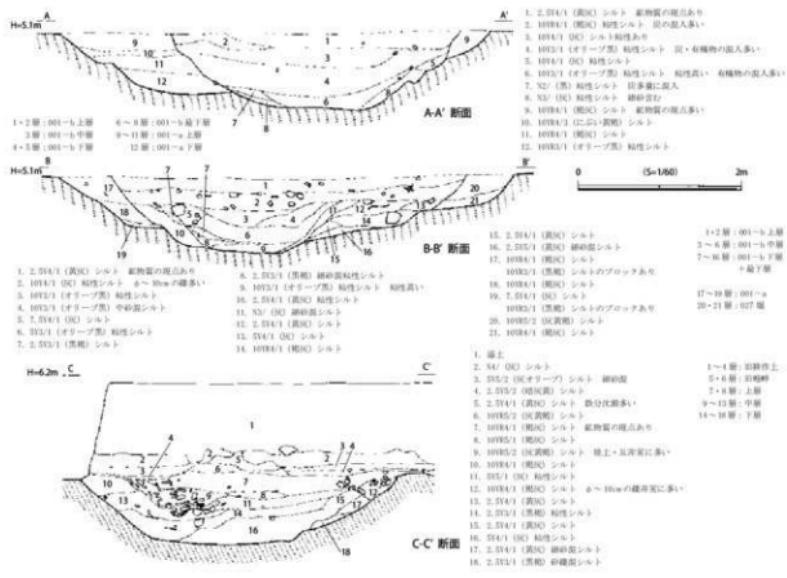
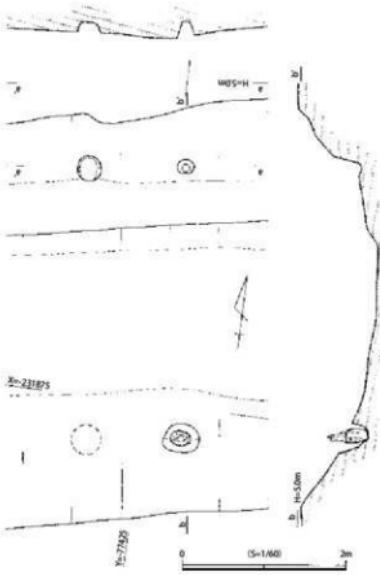


図 41 001 堀断面

深さ 0.8 ~ 1.2 m である。1986 年度調査のⅢ区で検出された SD001、1987 年度調査の I 区で検出された溝、1995 年度調査で検出された堀 22 などと遺物や堆積状況が似通っていることから一連の堀であると考えられ、それらの位置関係から方形区画を巡る堀であった可能性が高い。

調査区 1 の屈曲部西側付近の堀内南壁では直径 20cm の柱が残り、それと対応する北壁にも柱穴 2 個が検出できた。南壁には 1 個しか確認できないものの、堀と直交する方向で位置していることからも橋脚であると判断でき、方形区画内に渡る橋が架けられていたと考えられる。また、屈曲部付近では直径 10 cm 程度の杭が乱杭状に 10 数本打ち込まれていたが、用途は明らかでない。

このほか、調査区 1 の北肩付近からは、多量の土師器皿が出土しており（図 43）、完形



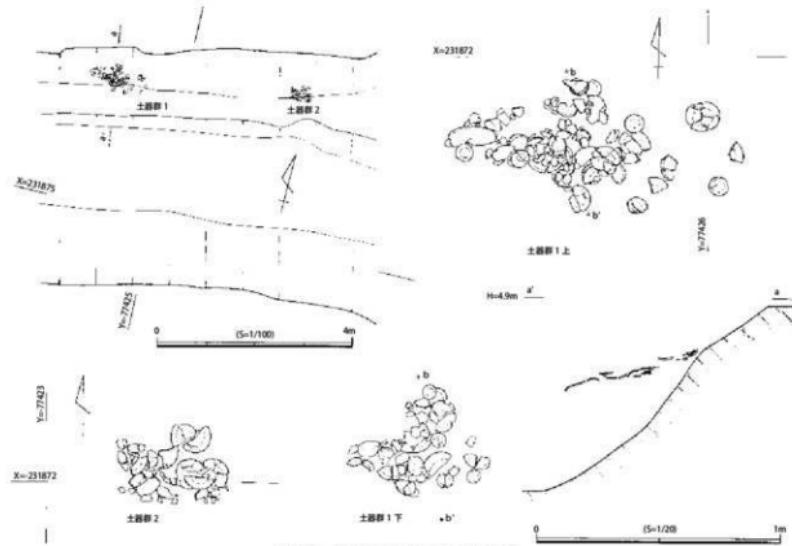


図43 001 堀内土師器皿出土状況

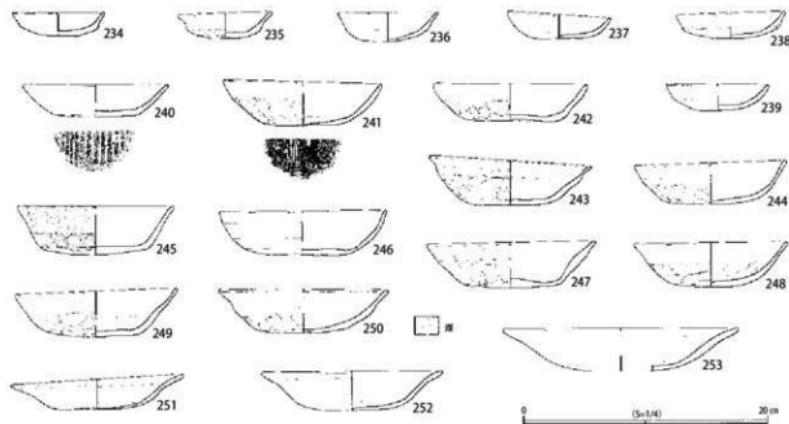


図44 001 堀 出土遺物(1)

品が多いことなどからも、儀式などに使ったあとで一括投棄された可能性がある。

遺物のうち土器類には、土師器皿(234～324)・土釜(325～329)・焙烙(330・331)、瓦質土器羽釜(332・333)・甕(334)・火鉢(335～337)、瀬戸美濃系陶器天目茶碗(338～341)・灰釉皿(342～344)・灰釉花瓶(345)、備前焼擂鉢(346～351)・甕(352～357)・壺、朝鮮製焼締陶器小壺(358)、中国製青磁碗(359～370)・皿(371・372)・盤(373・374)・鉢(375)、

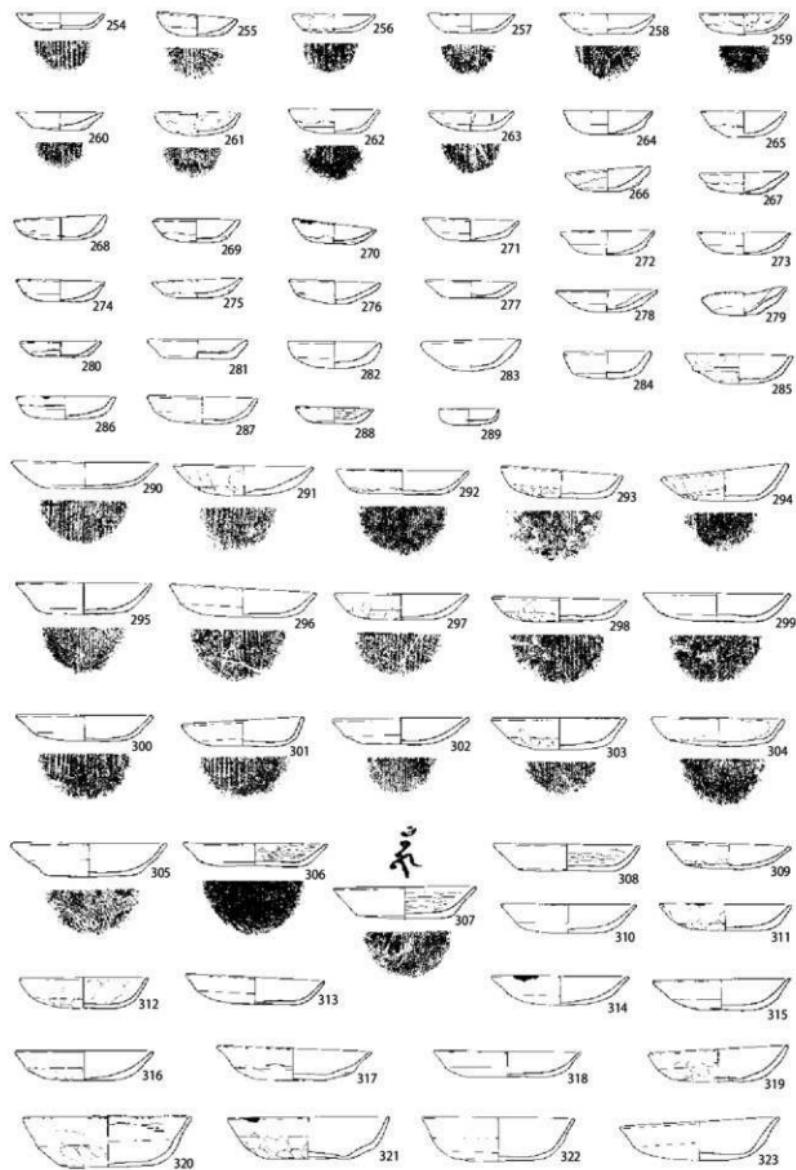


図45 001堀 出土遺物(2)

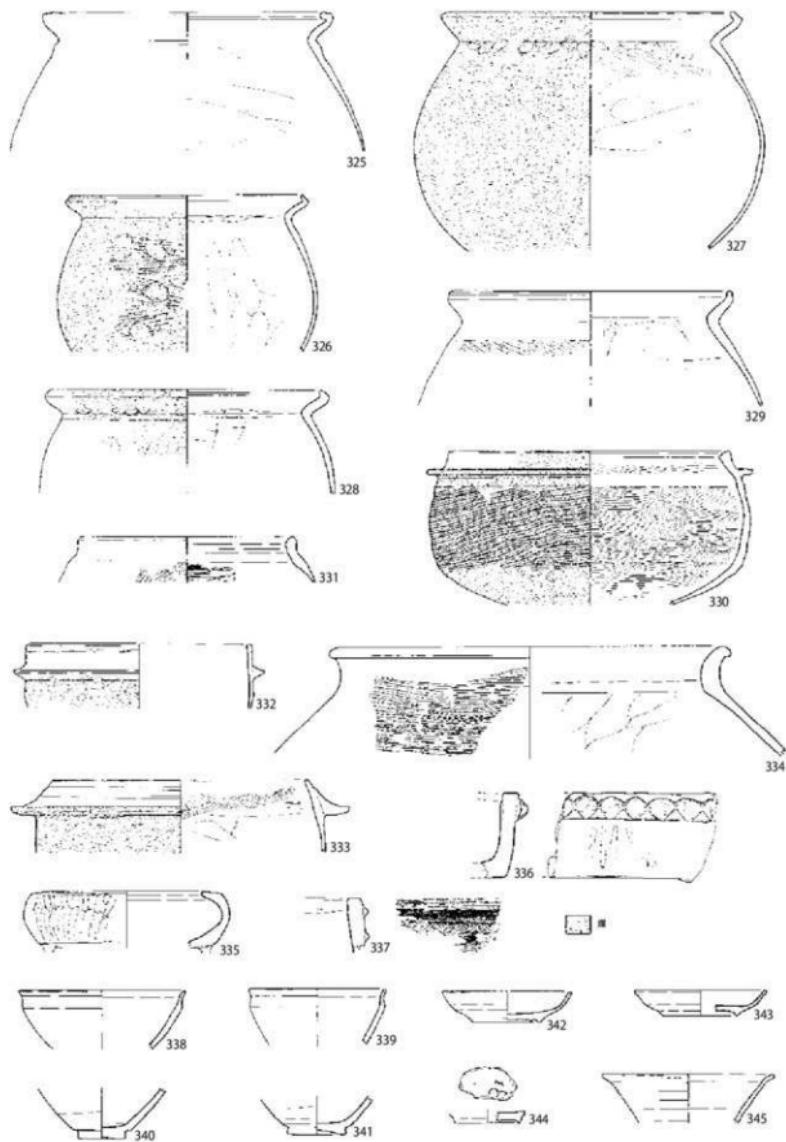


図 46 001 堀 出土置物 (3)

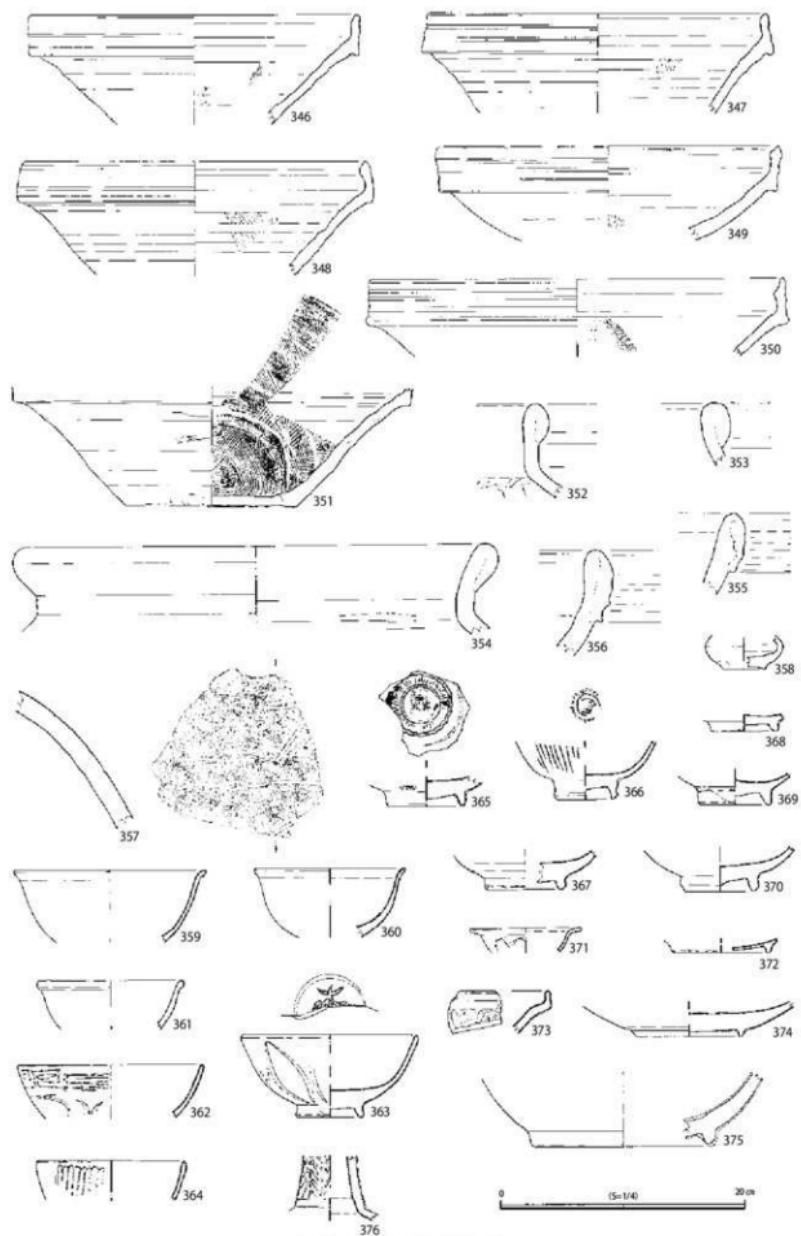


图 47 001 塘 出土遗物 (4)

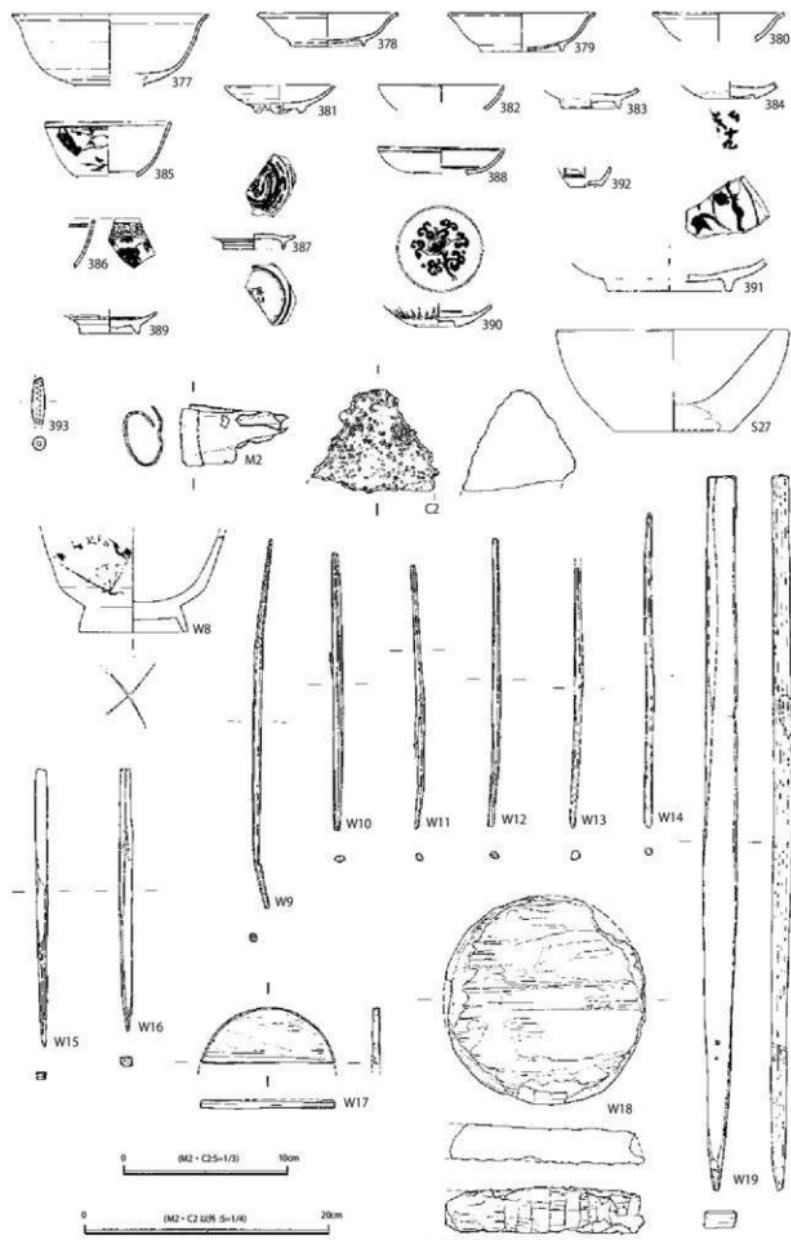


图 48 001 墓 出土遗物 (5)

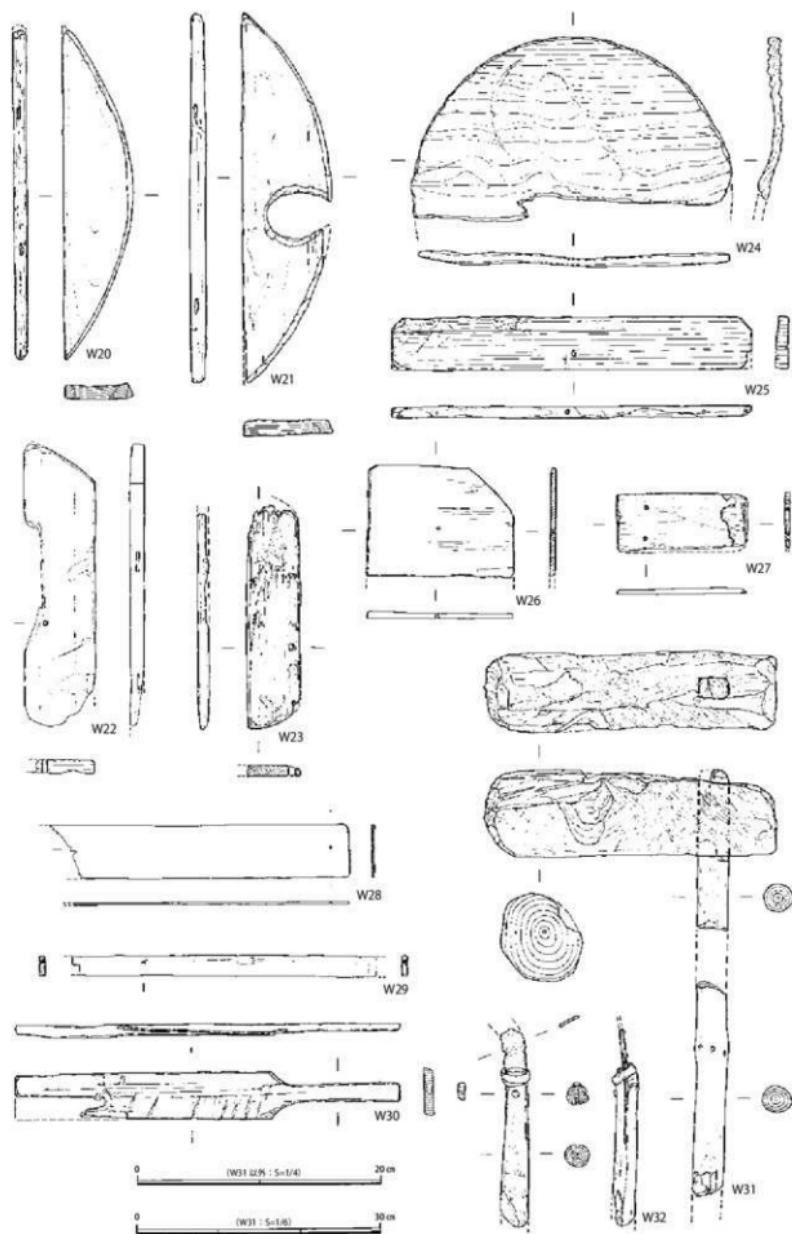


図49 001堀 出土遺物(6)

壺 (376)・香炉、中国製白磁碗 (377)・皿 (378 ~ 384)・中国製染付碗 (385 ~ 387)・皿 (388 ~ 390)・鉢 (391)・杯 (392) のほか、土製品として土錐 (393) がある。また、金属製品では刀装具 (M2)・刀子、錢貨 (M 9・M10) が、石製品では臼 (S27) がある。木製品では漆椀 (W8)・箸及び箸状木製品 (W9 ~ W16)、柄杓 (W17・W19)、曲物底 (W18)、桶蓋または底 (W20 ~ W24)、用途不明の部材 (W25 ~ W28)、折敷 (W29)、羽子板状木製品 (W30)、横桿 (W31)、刃部の基部が残る鎌柄 (W32)などがある。このほか、軒丸瓦 (T11・T15・T16)・軒平瓦 (T17・T19 ~ T22)・丸瓦 (T24 ~ T28)・平瓦 (T29 ~ T32)・鬼瓦 (T34・T35)などの瓦類や炭化米 (C 2)・鐵滓 (C 3・C 4)などが出土している。

遺物の多くは001-bから焼けた建築部材・焼土とともに出土しており、火災を物語るものである。また、方形区画側から流入したものが多い。

019 堀 (図50・51、図版16・45)

調査区1の南部で検出した堀で、001堀と重複し、それより古い。東北東～西南西方向に一直線に延び、西方は調査区域外となる。東方は調査区2で258堀と繋がる。平面・断面から見た新旧関係では258堀の方が新しいが、019堀が258堀より東側に延びずに終わっていることからも、一時期併存した時期があり、その後、258堀以前に埋戻しが行われたと推定できる。規模は幅3.5 ~ 4.0 m、深さ0.6 ~ 0.8 mで、底が平坦であり断面形状は逆台形を呈する。底付近には流



図50 019堀断面

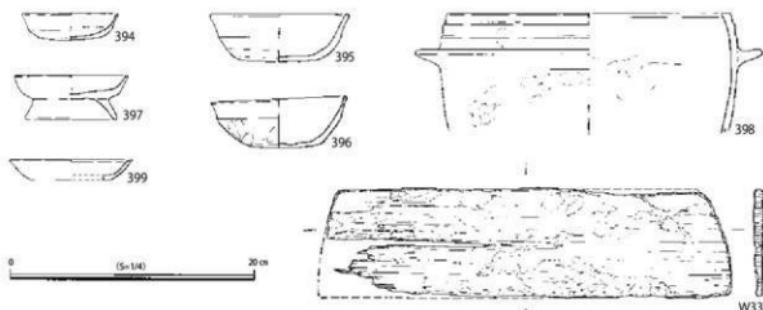
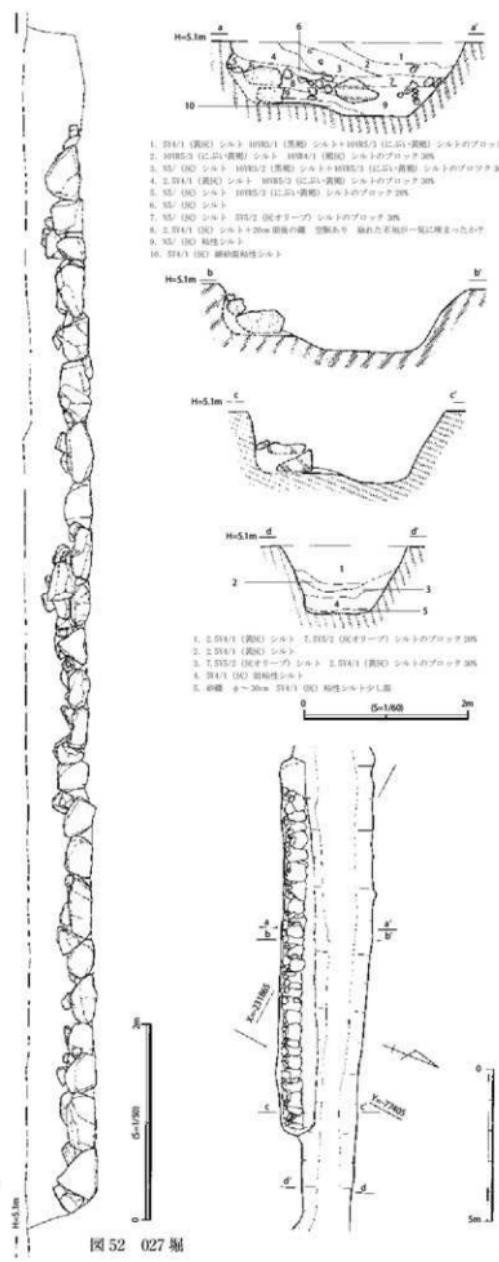
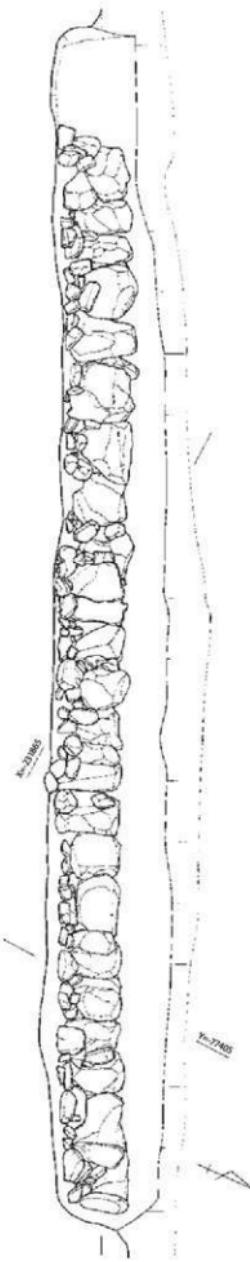


図51 019堀 出土遺物



入した砂混り層が堆積する以外、地山土など何種類かのブロック土で埋め戻されていた。

遺物は土師器皿（394～396）・台付皿（397）、瓦質土器羽釜（398）、備前焼甕、中国製青磁碗、中国製白磁皿（399）、桶底（W33）などが出土しているが、量は少ない。

027 堀（図52・53、図版16・17・45）

調査区1の北東部で検出した堀で北東～南西方向に伸び、001堀と繋がり、北東端はクランク状に屈曲して調査区域外に延びる。調査区2では延長部分が確認できないことから、258堀と繋がる可能性が高い。深さは0.8mで、幅は両端付近で約1.5～2.0mあるが、中程では南東方向に1.0m程度拡幅し、その箇所に石垣を構築している。

石垣は、堀の南東肩に沿うように0.5～1.0mのやや角のある石を長さ12mに亘って積んだものであるが、部分的に2段分残るもの基底石が残存する程度である。高さは最も残りの良い箇所で0.4mであるが、石垣前面の堀内には多量の石材が詰まっていたことからも、元々は数段以上に積み上げていたことが窺える。石垣裏込めは幅が狭く、壁を抉るような状態で0.1～0.3m程度のやや角のある礫や円礫を詰めていた。

遺物は土師器皿（400～402）、瓦質土器火鉢、瀬戸美濃系陶器灰釉皿（403）・灰釉開香炉（404）、備前焼鉢（405）・甕（406）、中国製青磁碗（407）・皿・盤（408）が出土するが、量は少ない。また、石材に混じって茶臼（S28）や板碑（S29）が出土しており、石垣の石材として利用していたものか検討を要する。

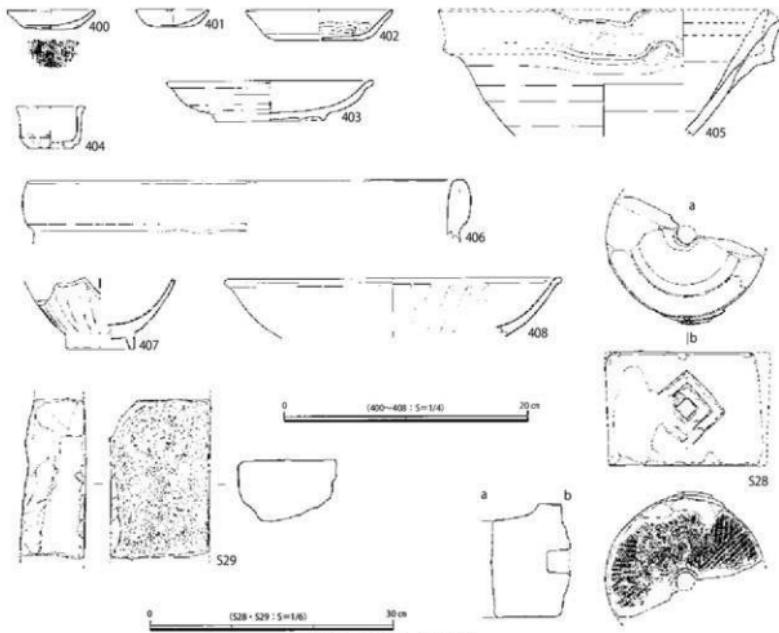


図53 027堀 出土遺物

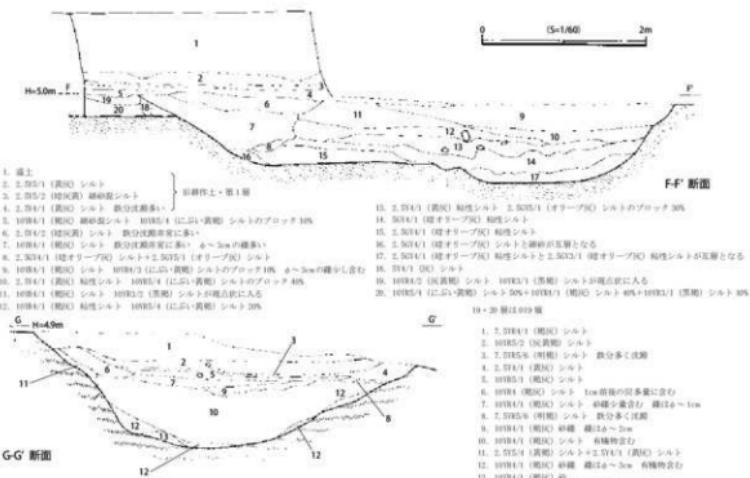


図 54 258 堀断面

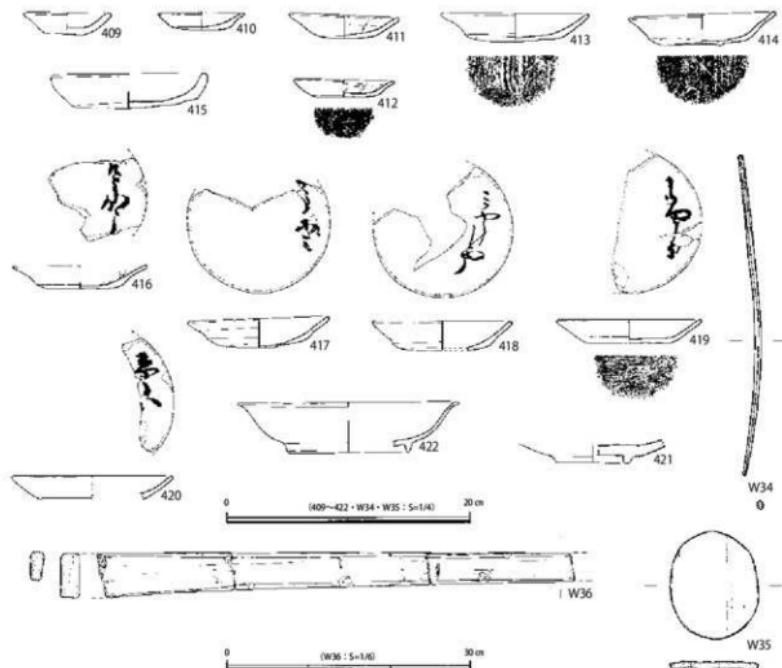


図 55 258 堀 出土遺物

258 堀 (図 54・55、図版 18・45)

調査区 2 の中程で検出した堀で、調査区 1 の北東隅付近で、その一部を確認している。北北西 - 南南東方向に延び、南端が屈曲して南西に折れて 236 池と重複し、北方端は調査区域外となる。019 堀・027 堀が 258 堀と併存した時期が想定できる。規模は幅 4.0 ~ 5.5 m、深さ 0.8 ~ 1.2 m で、断面形状は基本的に逆台形を呈する。

遺物は土師器皿 (409 ~ 420)、瀬戸美濃系陶器灰釉碗、備前焼擂鉢・甕、中国製青磁碗・盤 (421)、中国製白磁皿 (422) のほか、箸 (W34)・柄杓 (W35)、用途不明の部材 (W36) などの木製品が出土する。土師器皿には内面に墨書が認められるものが多くある。瓦や焼土が出土しないことからも、館廃絶期にはすでに埋まっていた堀であると考えられ、古い時期の館の東側を画する堀と判断することができる。

259 堀 (図 56 ~ 59・80・82、図版 18・19・46・53)

調査区 2 の東端で検出した堀で、南側が北東 - 南西方向に延び、北側で屈曲して南北方向に延びている。調査区の北東隅付近では浅くなり、その箇所から C の字状に内側に湾入しているが、東側が調査区域外となることからも全容は明確でない。規模は幅 11.0 ~ 12.0 m、深さ 2.0 m を測り、底は平坦で断面形状は逆台形を呈する。南東隅付近は古い時期には谷状地形 (260 谷状構造) であり、それがある程度埋まった段階で堀を掘削していることが窺え、東側の肩部が低くなっている。堀の位置や規模からも、館の東側を画する外堀であった可能性が高い。

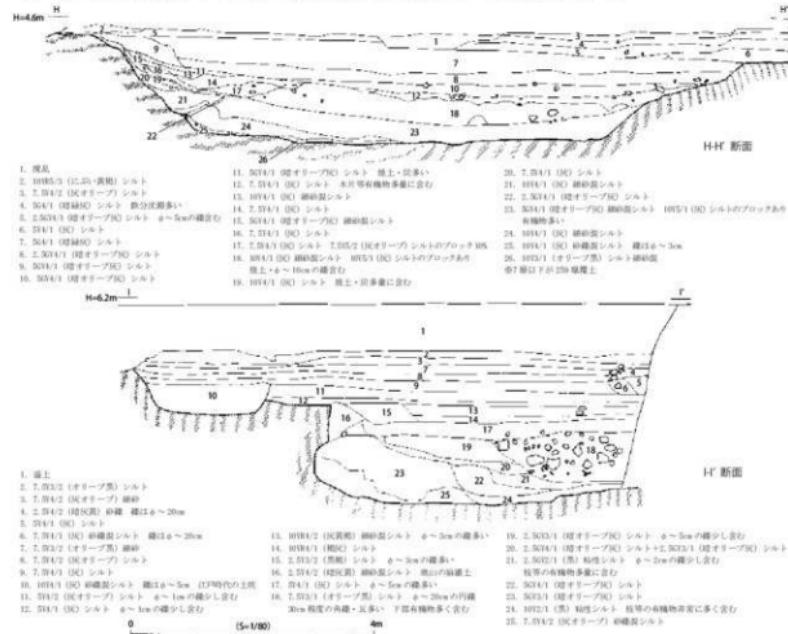


図 56 259 堀断面

北東隅の湾入部底付近には柱が2本存在する。柱は15cm×25cmの角材と、もう一方は直径25cmの周囲を削った丸太材で、約3.0mの間隔をあけてハの字状を呈するように立てており、館の虎口（入口）に架けられた橋に伴う橋脚であると考えられる。橋脚は堀がある程度埋まった段階で設けられたことが窺え、角材の方は先端が尖り打ち込まれているが、丸太材の方は下部が平らで、底面よりやや上位に据え置かれていた。

遺物は土師器皿（423～432）、土釜・焙烙（433）、瓦質土器壺・火鉢、瀬戸美濃系陶器天目茶碗（434）、常滑焼壺（435）、備前焼擂鉢（437）、壺・壺、中国製青磁碗・盤、中国製白磁皿、中国製褐釉陶器壺（438）、釘・合釘（M3～M5）、刀装具（M6）、錢貨（M11）、五輪塔地輪（S30）のほか、漆椀（W37～W40）、桶底（W41）、折敷（W42～W44）、工具柄（W45）、楔状木製品（W46）、

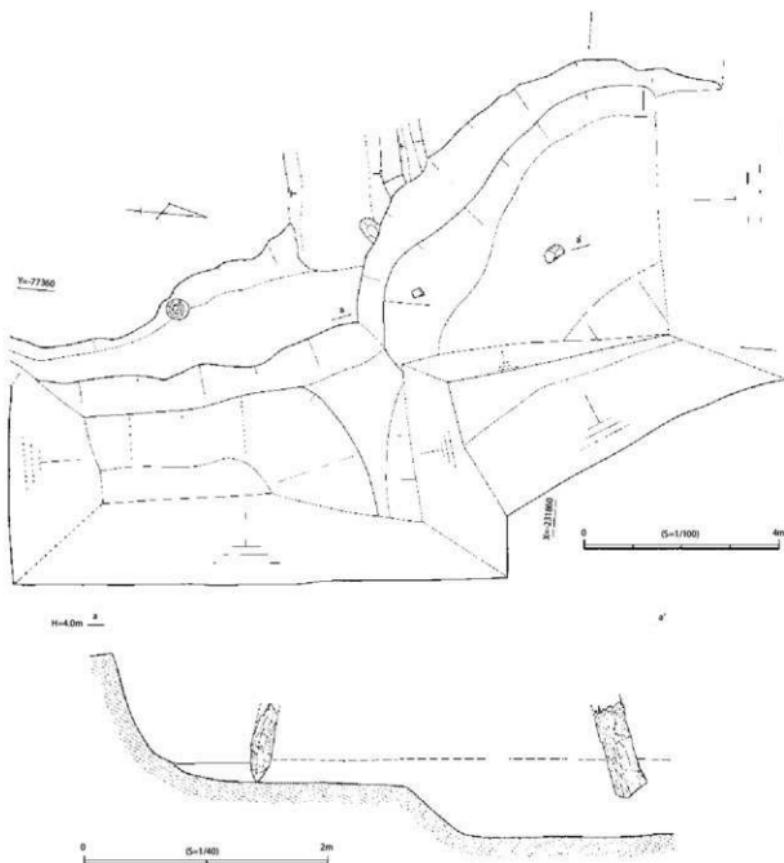


図57 259 堀内橋脚遺構

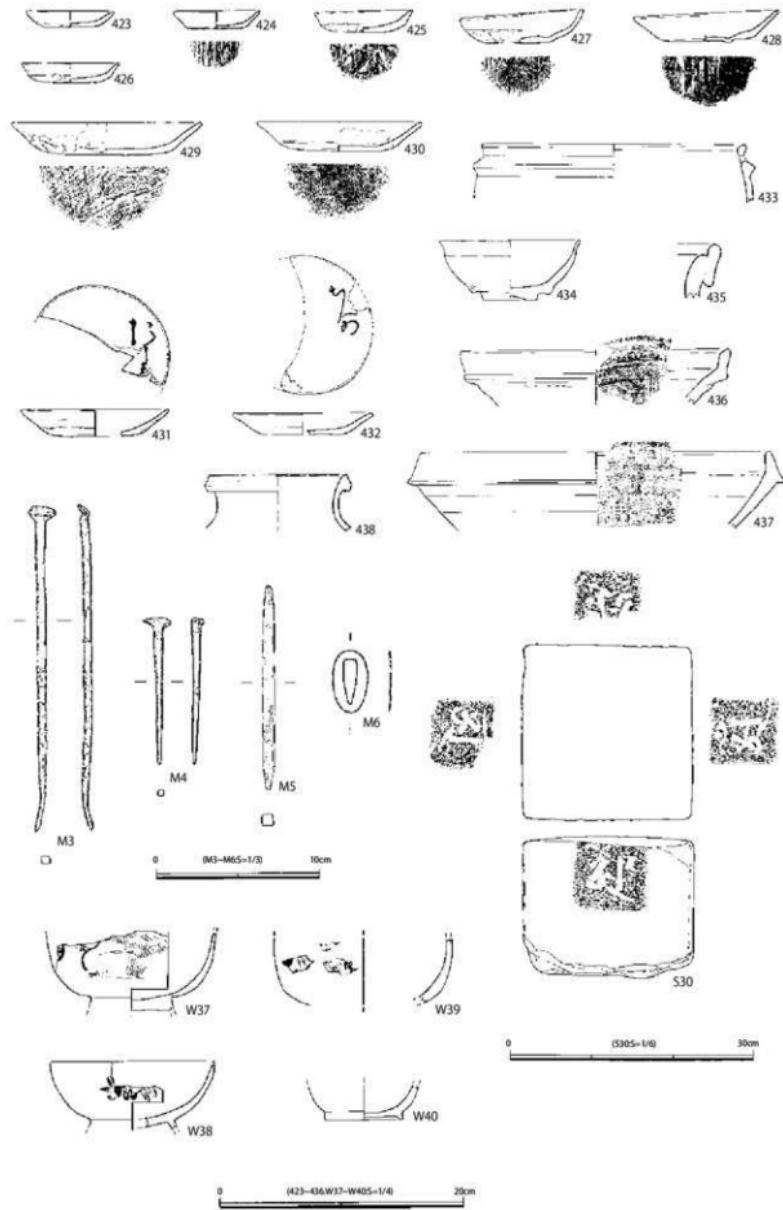


图 58 259 墓 出土遗物 (1)

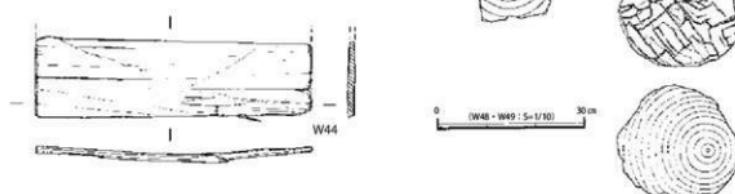
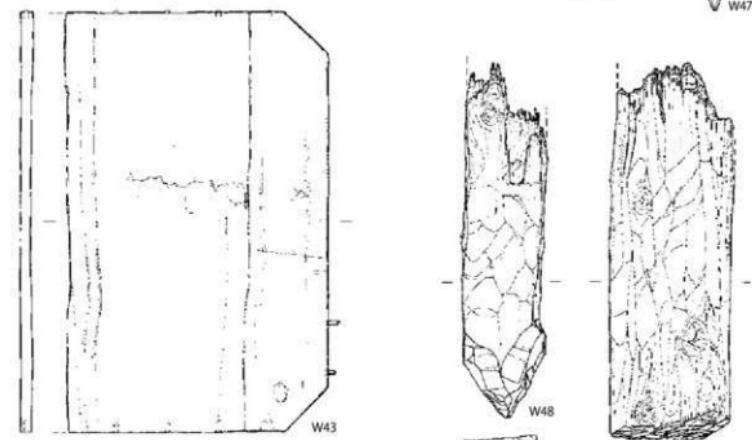
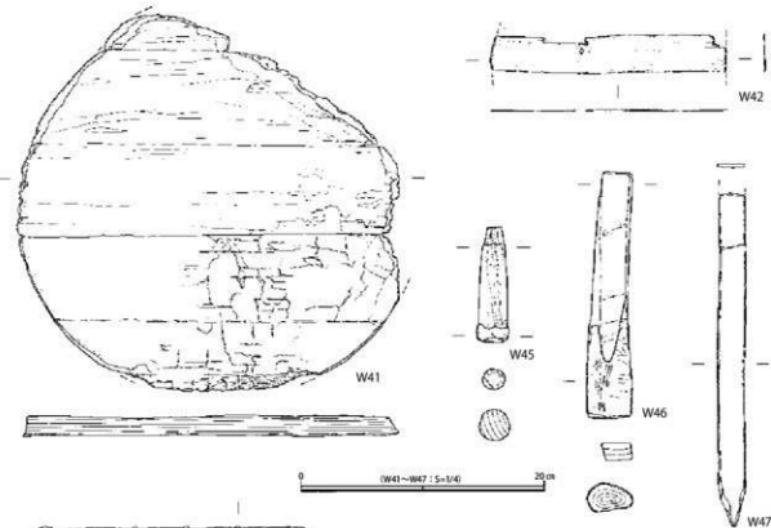


图 59 259 墓 出土遗物 (2)

木簡状木製品（W47）、橋脚（W48・W49）、建築部材などの木製品、銭貨（M11）、軒丸瓦（T12・T14）、軒平瓦（T23）、平瓦、丸瓦などが出土しているが、量は001堀に比して少ない。これは、館の中心部からやや離れているからであると考えられる。ただ、焼けた建築部材や焼土・瓦が出土することからも、館廃絶期の遺構であることが窺える。

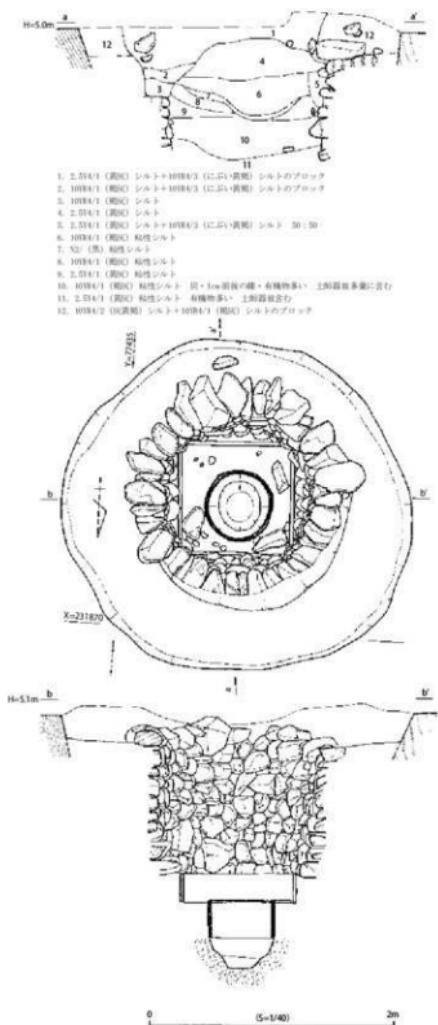


図 60 008 井戸

2. 井戸

008 井戸(図 60～62、巻頭図版 2、図版 20・47)

調査区 1 の西端付近で検出した石組井戸で、009 土坑を切り込む。北東部に位置する 068 井戸とは約 5.0 m、南にある 001 堀とは約 2.0 m の間隔をあけて位置する。

井戸側を構築する掘形は楕円形を呈し、長径 2.85 m、短径 2.7 m、深さ 2.15 m を測る。井戸側は基本的に 10～30cm の川原石を小口積みしているが、所々に大振りの角が有る石が使用されている。内径は上部で 1.25 m、下部で 0.95 m とや上方に開いており、高さは 1.25 m 残存していた。

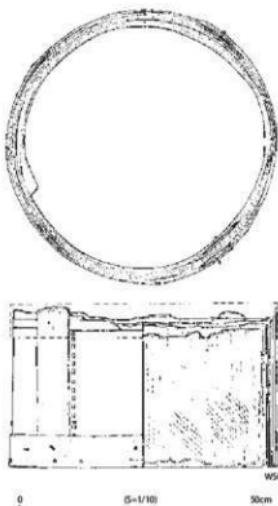


図 61 008 井戸底の曲物

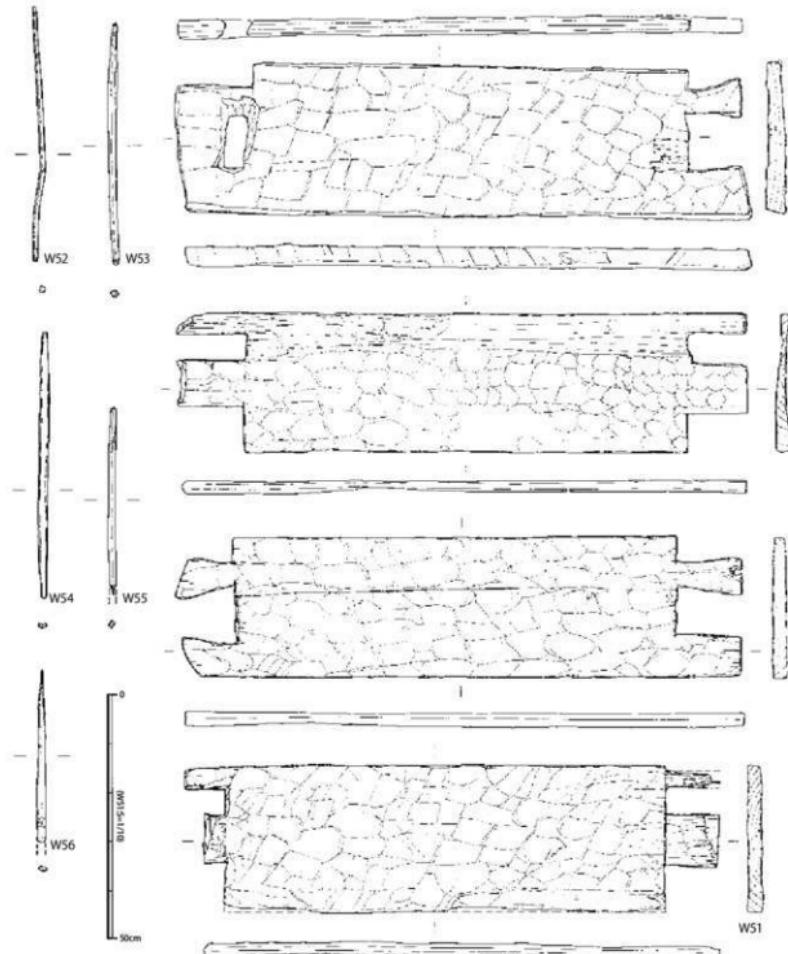
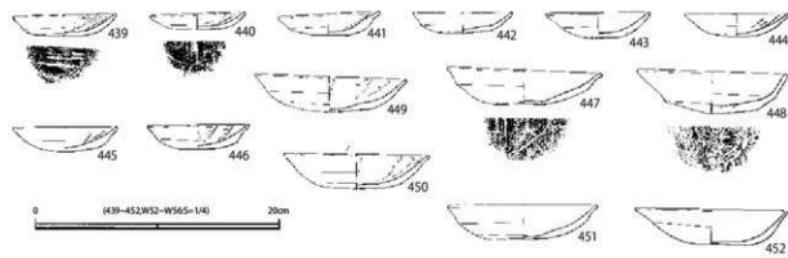


図 62 008 井戸 出土遺物

石積みの下部には桐木がなく、幅約30cm、厚さ3.5～4cmの板材4枚(W51)を枘組して一辺0.9m、高さ0.25mの方形枠(W51)を設けている。その中央には、直径55cm、深さ33cmの曲物(W50)を据えており、曲物の内側は更に擂鉢状に0.25m程度掘り窪めていた。

遺物は井戸側の埋土から、多量の土師器皿(439～452)、中国製白磁皿、瓦などのほか、箸(W52～W56)などの木製品が出土している。焼土・炭などが多く含まれる状況からも、館廃絶期に機能していた可能性が高い。

026 井戸 (図63・64、図版21・47・53)

調査区1の北側中央付近で検出した石組井戸で、西側にある070井戸とは約5.0mの間隔をあ

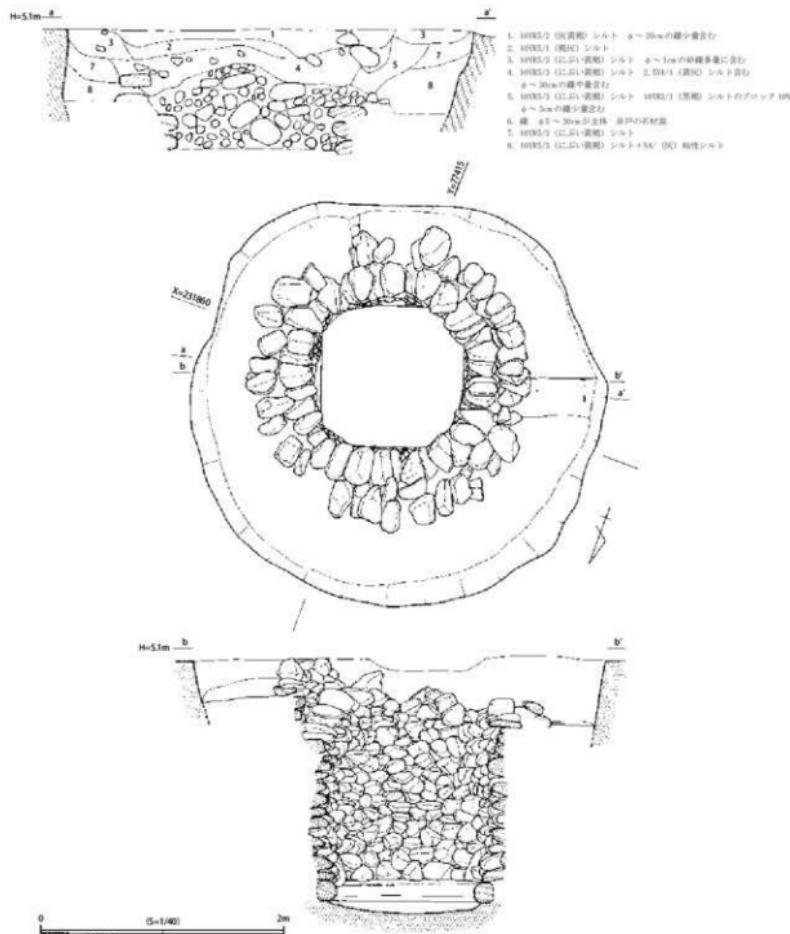


図63 026 井戸

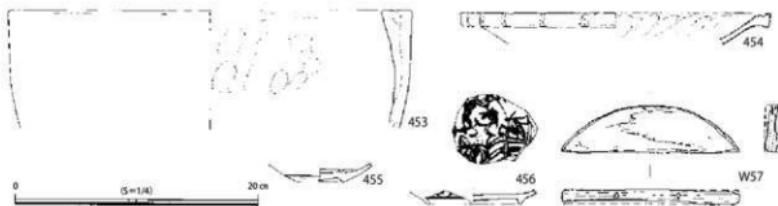


図 64 026 井戸 出土遺物

けて位置する。

井戸側を構築する掘形は円形を呈し、直径 3.5 m × 3.4 m、深さ 2.1 m を測る。井戸側は基本的に 10 ~ 30cm の川原石を小口積みしており、構築に際しては、強度を図るために外回りにも石積みをおこなっている。石材の大きさは比較的揃っており、001 井戸のように角のある石は使用していない。内径は 1.25 m で、ほぼ垂直に積み上げており、高さは残りの良い箇所で 1.8 m である。

石積みの下部には直径約 20cm の胴木 4 本を地山直上に方形を呈するように組んでおり、内法は一辺 1.15 m である。胴木の枠内は約 0.2 m 程度皿状に窪んでいる。

遺物は井戸側の埋土などから、土師器皿・火鉢（453）、備前焼擂鉢・壺、中国製青磁盤（454）、中国製白磁皿、中国製染付皿（455・456）や桶底（W57）、銭貨（M13）などが出土しているが、量は多くない。また、埋土内には井戸に使われていたと考えられる多くの石材が投棄されていた。焼土などが伴わない状況からも、館廃絶期以前に井戸を壊して意図的に埋め戻していることが窺える。

048 井戸（図 65・66、図版 22・47）

調査区 1 の北西部で検出した石組井戸で、北東側にある 070 井戸とは約 6.0 m の間隔をあけて位置する。

井戸側を構築する掘形は梢円形を呈し、長径 3.1 m、短径 2.8 m、深さ 2.05 m 以上を測る。井戸側は基本的に 10 ~ 30cm の円礫を小口積みしているが、所々にやや大振り石材が使用されている。内径は 0.8 m で、ほぼ垂直に積み上げており、高さは残りの良い箇所で 1.5 m を測る。

石積みの下部には直径約 15cm の胴木 4 本を方形に組んでおり、内法は一辺 0.8 m である。胴木の内側には大きな石が落ち込んで下部の構造は明確でないが、胴木の下部から底まで 0.3 m 程度であることから、131 井戸のように胴木の下に板材で方形枠を設けていた可能性がある。

遺物は井戸側の埋土などから、土師器皿、備前焼擂鉢（457）・壺・壺（458）、常滑焼、中国製青磁碗（459）などが出土しておるが、量は多くない。また、埋土内には井戸側に使われていたと考えられる多くの石材が投棄されていた。焼土などが伴わない状況からも、館廃絶期以前に井戸を壊して意図的に埋め戻していることが窺えるが、備前焼擂鉢の特徴から、埋戻し時期は館廃絶期に近い 16 世紀後半代であると考えられる。

070 井戸（図 67・68、図版 23・47・48）

調査区 1 の北側中央付近で検出した井戸で、南東には 048 井戸が西側には 026 戸が近接する。

井戸側を構築する掘形は梢円形を呈し、長径 3.9 m、短径 3.3 m、深さ 2.3 m を測る。井戸側は掘形中央より北東側に寄った位置に設けられている。板材を桶状に組んで直径 0.95 m の井戸側

としていたと考えられるが、部分的にしか残存しないことから明確でない。ただ、残存状況から窺うと、幅10cm前後、厚さ2cm程度の板材を垂直に立てて、下端は小さな杭で固定していたと考えられる。板材には、長さ1.5m以上のものがある一方で、それ以下のものは途中で重ねるように継ぎ足しており、一般的な桶のように密着するように板材を組み合わせたものでなかつたことが窺え、また、タガ状のものも確認していない。

井戸の下部構造は、方形枠(W64)の内側に底のない結桶(W63)を据えたものである。方形枠は幅14.5～22.0cm、厚さ3.5～4.0cmの板材を枠組したもので、内法は一辺約0.5mである。枠は安定を図るために井戸側との間に10～25cm程度の礫を詰めていた。板材は他の部材であったものを再利用したものか、小さな枘穴が2箇所認められる。桶は方形枠の天端より8cm程度下がった位置に据えられる。土圧により歪んだためか梢円形を呈し、直径は上部で45cm、下部で38cmを測る。桶は撥形を呈する側板22枚からできており、竹でできたタガ3段で結われていた。桶の下部は約0.07m程度皿状に窪んでいる。

遺物は、井戸側の裏込め土から土師器皿(460・461)、備前焼擂鉢(462)・甕が、井戸側埋土から土師器皿、瀬

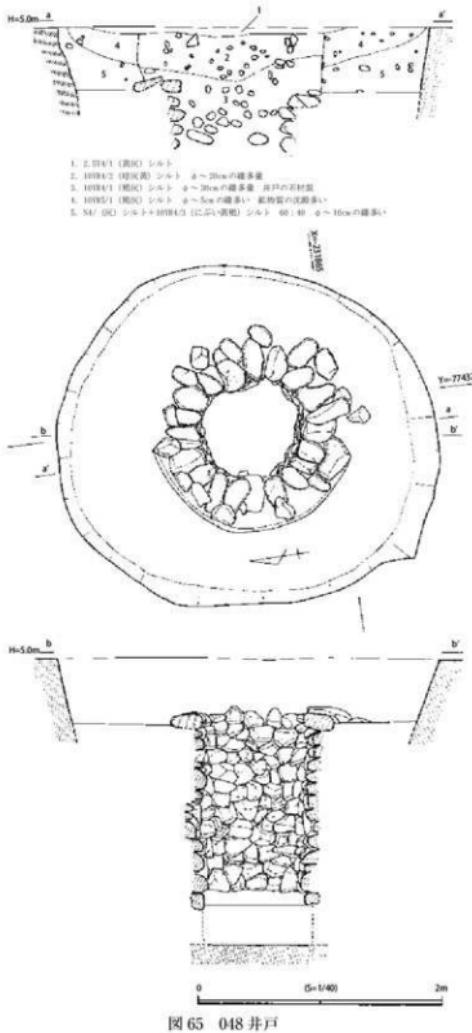


図65 048 井戸

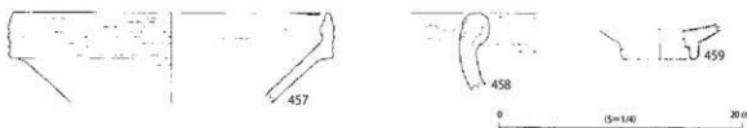


図66 048 井戸 出土遺物

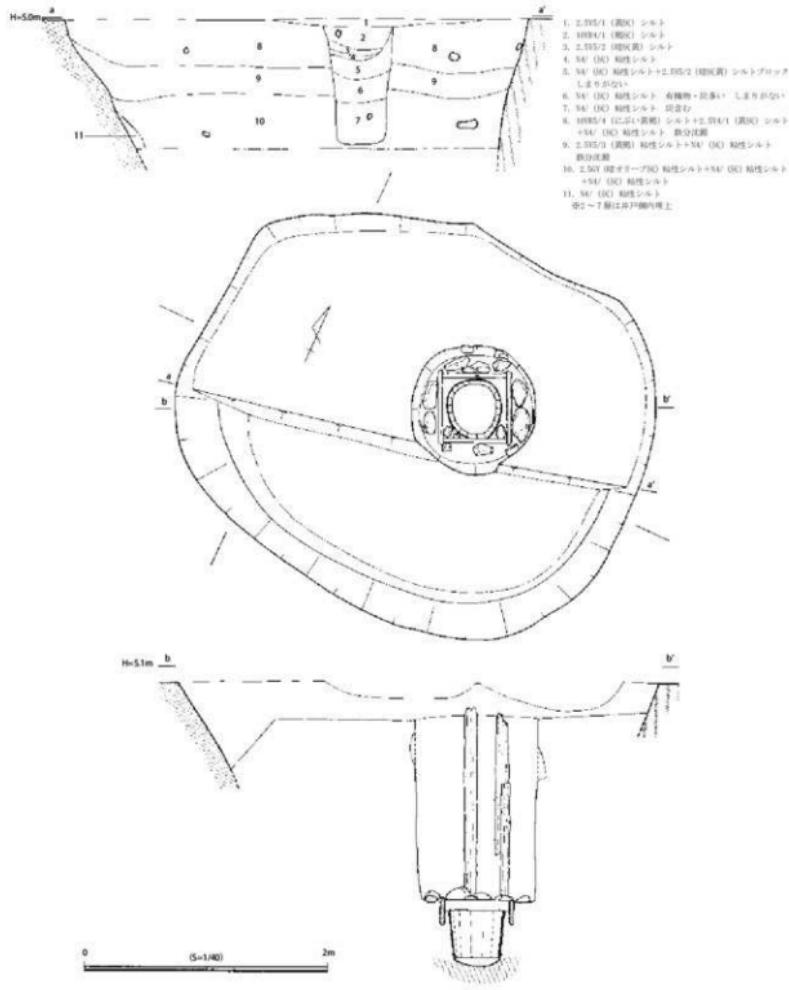


図 67 070 井戸

戸美濃系陶器鉄釉鉢（463）・灰釉鉢皿、備前焼窯、青磁碗（464）などとともに、折敷（W58・W59）、部材（W60～W62）、箸など多くの木製品が出土している。また、木端・枝葉などとともにサンゴ（ヤギ目）が出土しているが、その性格については明らかでない。土器などの特徴から、井戸の掘削時期は最も古く、その後15世紀末頃から16世紀初め頃まで機能していたと考えられる。

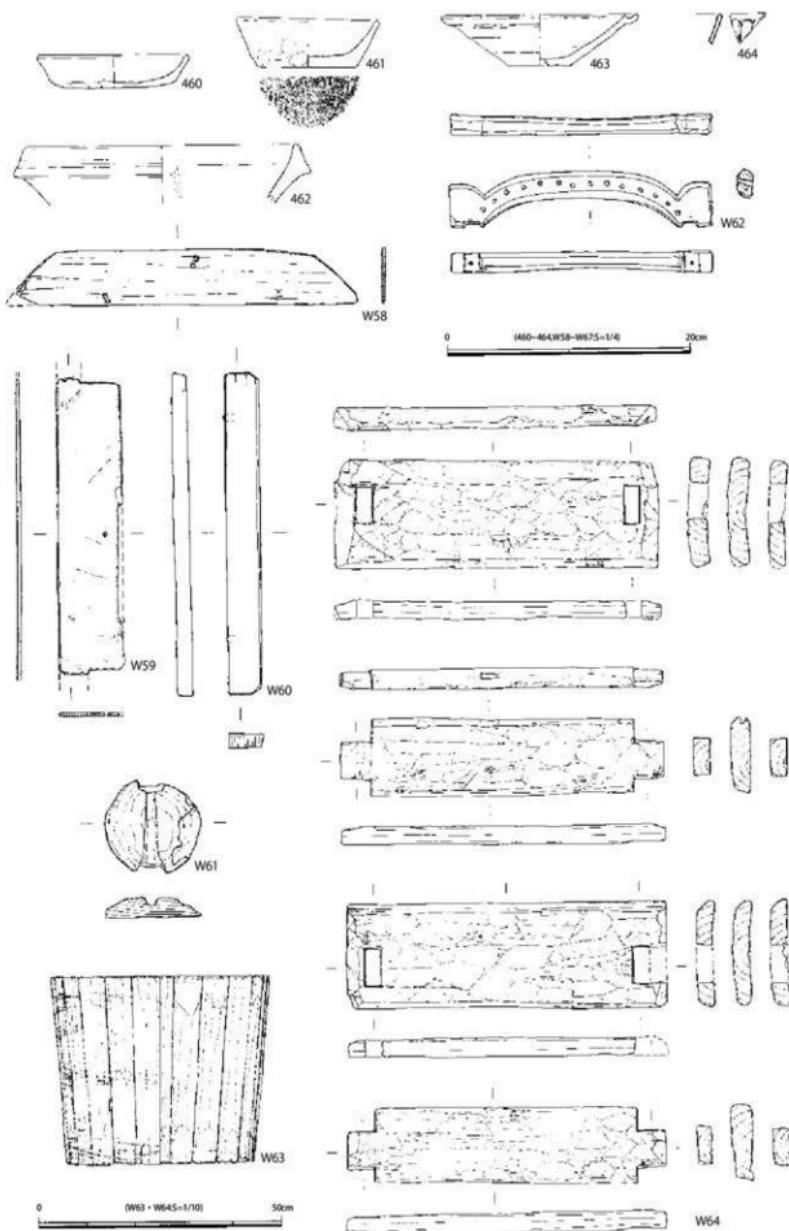


図 68 070 井戸 出土遺物

131 井戸 (図 69・70、図版 24・48・49)

調査区1の東端付近で検出した石組井戸で、027 堀や 258 堀と近接する。

井戸側を構築する掘形は円形を呈し、直径 2.45 m × 2.3 m、深さ 2.4 m を測る。井戸側は基本的に 10 ~ 30 cm の円碟や角のある碟を小口積みしているが、所々にそれ以上の石材が使われている。内径は 1.05 m、下部で 0.8 m と上方に広がっており、高さは残りの良い箇所で 1.8 m を測る。

石積みの下部には部分的に面取りを施した 15 ~ 20 cm の胴木 4 本を方形に組んでおり、さらに胴木の下部に幅 40 cm、厚さ 5 cm 程度の板材を柄組して方形枠を設けている。胴木部の内法は一辺 0.65 m、方形枠の内法は一辺 0.9 m である。

遺物は井戸側の埋土などから土師器皿（465 ~ 473）、瓦質土器火鉢（474）、瀬戸美濃系天目茶碗（475）、中国製青磁碗・皿、中国製白磁皿（477）、中国製染付碗・盤（478）、「大福浪介」の銘がある小柄（M 7）や折敷（W65）、柄杓柄（W68）、部材（W66・W67、W69・W70）、扇骨（W71）などが出土している。埋土に焼土が多く、破棄に伴う破壊も行われていないことからも、008 井戸などとともに館の廃絶期に使用されていた井戸であると考えられる。

261 井戸 (図 72・73・80、図版 25・49・53)

調査区2の中程で検出した石組井戸で、東にある 258 堀や南にある 236 池とは約 3 m 隔てて位置する。

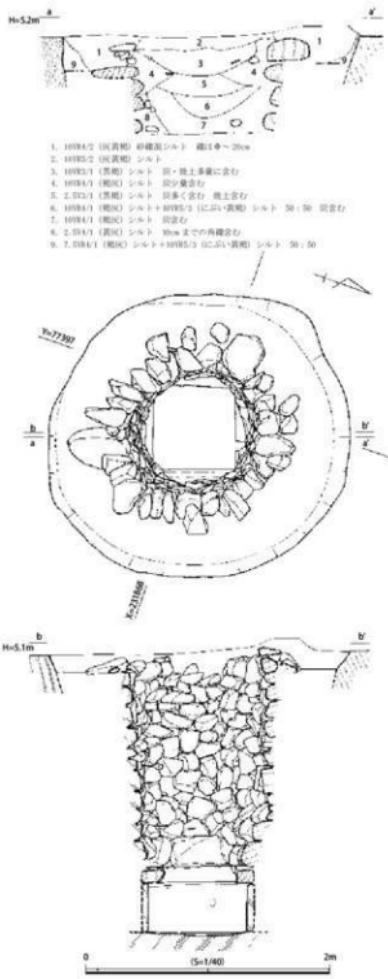


図 69 131 井戸

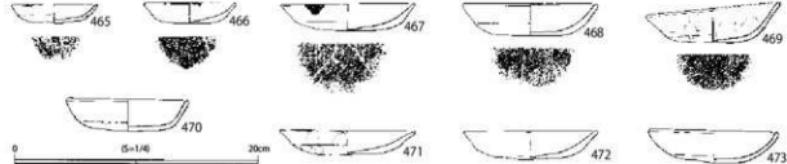


図 70 131 井戸 出土遺物 (1)

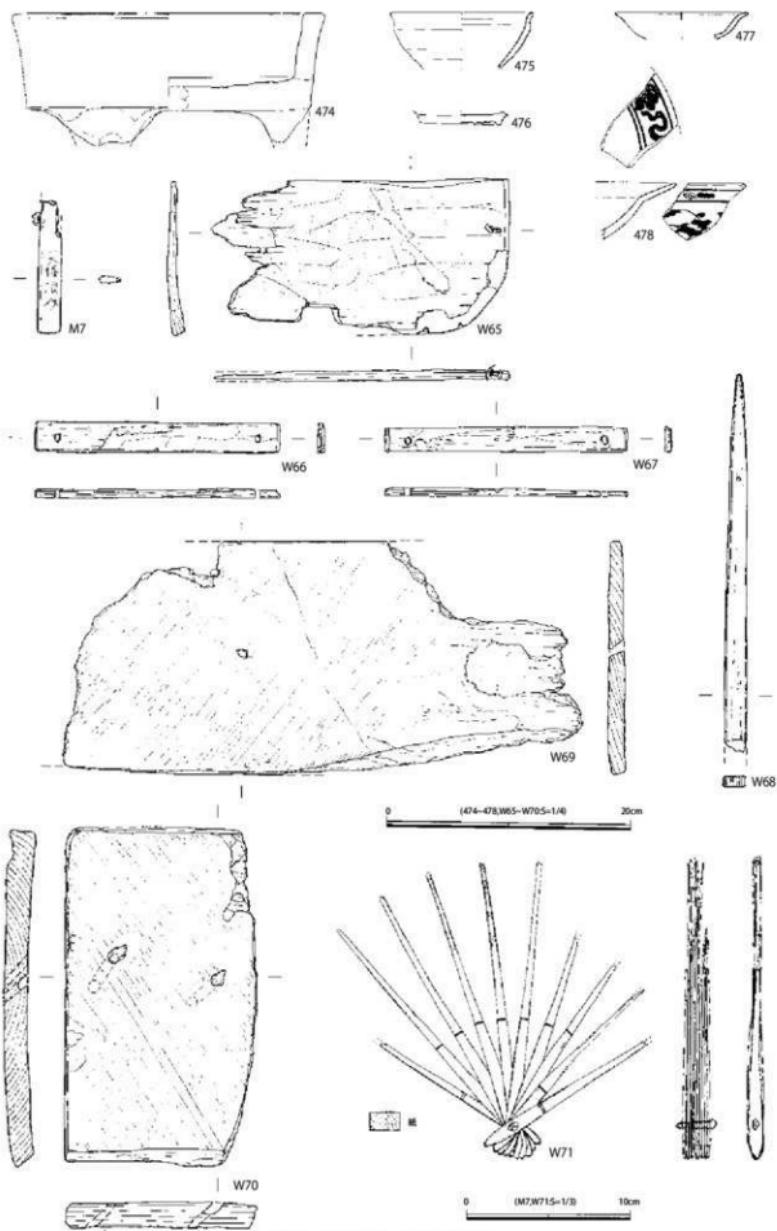


図71 131井戸 出土遺物(2)

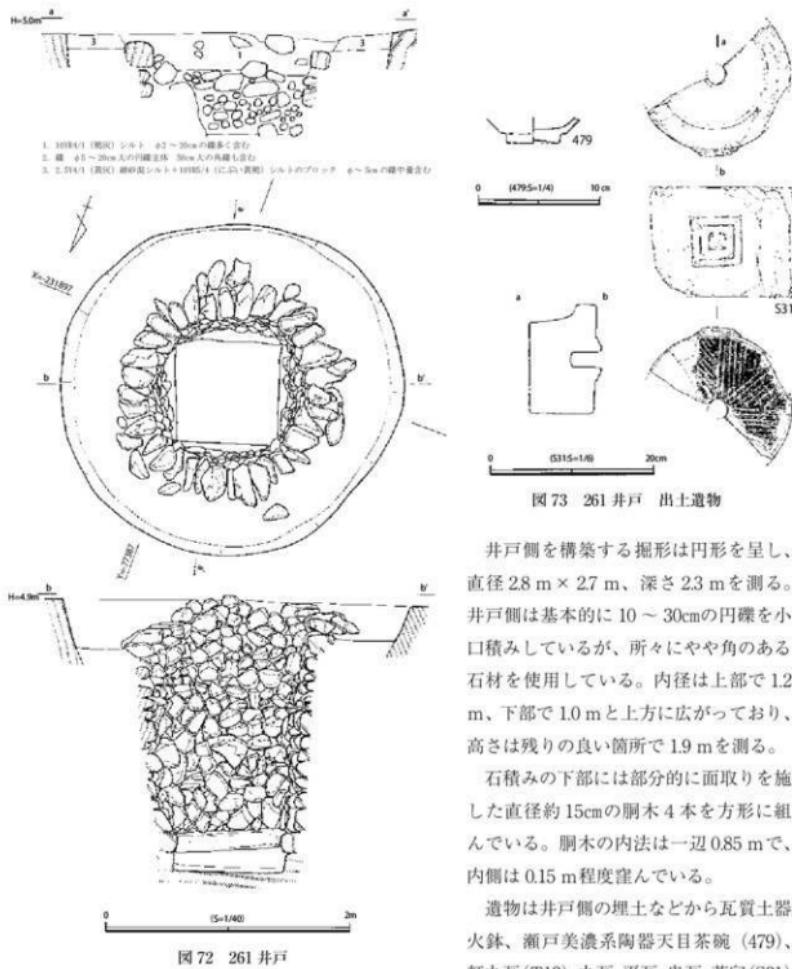


図 73 261 井戸 出土遺物

井戸側を構築する掘形は円形を呈し、直径 2.8 m × 2.7 m、深さ 2.3 m を測る。井戸側は基本的に 10 ~ 30cm の円礫を小口積みしているが、所々にやや角のある石材を使用している。内径は上部で 1.2 m、下部で 1.0 m と上方に広がっており、高さは残りの良い箇所で 1.9 m を測る。

石積みの下部には部分的に面取りを施した直径約 15cm の胴木 4 本を方形に組んでいる。胴木の内法は一辺 0.85 m で、内側は 0.15 m 程度窪んでいる。

遺物は井戸側の埋土などから瓦質土器、火鉢、瀬戸美濃系陶器天目茶碗 (479)、軒丸瓦 (T13)、丸瓦、平瓦、鬼瓦、茶臼 (S31)

などが出土する。井戸側の石材が全体に詰まる状態であったが、焼土や炭が入り混じっていることや瓦が出土していることを根拠にすれば館廃絶期に機能していた井戸であると考えられる。

268 井戸 (図 74・75、図版 26・49)

調査区 2 の北部で検出した石組井戸で、西にある 259 堀とは約 25 m 間隔をあけて位置する。

井戸側を構築する掘形は、上面が擾乱されることから不整円形となっているが、元来は直径 3.4 m の円形プランに復元でき、深さは 1.85 m を測る。井戸側は掘形中央よりやや南寄りに築かれ、基本的に 10 ~ 30cm の円礫を小口積みしているが、所々にやや角のある石材を使用している。内

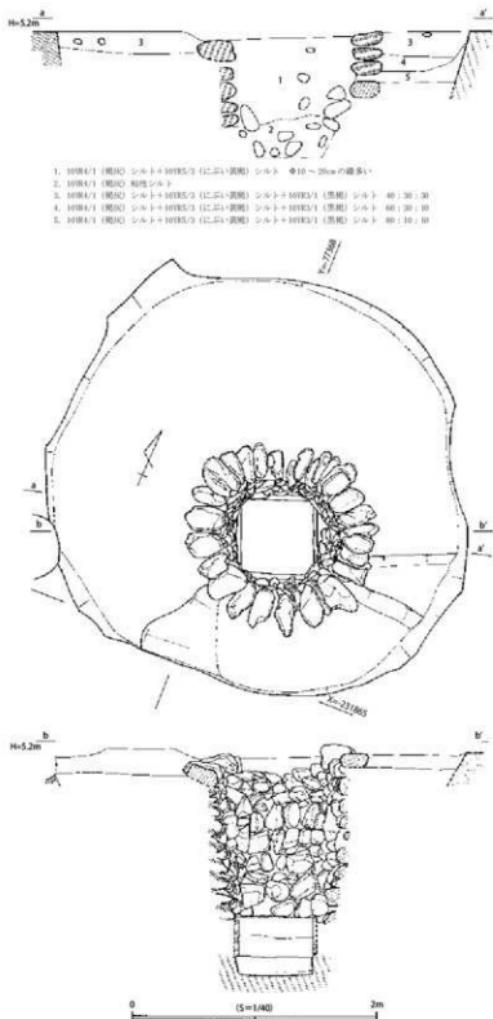


図 74 268 井戸

館高校（旧御坊商工）校舎建築に伴う発掘調査で確認している池に繋がることが予想でき、ほぼ湯川神社の社殿が建つ高台を巡っていたと考えられる。深さは一定でなく、1.4～2.5 mを測る。

遺物は001堀と接する底付近を中心に土師器皿（487～506）、瓦質土器火鉢（507）、瀬戸美濃系陶器天目茶碗・灰釉皿（508～516）・灰釉碗、備前焼擂鉢（517）・大甕（518～520）・水屋甕

径は上部で0.95 m、下部で0.7 mと上方に広がっており、高さは残りの良い箇所で1.4 mを測る。井戸側の規模に比して、堀形が大きいのが特徴で131井戸とは対照的である。

胴木ではなく、石積みの下部に幅30cm前後、厚さ4cm程度の板材を構成して方形枠を設けている。枠の内法は0.6 m四方で、枠内は0.15 m程度窪んでいた。

遺物は井戸側の埋土などから、土師器皿（480・481）、瓦質土器風炉（482）、備前焼擂鉢（483）・甕、常滑焼甕、中国製青磁碗（483～485）などが出土するが、量は少ない。

焼土が出土しないことや、259堀の虎口正面に位置することからも、最終段階には埋め戻されていたと考えられる。

3. 池

236池（図39・76～79・81・82、図版27・49～53）

調査区2の南部で、北肩の一部を検出した。258堀と重複し、それより新しい。また、001堀と繋がり、遺物内容からも同時期のものであると判断できる。検出した大きさは、長さ24.0 m、幅5.0 mであるが、南方・西方に拡がり現在の湯川神社の社殿前にある池や1977・78年度に行なわれた紀央

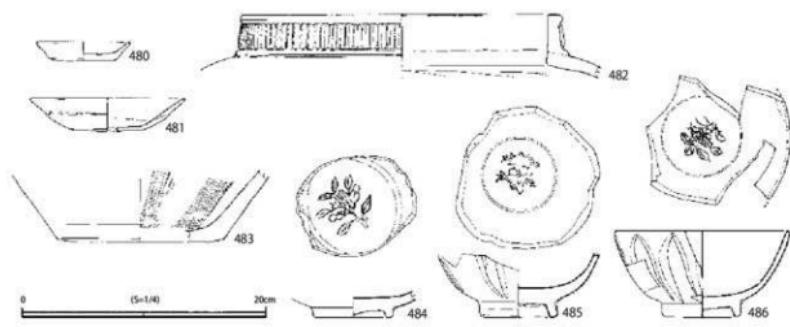


図 75 268 井戸 出土遺物

(521)、朝鮮製と考えられる焼締陶器小壺 (522)、中国製青磁碗 (523～525)・皿 (526)・香炉 (527)、中国製白磁碗・皿 (528～531)・聞香炉 (532)、中国製染付碗 (533～535)・皿 (536～539)・盤 (543～545)・杯 (540～542)などの土器類が出土している。このほか金属製品として刀子 (M 8)、石製品として硯 (S32)、砥石 (S33) がある。木製品としては漆椀 (W72)、箸 (W73・W74)、折敷 (W75・W76)、柄杓 (W77・W78)、曲物 (W79)、桶底 (W80)、アカトリ (W81)、下駄 (W82)、各種部材 (W83～W86)、不明木製品 (W87) ほか、建築部材 (W88・W89) などが多量に出土している。瓦では丸瓦や平瓦のほか雁振瓦 (T33) が出土している。木製品のなかには、W88などのように炭化したものが多く、館の焼失を物語るものである。

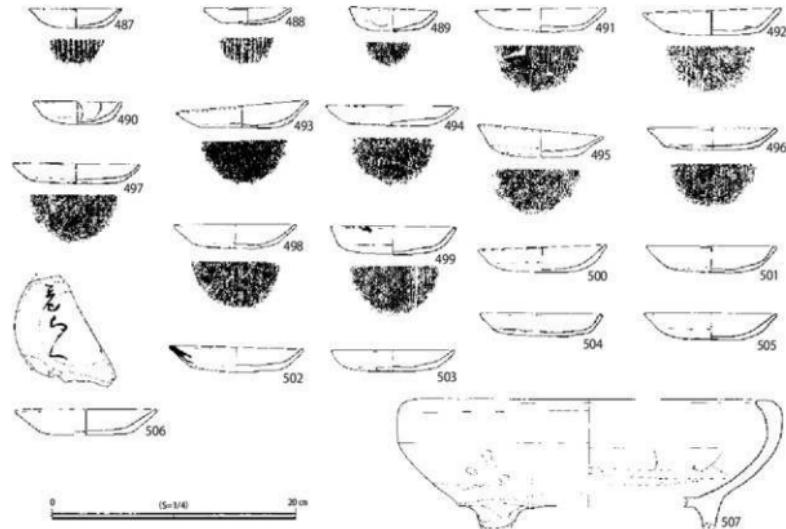


図 76 236 池 出土遺物 (1)

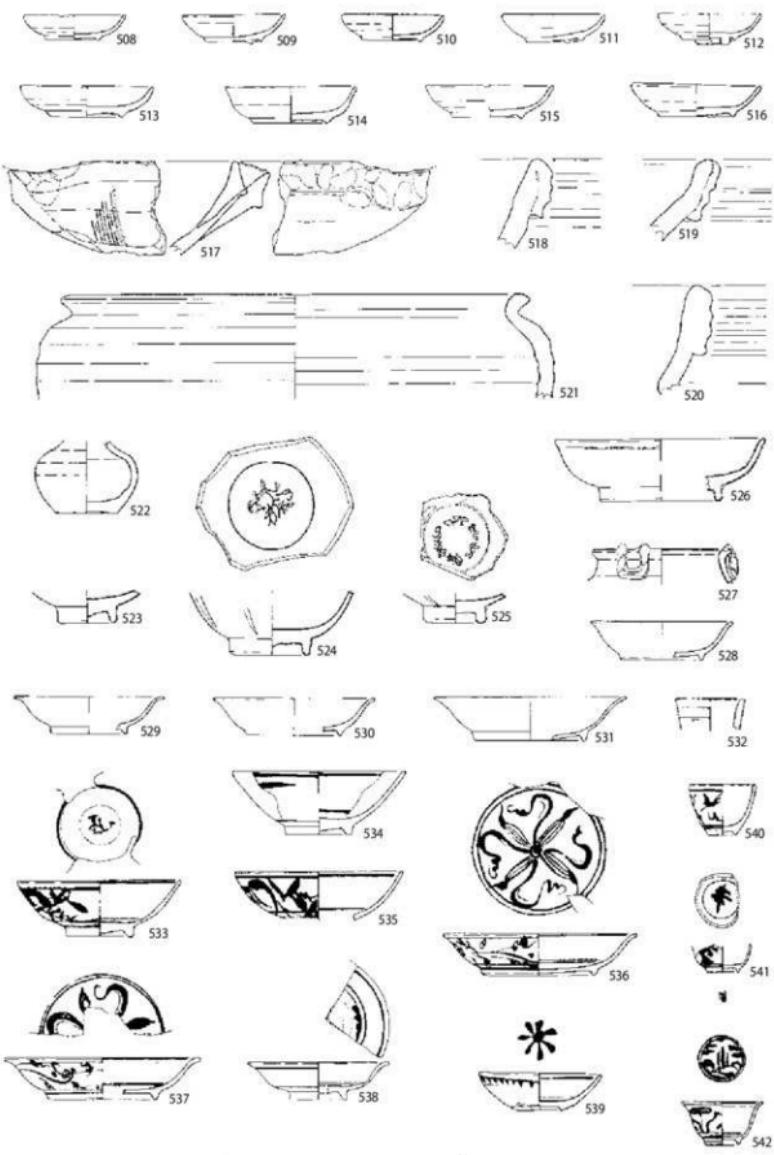


图 77 236 池 出土遗物 (2)

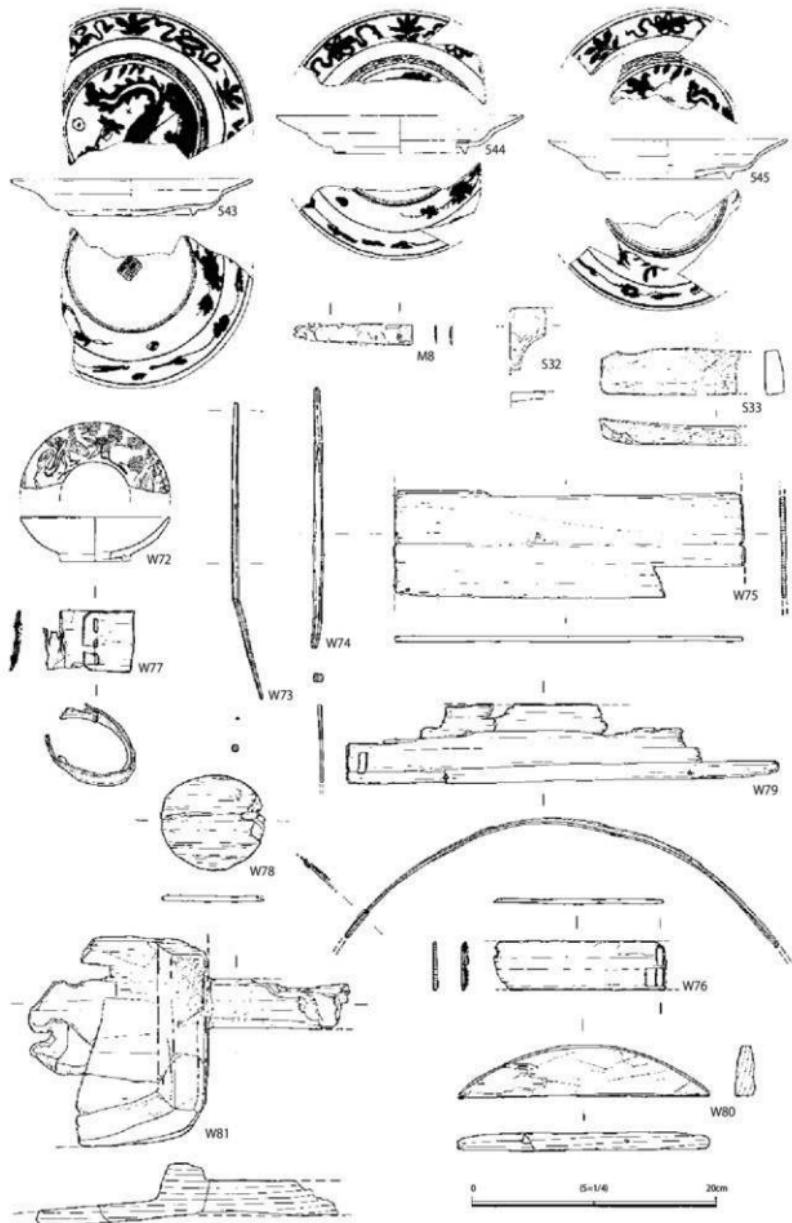


图 78 236 池 出土遗物 (3)

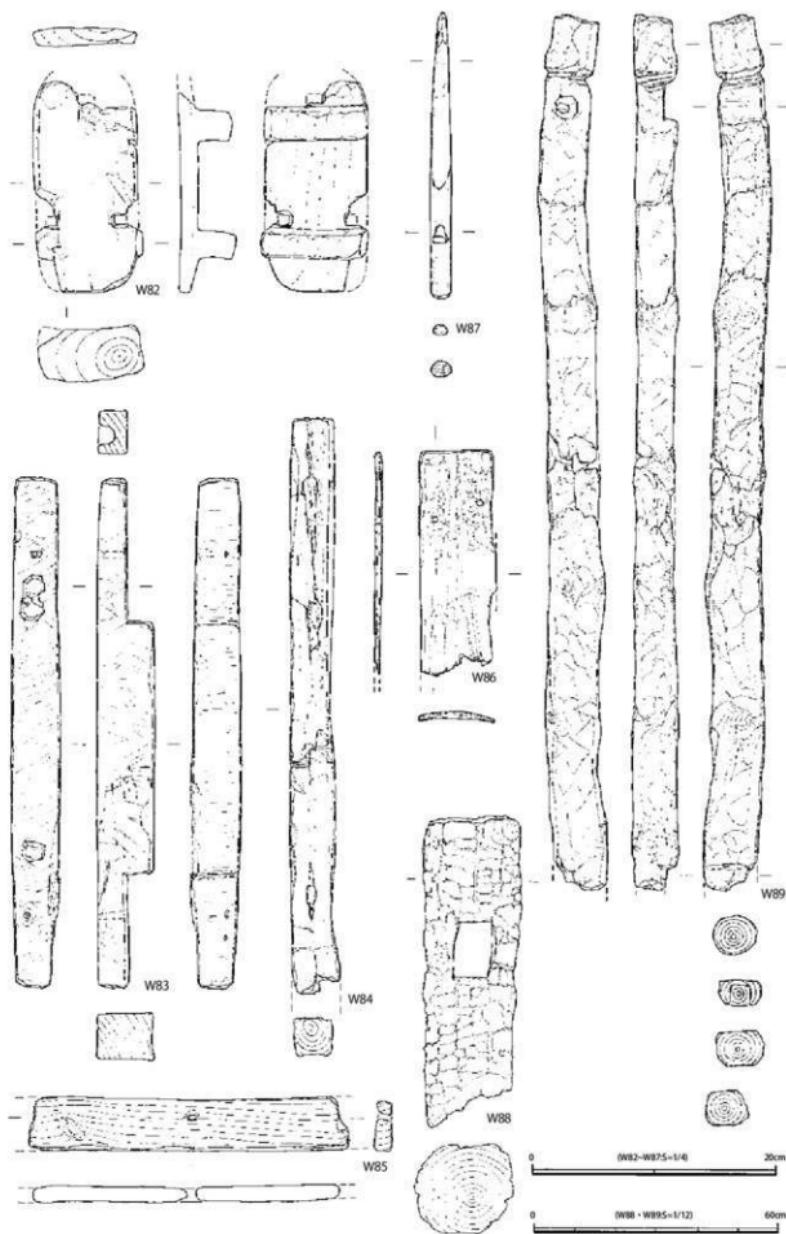


图 79 236 池 出土遗物 (4)

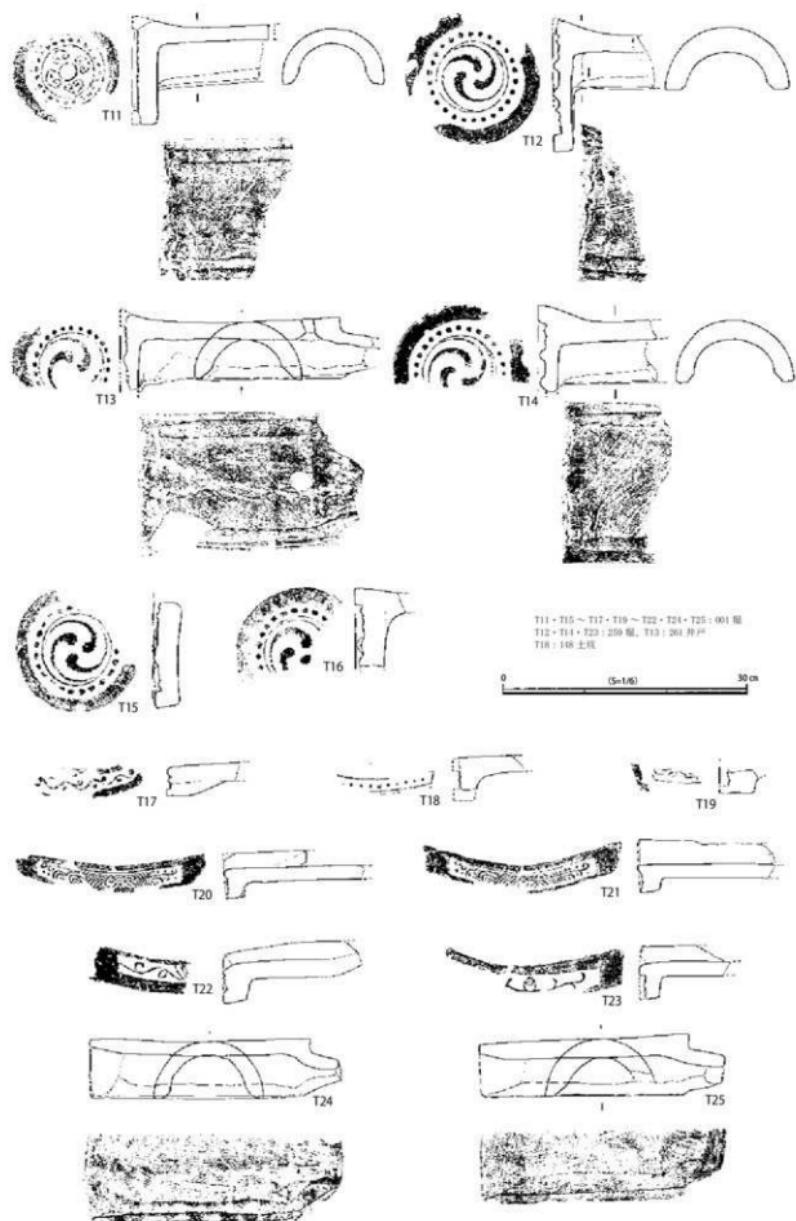


図 80 室町時代の瓦 (1)

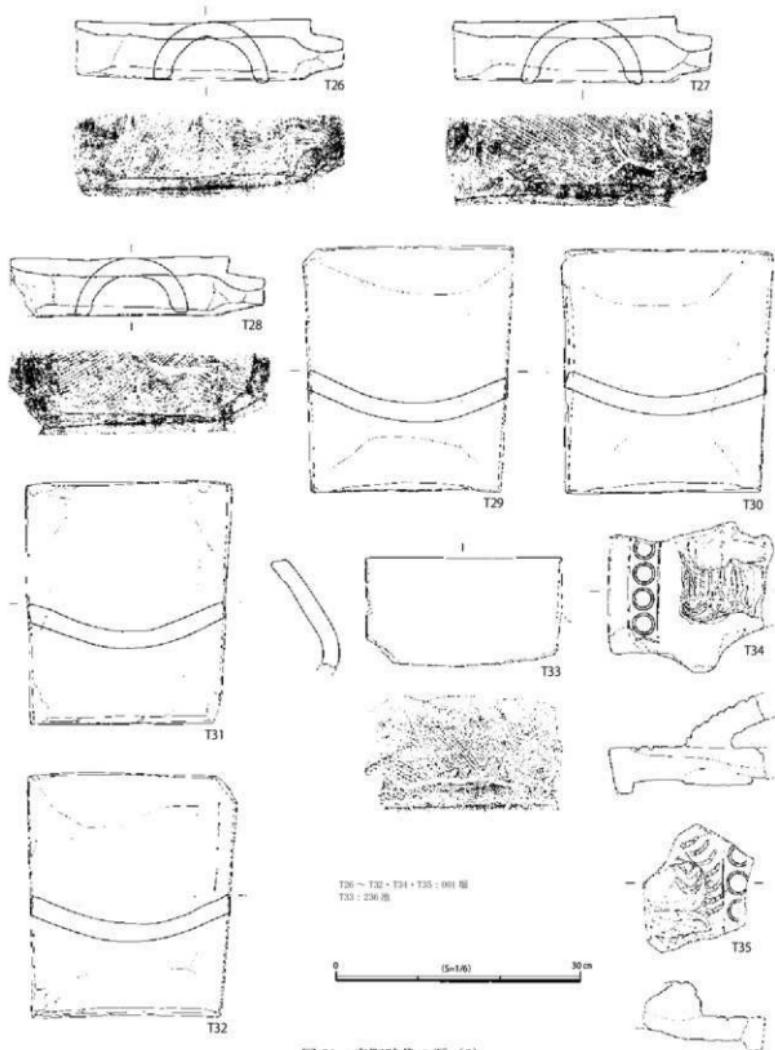


図 81 室町時代の瓦 (2)

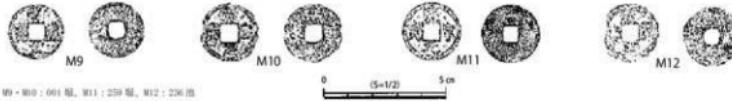


図 82 銭貨

第6章 近世の遺構と遺物 (図83・84、図版27・28)

調査区1と調査区2の西側部分で、江戸時代に掘削された大小多数の土坑を検出している。規模は1.0～7.0m、深さ0.1～1.0mと様々で、場所によっては、重複しないように土坑間に狭い掘り残しを意図的に設けている。また、同様な土坑が、紀央館高校の敷地でも多数みつかっている。このような掘削状況は、各地でみられる粘土採掘土坑と同様であることからも、これらの土坑群もすべてでないにしろ同じ性格を考えておきたい。埋土は、地山土などを含むブロックや礫などで埋め戻された状況を示す。

遺物はほとんど含まないものや、多量の弥生時代から室町時代の遺物が出土するものがあるが、それらの中に少量の近世陶磁器が含まれている。土坑の時期は、陶磁器の特徴から江戸時代の後期頃であると考えられる。

037 土坑

調査区1の西端で検出した土坑で、一部が調査区域外となる。形状は長梢円形を呈し、規模は長さ6.8m以上、幅2.4m、深さ0.65mを測る。断面形状は舟底状で、埋土からは弥生時代から室町時代にかけての土器類のほかに、近世の陶器などが出土している。

042 土坑 (図84、図版28)

調査区1の西端で検出した土坑で、梢円形を呈する。規模は長さ3.6m、幅2.5m、深さ0.55mで、断面形状は箱状である。埋土には弥生土器から室町時代の土器類を多量に含み、近世の遺物として染付(546)等が数点出土している。

057 土坑 (図84、図版28)

調査区1の西側で検出した土坑で、不整梢円形を呈する。規模は長さ2.3m、幅1.85m、深さ0.55mで、断面形状は舟底状を呈する。埋土には礫とともに弥生時代から室町時代にかけての土器類を大量に含み、近世の遺物として染付(547)等が数点出土している。

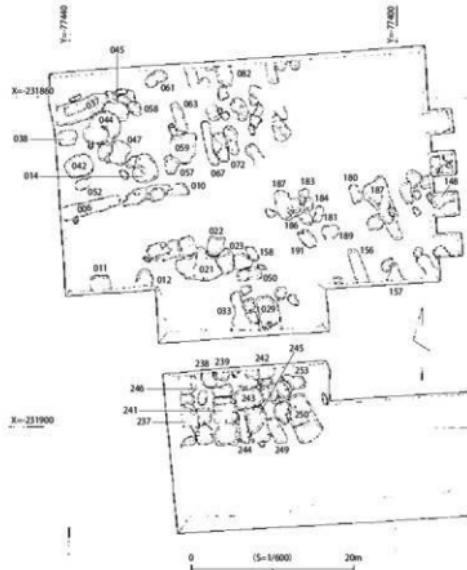


図83 近世の主要遺構

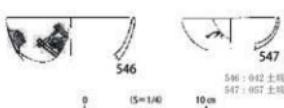


図84 近世の遺物

第6章 まとめ

第1節 弥生時代（図85・86）

弥生時代中期の竪穴建物は、5棟検出した。今回の調査区に北接し、1980年度に湯川中学校特別校舎改築工事に伴う発掘調査でも1棟検出されており、削平が著しいものの建物と判断できる218溝も建物とすると、近接して7棟の建物が存在したことになる。また、西隣の紀央館高校の敷地では、同時期の土坑や溝・土器棺墓などが見つかっている。これらの成果からも調査区1より北西側に集落が展開していたことが窺える。また、調査区2で検出した266・270溝が集落の内外を区画する溝とすれば、今回、集落の南東部の様子が明らかになったことになる。002竪穴建物と003竪穴建物は、接し過ぎることから同時併存は考えられず、003竪穴建物には2時期の壁溝が認められる。同様に1980年度検出の竪穴建物と004竪穴建物が同時併存しない距離にあり、前者には2時期の壁溝が認められることからも、大きく3時期を想定することができる。各建物の併存関係は明らかにできないが、少なくとも中期後半（畿内第4様式）を中心とした時期に集落の消長があると考えられる。

同時期の建物や方形周溝墓などは、西250mにある御坊駅周辺のほか、北東300mにある富安I遺跡でも見つかっている。御坊駅前では2棟の竪穴建物（図85のB・C）が検出されており、その南西側には幅3m前後の溝が弧状を描くように延びていることが既往の調査から窺うことができる。溝を挟んですぐ西側に方形周溝墓が2基存在し、南西側では竪穴建物は見つかっていない

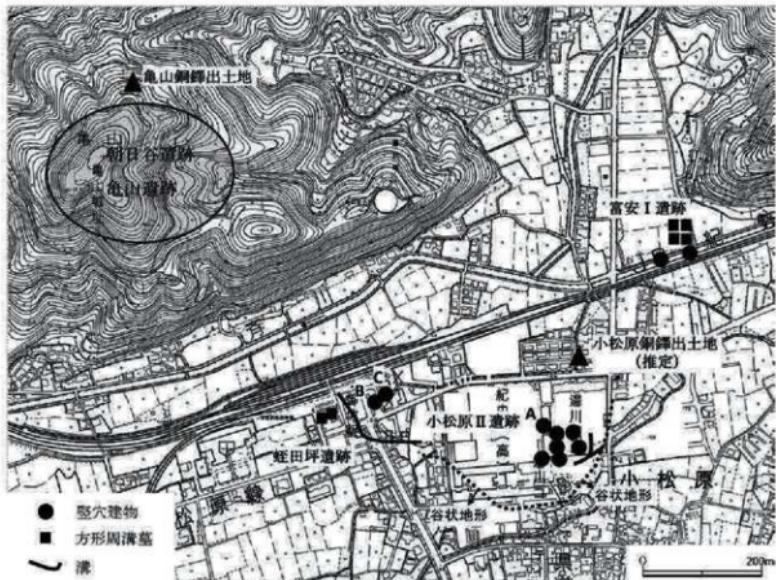


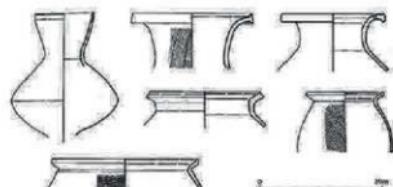
図85 弥生時代中期の小松原II遺跡周辺



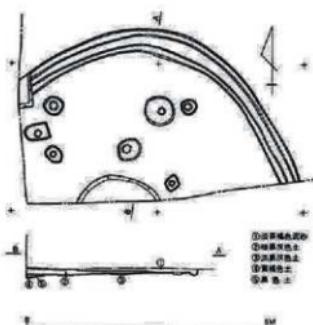
1980年度検出の堅穴建物出土遺物（未報告）



1989年度検出の堅穴建物出土遺物（未報告）



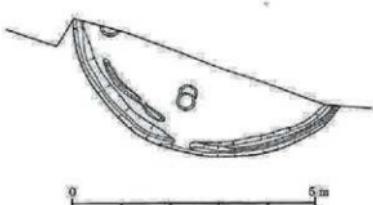
1995年度検出の堅穴建物出土遺物（未報告）



A. 1980年度検出の堅穴建物（表1の3）



B. 1989年度検出の堅穴建物（表2のG）



C. 1995年度検出の堅穴建物（表2のK）

図 86 小松原II遺跡検出の堅穴建物と出土遺物

い。これらのことから、弧状を描く溝は、集落の南西側を区画するもので、今回の調査で見つかった266・270溝に対応する可能性もある。また、集落の西に接しては、方形周溝墓などからなる墓域が存在したことも想定することができる。一方、富安Ⅰ遺跡との間には谷状地形が存在したと考えられ、同じ集落を構成していたか否かは判断し難いが、小松原Ⅱ遺跡周辺は多くの人々が集住する日高平野のなかでも拓けた地域であったことが想像できる。

弥生時代後期前半～中頃にかけて、小松原Ⅱ遺跡や富安Ⅰ遺跡では集落が途絶え、その後再び集落が営まれるのは後期後半～末頃になってからである。これと連動するように高地性集落である亀山遺跡や朝日谷遺跡が出現することからも、遺跡の関係が注目される。

第2節 古代（図87）

奈良時代の263溝から出土した軒丸瓦（T1）は、内区が複弁八葉蓮華文で外区外縁が線鋸歯文を配し、8世紀初頭とされる道成寺創建時のものと同形式である。以前より紀央館高校の改築に伴う調査などで古代に遡る平瓦の破片が多く出土しており、小松原Ⅱ遺跡付近に古代寺院が存在することは予想されていた。今回出土した瓦から、寺の創建が白鳳時代に遡ると判断できる。また、その寺は、日本最古の仏教説話集である「日本靈異記」に登場する「別寺」である可能性も考えられる。日本靈異記の内容から、奈良時代後半に別寺は僧坊を備え、単なるお堂ではなかったと考えられる。また、郡衙の近くにあったと解釈でき、薬師如来をまつる寺であったことも想像できる。

ところで、日高郡の郡衙は、日高振興局付近の堅田遺跡で見つかっている（図3）。規則正しく配列された大きな側柱の掘立柱建物や、正税などを蓄えたと考えられる倉跡も検出されている。ただ、堅田遺跡付近にあった郡衙の遺構は、奈良時代前半頃までのものであり、奈良時代後半以降は、他所に移っていることが出土した遺物から窺える。日高平野で、奈良時代の遺物が多く出土するのは、小松原Ⅱ遺跡のほか蛭田坪遺跡・富安Ⅰ遺跡・津井切遺跡で、すべて小松原Ⅱ遺跡に隣接する。小松原Ⅱ遺跡では、大きな掘形をもつ奈良時代の掘立柱建物とともに、硯なども見つかっている。これらのことから、日高郡の郡衙は奈良時代後半においては小松原Ⅱ遺跡周辺に移っていたと考えることができる。以上から、奈良時代後半に小松原Ⅱ遺跡付近に郡衙があり、その近くに別寺があった可能性がある。たいていの場合、郡衙に隣接して郡寺が存在する例も多いことから、別寺が郡寺であったと想像することも可能であろう。

さて、別寺については、これまで、日高地方には奈良時代に遡る寺院が道成寺以外に分かっていないことから、別寺が道成寺であるとの説もあったが、郡衙と道成寺の距離が遠いことになり、道成寺が千手観音を仏像とすることなどからも、道成寺を別寺とするには難があり、別寺はやはり小松原Ⅱ遺跡付近にあったと解釈する方が妥当であろう。



図87 道成寺創建期の瓦
(写真は小松原Ⅱ遺跡出土)

第3節 鎌倉時代

1. 浄土宗系寺院（図88・89）

鎌倉時代の遺構は井戸のみであるが、南東部の谷状遺構からは多くの瓦器や土師器、角塔婆（位牌）など鎌倉時代の遺物が出土している。これらは1990年度の紀央館高校の改築工事に伴う発掘調査で見つかった六字名号（南無阿弥陀仏）を書いた筆塔婆や角塔婆（位牌）、あるいは、「・無量寿命經」と書かれた経箱の蓋、文永五年（1268）銘の扇骨などと同じ13世紀中頃から後半代のものである。遺物内容から、湯川中学校から紀央館高校にかけて浄土宗（系）の寺が存在したことが窺え、浄土宗の布教が地方に早い段階で行なわれていたことが窺える。また、これまで出土した瓦の中には、鎌倉時代から南北朝時代の特徴をもつが出土しており、14世紀代まで寺が存在していた可能性がある。また、1995年度の調査で出土している「道徳禪門」「妙心禪尼」などの戒名を刻んだ鳥糞瓦や、今回の調査でしている板碑や五輪塔などもこのお寺に伴うものであったと考えられる。

有田川町の野田地区遺跡でも、13世紀代後半に帰属する多量の土器とともに仏教関係の遺物が出土している。筆塔婆・位牌など時期・内容とも小松原II遺跡と同じで共通性が窺え、野田地区遺跡の場合、同時期にあったとされる観音寺との関連が考えられている。ここでは、小松原II遺跡でも出土している宝相華文軒丸瓦（T11）と同形式のものが出土し、より強い繋がりが窺える。

天皇・公家・武家・僧など有力層の過去帳である「常楽記」では、康暦二年（1380）に小松原宿で亡くなった僧の妻室を九品寺に荼毘したとの記述がある。九品寺は現在も小松原にある寺で、古くは時宗であったものが慶長年間（1596～1643）に浄土宗になったとされる。宗派はともかくとして、小松原に九品寺があったことは間違いないことから、鎌倉時代から南北朝期にかけて、紀央館高校・湯川中学校付近にあった寺が九品寺であった可能性も考えておきたい。

2. 土器（表3）

260 谷状遺構からは、多くの瓦器・土師器が出土している。日高地方の鎌倉時代の土器編年を



図88 鎌倉時代の木製品
(1990年度・表1の12)



図89 戒名を刻んだ鳥糞瓦
(1995年度・表1の13)

表3 260谷状遺構出土器の組成・鎌倉時代

土師器		瓦器(瓦質土器)				東播系		青磁		青白磁		白磁	常滑	計
皿	釜	椀	皿	鉢	甕	鉢	碗	皿	杯	梅瓶	甕	甕	甕	
700	27	581	33	1	6	1	8	1	1	1	1	1	1	1361

語る場合、13世紀前半までは有田川町野田地区遺跡の資料を引用することができる。地域差が顕著になる13世紀半ば以降は、1990年の調査で紀年銘をもつ扇骨から絶対年代が明らかにされており、それらから260谷状遺構出土の土器群は13世紀中頃から後半にかけての土器群として抑えることができる。破片計算では瓦器と土師器の数は拮抗しており、瓦器が多いとされる他地域とはやや異なり、日高地方の特色として捉えることができる。

また、瓦器と土師器は形態・調整・技法が似通っており、明らかに両者の形態が違う有田地方などとは異なっている。瓦器椀には浅いものが多く、土師器皿に高台を付した器形を呈し、また、土師器皿・瓦器皿とも同形態である。しかも十分に焼されていない瓦器皿には、土師器皿と峻別できないようなものが存在し、土師器・瓦器が同じ人々（工人）によって製作されていることが窺える。

第4節 室町時代

1. 湯川氏について

湯川氏は、室町幕府の奉公衆で、戦国時代に日高地方を中心に有田・牟婁地方に影響を及ぼした。系図などでは甲斐武田氏を祖とし、鎌倉時代に熊野道湯川に居を構え、その後、功を立てて芳養内羽位に移り、そして日高地方に進出したとされる。江戸時代以降に書かれたものを根拠としていることからも、全てを肯定できないものの、その後も、道湯川と芳養は湯川氏の一族が拠点としていることからも一方的に否定できない。

湯川氏が歴史に登場するのは南北朝時代以降で、当初は北朝方につき、南朝方に移り、最終的には北朝方となり幕府との繋がりを強くする。系図では戦国時代の湯川当主として政春・直光・直春となっているが、政春と直光の間にはブランクがあり、光春を充てることもできる。光春は16世紀前半で文書の発給など活躍がみられるものの、系図から消された人物である。とにかく、湯川氏は戦国時代以降、歴史の表舞台に顕出するようになり、政春は連歌に通じ飯尾宗祇とも親交をもち、直光や直春は紀州勢を引き連れて河内へ出陣するなど文字通りの紀中・紀南の旗頭となるが、直光は河内教興寺で戦死する。また、直春は天正十三年（1585）の秀吉の紀州攻めで抵抗するが、最終的には紀州における実権を失うことになる。

2. 土器組成（図90、表4～6）

調査では、多量の室町時代の土器が出土している。当期の遺構以外にも、近世の土坑などからも混入遺物として多量に出土しており、総破片数は約10,000点となる。表4は遺構出土の遺物で、土師器の比率が非常に高い傾向にある。土師器では皿が大勢を占め、これらは證明皿や日常雑器としての用途が考えられるが、それらを考慮しても尚多い出土量と言える。これは、儀礼用として使用したからであると考えられ、全国の守護館や、それに準じるような館などでも同様に土器全体量に占める土師器皿が多い傾向にある。

図90は、湯川氏館跡をはじめ、各遺跡から出土した土器の組成である。一乗谷遺跡朝倉氏館（註1）とするのは、越前の戦国大名である朝倉氏領主館の組成で、湯川氏館と非常によく似た組成

表4 室町時代の遺構の土器組成

種類	土器						国産陶器									
	土器			瓦質土器			備前			常滑			瀬戸美濃			
器種	皿	土釜	焰焼	火鉢	甕	羽釜	火鉢・香炉	甕	壺	搖鉢	甕	皿	碗	天目	盤	香炉
破片点数	6401	88	19	4	44	11	30	228	26	47	6	67	7	16	9	1
占有率					6512			85		301	6				100	
	0.877					0.011				0.041	0.001					0.013

種類	輸入陶磁器								国産陶器							
	青磁				白磁				染付				褐釉			
器種	碗	皿	盤・盆	壺	青磁	碗	皿	杯	白磁	碗	皿	盤	杯	染付	褐釉	側面工房
破片点数	48	5	14	1	2	9	59	1	1	90	65	103	12	6	2	1
					70			70		270	6	2	1			合計 7423
占有率						0.009			0.009		0.036	0.001	0.000	0.000		

表5 236 池の土器組成

種類	土器						国産陶器									
	土器			瓦質土器			備前			常滑			瀬戸美濃			
器種	皿	土釜	焰焼	火鉢	甕	羽釜	火鉢・香炉	甕	壺	搖鉢	甕	皿	碗	天目	盤	香炉
破片点数	500	1	0	0	0	0	7	44	3	7	0	52	5	5	0	0
占有率		591			7			54		0		62				
	0.586				0.007			0.054		0.000		0.061				

種類	輸入陶磁器								国産陶器							
	青磁				白磁				染付				褐釉			
器種	碗	皿	盤・盆	壺	青磁	碗	皿	杯	白磁	碗	皿	盤	杯	染付	褐釉	側面工房
破片点数	5	0	0	0	1	4	36	0	1	81	54	101	11	0	1	0
					6		41			247			0	1	0	1009
占有率					0.006		0.041		0.000	0.245		0.000	0.001	0.000		

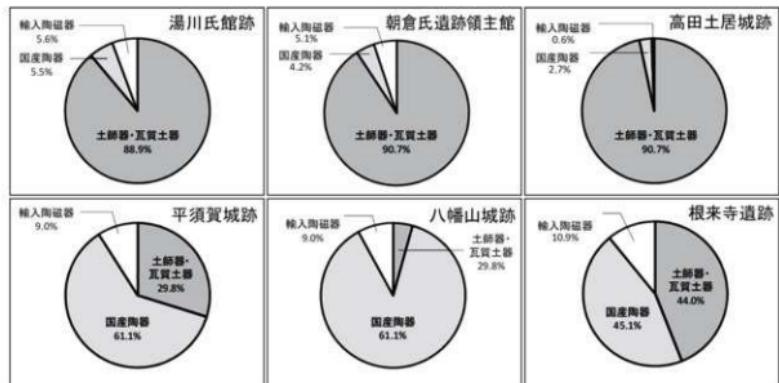


図90 各遺跡の土器組成

となっている。朝倉氏は幕府とは近い関係にあり、幕府の武家儀礼に則って式三献などを行った結果であると考えられている。一乗谷朝倉氏遺跡では、町屋や武家屋敷の土器組成も提示されているが、土師器皿の割合は多くない。

高田土居城跡（註2）はみなべ町にある方形居館で、紀伊國奥郡の守護所的な性格が考えられ、紀伊國守護であった畠山氏の影響下で、奥郡小守護代の中村氏や野辺氏が関わった城であると考えられる。ここでは輸入陶磁器や国産陶器などは極端に少なく、圧倒的に土師器皿が占め、やはり武家儀礼を行っていたと考えている。

表6 各遺跡の土器組成

	土師器・瓦質土器	国産陶器	輸入陶磁器
湯川氏館跡	6597	407	419
朝倉氏館跡(主殿)	3636	168	203
高田土居城跡	13039	369	77
平須賀城跡	1894	3884	574
八幡山城跡	141	2851	258
根米寺遺跡	8629	8841	2143

一谷朝倉氏遺跡領主館のみ個体換算数、他は破片点数

一方、周辺部のみなべ町平須賀城跡（註3）・白浜町八幡山城（註4）や岩出市根米寺遺跡（註5）の土器組成を見てみると、国産陶器の占める割合が多く、土師器皿は、半分にも満たない組成となっている。これらのことからも、湯川氏館の土器組成は、守護館などと同様に位置づけることができ、幕府との強い繋がりを考えることができる。

ところで、守護館などでは、儀式に京の皿に倣い京都系土師器と呼ばれる手捏ね成形の皿が使用されることが多く、和歌山県中・南部地域の中世遺跡でも少ないので出土する。今回の調査では、001堀の古い段階の埋土から出土がみられ、一様に金雲母が含まれ搬入品であることが窺える。ただ、16世紀後半で帰属すると考えられる236池や001堀に一括投棄された土師器皿のなかには、京都系土師器は含まれず、在地の皿で占められる。これらには、大・小のサイズはあるが、大で10～11cm前後、小で7cm前後とかなり小さく、形態も京都系土師器とは異なっている。

一方、高田土居城跡は15世紀から16世紀前半まで機能するが、京都系土師器は一定量あるものの、京都系土師器を模倣する在地土師器、通有の在地系土師器があり、儀式を京都系土師器のみで行っていないと考えられる。湯川氏館においても、早い段階では京都系土師器を含む土師器皿を用いて儀式をおこなうものの、16世紀後半に至っては、在地系土器のみで執り行つたと解釈することができる。

3. 湯川氏館とその周辺

湯川氏館は、小松原館とも呼ばれ、文献などでは小松原城の名前でも登場している。山城である亀山城とは対になり、戦いなど非常時に立て籠もるのが亀山城、日常的な生活をしていたのが湯川氏館である。また、館跡の南側には城下町が形成されており、小松原周辺に湯川氏の拠点が集中していたことになる。

湯川氏が、小松原に拠点を構えた大きな理由は、紀中・紀南地方では最大規模である日高平野の穀倉地帯を背後に、熊野街道と日高川渡河を控えた小松原宿を抑える位置にあることであろう。

亀山城跡 JR御坊駅の北側にある亀山（標高約122m）に築かれた山城で、山上からは、日高平野を一望でき、平野の向こうには太平洋を望むことができる。

城跡は、畑の開墾により一部破壊されているが、比較的良好に曲輪などが残存している。構造は、亀山の頂上部に大規模な土塁や高い切岸を巡らした2段からなる主郭部を置き、頂上部からひだ状に派生する幾つもの小尾根部や斜面地に、山を取り巻くように長く延びる曲輪を階段状に配している。その範囲は、玉置氏の居城である日高川町の手取城跡やみなべ町の平須賀城跡とともに県下最大規模と言える。また、周辺の山城では、曲輪を頂上と尾根筋を中心に線状に配し、尾根筋に大規模な堀切を用いて敵の進入を遮断するのを通例とするが、亀山城跡では小規模な堀切はあるものの、遮断は主に山腹に長く延びる曲輪に頼るものである。城の周囲は2km以上あるが、これは必然的に動員できる兵が多かったことの証左であり、湯川氏の家臣の多さ・兵力を物語るものと言える。

亀山城跡の周辺では、東側の尾根伝いにある標高83mの小ピークに出丸が築かれており、鳳生寺の裏山にも出城とされる富安城跡が、東側の八幡山にも八幡山城跡があり、これらが湯川氏の拠点を守る山城と理解することができる。

亀山城跡からは、これまで城に係る遺物が1点も採集されていない。発掘された日高地方以南の

山城では、日常雑器をはじめとする遺物が多く出土している。また、手取城跡や地域の拠点となる平須賀城跡、日置川流域の安宅八幡山城跡では、多種多様の日常雑器のほかに茶道具なども見つかっており、一時的に立て籠もるだけではなく、恒常に生活していたことが分かっている。また、前述した山城では、投弾として用意された多量の川原石が出土し、臨戦的な状況が窺えるものの、亀山城跡ではほとんど確認できない。城の性格上、少なからず兵は詰めていたと考えられ、最低限の日常雑器は使用していたと考えるが、亀山城跡から遺物が見つかっていないのは特異なことと言える。嚴重な構造であるものの、籠城はしておらず戦いの場とはなっていない可能性がある。

城下町 湯川氏館の南側にあった城下町は、館以前からのあった熊野街道の宿場町でもあり、おおよそ現在の小松原集落の範囲に相当することが、館廃絶から間もない慶長六年（1601）の検地帳からも窺うことができる。城下には東道・堅道・東道と南北に延びる3本の道路があり、こうち東道が熊野街道とされている。ただ、現在も残る地割が城下町当時のものとすると、湯川氏館南辺中央を付近に取りつく堅道を中心町割りがなされていることが窺え、城下町があった時



図91 湯川氏館とその周辺

代には堅道が熊野街道であった可能性が考えられる。また、城下の区画は比較的小規模なものであり、直属の家臣が居住したとは考えられず、城下は町屋的な空間であったと思われる。湯川氏の家臣は、紀中・紀南の海岸沿いを拠点として、領域ごとに城・館を構えていることからも、城下町に屋敷を持たなかったと想像することもできる。

城下町の南側には川原畠畠の地名が残り、それより南側には田の畠畠から河川の痕跡を読み取ることができる。またその南には島の地名も残り、日高川の三角州が存在したことが窺える。

これらのことからも、城下の南側には、日高川から派生する河川があり、湊があったと想定することも可能である。

4. 湯川氏館の規模

既往の調査では、各所で館を区画すると考えられる堀が検出されているが、これらは同時期のものではなく、何時期かあったことが想定できる。館は最終段階で火災に遭っていることが窺え、埋土に焼土や瓦・焼けた建築部材などを含むものが最終段階の遺構とができる。その解釈から、これまで西限と北限の堀、内部を区画する堀など明らかになっており、今回の調査で東限を区画すると考えられる259堀が検出されたことで、館の規模がほぼ想定できるようになった。西限の堀は二重になっており、内堀と外堀の間に土塁も存在する。内堀は幅約15.0mで、深

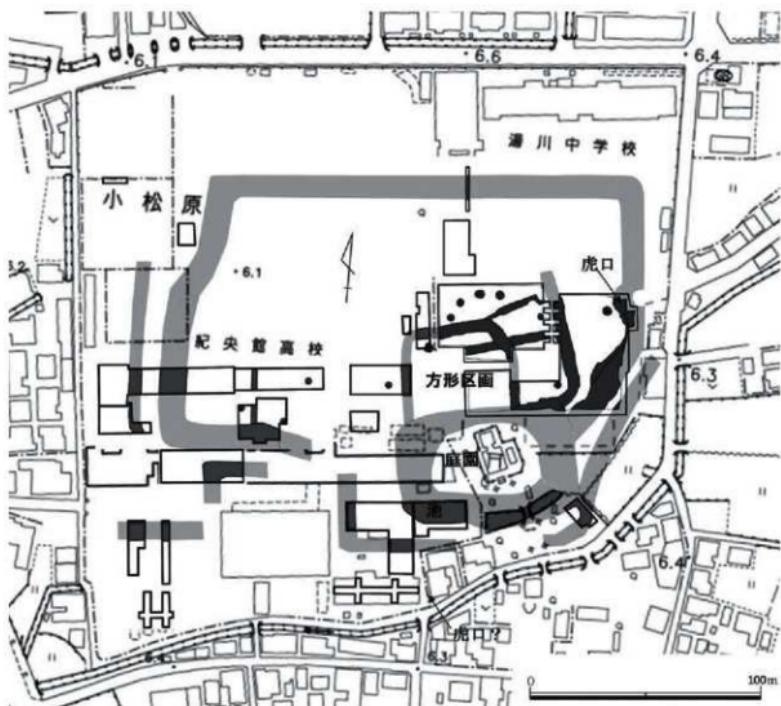


図92 湯川氏館推定復元図

さ 2.7 m、外堀は幅 6.0 ~ 7.0 m、深さ 2.6 m を測り、外側に柵列を設けている。北限の堀は幅約 11.0 m、深さ 1.6 m で、南限は現在も館の南を東西に流れる用水路（財部川）付近であったと考えられ、おおよそ東西約 225 m、南北約 200 m の規模をもつ方形居館であると推定できる。これは、周防にある大内館など各地の守護館に匹敵するか、凌駕する規模をもつ。小松原城の名でも記されていることからも、最終段階は平城に近い内容・構造であった可能性が高い。先にも記したように亀山城跡に生活の痕跡がないのは、湯川氏館がかなり防御に優れたものであったことを裏付けるものと言えるかもしれない。

5. 庭園と方形区画

湯川中学校の南隣にある湯川神社は館の庭園の名残で、神社前に残る池は、社地（築山）を巡るように存在したことが、これまでの発掘調査から窺うことができ、今回の調査でもその一部の 236 池を検出した。湯川神社には樹齢 1000 年とされるクスノキもあり、庭園の木であった可能性も考えられる。湯川氏は室町幕府の奉公衆を勤め、館の構造も幕府の室町第同様の方形居館となるが、これらを意識した守護館では庭園を館の南東部に築くことが多く、湯川氏館でも、まさにその場所に庭園が位置していることになる。

001 堀の続きは、紀央館高校の敷地内の 3 箇所の調査区で確認されており、池の北側にある東西約 40 m × 南北約 30 m の方形区画を巡っていたと考えられる。

守護館では庭園に面して会所があり、それに接して主殿が設けられ、武家儀礼が行われたことが知られている。主殿ではカワラケ（土師器皿）などを多量に用いる式三献が、会所は接客空間で饗宴が行われ、そこでは威信財といえる高級な中国製陶磁器などが多用された。

001 堀から出土する遺物を地点別に概観すると、北側部分では土師器皿が多量に出土し、中国製陶磁器が少ないのに比して、南側部分やそれと接する 236 池では土師器皿が少なく、逆に中国製陶磁器が多い傾向にある（表 5）。また、これらの中国製陶磁器には染付盤や碗・皿、瀬戸美濃系陶器皿がセットで出土するのをはじめ青磁や白磁の香炉なども出土している。

北側部分の土師器皿の出土状況を縦密にみると、堀の北側から投棄された状態で出土しており、土器には完形品が多い特徴がある。これらの土師器皿と同じものが、001 堀の北側に接する 008 井戸や、その周辺の近世土坑の混入遺物として多量に出土しており、001 堀の北側に異常に土師器皿の出土が多い空間が存在することになる。これらの事から、土師器皿を一度だけ使用して廃棄する、多量の土師器皿を必要とする儀礼を行う主殿が 001 堀の北側に存在したことが想像できる。ただ、儀式に用いる土師器皿には京都系土師器が用いられることが多いが、湯川氏館では在地型の土師器皿が用いられていることになり、このことについては検討課題である。

一方、方形区画内の南側では、威信財と言える陶磁器が出土し、またそれらがセットで出土していることからも、饗宴などが行われた会所が存在したと考えることができる。また、001 堀からは多量の瓦が出土するが、それらは区画内から流れ込むような状況を示すからも、少なくとも最終段階の会所は瓦葺であったと想定することもできる。

6. 虎口

259 堀は調査区北東付近で直線的に延びず、内側に湾入させるなど所謂「横矢掛かり」の構造をもっている。湾入部には橋脚が存在することからも、この箇所に館への虎口（入口）があり橋

が架けられていたことが窺える。地籍図ではこの虎口付近から西に向かい 001 堀の外を巡るよう里道があったことが窺える。里道は、調査でも検出しているが、館の導線がそのまま踏襲されていた可能性がある。

館の大手に相当する虎口は、南側の城下町中央の堅道が突き当たる付近にあったと想定することができる。館の構造を考えると、西側に二重の堀を掘削し、その堀の規模が最も大きいことからも、西側の防御が厳重になっていることがわかる。これは敵が攻めてくる方向を西側と想定し、西方を防御正面としているからであると考えられる。このことからも、東側にある虎口（入口）は退却も考えての搦手的な役割をもっていると考えることができる。なお、亀山城跡の登り口は、東側にあったことが窺え、湯川氏館から北に向かっては馬場があったとの言い伝えも残るように、東側の虎口から北に向かい亀山城へ詰めることを想定していた可能性がある。

7. 館の消長

湯川氏館は、16世紀中頃に亀山城が寒風の時期には住みにくいとの理由で亀山の麓に築かれたとの伝承も残るが、亀山城では生活の痕跡がないことや、館で16世紀中頃以前の遺物も出土することからも事実とは異なることが明らかである。

先にも記したように、館の位置には少なくとも鎌倉時代から南北朝時代に浄土系の寺院が存在したことが窺える。遺跡から出土する瓦は、鎌倉時代から南北朝期のものと16世紀のものとに2分することができ、前者がお寺に係る瓦であると判断できる

また、中世の土器類をみると、13世紀中頃～16世紀末頃のものがあり、17世紀の遺物は皆無と言つて良い。室町時代に限ると最も多いのが16世紀代で、15世紀代の遺物はやや少ない傾向にある。

幕府での地位を得た14世紀中頃が湯川氏館を築く契機であると考えられるが、瓦や寺の存在を考えると14世紀後半以降であることになる。少なくとも、寺のあとに館が築かれた可能性が高い。

既往の調査で検出した遺構は、最終段階のもの以外は時期決定が難しい状況にあるが、2013年の調査で検出した堀や井戸の時期は、大きくⅠ～Ⅲの3時期に分けることができる。

最も古いⅠ期の構造としては、017堀・258堀・070井戸があり、出土遺物からこれらは15世紀後半から16世紀初め頃に埋め戻されたと考えられる。258堀は館の南東部を画する堀で、017堀はその内

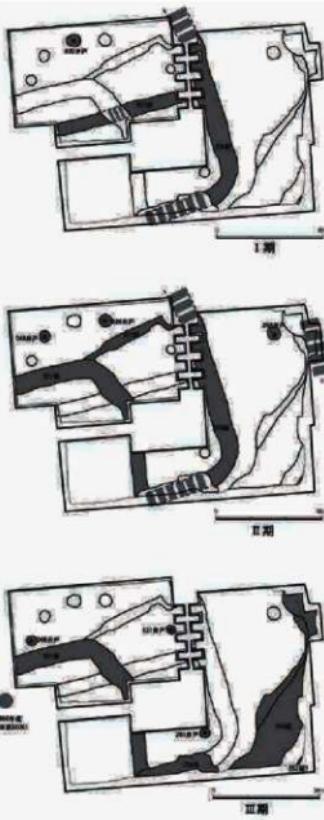


図 93 湯川氏館推定変遷図

部を区画するものであった可能性がある。017 堀と 258 堀は新旧関係が認められ、出土遺物も 017 堀の方が古く位置づけられるものの、017 堀が 258 堀と軸方位を同じくし、258 堀より東に伸びないこと、また 258 堀に再掘削が認められ、新旧 2 時期あることからも同時併存した時期があったと判断した。この時期の遺構の埋土には、焼土や瓦は含まれていない。

II 期の遺構には、001 堀（古）・027 堀・258 堀（新）・026 井戸・048 井戸・268 井戸ある。出土遺物から 16 世紀後半頃に埋め戻されたと考えられる。001 堀は再掘削を行っており、新旧 2 時期ある。この時期の遺構埋土からは、瓦の細片がわずかに出土するものの焼土は含まれていない。また、258 堀の東側に 268 井戸が存在することからも、258 堀が館の東側を区画する堀ではなく、更に東側に館の内外を区画する堀が存在した可能性は十分考えられるものの、調査では明らかにできなかった。

III 期の遺構には 001 堀（新）・259 堀、008 井戸・131 井戸・261 井戸・236 池があり、これらには焼土や焼けた瓦・建築部材が含まれている。これは天正十三（1585）年の羽柴秀吉の紀州攻めの折の火災に遭った遺構であると捉えることができ、館最終段階のものと判断できる。

瓦の出土は、基本的に III 期の遺構に限られ、I・II 期には瓦葺の建物はなかったと捉えることができる。全国各地の護謨館は、幕府の室町第に倣い檜皮葺であることからも、湯川氏館でも当初は瓦葺を採用せず、III 期になってはじめて瓦葺の建物を建てたと考えることができる。III 期の初めは、II 期の遺構に 16 世紀後半代の遺物が含まれることからも、おおよそ天正期であると考えられ、改修は池や大規模な堀の掘削など大掛かりな土木工事であったことが窺える。1986 年度の調査では、天正四年（1576）銘の平瓦が出土しているように、この時期に改修があったと想定することもできる。天正四年は織田信長が安土城を築城する年であり、湯川氏も幕府から決別したこと、檜皮葺をやめて瓦葺を採用した可能性がある。

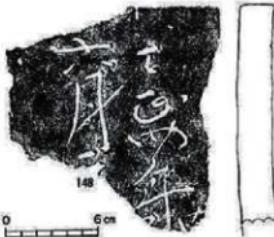


図 94 「天正四年」銘の平瓦
(1986 年度・表 1 の 9)

註

- 註 1 宇野隆夫 1997「中世食器様式の意味するもの」『国立歴史民俗博物館』第 71 集国立歴史民俗博物館に掲載された表から作成。
註 2 川崎雅史 2006「高田土居城跡・徳藏地区遺跡」「高田土居城・徳藏地区道路・大塚遺跡」財团法人和歌山県文化財センター
註 3 川崎雅史 2004「平須賀城跡の土器組成」「和歌山城郭研究」第 3 号 和歌山城郭調査研究会
註 4 川崎雅史 2005「八幡山城跡」日置川町教育委員会
註 5 岩出市根来寺遺跡 NG80 地区（谷テラス、13 世紀末～16 世紀中期）の土器組成。（上田秀夫 1984「根来寺坊院跡における陶磁器の組成と機能分担」「貿易陶磁研究」No.4）を原典とした（宇野隆夫 1997「中世食器様式の意味するもの」『国立歴史民俗博物館』第 71 集国立歴史民俗博物館）に掲載された表から作成。

参考文献

- ・小野正敏 2003「威信財としての貿易陶磁と場」「戦国時代の考古学」萩原三雄・小野正敏編 高志書院
- ・服部実喜 2003「かわらけ」「戦国時代の考古学」萩原三雄・小野正敏編 高志書院
- ・音原正明 2012「第 3 章 道成寺の歴史」「道成寺調査報告書」和歌山県教育委員会
- ・1985「和歌山県」角川日本地名大辞典 30 角川書店
- ・渋谷高秀・川崎雅史 1996「集落形成にみる中世から近世への転換」「関西近世考古学研究 4」関西近世考古学研究会
- ・1981「御坊市史」第三巻史料編 I 御坊市
- ・新谷和之 2015「奉公衆湯河氏の本拠の景観－小松原館周辺の空間構造－」「和歌山地方紙研究 第 67 号」和歌山地方史研究会

遺物観察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・は「面」を省略している。色調は土色粘土基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	器種・器皿番号	種類	調査する地区	調査する位置	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
					口径 cm	底径 cm					
1 国10 国29	弥生土器 広口壺	I E921	002	(24.0) 以上	-	-	口縁部は外反・端部は下方に弧垂・ 外方に施 縫部に3条の凹縫文	内・外: 白 内: 黄白	1mm以下の灰・褐色粘土を多 く含む	反転復元	
2 国10 国29	弥生土器 高杯	I E921	002	(21.4) 以上	-	-	口縁部は外反して上方に伸びる・ 縫部は上方に施 縫部に2条の凹縫文	内・外: 棱 内: 黄白	3~10mmの大手色化粘土を少 量、1mm以下の灰・褐色粘 土を多く含む	反転復元	
3 国10 国29	弥生土器 高杯	I E921	002	-	4.2 以上	10.8 以上	縫部は「の字」間に開く・縫部を上下 にわざかに拡張 内穴不規則に8 箇所	内: 外: にい・黄 内: 黄白・灰	10mm以下の赤色化粘土を少 量、2mm以下の灰・白色粘 土を多く含む	反転復元	
4 国10 国29	弥生土器 E921	I	002	-	4.8 以上	9.0 以上	底部 25%	黒斑あり	内: 棱 内: にい・白・黄 内: 黄白・灰	1mm以下の灰・白色粘土を多 く含む	反転復元
5 国10 国29	弥生土器 脚台	I E921	002	-	6.9 以上	(11.8) 以上	縫部はほぼ直立する・縫部は下方 に施 縫部に2条の凹縫文で3箇所 の凹縫文、中位にV字形形成	内: 黄白 内: 黄白・浅黄 内: 浅黄	7mmの大手色化1個、2mm以 下の灰・褐色粘土を多く含む	反転復元	
6 国12 国29	弥生土器 広口壺	I E9621	003	21.4 以上	-	-	口縁部 70%	内: 黄・灰オリーブ 内: 黄・棕 内: 黄	5mm以下の赤色化粘土を少 量、1mm以下の灰色粘土を多 く含む	一部粘土化	
7 国12 国29	弥生土器 広口壺	I E921	003	(22.8) 以上	-	-	口縁部はよく外反・端部は下垂 外縫部上に4条の凹縫文に4箇所 の凹縫文	内: 棱・灰 内: 黄	2mm以下の灰・白・灰・黑色粘 土を多く含む	反転復元	
8 国12 国29	弥生土器 広口壺	I E9 E921	003d	(22.4) 以上	-	-	口縁部はよく外反し・縫部を垂下 外縫部に3条の凹縫文	内: にい・黄 内: 浅黄粘土・相 内: 浅黄	内: にい・黄 内: 浅黄粘土・相 内: 浅黄	反転復元	
9 国12 国29	弥生土器 広口壺	I E921	003	(13.0) 以上	-	-	口縁部は強く外反し・縫部を下垂 外縫部に3条の凹縫文	内: 外筋・灰白・浅黄粘 内: にい・黄	2mm以下の灰色粘土・赤色化 粘土・石英が多く含む	反転復元	
10 国12 国29	弥生土器 段状口縫部	I E921	003	(16.2) 以上	8.1 以上	-	口縁部 50%	内: 棱・灰白・相 内: 棱	3mm以下の灰・白・黑色粘 土を多く含む	反転復元	
11 国12 手付壺	弥生土器 手付壺	I E921	003	21.3 以上	-	5.5 以上	把手部 100%	内: 淡黄粘 内: 浅黄 内: にい・白	1mm以下の灰・白色粘土を多 く含む	反転復元	
12 国12 国29	弥生土器 手付壺	I E921	003	-	5.9 以上	-	把手部 100%	内: にい・黄 内: 棱 内: 黄白	4mmの大手色化粘土 3mm以 下の灰・白色粘土を多く含む	反転復元	
13 国12 国29	弥生土器 甕	I E9 E921	003e E9	(33.4) 以上	-	5.8 以上	口縁部 10%	内: 浅黄粘 内: 淡黄粘	2mm以下の灰色粘土・赤色化 粘土を多く含む	反転復元	
14 国12 国29	弥生土器 甕	I E921	003	(18.4) 以上	-	8.1 以上	口縁部はよく外反・縫部は下垂 外方に施	内: にい・灰 内: 黄白 内: にい・黄	2mm以下の灰・黑色粘土を多 く含む	反転復元	
15 国12 国29	弥生土器 上刷	I E921	003b 上刷	(23.6) 以上	5.7 以上	-	口縁部 10%	内: 棱 内: 体部外側前方に施行するタキ 内: にい・白	8mmの大手色化粘土1個、4 mm以下の灰・白色粘土を多 く含む	反転復元	
16 国12 国29	弥生土器 底	I E921	003	(19.4) 以上	-	4.7 以上	口縁部はよく外反・縫部は大きく 内立立ちする・縫部は上方に施 縫部下に1条・縫部曲面に3条 の凹縫文	内: にい・黄 内: 棱 内: 黄白	1mm以下の灰・白色粘土を多 く含む	反転復元	
17 国12 国29	弥生土器 甕	I E921	003	(16.4) 以上	5.2 以上	-	口縁部 25%	内: 棱 内: 浅黄 内: 黄白	2mm以下の灰・白・黑色粘土を多 く含む	反転復元	
18 国12 国29	弥生土器 I E9	003a	-	4.3 以上	6.2 以上	-	底部 100%	内: にい・灰 内: 黄白 内: にい・黄	2mm以下の灰・黑色粘土を多く含 む	一部転写	
19 国12 国29	弥生土器 底	I E921	003	7.6 以上	5.4 以上	-	底部 100%	内: 外筋・白・浅黄粘	3.5mmの大手色化粘土、2mm以 下の灰・白色粘・赤色化粘 土を多く含む	一部粘土化	
20 国12 国29	弥生土器 底	I E921	003	-	3.5 以上	3.8 以上	底部 100%	内: 棱 内: 淡黄粘 内: にい・黄	1mm以下の灰・白色粘土を多く含 む	一部転写	
21 国12 国29	弥生土器 底	I E921	003	-	5.0 以上	4.6 以上	底部 100%	黒斑あり	内: にい・白 内: にい・黄 内: にい・黄	1mm以下の灰・白色粘土を多 く含む	一部転写
22 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	003b 上刷	(25.6) 以上	3.2 以上	-	口縁部は横方向に開く・縫部は下 方に垂下	内: 棱 内: 黄白	3mm以下の右肩1個、2mm以 下の白・黄・白・灰色粘土を多 く含む	反転復元	
23 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	003	16.4 以上	-	12.0 以上	縫部 95%	内: 黄白 内: 黄白 内: 明灰 内: 黄白	2mm以下の灰・白・黑色粘化 粘土を多く含む	一部粘土化	
24 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	003	-	5.1 以上	7.8 以上	縫部 80%	内: 黄白 内: 黄白 内: 黄白	1mm以下の灰・白・白色粘土を多 く含む	一部転写	
25 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	003	-	15.1 以上	8.8 以上	縫部 95%	内: 黄白 内: 浅黄粘 内: にい・白	1mm以下の灰・白・黑色粘・赤 色化粘土を多く含む	一部転写	
26 国12 国29	弥生土器 段状口縫部	I E921	172	10.0 以上	-	-	口縁部はよく外反・屈曲して斜め 内立立ちながら、縫部は下方に施 縫部に4条の凹縫文、縫部に1条の 凹縫文 縫部に(縫) 刺突文	内: 黄白 内: 浅黄粘 内: にい・白	2mm以下の白・黄・白・灰色粘土を多 く含む	反転復元 0.039m六建 物内柱穴	
27 国12 国29	弥生土器 直口壺	I E921	159	-	14.7 以上	14.6 以上	縫部 80%	内: 棱 内: 黄白 内: 黄白	3mm以下の灰・白・黑色粘・赤 色化粘土を少し、1mm以下の灰色 粘土・赤色化粘土を多く含む	一部転写 0.039m六建 物内柱穴	
28 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	159	-	12.4 以上	11.4 以上	縫部 70%	内: 棱 内: 黄白 内: 黄白	3mm以下の灰・白・黑色粘土を多く含 む	一部転写 0.039m六建 物内柱穴	
29 国12 国29	弥生土器 高杯	I E921	159	-	12.4 以上	11.4 以上	縫部 70%	内: 棱 内: 黄白 内: 黄白	2mm以下の灰・白色粘土を多く含 む	一部転写 0.039m六建 物内柱穴	

遺物觀察表(上器類)

法量の()内は復元した大きさ 色調の内・外・顔は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	図版番号	種類	調査区分	横幅	厚さ	底径	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考
30 国12 国29	歩生土器 高杯	I	E9621	159	—	9.8 以上	12.6	断面 100%	脚部は円錐状で中空。底部はハーフドーム状で内側に凹字が付いた細い縦腹線。底部に凹穴5箇所	内:灰・白・淡黄褐色 外:灰・白・淡黄褐色 顔:灰白	2mm以下の灰色粘を多く含む 0.03%穴付建物内E7c	一部剥離
31 国12 国29	歩生土器 高杯	I	E9621	159	—	8.1 以上	11.8	断面 90%	ハーフドーム状の字型を聞く。底部は上方に弧状突出。外方に斜面	内:白・灰 外:白・灰 顔:灰	2mm以下の灰色粘を多く含む 0.03%穴付建物内E7c	一部剥離
32 国14 国29	歩生土器 竹筒杯	I	E9620	036	(22.0)	12.5 以上	—	断面 50%	体部から脚部にかけて斜面して立ちあがる。端部は上方に斜面。底部は斜面付近に丸みをもつて脚部と接続。底部の把手は圓錐形で凹字がある	内:淡黄褐色・浅黃褐色 外:白・灰 顔:オリーブ緑	1mm以下の石英・灰・黒色粘を多く含む 反転形元土器柄部・把手は打ちにくく	反転形元土器柄部・把手は打ちにくく
33 国14 国29	歩生土器 高杯	I	E9620	036	(14.7)	(25.0)	6.5	70%	C字型の字型を聞く。内側に横突起で間に開く。底部は上方に斜面。底部外方に突出し上げて底。底部体部平行タキシ	内:灰・白・黄褐色 外:灰・白・黄褐色 顔:灰	2mm以下の灰・白・褐色粘を中量含む 下第一段反転形元土器柄	上部反転・下第一段反転形元土器柄
34 国14 国29	歩生土器 高杯	I	E9620	036	—	11.7 以上	(6.7)	60%	脚部は中空。底部はハーフドーム状で内側に凹字がある。底部外方に斜面。底部外方に突出し上げて底。底部体部平行タキシ	内:白・灰 外:白・灰 顔:灰	2mm以下の白・白・灰色粘を多く含む 反転形元	一部剥離
35 国16 国29	歩生土器 広口壺	I	E9615	004	(23.8)	12.7	—	口縁部 33%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は5箇所以上の凹字がある	内:淡黄褐色・浅黃褐色 外:白・灰 顔:灰	2mm以下の灰・白・白色粘を多く含む 反転形元	反転形元
36 国16 国29	歩生土器 広口壺	I	E9615	004	(25.8)	3.5 以上	—	口縁部 25%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:淡黄褐色・白 外:白・灰 顔:白	2mm以下の灰色粘を多く含む 反転形元	反転形元
37 国16 国29	歩生土器 広口壺	I	E9615	004	(21.0)	4.4 以上	—	口縁部 10%	口縁部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・灰 顔:白	2mm以下の灰・白・黑色粘を多く含む 反転形元	反転形元
38 国16 国29	歩生土器 広口壺	I	E9615	004	(11.4)	6.4 以上	—	口縁部 25%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:淡黄褐色・灰 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の白・白・灰色粘を多く含む 反転形元	反転形元
39 国16 国29	歩生土器 広口壺	I	E9615	004	(16.4)	4.0 以上	—	口縁部 25%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・灰 顔:白	2mm以下の白・黑・白色粘を多く含む 反転形元	反転形元
40 国16 国29	歩生土器 竹筒杯	I	E9615	004	(12.0)	6.5 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・淡黄褐色 顔:白	2mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
41 国16 国29	歩生土器 竹筒杯	I	E9	004	(14.4)	4.7 以上	—	口縁部 10%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・淡黄褐色・灰 顔:白	1mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
42 国16 国29	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(15.2)	11.5 以上	—	口縁部 25%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:淡黄褐色・浅黃褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白・淡黄褐色	1mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
43 国16 国29	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(18.0)	9.3 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・灰 顔:白	1mm以下の石英・灰・黑色粘を多く含む 反転形元	反転形元
44 国16 国29	歩生土器 直口壺	I	E9	004	(16.6)	6.1 以上	—	口縁部 20%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
45 国16 国29	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(19.8)	7.2 以上	—	口縁部 10%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・灰 顔:白	1mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
46 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004アセ	(27.2)	11.75 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・灰 外:白・灰 顔:白	2mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 5mm以下の赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
47 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004アセ	(29.6)	6.4 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色・白 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の白・石英・赤・白色粘化粘を多く含む 反転形元	反転形元
48 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004アセ	(25.4)	7.5 以上	—	口縁部 20%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色・白 外:白・淡黄褐色 顔:白	2mm以下の灰・白・赤色顔化粘を多く含む 反転形元	反転形元
49 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(28.2)	5.3 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の白・白・赤色粘化粘を多く含む 反転形元	反転形元
50 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(25.2)	7.7 以上	—	口縁部 10%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の白・白・赤色粘化粘を多く含む 反転形元	反転形元
51 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004	(24.6)	6.2 以上	—	口縁部 10%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	2mm以下の白・白・灰色粘を中量含む 反転形元	反転形元
52 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004アセ 下削	(22.4)	5.1 以上	—	口縁部 5%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の白・灰色粘を多く含む 反転形元	反転形元
53 国17 国30	歩生土器 直口壺	I	E9615	004アセ 床面	(10.8)	5.7 以上	—	口縁部 15%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・白・灰 外:白・白・灰 顔:白	2mm以下の白・白色粘を中量含む 反転形元	反転形元
54 国17 国30	歩生土器 手付2号土器	I	E9615	004	(4.6)	4.05 以上	—	25%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・オーリーブ緑 外:白・淡黄褐色 顔:白	3mm以下の灰・白色粘を多く含む 反転形元	反転形元
55 国17 国30	歩生土器 高杯	I	E9615	004アセ 下削	(22.6)	5.3 以上	—	口縁部 5%	口部は内側に縮頸を下方に拡張。外上方に斜面。外側面上にサギサギ目。脚部は丸みをもつて5箇所の凹字がある	内:白・淡黄褐色 外:白・淡黄褐色 顔:白	1mm以下の灰色粘・右肩部を中量含む 反転形元	反転形元

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	國・國級 番号	種類	調査区 域	測 量	残存率	形態・技法	色調	地 土	備 考	
				口径 cm	高さ cm	底径 cm				
57 国17 30	弥生土器 高杯	I	E9b15	004 底面一 半面	(18.4) 6.8 以上	-	口縁部 20%	口縁部は斜面として上方に立ち上がり 端部は上方に直角に下りて 端部に1条ずつ円形凹文	内・外・稍 灰	1mm以下の灰色粘を多く含む 反転復元
58 国17	弥生土器 高杯	I	E9b15	004 底面	- 7.1 以上	-	脚付部 80%	脚付部はやや斜めとし上方に凹 き端部は丸みを帯びる	内・灰・黄 外・浅黄・浅黄 端部・淡黄	1mm以下の灰・灰・白色粘 を中量含む 反転復元
59 国17 30	弥生土器 高杯	I	E9b15	004 黑色土	- 10.2 以上	7.0	口縁部 80%	脚付部はやや斜めとし上方に凹 き端部は丸みを帯びる	内・灰・浅黄 外・浅黄・浅黄 端部・淡黄	2mm以下の灰色粘・赤色粘 化粧を多く含む 一部反転復元
60 国17 30	弥生土器 (竹)井	I II III	E9b15 E9b15 E9b15	004 下唇 床面	(44.6) 11.1 以上	-	口縁部 5%	口縁部は斜面として上方に立ち上 がる 端部上方に直角に下りて 端部に2条ずつ円形凹文	内・灰・灰 外・浅黄 端部・淡黄	3mm以下の灰・茶・白色粘 を中量含む 反転復元
61 国17 30	弥生土器 (竹)井	I	E9b15	004 黑色土	(37.6) 8.1 以上	-	口縁部 5%	口縁部はやや斜面で端部は丸 みを帯びて強張り感に富む	内・灰・黄 外・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰色粘・赤色粘 化粧を多く含む 反転復元
62 国17 30	弥生土器 (竹)井	I	E9b15	004 黑色土	(26.2) 4.6 以上	-	口縁部 20%	口縁部はやや斜面で端部は丸 みを帯びて強張り感に富む 端部上方に直角に下りて 端部に細い2 条の凹文	内・灰白・浅黄 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰色粘・赤色粘 化粧を中量含む 反転復元
63 国17 30	弥生土器 高台	I	E9b15	004 黑色土	- 6.4 以上	(14.4) 2.0 以上	脚台部 50%	脚台部は直立する 端部は下方 に斜面 外側底部より上方に 2条の凹文	内・灰白・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰色粘を中量含む 反転復元
64 国17 30	弥生土器 高台	I	E9	004 黑色土	- 7.9 以上	(10.8)	脚台部 30%	脚台部はy字に開き緩やかに外 側端部は下方に直角に下りて 内側の凹文(6箇所か?)	内・灰白・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰色粘を多く含む 反転復元
65 国17 30	弥生土器 (竹)井	I	E9b15	004 底面	- 13.1 以上	15.7	脚台部 85%	脚台部は直立して強く斜面は下方 に正面 全体に不規則に斜面 6ヶ所 両端部は斜面が鋸歯状	内・灰・黄 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・黒色・赤 色化粧を多く含む 一部反転復元
66 国19 30	弥生土器 広口壺	I	E9b15	024	(22.3) 8.0 以上	-	口縁部 40%	口縁部は直立し端部を下方 上方 に斜め 外部には3条の凹文と 内側背面に斜め溝浮き 領部に 2条以上の凹文	内・灰白・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・赤色化 粧を多く含む 反転復元
67 国19 30	弥生土器 広口壺	I	E9b15	024	21.4 13.2 以上	-	口縁部 80%	口縁部外側に端部を垂下 外面 に斜め溝浮き 上部に2列の網 刺突点文 端部に3条以上の 凹文	内・浅黄 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	3~4mmの大灰・白・白色粘・ 赤色化粧を微量 1mm以 下の灰色・赤色化粧を 中量含む 一部反転復元
68 国19 30	弥生土器 広口壺	I	E9b15	024	(20.2) 9.4 以上	-	口縁部 75%	口縁部は直立し端部を垂下 外面 に斜め溝浮き 上部に2列の網 刺突点文 端部に3条以上の 凹文	内・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・黒色・石 英・赤色化粧を多く含む 一部反転復元
69 国19 30	弥生土器 広口壺	I	E9b15	024	20.6 5.9 以上	-	口縁部 80%	口縁部は外反し端部を垂下 外面 に斜め溝浮き 上部に2列の網 刺突点文 端部に3条以上の 凹文	内・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰・石英粘を 含む 一部反転復元
70 国19 31	弥生土器 壺	I	E9b15	153	(14.2) 7.6 以上	-	口縁部 25%	口縁部の下部に斜面 端部を体 面に合わせて上方に盛り上げる 外側斜面にV字型 端部は薄い	内・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2~3mmの大灰・白色粘 を微量 1mm以下灰・灰 白色粘・赤色化粧を多く含む Q249切削 内中灰土質 反転復元
71 国19 31	弥生土器 器物?	I	E9b15	024	西 11.6 以上	(11.2)	脚台部 15%	脚部は内側気味に外反 下方に向 かって肥厚し端部を下方に直角 端部より上方に斜め溝浮き 内穴六 角形の近縁部あり	内・浅黄 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰・白・白色粘を多 く含む 反転復元
72 国21	弥生土器 壺	I	D9b16	028	北 西	- 96.29	-	口縁部はy字の凹曲面 端部を上 方に直角に下りて上方に斜 め溝浮き 外方に斜め溝 横方向の平行タキナ	内・灰 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・灰・白色粘 を多く含む 反転復元
73 国21 31	弥生土器 壺	I II	D9b15 D9b16	028	北 北 8.5 以上	3.3	底部 100%	底部に5箇所 端部に6箇所以上の 凹文	内・浅黄 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰・灰粘を多 く含む 一部反転復元
74 国21 31	弥生土器 壺	I	D9b16	145	1.6 1.6 以上	(18.6) 8.8 以上	口縁部は強く外反 端部を下方に 直角に下りて上方に斜 め溝浮き 外側斜面に2条の凹文	内・浅黄 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の灰・白・白色粘を中 量含む Q289切削 内中灰土質 反転復元	
75 国21 31	弥生土器 壺	I	D9b16	145	1.6 1.6 以上	(15.0) 3.5 以上	口縁部は直立 口縁部は横方向 に開く 端部は上方に直角に下り て上方に斜め溝浮き タテのハバ 内側に近縁部あり	内・灰 外・オリーブ灰・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・白・赤色粘 化粧を多く含む 反転復元 Q289切削 内中灰土質	
76 国21 31	弥生土器 高杯	I	D9b16	143	(17.5) 4.3 以上	-	口縁部 5%	口縁部は斜面として上方に開く 端部は上方に直角に下りて1条、 端部に3条の凹文	内・浅黄 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・白・赤色粘 化粧を多く含む 反転復元 Q289切削 内中灰土質
77 国21 31	弥生土器 広口壺	I	D9b16	139	(18.6) 6.8 以上	-	口縁部 10%	口縁部は外反する 端部を土に 上方に盛り上げて外方に斜め 溝浮き 外側斜面に2条の凹文	内・灰 外・浅黄 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・白・赤色粘 化粧を多く含む 反転復元 Q289切削 内中灰土質
78 国25	弥生土器 壺	I	E9	025	(15.8) 4.7 以上	-	口縁部 5%	脚部はy字の凹曲面 端部は上 方に直角に下りて上方に斜 め溝浮き 80%	内・浅黄 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	1mm以下の石英・灰色粘 ・赤色化粧を多く含む 反転復元
79 国25	弥生土器 高杯	I	E9b17	025	-	13.5 以上	12.8	脚部はy字の凹曲面 端部は上 方に直角に下りて上方に斜 め溝浮き 10%	内・浅黄 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の石英・灰色粘 ・赤色化粧を多く含む 一部反転復元
80 国25 31	弥生土器 手すりな 壺	I	E9	025	(6.5) 7.1 以上	(4.0) 5.6 以上	口縁部 5%	脚部は外方に突出 体部は球形 口縁部は直角に外方に折れる	内・灰白 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	2mm以下の灰・褐色粘を 多く含む 反転復元
81 国25 31	弥生土器 広口壺	I	E9b16	067	(23.0) 5.6 以上	-	口縁部 5%	口縁部は強く外反 端部を下方に 直角に下りて上方に斜 め溝浮き 3条の凹文	内・灰白 外・灰 端部・灰 内・灰 端部・淡黄	3mm以下の灰・茶・褐色粘を 中量含む 反転復元

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色を基にし、マンセル記号を省略している

鉢表面番号	固・表面番号	種類	調査区	溝横	溝深	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
82 回25 回版31	弥生土器 広口壺	I E9	068	(22.4 以上)	9.1	—	口縁部は外反し端部を下方に垂下する 端部に4条の凹縦文のうち印字 浮き模様と斜めに並ぶ4条以上の 円筒文	内・外断: 灰白・浅黄相 内・外: 黄白	2mm以下の灰・白色粒を多 く含む	反転復元		
83 回25 回版31	弥生土器 広口壺	I E9	068	(25.8 以上)	34.6	—	側面は長く、口縁部は外反し端部 は下垂する。外縫面には4条の凹縦 文と竹節文を押す円筒文と、側 縫面から全体を上下にかけて彎曲状 で段々	内・外断: 灰・浅黄相 内・外: 黄白	3mm以下の灰・黑色粒を多 く含む	反転復元		
84 回25 回版31	弥生土器 広口壺	I E9	068	(19.0 以上)	7.4	—	口縁部は強く外反し、端部を上下に 垂下する。外縫面に2条の凹縦文	内・外断: 灰・灰白 内・外: 黄白	1mm以下の石灰・白・灰色 粒を多く含む	反転復元		
85 回25 回版31	弥生土器 肥手付広 口壺	I E9	068	(13.6 以上)	7.0	—	口縁部は40% 側面は40%	内・外断: 浅黄相 内・外: 黄白	1mm以下の灰・白色粒・赤 色無彩色を多く含む	反転復元		
86 回25 回版31	弥生土器 肥手付広 口壺	I E9	068	(10.4 以上)	12.9	—	口縁部は方角立ちちがつた後確方 間に凹縫、端部は浮き模様と斜めに 並ぶ。側縫面は浮き模様のアーチ状手 折り把手	内・外: 浅黄相 外・内: 黄白・灰・に高・暗 度: 浅黄相	1mm以下の灰・白色粒・赤 色無彩色を多く含む	反転復元		
87 回25 回版31	弥生土器 広口壺 直口壺	I E9	068	(24.2 以上)	8.2	—	口縁部は外反し、端部を上方に垂下する 外縫面に3条の凹縦文	内・外: に高い懐 内・外断: 浅黄相	3mm以下の灰・白色粒・赤 色無彩色を多く含む	反転復元		
88 回25 回版31	弥生土器 直口壺	I E9	068	9.2	18.6	—	口縁部は内側向外気に外縫。端部を 上方に垂下する。口縫面に7条の 凹縦文。頭部には4条の凹縦文。 側縫面内側ハ・外側ハ・ハラ ニキモ	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・浅黄 内: 明黄	1mm人の黒・灰色粒・赤色 無彩色を中等含む	一部復元		
89 回25 回版31	弥生土器 直口壺	I E9	068	(16.2 以上)	10.1	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・相 内: 明黄	5mm人の白色粒1個 1mm 以下の灰・白色粒を多く 含む	反転復元		
90 回25 回版31	弥生土器 直口壺	I E9	068	(16.6 以上)	9.1	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・明黄 内: 明黄	5mm人の赤色無彩色2個 1 mm以下の白・白色粒を多く 含む	反転復元		
91 回25 回版31	弥生土器 直口壺	I E9	068	(16.4 以上)	8.6	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・浅黄 内: 明黄	5mm人の赤色無彩色2個 1 mm以下の白・白色粒を中 量含む	一部復元		
92 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(18.0 以上)	9.5	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・明黄 内: 明黄	5mm人の赤色無彩色1個 1 mm以下の灰・白色粒を中 量含む	反転復元		
93 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(14.3 以上)	8.9	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・相 内: 明黄	1mm以下の石灰・灰・白色 粒を多く含む	反転復元		
94 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(12.0 以上)	9.9	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・相 内: 明黄	1mm以下の灰色粒・赤色 無彩色を多く含む	反転復元		
95 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(18.6 以上)	11.3	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・相 内: 明黄	3~5mmの白色・赤色無 彩色を含む。2mmまでの灰色 色・白色・赤色無彩色を 多く含む	反転復元		
96 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(12.8 以上)	9.7	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・灰・白・に高い 内・外: 黄白・相 内: 明黄	1mm以下の灰・黑色粒を 多く含む	反転復元		
97 回25 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(22.0 以上)	10.2	—	口縁部は内尚気味に外縫。端部を 内凹状。上方に垂下。口縫部下に 断面三角形の突起	内・外断: 灰白	1mm以下の白・灰・黑色粒・ 赤色無彩色を多く含む	反転復元		
98 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(22.0 以上)	6.8	—	口縁部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。外縫上面に施釉。底部外縫部 下方に平行タスク	内・灰・白・に高い 内・外: 浅黄・に高い 内: 明黄	3mm以下の白・褐色・赤 色無彩色を多く含む	反転復元		
99 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	通み挂 5.75	7.0	口縫 14.4	70%	縫隙部外縫。端部を上方に垂 下する。口縫部は内尚気味に外縫。 端部を下方に折り返す。	内・灰・白・に高い 内・外: 浅黄・に高い 内: 明黄	2mm以下の灰・黑色粒を 多く含む	一部復元	
100 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(18.0 以上)	4.1	—	口縫部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。端部を上方に垂下。口縫部に 2条の凹縦文	内・灰・白・に高い 内・外: 浅黄・相 内: 明黄	外・浅黄・に高い 内: 明黄	反転復元		
101 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	—	6.4	—	縫隙部は圓柱状で空。端部を 下方に垂下する。端部を下方に垂 下する。端部を下方に垂下する。	内・灰・白・に高い 内・外: 浅黄・相 内: 明黄	2mm以下の灰・黑色粒・赤 色無彩色を多く含む	一部復元		
102 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	—	10.4	—	口縫部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。端部を下方に垂下。口縫部に 2条の凹縦文	内・外断: 灰白	1mm以下の灰・白色粒を多く 含む	一部復元		
103 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	—	7.7	—	(12.8) 断面 2.5%	縫隙部は内尚気味に外縫。端部を 下方に垂下する。端部を下方に垂 下する。端部を下方に垂下する。	内・灰・白・に高い 内: 明黄	8mm人の白色粒1個 5mm 人の長石1個 1mm以下の白 色無彩色を少量含む	反転復元	
104 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(30.4 以上)	14.3	—	縫隙部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。端部を下方に垂下。口縫部に 3条の凹縦文	内・灰・白・に高い 内: 明黄	2mm以下の灰・黑色粒を多く 含む	反転復元		
105 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	(25.8 以上)	9.1	—	縫隙部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。端部を下方に垂下。口縫部に 3条の凹縦文	内: 明黄・に高い 内: 明黄	3mm以下の赤色無彩色と 2mm 以下の灰色を多く含む	反転復元		
106 回26 回版32	弥生土器 直口壺	I E9	068	—	15.5	—	12.0	40%	縫隙部は内尚気味に外縫。上方に垂 下する。端部を下方に垂下。口縫部に 3条の凹縦文	内: 明黄・に高い 内: 明黄	1mm以下の灰・白色粒を多く 含む	一部復元

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	國・ 國籍 番号	種類	調査区 域	測定 部位	法量			残存率	形態・技法	色調	地土	備考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm					
107 国26 国版32	秀生土器 竹手付	I E9	068	—	10.2 以上	18.2	脚部75%	脚部は「の」字に聞く。端部は下方に直角に2条の凹縫文。上段の4箇所に凹縫文	内・外断・浅黄粘・に赤 い緑・粗	13mmの大・赤褐色1個。3 mmの大・白粘。2mmを多く含む 1mm以下の白粘。赤色 酸化粘を多く含む	一部反転元	
108 国26 国版32	秀生土器 脚付	I E9	068	—	10.9 以上	16.8	脚部80%	脚部は「の」字に聞く。端部は下方に直角に2条の凹縫文。上段の4箇所に凹縫文	内・灰白・灰 内・外断・灰白	2mm以下の灰・褐色を多 く含む	一部反転元	
109 国26 国版32	秀生土器 脚付	I E9	068	—	8.9 以上	(17.8)	脚部35%	脚部は「の」字に聞く。端部は下方に直角に2条の凹縫文。上段の4箇所に凹縫文	内・外断・浅黄粘	2mm以下の灰・白・褐色を 多く含む	反転復元	
110 国26 国版32	秀生土器 足	I E9	068	—	7.5 以上	(15.0)	脚部10%	脚部は「の」字に聞く。端部は内・外に2箇所に凹縫文。上段に4箇所に凹縫文	内・灰白・灰 内・外断・脚	1mm以下の白・赤褐色・赤 色酸化粘を多く含む	反転復元	
111 国26 国版32	秀生土器 足	I E9	068	—	—	—	脚部10% 脚部口縁	脚部は「の」字に聞く。端部は内・外に2箇所に凹縫文。上段に4箇所に凹縫文	内・灰白・灰 内・外断・脚	2mm以下の灰・黒褐色・赤 色酸化粘を多く含む	反転復元	
112 国26 国版32	秀生土器 足	2 E9	277	(11.2)	4.3 以上	—	口縁部30%	脚部は「の」字に聞く。端部は内・外に2箇所に凹縫文。上段に4箇所に凹縫文	内・灰白・灰 内・外断・脚	1mm以下の灰色粘・赤褐色 を多く含む	反転復元	
113 国26 国版32	秀生土器 脚付	2 E9	293	8.2	20.7 以上	—	25%	口縁部は2箇所に凹縫文。端部は下方に2箇所に凹縫文。脚部はアーチ状の把手付 り脚部は算盤形	内・灰白・灰 内・外断・脚	2mm以下の灰色粘・赤褐色 を多く含む	反転復元	
114 国26 国版32	秀生土器 口縁部 脚付	2 E9	293	(18.4)	12.9 以上	—	口縁部45%	端部は直立。口縁部は矧く外反 端部は上方に抵し外反。外側に4箇所の凹縫文	内・外断・浅黄粘	5mm以下の灰褐色1個。2mm までの灰・白色粘を多く含む	反転復元	
115 国26 国版32	秀生土器 脚付	2 E9	293	—	8.0 以上	6.2	底部50%	やや上げ底	内・灰白・灰 内・外断・脚	2mm以下の灰・白・褐色粘 を多く含む	一部反転元	
116 国26 国版33	秀生土器 高杯	2 E9	293	(11.7)	5.4	—	口縁部30%	口縁部は端部から盛り立てて上方へ立ち上がり端部丸り付	内・外断・浅黄粘	2mm以下の灰・褐色を多 く含む	反転復元	
117 国26 国版33	秀生土器 高杯	2 E9	293	—	5.1 以上	15.0	底部90%	端部は「の」字形に聞く。端部は下方に4箇所の凹縫文	内・灰白・灰 内・外断・脚	2mm以下の灰・白・褐色粘 を多く含む	一部反転元	
118 国26 国版33	秀生土器 把手付	2 E9	300	—	6.3 以上	—	—	把手部にアーチ状の把手 手付把手を依托	内・灰白・灰 内・外断・脚	1mmまでの灰・褐色粘を多 く含む	反転復元	
119 国27 国版33 (若手?)	秀生土器 口縁部	I E9h15	005	(31.4)	3.1 以上	—	口縁部15%	口縁部はよく外反。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 手付把手を依托	内・外・灰白・浅黄 内・外・浅黄粘	2mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	反転復元	
120 国27 国版33	秀生土器 広口縁	I E9h16	005	13.8	7.0 以上	—	口縁部60%	口縁部は外反したのに強く外反 端部は下方に直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 手付把手を依托	内・浅黄粘・灰 内・外・浅黄粘	1mm以下の灰色粘・赤褐色 を多く含む	一部反転元	
121 国27 国版33 広口縁	秀生土器 広口縁	I E9h17, g17	005	(18.0)	9.4 以上	—	口縁部25%	口縁部はやや外反傾向に立ち上る。 端部は下部で端部に向かって端 部は下方に直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 手付把手を依托	内・灰白・灰 内・外・浅黄粘・灰 内・外・浅黄粘・灰 内・外・灰	2mm以下の灰・黒褐色・赤 色酸化粘を多く含む	反転復元	
122 国27 国版33	秀生土器 広口縁	I E9h17, g17	005	(19.0)	7.6 以上	—	口縁部10%	口縁部はよく外反。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に3条 の凹縫文。端部に凹縫文に板状工具に なるよう施釉	内・輕 内・輕 内・輕 内・輕	5mmの大・赤褐色1個。3 mm以下の白・灰色粘を多く 含む	反転復元	
123 国27 国版33	秀生土器 広口縁	I E9h15, 17,g17	005	12.6	6.0 以上	—	口縁部100%	口縁部は反対したのち横に聞く 端部は上下に張り出し外方側に圓錐形に 張り出し外方側に圓錐形に張り出 し端部に櫛目施釉	内・浅黄粘・灰 内・外・浅黄粘 内・輕	2mm以下の灰・褐色・白英 粒・赤色酸化粘を多く含む	反転復元	
124 国27 国版33	秀生土器 広口縁	I E9h16	005	(7.0)	3.7 以上	—	口縁部15%	口縁部は外反する。端部は外 反粘土貼付把手。灰白・土色粘 を多く含む	内・輕 内・輕 内・輕 内・輕	3mmの大・褐色粘2個。1mm 以下の白・灰色粘を多く 含む	反転復元	
125 国27 国版33	秀生土器 把手付	I E9h17, g17	005	15.8	13.9 以上	—	口縁部5%	口縁部は端部から立ち上がる 端部は上方に直角に2箇所に凹縫文。上段に5 箇所の凹縫文。端部に把手。端部に櫛目施 釉に位する把手(大底)	内・灰白・灰 内・外・浅黄粘 内・輕	1mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	一部反転元	
126 国27 国版33	秀生土器 直口縁	I E9h16	005	(17.0)	9.5 以上	—	口縁部15%	口縁部は把手し端部は上方に直 角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・輕 内・輕 内・輕 内・輕	1mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	反転復元	
127 国28 国版33	秀生土器 直口縁	I E9h16	005	(19.0)	11.6 以上	—	口縁部20%	口縁部は外反し。端部して上方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・輕 内・輕 内・輕 内・輕	2mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	反転復元	
128 国28 国版33	秀生土器 把手付	I E9h16	005	(32.0)	7.1 以上	—	口縁部5%	口縁部は「の」字形に聞く。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・灰白 内・輕	4mmの大・褐色粘1個。3mm 以下の灰・黒・白色粘を多く 含む	反転復元	
129 国28 国版33	秀生土器 質	I E9h16	005	(20.0)	5.3 以上	—	口縁部15%	口縁部は「の」字形に聞く。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・灰白 内・輕 内・輕 内・輕	2mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	反転復元	
130 国28 国版33	秀生土器 質	I E9h15	005	(26.0)	8.7 以上	—	口縁部5%	口縁部は「の」字形に聞く。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・灰白 内・輕 内・輕 内・輕	5mmの大・褐色粘1個。2mm 以下の灰・褐色粘・赤色酸化 粘を多く含む	反転復元	
131 国28 国版33	秀生土器 質	I E9h16	005	(27.0)	6.8 以上	—	口縁部12%	口縁部は「の」字形に聞く。端部は下方に 直角に2箇所に凹縫文。上段に5箇所の凹縫文 把手に位する把手(大底)	内・灰白 内・輕 内・輕 内・輕	反転復元。灰・白粘を多く含む	反転復元	
132 国28 国版33	秀生土器 質	I E9h16	005	—	5.1 以上	8.2	底部75%	底部は外反し。端部に把手。灰白・土色粘 を多く含む	内・輕 内・輕	3mm以下の灰・褐色粘を多 く含む	一部反転元	
133 国28 国版33	秀生土器 質	I E9h16	005	—	4.7 以上	8.2	底部75%	底部は外反し。端部に把手。灰白・土色粘 を多く含む	内・輕 内・輕 内・輕	2mm以下の灰・白・褐色粘を多 く含む	一部反転元	

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・顔は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している。

報告書番号	団・段階番号	種類	調査区分	横幅	縦幅	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
				口径 cm	高さ cm	底径 cm						
134	国28 国33	舟生土器 高杯	I E916	005	(18.0)	5.2 以上	—	口縁部 15%	口縁部は内尚突起に外上方に向く 舟形・圓筒部の内側に斜めの溝 に沿うて形成	内・浅黄褐・淡黃 外・灰褐色に淡褐色 底・灰黄	反転復元 射出・2mm以下の 灰色・褐色を多く含む	反転復元
135	国28 国33	舟生土器 高杯	I E916	005	—	12.0 以上	9.6	口縁部 85%	口縁部は内尚突起で外方に開く 舟形・圓筒部の内側に斜めの溝 に沿うて形成	内・浅黄褐 外・灰褐色 底・灰黄	2mm以下の灰・白・赤色顔 化料を多く含む	
136	国28 国33	舟生土器 高杯	I E917 g17	005	—	14.2 以上	13.8	脚部 100%	脚部は中空で内凹状 延部はハ の字に開く 縫部は上下に張出し 舟形に開く	内・浅黄褐 外・淡黄褐 底・灰白	2mm以下の灰・褐色を多 く含む	
137	国28 国33	舟生土器 高杯	I E916	005	—	17.1 以上	(11.6)	脚部 15%	脚部は舟形で内凹状 延部はハ の字に開く 縫部は上下に張出し 舟形に開く	内・灰白・淡黄褐 外・灰白・灰 底・灰白	2mm以下の灰・黒・褐色を 多く含む	一部反転復元
138	国28 国33	舟生土器 高杯	I E916	005	(38.0)	7.5 以上	—	口縁部 15%	口縁部は内尚突起して上方に膨 張部は内側に張出しして上方に膨 張部下に1条の凹溝	内・浅黄褐 外・灰白・灰 底・灰白	1mm以下の灰・灰・褐色を 赤色顔化料を多く含む	反転復元
139	国28 国33	舟生土器 台付碗	I E917 g17	005	—	10.1 以上	(11.6)	脚台部 30%	脚台部はハの字に開く 縫部は外 方に開く 舟形に開く	内・灰白・灰 外・灰白・灰 底・灰白	2mm以下の石灰・灰・黑色 赤色顔化料を多く含む	一部反転復元
140	国28 国33	舟生土器 器台付	I E916	005	—	10.1 以上	(19.6)	脚台部 30%	脚台部はハの字に開く 縫部は内 方に張出しして下方に凹溝 延部 上に1条の凹溝	内・灰白 外・灰白・灰 底・灰白	1mm以下の灰色を多く含む	反転復元
141	国28 国33	舟生土器 器台付	I E915	005	—	12.9 以上	(14.0)	脚部 75%	脚部はハの字に開く 縫部は内 方に張出しして下方に凹溝 延部 上に1条の凹溝	内・灰白・灰 外・灰白・灰 底・灰白	3mm以下の灰・黒・灰 赤色顔化料を多く含む	一部反転復元
142	国28 国33	舟生土器 器台付	I E917 g17	005	(31.0)	12.9 以上	—	口縁部 25%	C脚部は内反しあるうち縮退まで 舟形に開く 縫部は下方に張出し 舟形に6条の凹溝のうち竹青 色と押す用凹溝を除き付口 縫部中位に凹溝があるか?	内・灰白・淡黄褐 外・灰白・淡黄褐 底・灰白	2~4mmの大灰色跡を微量 1mm以下の灰・褐色・素 色顔化料を多く含む	反転復元
143	国28 国34	舟生土器 台形土器	I E917 g17(2) 068	005	台形部 26.6	(40.5)	(30.4)	70%	台形部は外方に大きく傾く 縫部は 内側向外に長く伸びる 縫部は下 方に面外側に凹溝	内・浅黄褐 外・浅黄褐・灰 底・浅黄褐	2mm以下の灰・黒・褐色 赤色顔化料を多く含む	一部反転復元
144	国29 国34	舟生土器 広口壺	2 D919 w19/9 西	270	11.0 以上	—	—	口縁部 70%	口縁部は立する部分から傾く 縫部は開く 縫部は上下に張出し 外側には4条の凹溝を有し5~7 脚一部單孔の凹溝 延部から 斜めの溝と斜めの溝と3条以上	内・オーブル灰 外・灰 底・灰	2mm以下の灰・褐色・赤 色顔化料を多く含む	一部反転復元
145	国29 国34	舟生土器 広口壺	2 D919 w19 西	270	(16.0)	6.2 以上	—	口縁部 45%	口縁部は立する部分から外反す 縫部は立する部分から外反す 外側には4条の凹溝を有し5~7 脚一部單孔の凹溝 延部から 斜めの溝と斜めの溝と3条以上	内・灰白・オーブル灰 外・灰 底・灰	3~6mmの大灰色・長石 2mm~2mmの石英片・ 石英・長石を多く含む	反転復元 亂入品
146	国29 国34	舟生土器 台付壺 口直	2 D919 w19 東	270	15.6	12.8 以上	—	口縁部 50%	口縁部は外方へ傾く 縫部は上 方に張出し 縫部は外方に張出し 舟形に6条の凹溝のうち竹青 色と押す用凹溝	内・灰白 外・灰 底・灰白	2mm以下の白・灰色を多 く含む	一部反転復元
147	国29 国34	舟生土器 台付壺 口直	2 D919 w19 東	270	(21.0)	12.5 以上	(8.0)	30%	口縁部は反り曲げ 縫部を上方に張出し 外側部に2条の凹溝 延部 にアーチ状の把手	内・灰 外・灰 底・灰白	2mm以下の灰・白色 赤色顔化料を多く含む	上部一部 反転復元 下部一部 反転復元
148	国29 国34	舟生土器 台付壺 ほかは	2 D919 w19 内	270	(12.0)	9.7 以上	—	口縁部 20%	口縁部は内尚突出に立ち上がる 縫部は上方に面 延部にアーチ状 の把手 体部は斜面	内・灰白・淡黄褐 外・灰白・灰 底・灰白	2mm以下の灰・黒・褐色 赤色顔化料を多く含む	反転復元
149	国29 国34	舟生土器 台付壺 ほかは	2 D919 w19 内	270	(10.6)	22.3 以上	—	口縁部 50%	口縁部は内尚突出に立ち上がる 縫部は上方に面 延部にアーチ状 の把手 体部は斜面	内・灰 外・灰 底・オーブル	3~4mmの大灰色・赤 色顔化料を少量含む 2mm 以下の灰・褐色・赤色顔化料を 多く含む	反転復元
150	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(16.4)	8.6 以上	—	口縁部 35%	口縁部は内尚突出に立ち上がる 縫部は上方に面 縫部にキズを有 する断面に凹溝を有	内・浅黄褐 外・浅黄褐 底・浅黄褐	1~2mmの灰・黒色 1mm以下の灰・黑・黑色 赤色顔化料を多く含む	反転復元
151	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(19.6)	7.6 以上	—	口縁部 20%	口縁部は直面の外方へ傾く 縫部は上 方に張出し 延部に4条の凹溝を 有する断面に凹溝を有	内・灰白 外・灰 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む	
152	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(16.8)	8.5 以上	—	口縁部 25%	口縁部は内尚突出に立ち上がる 縫部は上方に面 延部に4条の凹溝を 有する断面に凹溝を有	内・灰白 外・灰 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む スズ付着	反転復元
153	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	17.2	9.7 以上	—	口縁部 60%	口縁部は平手・縫部は外方に張出し 体部・口縁部に2カ所に張り	内・浅黄褐 外・灰 底・灰白	1mm以下の灰・褐色を多 く含む 赤色顔化料を微量 含む	一部反転復元
154	国29 国34	舟生土器 台付壺 (無脚)	2 D919 w19 内	270	(17.6)	7.7 以上	—	脚部 40%	脚部は内尚突出に立ち上がる 縫部は上方に面 内側に2条の凹溝を 有する断面に張り	内・灰白 外・灰 底・灰白 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む オーブル	反転復元
155	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(23.0)	3.0 以上	—	口縁部 25%	口縁部は横方向に開き 縫部は大 きな凹溝を有する 縫部は上方に面 に立ち上がる 縫部は上方に面	内・灰 外・浅黄褐 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む	反転復元
156	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(22.0)	5.7 以上	—	口縁部 40%	口縁部は体部から直面して上方へ 立ち上がる 縫部は上方に面 体 部・口縁部に2カ所に張り	内・灰 外・浅黄褐 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む	反転復元
157	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(23.0)	5.2 以上	—	脚部 30%	口縁部は体部から直面して上方へ 立ち上がる 縫部は上方に面	内・灰 外・浅黄褐 底・灰白	2mm以下の灰・褐色 赤色顔化料を多く含む	反転復元
158	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(21.8)	7.1 以上	—	脚部 25%	口縁部は体部から直面して上方へ 立ち上がる 縫部は上方に面 体 部・口縁部に2カ所に張り	内・灰 外・灰 底・灰白	3mm以下の赤色顔化料を中 心に1mm以下の灰色を多 く含む	反転復元
159	国29 国34	舟生土器 直口壺	2 D919 w19 内	270	(24.4)	7.5 以上	—	脚部 30%	口縁部は体部から直面して上方へ 立ち上がる 縫部は上方に面	内・灰 外・灰 底・灰白	4mmの大赤色顔化料1個 2mm以下の灰・褐色・素 色顔化料を多く含む	反転復元

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・●は「面」を省略している。色調は土色鉢を基にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	國・ 國級 番号	種類	調査 地区	測定 部位	法量			残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
160	國 29 國版 34	秀生土器 高杯	2 D9a19 内	270	—	5.2 以上	11.0	底部 100%	底部はハの字に聞く。端部はわずかに下へ立ち張る。端部は外方に曲げて外方へ立ち上がる。底部は上方に1条。底部下に2条。底部は3条の凹面文。底部はハの字に聞く。底部は下方に1条。	内・灰・赤褐色・明黄褐 外・灰・白・黄 内・外断・灰白・浅黄褐 内・外断・灰白	1m以下の白・赤色鉢を多く含む 1m以下の白・赤色鉢を多く含む	一部反転式	
161	國 29 國版 34	秀生土器 高杯	2 D9b19 内	270	(23.0)	16.5	(11.3)	30%	口縁部は底部からわずかに屈曲して外方に折れる。底部は内上方に直す。底部下に1条。底部部は直す。底部は下方に3条の凹面文。底部はハの字に聞く。底部は下方に1条。	内・外断・灰白・浅黄褐 内・外断・灰白	2m以下の灰・褐・黑色鉢を多く含む	一部反転式	
162	國 29 國版 34	秀生土器 竹口杯	2 D9b19, 119 内側	270	(29.0)	22.3 以上	(17.2)	30%	口縁部は底部からわずかに屈曲して外方に折れる。底部は内上方に直す。底部下に1条。底部部は直す。底部は下方に3条の凹面文。底部はハの字に聞く。底部は下方に1条。	内・外断・灰白・浅黄褐 内・外断・灰白	3m人の赤色化粧を1個。 2m以下の白・灰色鉢と赤色化粧を多く含む	反転式	
163	國 29 國版 34	秀生土器 竹口杯	2 D9b19 内	270	—	6.7 以上	5.0	脚付 100%	脚付部はハの字に聞く。脚付部は内上方に直す。脚付部は2条。底部は直す。底部は下方に3条の凹面文。底部はハの字に聞く。底部は下方に1条。	内・外断・灰白・浅黄褐 内・外断・灰白	1m以下の灰・褐・黑色鉢を多く含む	一部反転式	
164	國 34 第3回 杯身	2 D9p18	263	—	2.4 以上	9.2	底部 10%	底部底部は高台に直すで接続する。	内・外断・灰	1m以下の白色を微量含む	反転式		
165	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	19.4	1.3	12.0	75%	底部は平底。外縁部はヘタギズリのちりばみがきか。内面部は斜め脚付部より突起するハニカミ足。底部は小さな花弁状の附着	内・無地・灰・白に赤褐色 内・無地・灰	1m以下の灰色鉢と赤色化粧を中量含む	一部反転式	
166	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	(20.2)	2.0	13.8	40%	底部は平底。	内・灰・白・黄に浅黄褐 内・灰・白	1m以下の灰色鉢と赤色化粧を少量含む	反転式	
167	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	(22.0)	9.0 以上	—	口縁部 100%	口縁部は強く外反して長く伸びる。底部は張り気味。体部表面斜面にハニカミ足。	内・無地・灰・白に赤褐色 内・灰・白・黄 内・灰・白	1m以下の黒色微粒を少量含む	反転式	
168	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	(20.6)	6.4 以上	—	口縁部 15%	口縁部は外反。底部は外方に直す。底部外側面に直す。	内・灰・白・黄に赤褐色 内・灰・白	1m以下の白・灰・赤褐色。 1m前後の粘片片付を多く含む	反転式	
169	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	(29.0)	15.7 以上	—	10%	口縁部は外反。底部は外方に直す。外縁部に張り気味。底部上方向に向いて張り。体部外側面にハニカミ足。底部は張り気味。	内・浅黄褐・白に赤褐色 内・浅黄褐・白 内・灰・白	3m以下の白英を少し含む	反転式	
170	國 34 國版 36	土器 皿	D9 g23 下腹 (底)	260	—	9.1 以上	—	—	外縁方向のハニカミ突起を付す。内面縦構造のハク	内・無地・灰・白に灰黄 内・灰・白	1m以下の白色微粒を微量含む	反転式	
171	國 34 國版 36	陶製土器 皿	2 D9g23, 24	260	7.4	4.5	2.7	50%	手捏ね成形。鉢形。底部わずかに内傾。	内・灰・白・黄に灰黄 内・灰・白	1m以下の白色を多く含む	一部反転式	
172	國 34 國版 36	陶製土器 皿	D9g23 中・下 腹	259	(38.0)	8.8 以上	—	5%	口縁部は外反。底部はわずかに上方に盛り上がる。底部下より直状文。内面縫合・波文・次文・凹面文。底部は外反。底部は外方に直す。底部は張り気味。	内・灰・白 内・灰・白	1m以下の白色微粒を多く含む	反転式	
173	國 35 國版 36	土器 杯	1 E9g18	183	(16.4) 以上	3.1 以上	—	10%	口縁部は外反。底部は内面に直す。	内・浅黄 内・灰・白	1m以下の白色微粒を少量含む	反転式	
174	國 35 國版 36	土器 杯	2 g1	237	(12.5)	1.6 以上	—	10%	口縁部内面に小さく返り。天部は張り。中央に複数様の縫み。口縁部底部にて下方に折れ込む。底部は丸い。	内・外断・灰白	1m以下の白色微粒を少量含む	反転式	
175	國 35 國版 36	土器 杯	E9g17	059	北	17.0	2.8	45%	底部は張り。中央に複数様の縫み。口縁部底部にて下方に折れ込む。底部は丸い。	内・外断・灰白	4mm以下の長石を少含む	一部反転式	
176	國 35 國版 36	土器 杯	E9g18	057	南	(10.7)	3.7	6.2	40%	底部は張り。内面に凸凹。底部は外方に接続する大きい高台。底部は丸い。	内・灰・白 内・灰・白	3mm以下の石英を少含む	反転式
177	國 35 國版 36	土器 杯	1 E9g20	001a	上唇	(16.0)	4.15	13.0	10%	底部端にハの字型に聞く凸台。	内・外・灰白	砂粒はほとんど含まない	反転式
178	國 35 國版 36	土器 杯	1 E9g22	019	上唇	(13.8)	8.9 以上	—	—	口縁部の内面はハの字に聞く。	内・断・灰白・灰 内・灰	1m以下の灰色を中量含む	反転式
179	國 35 國版 36	土器 杯	2 g1	237	—	4.8 以上	(9.7)	底部の25%	底部は外方に接続する大きい高台。底部は丸い。	内・灰・白 内・灰・白・灰 内・断・灰白	1m以下の白色微粒を少量含む	反転式	
180	國 35 國版 36	土器 杯	E9g17	059	北	(21.4)	6.2 以上	—	—	口縁部は外反。底部は内面に直す。底部は丸い。	内・灰 内・灰・白・灰 内・灰・白	1m以下の灰色微粒を中量含む	反転式
181	國 35 國版 36	土器 杯	1 E9g18	183	226 (32.4)	9.9	—	—	口縁部の内面はハの字に聞く。底部折り返して上部縫。底部内面にサザンコ内面同心圓形平行タガのちかぎメ。内面同心圓形タガ。	内・灰 内・灰・白・灰 内・断・灰白	2m以下の白色微粒を多く含む	反転式	
182	國 37	瓦器 器	D9 井口附 内	—	3.4 以上	—	—	—	底部著しい	内・灰 内・オリーブ灰 内・浅黄褐	0.5mm以下の白色微粒を微量含む		
183	國 37	瓦器 器	D9	295	—	0.9 以上	(5.4)	底部 25%	底部著しい	内・灰 内・断・灰白	砂粒はほとんど含まない	反転式	
184	國 37 國版 37	土器 小皿	2 D102	260	7.5	1.6	—	95%	底部は平田気味。	内・外断・灰白	1m以下の灰色微粒を微量含む		
185	國 37 國版 37	土器 小皿	2 D102	260	8.3	2.0	—	96%	底部はや丸みを帯びる。口縁部の一部スス付着。壊滅。	内・灰 内・断・灰白	1m以下の灰色微粒を微量含む		
186	國 37 國版 37	土器 小皿	2 D102	260	8.2	2.2	—	90%	底部は丸みを帯びる。口縁部削り	内・灰 内・灰・白・灰 内・灰・白	1m以下の灰色微粒を少含む		
187	國 37 國版 37	土器 小皿	2 D102	260	7.8	2.0	—	85%	口縁部は薄く知い。	内・灰・白 内・灰・白	1m以下の灰色微粒を多く含む		

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色鉢を基にし、マンセル記号を省略している。

報告書 番号	団・ 段番 号	種類 名	調査 地区	溝層 位置	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
188 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.15	1.6	90%	口縁部は薄く削り、見込み部コビサエ 底部はやや丸みを帯びる 口縁部 底面に細い波線	内側：灰白 外・底白・灰黄	1mm以下の灰・灰色微粒を少額含む		
189 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.6	1.9	95%	底部はやや丸みを帯びる 口縁部 底面に細い波線	内側：灰白・灰黄 外・底白	1mm以下の灰色微粒を少量含む 古墳時代		
190 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.3	1.7	95%	底部はやや丸みを帯びる	内外断：底白	1mm以下の灰色微粒を少量含む		
191 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.3	1.9	100%	底部は平坦 口縁部は削り、全体 円形が付いている。見込み部にスカラ・ 軸孔工具による丸い痕跡がある	内・灰黄調・に赤・相 外・粗面者・に赤・粗	1mm以下の灰色微粒を少量含む		
192 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	7.7	1.8	75%	底部は平坦削り 口縁部削り 内面 底面に細い波線	内・二三重環・に赤・相 外・粗面者・に赤・相	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む	昭明期	
193 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.0	1.75	75%	底部は平底削り、コビオサエ工 具による丸い痕跡がある	内・浅黄・灰黄・に赤・相 外・二三重環・に赤・相	0.5mm以下の黒・褐色微粒を微量含む		
194 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.6 × 8.8	2.0	98%	底部は平底削り 互・冷め割れあり	内・浅黄・に赤・相 外・浅黄	1mm以下の白・褐色微粒を微量含む		
195 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.2	1.7	90%	底部はやや丸みを帯びる 口縁部 底面に細い波線	内・黄 外・二三重環・に赤・相 内・黄 外・二三重環・に赤・相	5mm人の皮色顔 1個 1mm 以下の灰・白色を少量含む		
196 団37 段37	土師器 小皿	Z D102	260 下層	8.8	1.8	85%	底部は平底削り コビオサエ工 具による丸い痕跡がある	内・灰黄 外・底白・灰黄・浅黄相 内・底白	1mm以下の灰・白色を少額含む		
197 団37 段37	土師器 皿	Z D10	260 下層	10.8	4.4	90%	底部は平底 脊柱巻き上げ成形 か？ 外底部板状化	内外断：底白	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む		
198 団37 段37	土師器 皿	Z D10	260 下層	11.0	3.7	75%	底部は平底削り 板状底直立 見込み部ハサウエーナメル	内・灰白・灰黄・灰 外・灰	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む		
199 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	11.4	4.0	98%	底部は平底削り 痕跡部の端にコ ビオサエ工 具底部板状化	内・灰白・浅黄 外・浅黄・灰 内・底白	1mm人の赤色顔化粧 1個 1 mm以下の褐色微粒を少額含む		
200 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	12.2	3.6	80%	底部は平坦	内・灰黄・浅黄・明褐 外・浅黄・に赤・相 内・底白	2mm人の灰化粧 1個 1mm 以下の灰・褐色を少量含む		
201 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	13.0	3.0	70%	底部は平底 体部コビオサエ 工具による小孔みだり	内外断：底白	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む		
202 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	13.7	3.25	80%	体部下平板状工具による小孔み だり	内・碧・浅黄 外・碧 内・底白	5mm人の赤色顔化粧 1個 1mm 以下の褐色微粒を少額含む		
203 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	12.9	3.4	85%	底部は小さい 体部下平板状工 具による小孔みだり	内外断：に赤・相 内・底白	1mm以下の灰・白色微粒 を少額含む		
204 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	14.2	3.5	85%	底部は平底削り 体部コビオサエ 工具による小孔みだり	内・灰黄 外・灰黄・相 内・底白	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む		
205 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	13.2	3.5	80%	底部は平底削り 体部コビオサエ 工具による小孔みだり	内・灰 内・底白	0.5mm以下の褐色微粒を微量含む		
206 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	13.9	3.55	75%	底部は平底 体部コビオサエ 工具による小孔みだり	内・灰黄・浅黄 外・灰黄・に赤・相 内・底白	0.5mm以下の褐色微粒を少量 含む		
207 団37 段37	土師器 皿	Z D102	260 下層	13.5	4.0	90%	底部は丸みを帯びる 体部は手筋 工具による小孔みだり	内・碧 外・碧 内・底白	5mm人の赤色顔化粧 1個 1mm 以下の褐色微粒を少額含む		
208 団37 段37	瓦器 皿	Z D102	260 壁面ト レンジ	8.0	1.8	100%	底部は丸みを帯びる いぶし 加工が一部に行き渡らぬ状態	内・灰 外・灰 内・底白	1mm以下の灰・褐色微粒 を微量含む		
209 団37 段37	瓦器 皿	Z D102	260 壁面ト レンジ	7.6	1.6	90%	底部は丸みを帯びる 一部いぶし 加工が無し	内外・灰 内・底白	1mm以下の灰・白色微粒を微量 含む		
210 団37 段37	瓦器 皿	D102	260 壁面ト レンジ	7.8	1.7	75%	体部は丸みを帯びる 体部口 縁部は削り	内外・灰・暗灰 内・底白	0.5mm以下の白色微粒を少量 含む		
211 団38 段38	瓦器 皿	Z D10	260 壁面ト レンジ	8.4	2.2	100%	底部は丸みを帯びる 外底部 朱引口削りのナメル 见込み全体削 り 程度なし	内・黑・灰 外・灰 内・底白	1mm以下の白色微粒を微量 含む		
212 団38 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	8.0 × 7.7	1.7	95%	底部は丸みを帯びる 痕跡に よう別れ目 刻り 程度なし	内外・灰・暗灰 内・底白	砂粒はほとんど含まれない		
213 团38 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	8.7	1.7	98%	底部は平底削り 口縁部外面部削 り 程度なし	内・底白	砂粒はほとんど含まれない		
214 团38 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	8.8	1.85	100%	底部は丸みを帯びる いぶし 程度が60%程度しかされていない 程度なし	内外・灰・暗灰 内・底白	砂粒はほとんど含まれない		
215 团38 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	8.2	1.6	75%	底部は平底削り 体部・口縁部は 表面が薄くみじかく見込み削り同心 環の刻文 置き目 有る砂粒によ る色斑有	内・底白 外・灰白・暗灰 内・底白	砂粒はほとんど含まれない		
216 团38 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	8.0	1.7	90%	底部は平底削り 体部・口縁部は 表面が薄くみじかく見込み削り同心 環の刻文 置き目 有る砂粒によ る色斑有	内・底白 外・灰白・暗灰 内・底白	1mm以下の白色微粒を少量 含む		
217 团37 段37	瓦器 皿	D102	260 下層	8.5	1.7	60%	底部は平底削り 斜面手掘れ的な形 状	内・灰 外・灰 内・底白	0.5mm以下の白色微粒を少量 含む		
218 团37 段38	瓦器 皿	D102	260 下層	14.0	4.1	5.6	90%	断面三角形の高台 一部いぶし 外底部の著しい	内・灰 外・灰・暗灰 内・底白	0.5mm以下の褐色微粒を少量 含む	
219 团37 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	14.4 × 13.1	4.9	5.4	98%	断面三角形の高台 一部いぶし不 規則な形状	内・灰 外・灰・暗灰 内・底白	1mm以下の灰・白色微粒を微量 含む	
220 团37 段38	瓦器 皿	Z D102	260 下層	12.7	4.0	4.8	95%	断面三角形の高台 一部いぶし不 規則な形状	内・灰 外・灰・暗灰 内・底白	砂粒はほとんど含まれない	

遺物観察表（上器類）

法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	國・國級 等級 番号	種類	調査地区	測定 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考
221	国437 国438	瓦器 板	2 D102	260 下層	13.7 4.8	5.0 90%	断面台形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ、体部内側同心円状、 足込部ループの痕文	内：灰白・灰 外：灰白・灰 面：灰白	1mm以下の白・灰色微粒を 微量含む	
222	国437 国438	瓦器 板	U102+ u2	260 下層	11.8 3.6	4.6 95%	断面二角形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ、体部内側同心円状、 足込部ループの痕文	内：灰・灰白・灰白 外：灰白	0.5mm以下の白・灰色微粒を 微量含む	
223	国437 国438	瓦器 板	D102	260 下層	13.4 3.8	5.8 80%	断面台形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 内部部分的な不規 則な文	内：灰・灰白 外：灰白	0.5mm以下の灰白微粒を微量 含む	
224	国437 国438	瓦器 板	D102	260 下層	14.8 4.7	5.2 50%	断面台形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 体部内側溝溝状の 痕文	内：灰・灰白 外：灰白	砂粒はほとんど含まない 反転復元	
225	国437 国438	瓦器 板	S925	260 下層	14.5 4.6	6.0 75%	断面三角形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 内部不規則な痕文	内：灰 外：灰白	0.5mm以下の白色微粒を微量 含む	一部反転形
226	国438 国438	瓦器 板	D102	260 下層	14.1 4.35	4.6 60%	断面台形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 体部内側同心円状、 足込部ループの痕文	内：灰・灰白・灰 外：灰白	4mm人の黒色1個 1mm以 下的黑色粒を少額含む	一部反転形
227	国438 国438	瓦器 板	D102	260 下層	13.8 4.25	4.8 90%	断面三角形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 内部不規則な痕文	内：灰・オーリーブ 外：灰白	0.5mm以下の白色微粒を微量 含む	
228	国438 国438	瓦器 板	D102	260 下層	14.3 4.1	4.8 60%	断面三角形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 体部内側同心円状、 足込部不明瞭な痕文	内：暗灰 外：灰・暗灰 面：灰白	0.5mm以下の白色微粒を微量 含む	一部反転形
229	国438 国438	瓦器 板	D102+ u2	260 下層	14.8 4.1	4.5 75%	断面半球形の高台、体部外側ユビオ サエ+ナデ 体部内側同心円状、 足込部の痕文	内：灰・灰白 外：灰白	1mm以下の白色微粒を微量 含む	
230	国438 国438	瓦器 板	2 D102	260 下層	9.5 2.4	3.8 85%	断面二角形の高台、高台内側ラフテ スするる跡、足込部ループ状跡 並が見られない	内：灰 外：灰白	1mm以下の白色微粒を少額 含む	
231	国438	瓦質土器 盤	2 D102	260 下層	(20.0) 7.0 以上	— 2.2 以上	口縁部は直立したち外反 端部 20%は外方に垂 体部外側平行タキ 見辺部に文	内：暗灰 外：灰 面：灰白	1mm以下の白色粒を多く含 む	反転復元
232	国438 国438	青白磁 盤	2 D102	260 下層	— 2.2 以上	3.4 3.4	30% 見辺部に文	糊：明灰 糊面：灰白	糊	反転復元 銀盤底 13世紀
233	国438	磨擦質土 器 盤	E9g18	057	(32.8) 11.0 以上	— 5%	体部外縁 オ縁部下に弧状 見辺部に文	内外：灰 内：暗灰	4mm人の白色1個 1mm以 下的黒・灰色粒を中量含む	反転復元 電鍍系底部
234	国44 国44 国39	土器 盤 小皿	I E9g20+ e20	001-a	7.4 2.0	75%	底面はやや丸みを帯びる 内外底 部ラフテス	内：灰 外：黄 面：灰白	1mm以下の白色微粒を多く含 む	一部反転形
235	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	01-a 中層	7.5 2.2	75%	底面は丸みを帯びる 口縁部は僅 く外反	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の白色微粒を微量 含む	
236	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	01-a 中層	8.0 2.25	50%	底面は丸みを帯びる	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を少額 含む	一部反転形
237	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	上層	8.3 2.3	85%	底面は平田気味 外底部板口圧痕 見辺部に文	内：灰 外：灰 面：灰白	1mm以下の灰・黒・褐色 粒を少額含む	
238	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	上層	8.7 2.3	90%	底面は丸みを帯びる 口縁部・伴 底部に粘土結合部	内：灰 外：灰 面：灰白	1mm以下の灰白色・赤色微 粒を中量含む	
239	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	上層	8.2 2.3	75%	底面は丸みを帯びる 口縁部端部 外底部板口圧痕	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の灰白色・赤色微 粒を少額含む	糊明細
240	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	001-a 中層	11.7 2.75	90%	底面は平田・板口圧痕・ビヨウサ エ+ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	3~5mmの白色粒、1mm以 下の白色粒を少額含む	
241	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20+ e20	001-a	12.7 3.9	90%	底面は小さく深い 外底部板口圧 痕によるラフテス	内：淡 外：灰 面：灰白	1mm以下の白色微粒を少額 含む	
242	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 上層	(12.3) 3.1	75%	底面は平田気味 外面部から底 部ビヨウサエ+ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	2mm以下の灰色粒・赤色酸 化粒を少額含む	一部反転形
243	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 上層	12.9 4.1	55%	底面は平田 外面部から底部 ビヨウサエ+ナデ	内：灰白 外：灰 面：灰白	4mm人の白色化粒約1個 1 mm以下の灰白色・赤色酸化 粒を中量含む	
244	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 中層	12.05 3.6	75%	底面はやや丸みを帯びる パテ工具 底部ビヨウサエ+ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を中量 含む	
245	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20+ e20	001-a	(12.5) 4.0	50%	底面は平田気味 外面部から底 部ビヨウサエ+ナデ 外面全株 付着剥離か?	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を多く 含む	一部反転形
246	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 下層	13.4 3.7	80%	底面は平田 深い板口圧痕 体部 外底部から底部ビヨウサエ+ナデ	内：淡 外：灰 面：灰白	1mm以下の赤色微粒を少 量含む	
247	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 上層	13.4 3.9	95%	底面は丸みを帯びる 板口圧痕 体部外底部ビヨウサエ+ナデ	内：淡 外：灰 面：灰白	1mm以下の赤色微粒を少額 含む	
248	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	001-a 中層	12.3 3.7	75%	底面は丸みを帯びる 頭・板口圧 痕 体部外底部ビヨウサエ+ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	1mm以下の白色微粒を多く含 む	
249	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	001-a 中層	13.0 4.05	90%	底面はやや丸みを帯びる 頭・板 口圧痕 体部ビヨウサエ+ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の白色粒・赤色酸 化粒を少額含む	
250	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g20	001-a 上層	13.5 3.65	95%	底面はやや丸みを帯びる 外面部 から底部ビヨウサエ+ナデ 内面 大穴付	内：淡 外：灰 面：灰白	0.5mm以下の灰色粒・赤色酸 化粒を少額含む	
251	国44 国39	土器盤 小皿	I E9g21	001-a	14.0 2.9	50%	口縁部大きく外反 器壁薄い 底面ハラフ工具ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	1mm以下の赤色酸化粒・金 雲母を微量含む	一部反転形 京都本山土器 器皿
252	国44	土器盤 小皿	I E9g21	001-a 中層	(14.6) 3.2	25%	口縁部大きく外反 器壁薄い 底面ハラフ工具ナデ	内：灰 外：灰 面：灰白	3mm人の石英 1個 1mmの 金雲母 1個含む	反転復元 京都本山土器 器皿

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	図版番号	種類	調査区分	測定部位	法量			残存率	形態・技法	色調	地土	備考
					口径cm	高さcm	底径cm					
253	図44	土師器皿	1 E9201 e20	001-a	(19.0)	3.5		20%	口縁部大きく外反。京都系土器 見込部に鉢状工具ナシ?	内:灰白 外:灰黄 底:灰黄 内:灰白・黄	1mm以下の赤色顔化料と金 雲母を微量含む	反転復元 京都系土器
254	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 中幅	7.0	1.4		100%	底部は平底 外面部鉢状工具によ るナシ	内:灰白 外:灰白・灰 内:灰白・黄 外:浅黄	0.5mm以下の白色顔料・白色顔 料を中量含む	
255	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E9202	001 中幅	6.4	2.0		95%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	1mm以下の白色顔料と金 雲母を微量含む	
256	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	6.7	1.55		100%	底部は平底 外底部鉢状工具によ るナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	0.5mm以下の赤色顔化料を少 量含む	
257	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.0	1.6		100%	底部は平底 外底部鉢状工具によ るナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	0.5mm以下の赤色顔化料を少 量含む	
258	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.5	1.7		95%	底部は平底 外底部鉢状工具によ るナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	0.5mm以下の白色顔料を微量含 む	
259	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.2	1.8		100%	底部は平底 壁部は丸みを 帯びる 外面の底体部に粘土接合 部によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	1mm以下の白色顔料を微量含む	
260	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.0	1.5		100%	底部は平底 壁部は丸みを 帯びる 外面の底体部に粘土接合 部によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	1mm以下の赤色顔化料を 微量含む	
261	図45 同46	土師器皿	1 E919	001-b 下幅	6.5	1.9		100%	底部は丸みを帯びる 口縁部・体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・灰 外:灰白	4mmの大粒の白色顔料を含む	
262	図45	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	7.2	2.0		80%	底部はやや丸みを帯びる 目口压 痕・口縁部に著しい 体部粘土接 合部によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の灰白色・赤色 顔化料を中量含む	
263	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 中幅	6.7	1.7		98%	底部は丸みを帯びる 内面へ状 況によるナシ 体部粘土接合部 工具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:灰白	1mm以下の灰白色・赤色 顔化料を少量含む	
264	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	7.25	2.0		98%	底部はやや丸みを帯びる 形は 整っている	内:灰白 外:灰白 内:浅黄	1mm以下の白色顔料を多量 含む	
265	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	6.8	2.2		80%	底部は凸凹で丸みを帯びる 目口压 痕・口縁部によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄	1mm以下の白色顔料・赤色 顔化料を少量含む	
266	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	6.8	2.1		100%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:灰白・黄 外:浅黄	1mm以下の白色顔料を 微量含む	
267	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	7.0	1.9		100%	底部は丸みを帯びる 外面の 底体部に粘土接合部、外底部鉢 状工具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔化料を 微量含む	
268	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E9201	001-b 中幅	7.4	0.2		98%	底部は丸みを帯びる 全体的に整 度を落として調整不規	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料と赤色顔 化料を多く含む	
269	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001 上幅	6.9	2.0		90%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	0.5mm以下の赤色顔料・赤色 顔化料を微量含む	
270	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	6.7	1.9		100%	底部は平底時 両面の底体部 に粘土接合部、口縁部にスカリ付 着によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の灰・褐色顔料を 中量含む 透明感	
271	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	7.7	1.8		90%	底部はやや丸みを帯びる 口縁部 によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の灰・褐色顔料・ 赤色顔化料を多く含む	
272	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001	7.5	2.1		80%	底部は丸みを帯びる 体部口縁部 によるナシ	内:浅黄 外:灰白	0.5mm以下の白色顔料を少量 含む	
273	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	7.55	1.85		95%	底部はやや丸みを帯びる 口縁部 によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	0.5mm以下の白色顔料を多く 含む	
274	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 中幅	7.2	1.8		100%	底部はやや丸みを帯びる 体部口 縁部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシのうちナナチ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料を 多く含む	
275	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001 下幅	7.0	1.7		100%	底部は丸みを帯びる 口縁部・体 部に粘土接合部	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	0.5mm以下の白色顔料を 微量含む	
276	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 中幅	7.4	2.0		100%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料を 微量含む	
277	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.3	1.5		90%	底部は平底時 口縁部・体部底 部に粘土接合部	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	3mmの褐色色3個、1mm以 下の白色顔料を少量含む	
278	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 下幅	7.3	1.85		100%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、口縁部にスカリ付 着によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料を 微量含む	
279	図45 同46	土師器皿 小皿	2 E901	001 上幅	6.8	2.4		100%	底部は丸みを帯びる 外面の底体 部に粘土接合部、外底部鉢状工 具によるナシ	内:浅黄 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の褐色顔料・赤色 顔化料を多く含む	
280	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 中幅	6.4	1.35		100%	底部は平底時 測定時の割れ あり	内:灰白・浅黄 外:灰・灰 内:灰白・浅黄 外:灰	1mm以下の白色顔料・赤色 顔化料を微量含む	
281	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 中幅	8.0	1.6		85%	底部は平底 測定時の割れ あり	内:灰白・浅黄 外:灰・灰 内:灰白・浅黄 外:灰	1mm以下の白色顔料・赤色 顔化料を微量含む	
282	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E920	001-b 中幅	7.5	2.2		100%	底部は丸みを帯びる 頭部は厚い 全体的に崩れが少しして調節不 規	内:灰白・浅黄 外:灰・灰 内:灰白・浅黄 外:灰	1mm以下の白色顔料を 多く含む	
283	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 上幅	7.9	2.6		75%	底部は丸い 体部厚壁	内:灰白・浅黄 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	3mm以下の褐色顔料と1mm 以下の白色顔料を少含む	
284	図45	土師器皿	1 E921	001-b 中幅	6.9	2.3		80%	底部は平底時	内:浅黄 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料と0.5 mm以下の白色顔料を少含 む	
285	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E921	001-b 上幅	8.5	2.5		95%	底部は丸みを帯びる	内:灰・灰白 外:灰・浅黄 内:灰白 外:灰白	1mm以下の白色顔料・白色 顔料を微量含む・金雲母1 個含む	
286	図45 同46	土師器皿 小皿	1 E919	001-b 下幅	7.9	1.9		90%	底部は平底時 壁部に接合部 によるナシ	内:灰白 外:灰白 内:浅黄 外:灰白	1mm以下の白色顔料を 微量含む 透明感	

遺物観察表（上器類） 法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘土にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	国・國旗 番号	種類 器種	調査区 域	測定 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm			
287	国 45	土器器 皿	I E920	001 下削	8.8	2.35	90%	底部は丸みを帯びる 外底部板付 皿	内：灰白・浅黄褐色 外：灰白 断：浅黄色	8mm以下の灰色微粒を微量含む
288	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E921 22	001-b 中削	6.3	1.5	100%	底部は平底 平底板付工具によ るナデ 体部・口縁部外部布目	内：灰白・橙 外：灰白	1mm以下の灰・褐色微粒を含む
289	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E920	001 中削	4.8	1.9	75%	底部はやや丸みを帯びる 体部・ 口縁部はわずかに凹曲する	内外断：灰白・灰黃 内：灰白	1mm以下の灰・褐色微粒を多量含む
290	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E920	001 下削	11.8	2.3	90%	底部は平田気味 板付皿底 外部 板付工具によるナデ	内外断：灰白	1mm以下の灰色粒を微量含む
291	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E921	001 中削	11.2	2.6	90%	底部はやや丸みを帯びる 板付皿底 底盤は厚い 内面スルガれ跡	内：浅黄褐色 外：灰白	0.5mm以下の灰色粒を多量に 含む
292	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E921	001-b 小削	10.7	2.0	85%	底部は平底 板付皿底 体部端面 底盤結合部	内：灰白 断：灰白	2mm以下の灰褐色・1mm 以下の灰色微粒を微量含む
293	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E919	001-b 下削	9.7	2.5	85%	底部は平田気味 板付皿底 体部 端面ユビサエ・ナデ	内：灰白 外：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を中量 含む
294	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E919	001-b 下削	10.0	3.1	100%	底部は平田気味 板付皿底 体部 端面粘土層合板 断面素面	内：浅黄褐色 外：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を中量 含む
295	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E920	001 下削	10.8	2.6	85%	底部は平田気味 板付皿底	内外断：灰白	1mm以下の赤色酸化粒を 少く含む
296	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E919	001-b 小削	11.7	2.55	95%	底部平田型味 板付皿底	内断：灰白 外：灰白	0.5mm以下の灰・褐色微粒を多 く含む
297	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E1061	2 中削	10.8	2.15	90%	底部は平田気味 板付皿底	内外：灰白 断：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を多く 含む
298	国 45 國旗 40	土器器 皿	I E921	001-b 上削	10.8	2.1	95%	底部は平田 板付皿底	内：灰白 外：灰白 断：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を微量 含む
299	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E921 22	001-b 中削	11.8	2.4	98%	底部は平田気味 外底部板付工具 によるナデ 体部・口縁部外面有 目	内外：灰白・灰黃 断：灰黃	1mm以下の白・灰色微粒を 微量含む
300	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E920	001-b-1 中削	10.8	2.2	100%	底部は平田気味 外底部板付工具 によるナデ	内外：灰白・浅黃褐色 断：灰黃	1mm以下の褐色微粒を微量 含む
301	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E925	001 中削	9.8	2.55	100%	底部は平田気味 外底部は板状工 具によるナデ	内：灰白 外：灰白	1mm以下の灰褐色微粒を微量 含む
302	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	2 上削	10.9	2.25	100%	底部はやや丸みを帯びる 外底部 は板状工具によるナデ 形は整っ ている	内外：淡黃・淡黃褐色 断：灰白	1mm以下の灰褐色微粒を多量 に含む
303	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	001 上削	10.1	2.7	95%	底部は平田氣味 板付皿底	内：灰白・浅黃褐色 外：淡黃褐色	1mm以下の灰色粒・赤色酸 化粒を少額含む
304	国 45	土器器 皿	I E919	001-b 中削	9.8	2.3	95%	底部平田氣味 外底部板付皿底	内外：灰白・浅黃褐色 断：灰白	1mm以下の灰褐色微粒を少 額含む
305	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E919	001-b-1 中削	12.5	2.8	85%	底部は平田氣味 静止系切	内外：灰白・浅黃褐色 断：浅黃褐色	4mm以下の赤色酸化粒を少 量含む 1mm以下の黑色粒を少 量含む
306	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E921 22	001-b 小削	11.6	1.9	98%	底部は平田 板付板状工具によ るナデ 体部・口縁部外面有目 体 部・口縁部工具による洗出のナデ	内外：灰白・浅黃褐色 断：灰白	1mm以下の褐色微粒を微量 含む
307	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E920	001-b 上削	11.5	2.7	85%	底部は平田 洗出板付工具によ るナデ 外底部板付皿底 内面部 板付工具によるナデ	内：灰白	1mm以下の褐色微粒を少量 含む 内部断：無
308	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	2 中削	11.7	2.2	100%	底部は平田 洗出板付工具によ るナデ 体部・口縁部外面有目 体 部・口縁部工具による洗出のナデ	内：灰白 外：灰白	1mm以下の白・赤色酸化粒を 微量含む
309	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E919	001-b 下削	9.9	2.3	100%	底部はやや丸みを帯びる 体底部 底盤は板状工具によるナデ	内：灰白・灰黃 断：灰黃	0.5mm以下の灰色微粒を微量 含む
310	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	001 中削	10.9	2.5	90%	底部平田氣味 板付皿底	内外：浅黃褐色 断：灰白	0.5mm以下の白・灰色微粒を多 く含む
311	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E925	2 中削	10.6	2.25	75%	底部は平田氣味	内外断：灰白	0.5mm以下の灰褐色微粒を多く 含む
312	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E920	001-b 下削	9.5	2.6	95%	底部は平田氣味 外底部板付 皿底 磨き調節でやみいし	内：灰白・灰黃 外：灰白・浅黃褐色	1mm以下の赤色酸化粒を微 量含む
313	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E921	001-b 中削	11.1	2.4	85%	底部は平田氣味 体部外部布目 外底部板付工具によるナデ	内外：灰白・灰黃 断：灰黃	1mm以下の灰色・白色微粒 を多く含む
314	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E920	1 中削	10.9	2.4	80%	底部平田氣味 外底部板付皿底 口縁部三次付茎	内：灰白 外：灰白・浅黃褐色	0.5mm以下の灰色微粒を含む 明瞭度？
315	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	2 上削	11.0	2.7	90%	底部は平田氣味 調整脚部によ りナデ 外底部板付工具によるナ デ？	内：灰白・淡黃 外：灰白	1mm以下の灰色・黑色微粒 を多く含む
316	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E1061	2 上削	11.05	2.5	95%	底部は平田氣味 磨減が著しい	内：浅黃褐色・淡黃褐色 外：浅黃褐色	0.5mm以下の灰色微粒を多量 に含む
317	国 45	土器器 皿	I E919	001-b 小削	(12.4)	2.8	75%	底部は平田氣味 板付皿底 口 縁部	内：浅黃褐色 外：灰白	1mm以下の灰・褐色微粒・赤 色酸化粒を中量含む
318	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E919	001-b 下削	11.8	2.1	95%	底部は平田氣味	内：灰白	0.5mm以下の灰褐色微粒を多く 含む
319	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E919	001-b 下削	11.1	3.0	100%	底部は平田氣味 強い板付皿底 底部ユビサエ	内：灰白 外：灰白・浅黃褐色	0.5mm以下の灰色微粒を多量 に含む
320	国 45 國旗 41	土器器 皿	I E921	001-b 上削	13.5	4.2	95%	底部は平田 板付皿底 体部 底部ユビサエ・ナデ	内：灰白 外：灰白・浅黃褐色	3mm以上の赤色酸化粒 1個 0.5mm以上の白・灰・赤色酸 化粒を微量含む

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している。

報告書番号	団・段落番号	種類	調査区分	調査位置	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
321	国45 国46 国47	土顎器 皿	I E920	001-b 下削	13.0 3.6	75%	底部は平底 口縁部の一部スリット付 素朴な成型	内:浅黄褐色 外:灰白 面:浅黄	1mm以下の灰色粘・赤色酸化物を微量含む	透明感	
322	国45	土顎器 皿	I E921	001-b 中削	12.2 3.7	85%	底部は平底型味 板目彫刻?	内:浅黄褐色 外:灰白	1mm以下の灰白色粘・赤色酸化物を少額含む		
323	国45 国46 国47	土顎器 皿	I E920	001-b 下削	12.7 3.6	95%	底部は平底型味	内:浅黄褐色 外:灰白	2mm以上の灰色粘・1mm以下の灰色粘を少量含む		
324	国45 国46 国47	土顎器 皿	I E9	001 サブレ	13.0 2.25	90%	底部は小さく平底 体部口縁部側面が外反	内:に赤い黄褐色 外:灰白	1mm以下の全表面・灰白色粘・赤色酸化物を少量含む	立原土師器皿	
325	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E920 e20	001-a 下削	(22.0) 11.3 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出 外部斜スリット付	内:縁・端部 外:縁・に赤い黄褐色 面:灰白	3~5mmの灰白色粘・5mm以下の石英1個・1mm以下の石英・灰白色粘・赤色酸化物を少額含む	反転復元	
326	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E920 e20	001-a	(19.0) 12.8 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出 外部斜スリット付	内:縁・端部 外:縁・に赤い黄褐色 面:灰白	1mm以下の灰黑色・赤色酸化物を多く含む	反転復元	
327	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E920 e20	001-a b 下削	23.0 19.5 以上	75%	口縁部はくの字彫り曲面 全周に斜スリット付	内:に赤い縁・黒 外:に赤い縁・黒 面:に赤い縁	1mm以下の灰白色粘・赤色酸化物を多く含む	一部灰白色	
328	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E921	001 下削	(22.0) 8.5 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出 外部斜スリット付	内:に赤い黄褐色 外:斜スリットに赤い縁・黒 面:灰白	3mm以下の石英を微量 0.5mm以下の灰白色粘を少額含む	反転復元	
329	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E921	001-b 上削	(22.8) 9.4 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を上方に張出 外部斜スリット付	内:縁・端部 外:斜スリットに赤い縁・黒 面:灰白	1mm以下の白色微粒を少量含む	反転復元	
330	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E920 e20	001-a 下削	(22.8) 12.5 以上	-	体部から口縁部にかけて斜面 内側斜面に内凹して口縁部下方に横方向に開いた斜面 外部斜面に平行で斜面を下方に引く 内面斜面方向へ向かう	内:灰白色粘 外:斜面に赤い縁 面:に赤い縁	1mm以下の白灰色粘・赤色酸化物を少額含む	反転復元	
331	国46 国46 国47	土顎器 皿	I E920	001-b 上削	(17.3) 3.8 以上	-	5%	口縁部は内部を斜面から上方へ立ち上がる 体部外表面平行タキシマ形	内:縁・端部 外:灰黃褐色・黒褐色	3mm以下の灰白色粘・長石・灰白色粘・赤色酸化物を少量含む	反転復元
332	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E920 e20	001-a 下削	(17.8) 5.3 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を上方に張出 外部斜スリット付	内:体部から口縁部にかけて斜面の内側斜面に内凹して口縁部下方に横方向に開いた斜面 外部斜面に平行で斜面を下方に引く	1mm以下の石英・白・灰色粘を多く含む	反転復元	
333	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E921	001-b 上削	(20.8) 5.9 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出	内:縁・端部 外:灰黃褐色・灰白	1mm以下の白色微粒を少量含む	反転復元	
334	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E921	001-b 中削	(31.0) 9.2 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出	内:灰白色粘 外:灰白	1mm以下の白色微粒・1mm前後の長石・白色粘を少量含む	15世紀前半	
335	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E919	001-b 下削	(12.4) 4.7 以上	15%	底盤は平底 留矢付がるが4脚なり 口縁部端部に留矢し上方に張出 体部外表面方向・口縁部斜面方向・斜面方向へ向かう	内:灰 外:灰・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 16世紀		
336	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E921 d21	001-b 上・中 削	(60.4) 6.9 以上	(58.6) 5%	底盤は平底 留矢付 体部直立 体部外表面に斜面 突起 突起上斜面にサミキ 体部斜面方向へ向かう	内:灰 外:灰・留矢	1mm以下の石英・赤色酸化物を少量含む	反転復元 16世紀	
337	国46 国46 国47	瓦質土器 皿	I E919	001-b 中削	-	4.5 以上	-	口縁部はくの字彫り曲面 端部を下方に張出	内:外 外:灰	1mm以下の灰白色粘を多く含む	16世紀
338	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E925	001 小削	(13.4) 4.8 以上	-	15% 瓦縁 瓦縁薄く外反	輪・留矢・オーリーブ 輪・留矢	細密 磨耗はほとんど含まない 16世紀前半		
339	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E920	001-b 上削	(11.0) 4.6 以上	-	5% 瓦縁 瓦縁薄く外反 留矢部削け	輪・留矢・黒輪 輪・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 16世紀前半		
340	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E921 22	001-b 中削	-	4.2 以上	3.7 50%	瓦縁二重削け 高台内わずかに削む	輪・留矢・黒輪 輪・留矢	細密 1mm以下の白色微粒を少額含む	一般版元 15世紀後半
341	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E920	001-b 中削	-	3.2 以上	50%	瓦縁 切り出し削向 高台内わずかに削む 底盤は平底	輪・留矢・黒 輪・留矢・に赤い黄 輪・留矢	1mm以下の赤色微粒を微量含む	一般版元 16世紀前半
342	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E919	001-b 下削	(10.4) 2.5 以上	5.5 30%	瓦縁 体部・口縁部内面気泡に間に掛く 高台内削向 端部の丸み	輪・オーリーブ灰・灰 輪・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 16世紀前半		
343	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E920	001-b 上削	(10.5) 2.1 以上	6.0 40%	瓦縁 瓦縁まるかに削反 瓦縁本体に全周であるが、輪・留矢見込部にはまだある	輪・留矢・オーリーブ・留矢 輪・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 16世紀前半		
344	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E920	001-b 上削	-	1.0 以上	5.2 33%	底盤 基本的に全輪 高台内削向 留矢部削向花のスラッシュ	輪・留矢・リーブ・灰 輪・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 16世紀前半	
345	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青 花瓶	I E922	001-b 上削	(13.8) 4.0 以上	-	5% 瓦縁 口縁部強く外反 体部外表面削前に削く瓦縁が5箇所以上ある	輪・オーリーブ灰・灰 輪・留矢	細密 磨耗は殆ど含まない 15世紀		
346	国46 国46 国47	瀬戸天青 高輪 日天青	I E919	001-b 下削	(26.6) 8.9 以上	-	口縁部は上方へ大きくなびく 瓦縁 5箇所以上	内:灰 外:留矢・灰 面:灰	3mm以下の黒色粘・1mm以下の白色粘を微量含む	反転復元 16世紀前半	
347	国47	留矢 輪	I E921	001-b 中削	(27.6) 8.1 以上	-	口縁部は上方へ大きくなびく 瓦縁 5箇所以上	内:留矢・灰 外:留矢・灰 面:灰	留矢 1mm以下の白色微粒を少額含む	留矢灰 16世紀前半	
348	国47 国47	留矢 輪	I E919	001-b 上削	(27.8) 9.2 以上	-	口縁部は上方へ大きくなびく 瓦縁 5箇所以上	外方:灰 内:留矢・灰 面:灰	0.5mm以下の白色微粒を微量含む	留矢灰 16世紀前半	
349	国47 国47	留矢 輪	I E920	00-b 1 中削	(27.6) 7.6 以上	-	口縁部は上方へ大きくなびく 瓦縁 5箇所以上	外方:灰 内:留矢・灰 面:灰	3~5mmの大白色斑を少額含む 2mm以下の白色微粒を微量含む	留矢灰 16世紀前半	

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘土にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	國・ 國歴 番号	種類	調査区 域	測定 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
350	国47 国歴42	磨光陶 器	I E918	001-b 上肩	(33.8) 6.3 以上	-	口縁部は上方へ大きいく延長 外方 に折り曲げて玉縁状。上面は内側・頬面 に斜めの段。底11.9cm・高15cm・幅 外反・斜め方向	黒褐色 15%	堅鉄	灰軽元 16世紀後半	
351	国47 国歴42	磨光陶 器	I E920	001-b 中・下 肩	-	9.7 以上	(13.6)	15% 横目11本・2cm 体部傾斜・周囲 斜め方向 見込2面三角形状	内・灰褐色・周灰 色・灰白・黒	堅鉄	灰軽元 16世紀後半
352	国47 国歴42	磨光陶 器	I E920	001 下肩	-	7.6 以上	-	口縁部は直立 縫部は前引曲げて 玉縁状	内・灰褐色・周灰 色・灰白・黒	1mm以下	15世紀後半
353	国47 国歴42	磨光陶 器	I E919	001-b 上肩	-	5.2 以上	-	口縁部は折り曲げて玉縁状	内・灰褐色・周灰 色・灰白・黒	堅鉄 4mm以下の白色譜を 微含む	15世紀後半
354	国47 国歴42	磨光陶 器	I E9619	001-b 中肩	(37.8) 7.4 以上	-	口縁部 10%	口縁部は外や反、縫部は折り曲げて玉縁 状。縫部は「ゴマ状」の内側	内・灰褐色・周灰 色・灰白・灰黒	8mmの白色譜1個、1mm 以下の白色譜を少額含む	灰軽元 3mm反転元 15世紀中期
355	国47 国歴43	磨光陶 器	I E9	001 上肩	-	6.6 以上	-	口縁部は折り曲げて玉縁状 外 縫部に2つの波状段	内・赤 色・灰褐色・周灰 色・灰白・灰	1mm以下	16世紀後半
356	国47 国歴43	磨光陶 器	I E9620	001-b 上肩	-	8.6 以上	-	口縁部は折り曲げて玉縁状 外 縫部に3つの波状段	内・赤 色・灰褐色・周灰 色・灰白	3~4mmの大白の白色譜を 微含む 3mm以下の白い譜を少額含む	16世紀後半
357	国47	磨光陶 器	I E9620	001-b 中肩	-	11.8 以上	-	肩部に切引「参右」か?	内・周灰 色・外・灰褐色・周灰 色・周灰	5mmの大白の白色譜を微含む 1mm 以下の白色譜を多く含む	16世紀後半
358	国47	縫織陶 小皿	I E9620	001-b 下肩	-	2.8 以上	3.5	35% 狹輪 底部切引斜切 外底部付近 縫跡	輪・灰褐色 輪・灰	堅鉄 斑跡は殆ど含まない	反転灰元 16世紀後半 削鉄元
359	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	001-b (15.4)	5.9 以上	-	8%	口縁部は外反 緩に内凹入 輪	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 16世紀後半 削鉄元 15世紀後半
360	国47 国歴43	青磁 碗	I E9 g 19	001-b 下肩	(12.0) 5.6 以上	-	15%	口縁部は外反する	輪・オリーブ灰 輪・灰	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
361	国47 国歴43	青磁 碗	I E1062	2 001 中肩	(11.8) 4.0 以上	-	10%	口縁部は肥厚し玉縁状になる 輪は薄い	輪・明オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
362	国47 国歴43	青磁 碗	I E9c21, zz	001-b 中肩	(15.0) 4.4 以上	-	15%	口縁部外側面微彫 体部外側ラフ 彫文	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
363	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	1 001-b 下肩	(14.3) 6.7 以上	5.4	30%	高台内凹輪 体部外側面切引斜 縫跡 内側の輪の部分に脱皮 込込断面輪内に突出	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 14世紀後半
364	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	1 001-b 上肩	(12.0) 3.2 以上	-	15%	口縁部 備蓄井付 備蓄井の単位は ほぼ同じ	輪・オリーブ灰・灰白 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 16世紀後半
365	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	1 001-b 下肩	-	2.5 以上	6.2 以上	底部 高台内凹輪 体部切引切りの文様 見込断面輪および輪花の側面 内側スタンプ文 「置」	輪・オリーブ灰 輪・灰白 輪・灰白	堅鉄	一部反転灰元 削鉄元 浅緑 15世紀後半
366	国47 国歴43	青磁 碗	I E9c21	001-b 上肩	-	4.9 以上	4.6 以上	50% 備蓄井付 備蓄井の輪は 薄い 質人じうしん 見込断面スタン プ文「置」	輪・灰白 輪・灰白 輪・灰白	ざっくりしている	一部反転灰元 削鉄元 15世紀後半
367	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	001-a 上肩	-	3.3 以上	6.08 以上	底部 質人じうしんの輪は折り取る 高台内 凹輪 見込断面輪	輪・オリーブ灰 輪・灰白 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 14世紀
368	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	1 001 上肩	-	1.8 以上	(5.4)	底部 質人じうしん 100% 質人じうしん 底部から高台内凹輪 見込断面輪の 目輪剥ぎ	輪・オリーブ灰 輪・灰白・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
369	国47 国歴43	青磁 碗	I c 21	001-b 上肩	-	2.7 以上	5.8 以上	底部 100% 質人じうしん 見込断面輪を 剥離	輪・明オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	一部反転灰元
370	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	1 001 上肩	-	3.7 以上	5.6 以上	底部 輪に質人じうしんの輪は 取り除く 高台内凹輪	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
371	国47 国歴43	青磁 碗	I E9620	001-b 上肩	-	2.0 以上	9.0 以上	口縁部 10% 体部後づ外反 体部外側面切引 斜縫跡	輪・明オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀
372	国47	青磁 碗	I E9619	001-b 中肩	-	1.2 以上	(7.3) 底部 50%	質人じうしんの輪を剝り取る	輪・明オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 16世紀後半
373	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	001-b 下肩	-	3.5 以上	-	口縁部は外方に屈曲し 縫部は上 方に試振 体部内側丸溝による輪 の姿	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	15世紀後半
374	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	001-b 中肩	-	2.9 以上	(8.6) 底部 50%	輪の輪を剥り取る	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
375	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	001-a 中肩	-	6.1 以上	(14.0)	輪は厚い	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
376	国47 国歴43	青磁 碗	I E9619	001-b 下肩	-	5.4 以上	-	底部 30% 輪部に蕉葉文	輪・オリーブ灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 15世紀後半
377	国48 国歴43	白磁 碗	I E9619	001-b 上肩	(11.1)	2.7	6.08	25% 輪壁は薄く 口縁部は強く外反 輪の輪を剝り取る	輪・明灰 輪・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 14世紀 漆塗の輪
378	国48 国歴43	白磁 碗	I E9619	001-b 上肩	(11.1)	2.7	6.08	25% 口縁部は外反する 質人じうしん の輪を剝り取る	輪・底部・断・灰白	堅鉄	反転灰元 削鉄元 16世紀末

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	団・段級 番号	種類 経緯	調査 地区	調査 層位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
379	国48 国49	白磁 皿	1 E9g19	001-b 下層	(12.0) (3.2) (6.5)	50%	口縁部は強く外反 倍付の軸を削り取る	輪・断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀末	
380	国48 国49	白磁 皿	1 E9g19	001-b 下層	(10.8) 2.35 以上	—	10% 口縁部は強く外反	輪・断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀末	
381	国48 国49	白磁 皿	2 E10g2	001 下層	(8.8) 2.25 (4.4)	50%	割高台・4箇所 倍付無輪 外面 体部下端部 割れ目 倍付スリット	輪・断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀後半	
382	国48 国49	白磁 皿	1 E9g21	001-a 上層	2.05 以上	—	5%	輪・貫生じる 灰白・にい・黄斑 断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀後半	
383	国48 国49	白磁 皿	1 E9g19	001-b 上層	— 1.7 以上	4.7 底部の 100%	高台内露窓 見込部鉢の輪脚部 輪・明リーフ灰 輪・灰・灰白	緻密	一脱毛輪 復元 16世紀半		
384	国48 国49	白磁 皿	1 E9g21	001-b 上層	— 1.4 以上	(4.2)	甚開底 底部付近露窓 高台内露 窓・・・十九里	輪・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀末	
385	国48 国49	瓷片 碗	2 E9g25	001 中・下層	(10.2) 4.55 以上	—	20% 口縁部内外面と底体部端の外側面 に複数 体部外付丹青等文	輪・灰白 輪・明黄色 断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀半	
386	国48 国49	瓷片 碗	2 E9g25	001 中層	— 4.1 以上	—	口縁部外表面輪脚に文獻部・内側 2重環線 体部外付花文	輪・灰白 輪・明黄色 断・灰白	緻密	發地鉢 15世紀後半	
387	国48 国49	瓷片 碗	1 E9g20	001-b 中層	— 1.2 以上	(4.9) 底部の 40%	高台は極く、付口は露窓 見込部 輪脚心で、側面部内に較濃文 高台の内には4字の語	輪・明灰 輪・青白 輪・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀半	
388	国48 国49	瓷片 碗	2 E9g25	001 中・下層	(10.2) 2.2 以上	— 30%	口縁部内外面と底体部端の外側面 に複数 文見込部文不明	輪・明灰 輪・明黄色 断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀末	
389	国48 国49	瓷片 碗	2 E9g25	001 上層	— 1.8 以上	4.8 底部の 100%	高台から高台内露窓 体部下端部 2以上 尺込部露窓 2条 地滑 甚開底 爪付付近露窓 体部下端部 甚開底 尺込部露窓 2条 地滑	輪・灰白 輪・青白 輪・灰白	ざっくりしている	2次焼成で含む ける 卵形 16世紀末	
390	国48 国49	瓷片 碗	1 E9g20	001 上層	— 1.9 以上	3.0 底部の 100%	甚開底 爪付付近露窓 体部下端部 甚開底 尺込部露窓 2条 地滑	輪・明灰 輪・明黄色 断・灰白	緻密	一脱毛輪 發地鉢 16世紀半	
391	国48 国49	瓷片 碗	2 E9g25	001 中層	— 2.7 以上	(10.0) 底部の 12.5%	甚口に難れ付砂付 爪見込部草花文?	輪・灰白 輪・明灰色 断・灰白	緻密	反転復元 漆州款 16世紀末	
392	国48 国49	瓷片 碗	1 E9g22	001-b 上層	— 1.7 以上	(2.6) 底部の 25%	甚開底	輪・明灰 輪・明黄色 断・灰白	緻密	反転復元 復元 16世紀	
393	国48 国49	土製品 皿	1 E9g19	001 中層	3.85 以上	径 1.1	90% 背状 手跡型	外・輪・灰白・灰黃	1mm以下 の赤色顔料を少許含む		
394	国51 国45	土製品 皿	1 E9g22	019 下層	(7.6)	2.2	35% 底部は丸みを帯びる 口縁部部壁 内凹断:灰白	—	0.5mm以下の赤色顔料を多く含む	一部脱毛輪	
395	国51 国45	土製品 皿	1 E9g21	019 下層	10.9	3.95	100%	内:灰・黄・燒 外:にい・燒・浅黃 断:灰白	1mm以下の白色顔料・赤色 顔料を小量含む		
396	国51 国45	土製品 皿	1 E9g21	019 中層	10.8	4.25	80% 底部は小さく深い	内:灰・浅黃 断:灰白	1mm以下の灰色・白色・褐色 顔料を多く含む		
397	国51 国45	土製品 皿	1 E9g21	019 下層	(9.0)	3.6 (7.3)	40% ハの字に開く高台 端部は丸い	内:外断:手鉢	1mm以下の赤色顔料を少 量含む		
398	国51 国45	瓦質土器 井手	1 E9g20	019 上層	(23.0)	9.8	— 20%	口縁部は内傾 口縁部下に段・3 コ方向に開く溝	内:灰・黃・黒褐 外:灰・黄・黒褐 断:灰	5mm以下の長石・石英・白 色顔料を多く含む	反転復元
399	国51 国45	白磁 皿	1 E9g21	019 上層	(9.8)	1.7 (6.4)	20% 口縁部の軸を削り取る 口凸	輪・明リーフ 断:灰白	緻密	反転復元 13世紀	
400	国51 国45	土製品 皿	1 C16-17	027	7.0	1.7	75% 底部はやや丸みを帯びる 盤口圧 痕・底体部端粘土板合	内:外・浅黃	1mm以下の赤色顔料を中 量含む		
401	国51 国45	土製品 皿	1 E9g17	027	5.8	1.6	100% 底部は丸ややくを帯びる 盤口圧 痕・底体部端粘土板合	内:外・浅黃 断:灰・浅黃	2mm以下の赤色顔料を中 量含む		
402	国51 国45	土製品 皿	1 E9g17	027	(11.8)	2.5	40% 底部は平坦 盤口圧痕 内面輕い 部端工具ナデ	内:外・浅黃 断:灰・浅黃	1mm以下の白色顔料を微量, 0.5mm以下の赤色顔料を少 量含む	反転復元	
403	国51 国45	瓦質土器 井手	1 E9g17	027	16.45	3.4	75% 灰白・全周 高台内目跡3箇所	輪・浅黄・オリーブ黄 断:灰・灰白	1mm以下の白色顔料を微量, 0.5mm以下の赤色顔料を少 量含む	16世紀後半	
404	国51 国45	瓦質土器 井手	1 E9g17	027	(5.5)	3.45 (3.6)	35% 灰白 底部斜め切? 口縁部端 上面に施・外底端・内面端	輪・オリーブ黄 断:灰・浅黃	1mm以下の白色顔料を 微量含む	反転復元 16世紀半	
405	国51 国45	前輪 轆轤	1 E9g17	027	(26.6)	10.3 以上	— 20% 端部は上方へ大きく拡張	内:灰・浅 外:手鉢 断:灰白	6mm人の白色襷 1組, 3mm以 下の白色粒を少量含む	反転復元 15世紀後半	
406	国51 国45	前輪 轆轤	1 E9g17	027	(35.6)	5.15 以上	— 20% 口縁部は折り曲げて玉環状	内:灰・白・灰白 外:にい・灰・灰白 断:灰・灰白	1mm以下 の白色顔料を微量, 1mm以下の白色顔料を少 量含む	16世紀後半	
407	国51 国45	青磁 盤	1 E9g16-17	027	—	5.8 以上	(5.4) 底部 底面 端部 端部	輪・オリーブ灰 断:灰・灰白	輪・緻密	反転復元 藍色 15世紀後半	
408	国51 国45	青磁 盤	1 E9g18	027	(27.2)	4.8 以上	— 20% 口縁部はわずかに外反 体内部 底丸型による底・花枝の文様	輪・明灰 断:灰・灰白	輪・緻密	反転復元 藍色 15世紀後半	
409	国55 国45	土製品 小皿	2 E9g17	258 上・中 層	6.8	1.9	— 75% 底部は平坦 器壁厚い	内:投織 断:浅黃	0.5mm以下の白色顔料・赤色 顔料を微量含む		

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘土にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	國・級別 器種番号	種類 器種	調査区 地区	測量 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考
410	国55 国45	土師器 小皿	2 D9a25	258 E+中 等	6.8 × 6.4	1.6	100%	底部は平田気味 廉著しく調整 不透明	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:浅黄	1mm以下の赤色無彩色を中 量含む
411	国55 国45	土師器 小皿	2 D9a25	258 下刷	8.7	2.0	98%	赤が著しい 底部は不安定 内面 全体表面に板状ガラス	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:浅黄	2mm以下の灰黒・黒色小襯 を少量含む
412	国55 国45	土師器 小皿	2 D10a1	258	8.0	1.5	100%	底部は平田 外底部板目直彫 内部全体表面に板状ガラス	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:浅黄	1mm以下の赤色無彩色と灰 色を少量含む
413	国55 国45	土師器 皿	2 D10a1	258	11.8	2.4	75%	底部は平田気味 板目直彫	内:灰白 外:灰白・に赤・濃 度:灰白	1mm以下の灰色無彩・赤色 無彩色を微量含む
414	国55 国45	土師器 皿	2 D10a1	258	11.7	2.85	100%	底部は平田 外底部板目直彫 内部全体表面にナデ	内:灰白 外:灰白・に赤・濃 度:灰白	1mm以下の灰黒・灰白色 を少量含む
415	国55 国45	土師器 皿	2 D9a24+ 25	258	12.2	3.0	70%	底部は平田気味 板目直彫 調整 著しい	内:灰白・浅黄	5mmの大底白襯 1個 1mmま での灰色粒・赤色無彩色を 中量含む
416	国55	土師器 皿	2 D10a1	258	10.8	1.9	0.3	底部は平田 板目直彫 体部内面 に墨あり	内:灰白 外:灰白・灰黄	0.5mm以下の灰色無彩・赤色 無彩色を微量含む
417	国55	土師器 皿	2 D10a1	258	11.2	2.6	70%	底部はやや丸みを帯びる 板目直 彫 体部内面墨に墨あり	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:淡灰	精良
418	国55 国45	土師器 皿	2 D10a1	258	11.0	2.4	60%	底部はやや丸みを帯びる 板目直 彫 体部内面墨に墨あり	内:外断・灰白	一部反転元
419	国55 国45	土師器 皿	2 D10a1	258	(11.5)	1.9	50%	底部は平田 板目直彫 体部内面 に墨あり	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:灰白	1mm以下の赤色無彩色を少 量含む
420	国55 国45	土師器 皿	2 D10a1	258	(13.0)	1.9 以上	-	10% 体部内面に墨書きあり	内:外断・灰白・灰黄	一部反転元
421	国55 国45	青磁 盤	2 D9	258	-	2.0 以上	底面 6.00	底面 10%	輪・オリーブ灰 露胎・墨・灰白	精良 堪能
422	国55 国45	白磁 皿	2 D10a1	258 上直	(17.8)	4.1 以上	9.60	15% 口縁部外反 端付の輪を剥り取る 絞糸付	他・新・露胎・灰白	反転元 反転元 露胎直室 16世紀半
423	国58 国45	土師器 小皿	2 D9a25	259 直 E+中 等	7.1	1.45	100%	底部は平田 外底部板状工具ナデ 体部外面部	内:灰白 外:灰白・灰黄 底:灰白	1mm以下の灰白・白色無彩 を微量含む
424	国58 国45	土師器 皿	2 D9a22	259 直 中+下 刷	6.9	1.6	85%	底部は平田 外底部板状工具ナデ 体部外面部	内:灰白 外:灰白・淡黄	1mm以下の灰色無彩を少量 含む
425	国58 国45	土師器 皿	2 D9a21	259 直 中+下 刷	7.9	1.9	75%	底部は平田気味 板目直彫	内:外断・灰白 底:灰白	0.5mm以下の灰色無彩を少 量含む
426	国58 国45	土師器 皿	2 D9a20	259	7.9	1.7	50%	底部は平田気味 板目直彫	内:淡黄 外:灰白・淡黄 底:灰	0.5mm以下の灰白と微量含 む
427	国58 国45	土師器 皿	2 D9a25	250	9.8	2.8	90%	底部は平田 板目直彫	内:に赤・黄 外:に赤・黄	4mmの大底白襯を1個 1mm以下の灰白・白色 無彩色を微量含む
428	国58 国45	土師器 皿	2 D9a22	259 直 中+下 刷	11.6	2.6	98%	底部は平田 外底部板状工具ナデ 体部外面部	内:灰白・灰黄 底:灰白	1mm以下の灰白・赤色 無彩色を微量含む
429	国58 国45	土師器 皿	2 D9a25	259	15.1	2.7	60%	底部は平田 板目直彫 体部粘土 底:灰白	内:に赤・黄 底:灰白	1mm以下の赤色無彩を微量 含む
430	国58 国45	土師器 皿	2 D9a25	259	13.2	2.5	75%	底部は平田 板目直彫 体部粘土 底:灰白	内:に赤・黄 外:に赤・黄	1mm以下の赤色無彩を微量 含む
431	国58 国45	土師器 皿	2 D9a22	259 直 中+下 刷	(12.0)	2.2	35%	底部は平田 外底部板状工具ナデ 体部外面部に墨書き	内:灰白・淡黄 外:灰白・に赤・黄 底:灰白	1mm以下の赤色無彩を少量 含む
432	国58 国46	土師器 皿	2 D9a21	259 アビラ	11.2	1.75	50%	底部は平田 板目直彫 体部内面 墨書きあり	内:灰白・淡黄 外:灰白	1mm以下の灰白・白色 無彩色を微量含む
433	国58 国46	土師器 焰跡	2 D9a22	259 直 中+下 刷	(21.4)	4.7 以上	-	口縁部内面やや肥厚 焰跡下断面 三角形の跡 焰跡に孔	内:に赤・白・黒色 外:に赤・白・黒 底:に赤・白	1mm以下の白・黒色無彩・ 赤色無彩色を中量含む
434	国58 国46	土師器 陶器	2 D10	259	(11.3)	4.9	4.4	40% 肌輪 外底部圓彫	輪・白・墨・オリーブ灰 露胎・墨・灰白	0.5mm以下の白色無 彩色を微量含む
435	国58 国46	常滑燒 窯	2 D9a23	259-2	-	4.45	-	口縁部外反 窯部土下に大き く灰黒	内:灰白・黑 外:灰白・灰	1mm以下の白色無彩を多く 含む
436	国58 国46	常滑燒 窯	2 D9a21	259	(21.8)	4.5 以上	-	口縁部上方に大き く灰黒 墓部土下に 上方に墨書き	内:に赤・白 外:灰白・淡黄 底:灰白	2mm以下の黑色物を多く含む
437	国58 国46	常滑燒 窯	2 D10P1	250	(28.6)	6.3 以上	-	口縁部上方に灰黒 窯部はれく める	内:灰白・黑 外:赤・灰	3mm以下の灰・白・赤色 無彩色を中量含む
438	国58 国46	常滑燒 窯	2 D9a24	259	(11.0)	4.6 以上	-	口縁部 窯部はやかに外反 灰黒 外面施釉・熟熱で変色 窯部	内:白・墨・白 外:灰白・灰 底:灰	反転元 反転元 15世紀半
439	国62 国47	土師器 小皿	1 E9a18	008 月+刷 内	8.3	2.0	80%	底は丸みを帯びる 板目直彫 体部内面板状工具ナデ	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:灰白	1mm以下の灰白無彩を少 量含む
440	国62 国47	土師器 小皿	1 E9a18	008 月+刷 内	7.6	1.5	80%	底部は平田型彫 板目直彫 体部 内面板状工具ナデ	内:灰白 外:灰白・淡黄 底:灰白	2mm以下の灰白無彩を少 量含む
441	国62 国47	土師器 小皿	1 E9a18	008 月+刷 内	8.2	2.0	95%	底は丸みを帯びる 体部内面板 状工具ナデ	内:灰白 外:灰白・灰黄	5mmの大底白襯 1個 4mm の大底白襯 1個 1mm以 下の灰・白色を多く含む

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	団・段級	種類	調査区分	調査場所	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
442 国版 47	II 土師器 小皿	I	E918	008 戸内上層	8.0	1.85	95% 底部は丸みを帯びる	内:灰白 外:灰白・浅黄褐 面:灰白	1mm以下の白・灰色粘・赤色化粧を微量含む		
443 国版 47	II 土師器 小皿	I	E918	009 井戸内	8.4	2.1	100% 底部は丸い 黏土巻き上げ成形か？	内:灰白 外:灰白・にふい濃相	1mm以下の灰・褐色微粒を多量に含む		
444 国版 47	II 土師器 小皿	I	E918	010 井戸内	8.4	1.9	85% 底部は丸みを帯びる 体部内面板 灰工具ナデ	内:灰白 外:灰白・にふい濃相	1mm以下の赤色化粎を少量含む		
445 国版 47	II 土師器 小皿	I	E918	008 井戸内下層	8.4	2.05	95% 底部は丸みを帯びる 体部内面板 灰工具ナデ 黏土巻き上げ成形か？	内:灰白 外:灰白・灰黄	2mmの大気色粘1個、0.5mm以下の灰色粘を中量含む		
446 国版 47	II 土師器 小皿	I	E918	008 戸内上層	8.1	2.1	85% 内面に板状工具による鉛付状ナデ	内:外断:灰白	1mm以下の灰色微粒を多く含む		
447 国版 47	II 土師器 盆	I	E918	008 井戸内	12.3	3.0	85% 底部は丸みを帯びる 板状压痕 体部内面板灰工具ナデ	内:外断:灰白	1mm以下の灰色微粒を多量に含む		
448 国版 47	II 土師器 盆	I	E916-17	008 戸内	12.0	3.55	85% 底部は丸みを帯びる 細い跡付切 く 手打模様調著 外面無 灰工具ナデ	内:灰白 外:灰白・灰黄・灰黄	5mmの大気色粘1個、1mm以下の灰色微粒を少量含む		
449 国版 47	II 土師器 盆	I	E918	008 井戸内	12.2	3.05	55% 底部は丸みを帯びる 和目压痕	内:灰白 外:灰白・にふい濃相	1mm以下の灰白色粘・赤色化粎を少量含む		
450 国版 47	II 土師器 盆	I	E918	008 井戸内	11.6	2.8	60% 底部は丸みを帯びる 和目压痕	内:灰白 外:灰白・にふい濃相	1mmの大気色粘1個、1mm以下の灰色化粎を少量含む		
451 国版 47	II 土師器 盆	I	E918	008 井戸内	12.0	2.85	60% 底部は丸みを帯びる 体部内面板 灰工具ナデ	内:灰黄 外:灰白 面:灰白・黄相	3mmの大気色粘1個、2mm以下の赤色化粎を少額含む		
452 国版 47	II 土師器 盆	I	E918	008 戸内上層	(12.4)	2.85	80% 口縁部は外反 弧が著しく調整が 難	内:灰白等 外:灰白	1mm以下の赤色化粎を多く含む	一部脱皮	
453 国版 47	II 土師器 大鉢	I	E915-16	026 磁器	032.8	9.6 以上	— 口縁部 15%	内:灰白 外:灰黄・黑 面:灰黄	5~7mmの大気品片岩を機 量、3mm以下の品片岩を機 石英、白灰色を多量に含む	反転復元	
454 国版 47	青磁盤	I	E9	026 戸内中層	025.0	2.6 以上	— 口縁部は横方向に引き端部は肥厚 中央する	輪:オーリープ灰 盤:灰白	織密	反転復元	
455 国版 47	青磁盤	I	E9	026 戸内中層	— 1.05 以上	(3.8)	底部 50%	輪:明瞭リーフ灰 盤:にふい濃相 底:灰白	織密	反転復元	
456 国版 47	青磁 盤	I	E9	026 戸内底	— 1.2 以上	(7.8)	底部 50%	青白透明白 高台内凹ビカンナ 底:青白透明白	輪:明瞭白色 盤:灰白	反転復元 銀盤銀底	
457 国版 47	前頭部 底盤	I	E917	048 戸内	026.0	7.3 以上	— 口縁部 15%	口縁部は大きめに上方に延びる 外面 表面:皮状	内:灰白 外:灰白	1mm以下の長石・灰色粘を 微量含む	反転復元 16世紀半
458 国版 47	前頭部 底盤	I	E916-17	048 戸内	— 6.3 以上	—	—	口縁部は折り返して玉縁状	内:灰白 外:灰白・灰暗・灰暗 面:灰白	1mm以下の白色粘を多く含む	
459 国版 47	青磁 盤	I	E916-17	048 戸内上層	— 2.9 以上	(5.8)	底部 50%	高台内凹部 輪:明瞭リーフ・オーリープ灰 盤:灰白	織密	反転復元	
460 国版 47	土師器 盆	I	E905-16	070	12.0	2.8	50% 底部は平坦 中央部板状压痕 壁:白	内:灰白 外:にふい濃相 底:灰白	研磨はほとんどござまない		
461 国版 47	土師器 盆	I	E915	070 戸内上層	11.4	4.1	7.6	98% 底部は平坦 ハケ状工具ナデ 壁:白 口縁部スリ付着	内:灰白 外:にふい濃相 底:灰白	2mmの大気色粘1個、3mm の大気色化粎・石英・黒 色粘を多く含む	
462 国版 47	前頭部 底盤	I	E916	070 戸内上層	— 4.8 以上	—	5%	口縁部はわずかに上方に弧張 輪:灰白	内:灰白 外:にふい濃相 底:灰白	3mm以下の白灰色少量、4mm の大気色粘を2個含む	反転復元 15世紀半
463 国版 47	美濃焼 茶碗	I	E9	070 戸内中層	— 11.58	4.1	(5.2)	25% 轮:外表面部下平から底部に輪 ハラクス付 瓶口縁部内面に次錐部 口縁部端部付近の輪	輪:灰白 瓶:灰白 底:灰白	2mm以下の白灰色を微量含む	反転復元 16世紀半
464 国版 47	青磁 盘	I	E9	070 戸内中層	— 2.5 以上	—	5%	輪:灰白 盤:灰白	織密		
465 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内	6.8	1.6	75% 底部は平坦空模 壁:压痕 輪:灰白	内:灰白 外:にふい濃相 底:灰白	0.5mm以下の赤色化粎を 微量含む		
466 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内	7.3	1.7	75% 底部は丸みを帯びる 和目压痕 輪:灰白	内:灰白 外:灰白・にふい濃相	0.5mm以下の赤色化粎を 微量含む	透明明	
467 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内	10.7	2.4	90% 底部は丸みを帯びる 板状压痕 輪:灰白	内:灰白 外:灰白・灰黄・黑 面:灰白	0.5mm以下の赤色化粎を多量 に含む	透明毛細 透明明	
468 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内中・下層	— 10.8	3.1	50%	底部は平坦気味 板状压痕 輪:灰白	内:浅黄相 外:淡黄相 面:灰白	0.5mm以下の赤色化粎を多 く含む	一部脱皮
469 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内中・下層	10.6	3.3	85%	底部は平坦気味 板状压痕 輪:灰白	内:灰白・浅黄相 外:灰白	1mm以下の赤色化粎を微量 含む	
470 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内中・下層	9.7	2.7	90%	器壁厚い 底部部端に點接合部 輪:灰白	内:浅黄相 外:灰白・浅黄相 面:灰白	1mm以下の赤色化粎を中 量含む	
471 国版 48	土師器 盆	I	D9	131 戸内中・下層	10.9	2.15	80%	底部は丸みを帯びる 板状压痕 輪:灰白	内:灰白・浅黄相 外:灰白・黄 面:にふい濃相	0.5mm以下の灰色微粒を多量 に含む	

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は複元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘土にし、マンセル記号を省略している

編 号	國・ 都道 府 県 市	種類	調査 地区	測定 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備 考
472 国40 都40	土器 皿	1 D9 井戸底	131 井戸底	10.8 2.5	85%	底部はや丸みを帯びる 板目直面	内外・灰白・灰黄 削・灰黄	0.5mm以下の灰色微粒を多量 に含む		
473 国40 都40	土器 皿	1 D9 井戸底 削り穴	131 井戸底 削り穴	10.2 2.7	100%	底部は丸みを帯びる	内外・灰黄	1mm以下の灰色・白色・褐色 微粒を多く含む		
474 国40 都40	瓦質土器 火鉢	1 D9 井戸底	131 井戸底	(23.3) 10.7 以上	(23.2) <td>15%</td> <td>口縁部はぼぼ直立 離部は上方に 三足足?</td> <td>内外・灰 外・灰白・灰 削・灰白</td> <td>1mm以下の白色微粒を少量 に含む</td> <td>反転復元 16世紀半</td>	15%	口縁部はぼぼ直立 離部は上方に 三足足?	内外・灰 外・灰白・灰 削・灰白	1mm以下の白色微粒を少量 に含む	反転復元 16世紀半
475 国40 都40	瓦質土器 火鉢	1 D9 井戸底 中・下削	131 井戸底 中・下削	(11.4) 4.6 以上	—	口縁部はぼぼ直立 離部は下方に 三足足?	内外・灰 外・灰白・灰 削・灰白	ざっくりしている 5mm前 後の白色が少含む	反転復元 16世紀半	
476 国40 都40	瓦質土器 火鉢	1 D9 井戸底 中・下削	131 井戸底 中・下削	— —	1.1 以上 (6.4)	底部 50%	底部・全體 高台の内輪トランク削 削・灰白	オーリーブ黄・灰 オーリーブ 削・灰白	ざっくりしている	反転復元 16世紀
477 国40 都40	白磁	1 D9 井戸底 削り穴	131 井戸底 削り穴	(10.7) 2.2 以上	—	口縁部 15%	口縁部は強く外反 貫入生じる	穂・灰白 穂・灰・灰灰	穂	反転復元 漆油質 16世紀半
478 国40 都40	安付 盤	1 D9 17 右抜き 穴	131 右抜き 穴	— —	4.2 以上	—	口縁部屈曲 外面・口縁部内面に 施文	灰白・削 灰・灰白 削・灰白	穂	
479 国73	窓口直通 系陶器 天日茶碗	2 D9 井戸底 上削	— —	2.1 以上	4.2	底部 100%	底部・外底部鬼挽跡	穂・灰 穂・灰白 穂・灰白 穂・灰白	ざっくりしている	一部反転復元 16世紀半
480 国75	土器 皿	2 D9 方舟形 内・下削	268 方舟形 内・下削	7.45 —	1.6	75%	底部は平田字彌 痺が美しい	内外削・にい 赤色 化粧土を少量含む	0.5mm以下の白色微粒。赤色 化粧土を中量含む	
481 国75	土器 皿	2 D9 方舟形	268 方舟形	(12.5)	2.7	30%	底部は平田字彌 痺む 伸脚・口 縁部の端部2段	内外・灰白・にい・黃 削・灰白 削・灰	1mm以下の灰色・赤色 化粧土を少量含む	反転復元
482 国49	瓦質土器 火鉢	2 D9 井戸底 下削	268 井 下削	(26.0) 5.2 以上	—	口縁部 10%	口縁部は丸く、細孔を左右に有す る方舟形底盤・上方斜面・外面部 のキサマ目及び其の又縁	内外・削 灰・灰白 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を少量 に含む	反転復元 16世紀半
483 国75	扇前燒 钵	2 D9 方舟形 内	268 方舟形 内	— —	5.9 以上	(13.6)	積り目9本 / 2cm以上	内外・にい・赤 灰・灰白 削・にい・赤鉄・灰灰	4mm以下の白色・褐色 微粒を中量含む	反転復元
484 国49	青磁 碗	2 E9 形切内	268 方舟形 内	— —	2.2 以上	6.2	底部 100%	質・白・高内輪露頭 見込部斜削 削文	穂・明オリーブ灰 削・灰白 削・灰白	一部反転復元 黒京焼 14世紀
485 国49	青磁 碗	2 E9 形切内	268 方舟形 内	— —	5.2 以上	6.0	55%	高内輪の目状に露頭・目跡・外 面部切削・運び井・見込部斜削 削文	穂・明オリーブ灰 削・灰白 削・灰白	一部反転復元 黒京焼 14世紀
486 国49	青磁 碗	2 E9 形切内	268 方舟形 内	(14.0)	7.05	3.0	45%	高内輪の目状に露頭・外面部切 削・運び井・見込部斜削・印押 模・人頭・人	穂・明オリーブ灰 削・灰白 削・灰白	一部反転復元 黒京焼 14世紀半
487 国49	土器 皿	2 E10 3下削	236 3下削	7.4	1.7	100%	形張っている。外底部多工具ナ ンデ	内外・灰白・にい・黄 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を多く 含む	
488 国49	土器 皿	2 D10w2 3下削	236 3下削	7.0	1.4	100%	底部は平田字彌 外底部多工具 ナンド	内外・にい・削 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を少 量含む	
489 国49	土器 皿	2 D10w2 3下削	236 3下削	6.9	1.95	98%	底部は丸を帯びる 外部の底 部には丸を帯びる 外底部多工 具ナンド	内外・にい・黄 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色・褐色 微粒を微量含む	
490 国49	土器 皿	2 D10w2 3下削	236 3下削	7.0	1.9	100%	底部は丸を帯びる 外部の底 部には丸を帯びる 外底部多工 具ナンド 体部内面剥離状 態板刷工具ナ	内外・灰黄・黄灰 削・灰白	1mm以下の灰色・褐色微 粒を少含む	
491 国49	土器 皿	2 E10b 3下削	236 3下削	10.4	2.1	75%	底部は平田字彌 板目直面 体部 内・灰白・黄・浅黄 外・灰白 削・灰白	内外・灰白・にい・黄 削・灰白 削・灰白	鉛粒をほとんど含まない。	
492 国49	土器 皿	2 D10w2 3下削	236 3下削	11.0	2.25	90%	底部は平田字彌 板目直面 体部 内・灰白・黄・浅黄 外・灰白 削・灰白	内外・灰白・にい・黄 削・灰白 削・灰白	鉛粒をほとんど含まない。	
493 国49	土器 皿	2 E10 3下削	236 3下削	10.6	2.2	100%	底部は平田字彌 外底部多工具 ナンド 外底部板刷工具ナンド	内外・灰白・浅黄 削・灰白・にい・黄 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を多量 に含む	
494 国49	土器 皿	2 E10b 2下削	236 x 9.8	10.5	1.65	85%	底部は平田字彌 板目直面 体部 内・灰白・黄・浅黄 外・灰白・黄・浅黄	内外・灰白 削・灰白 削・灰白	0.5mm以下の灰色・赤色 化粧土を微量含む	
495 国49	土器 皿	2 E10b 2下削	236 2下削	10.1	2.7	75%	底部や丸みを帯びる 板目直面 体部外底部多工具ナンド	内外・灰白 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色を微量含む	
496 国49	土器 皿	2 E10b 3下削	236 3下削	10.3	1.9	100%	底部は平田字彌 外底部多工具 ナンド 外底部板刷工具ナンド 土墻面削	内外・灰白・黑 削・灰白 削・灰白	1mm以下の黒色・灰色微 粒を多く含む	
497 国50	土器 皿	2 E10 3下削	236 3下削	10.2	1.6	100%	底部は平田字彌 外底部多工具 ナンド 板刷工具ナ	内外・灰白・灰 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を微量 含む	
498 国50	土器 皿	2 E10b2 3下削	236 3下削	9.8	2.1	85%	底部は平田字彌 板目直面 体部 内・浅黄 外・灰黄 削・灰白	0.5mm以下の灰色・赤色 化粧土を微量含む		
499 国50	土器 皿	2 E10b3 3下削	236 3下削	10.0	2.3	100%	底部は平田字彌 外底部板刷工具 内・灰白・黄 削・灰白	1mm以下の灰色・黒色・褐色 微粒を多く含む	御用鉢	
500 国50	土器 皿	2 E10b2 3下削	236 3下削	10.2	2.3	85%	底部は丸を帯びる 板目直面	内外・灰白 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色微粒を多く 含む	
501 国50	土器 皿	2 E10b1 3下削	236 3下削	10.4	2.3	90%	底部は平田字彌 体部外底部板刷 工具	内外・灰白 削・灰白 削・灰白	0.5mm以下の灰色・赤色 化粧土を微量含む	
502 国50	土器 皿	2 E10b2 3下削	236 3下削	10.8	2.1	80%	底部や丸みを帯びる 体部外 底部板刷工具	内外・灰白 削・灰白 削・灰白	1mm以下の灰色・赤色微 粒を少含む	御用鉢

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	団・段級 番号	種類 経緯	調査区 域	調査区 域	測定 部位	法量	残存率	形態・技法	色調	地土	備考	
						口径 cm	高さ cm	底径 cm				
503	国76 国80	土器部 皿	2 E10b3	236 下層	9.9	1.8		95%	底部は平窓突起 体部外面部直口皿	内：灰白 外：灰黄 面：灰黄	0.5mm以下の灰色微粒を微量含む	
504	国76 国80	土器部 皿	2 E10b3	ZBn-2 下層	9.7	1.9		100%	底部は平窓突起 外面部底部切欠き 内面部板口直口皿	内：灰白 外：灰黄 面：赤赤	1mm以下の白色點を微量含む	
505	国76 国80	土器部 皿	2 E10b3	236 下層	10.6	2.25		98%	底部は平窓突起 外面部底部切欠き 内面部板口直口皿	内：灰白 外：灰黄 面：赤赤	1mm以下の黑色・灰色微粒を多く含む	
506	国76 人頭	土器部 皿	2 D10y2	Z-2 中層	(11.4)	2.1		30%	底部は平窓突起 体部外面部直口皿 内面部板口直口皿	内：灰白 外：灰黄 面：灰白	反転・1mm以下の黒・黒色粒を少許含む	
507	国76 人頭	瓦質土器 人頭	2 D10y2	236 中層	(27.6)	10.1 (21.2)	1.5%	C環部は平行に凹凸・上方に面 底盤は平窓直口皿 3足器？ 体部は 最大径が上位にある円錐形	外：黒 内：灰 面：灰白	2mm以下の長石を多く含む	反転復元 16世紀	
508	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	8.2	2.1	4.3	85%	全輪 質入 高台内輪トチ版	輪：灰白 底：灰白 面：灰オーリーブ 輪：灰白	砂粒は殆ど含まない	16世紀後半
509	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	8.3	2.35	4.5	60%	灰輪 全輪 質入 高台内輪トチ版	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	砂粒は殆ど含まない	16世紀後半
510	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	8.2	2.2	4.8	100%	灰輪 質入 灰は薄く 体部から 輪輪にかけて内輪向外方に立ち上がり	輪：浅黄 底：オーリーブ黄 面：オーリーブ 輪：灰白	細密	16世紀後半
511	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	Z-2 下層	8.2	2.3	4.6	95%	反輪・全輪 相り質入 高台内輪トチ版	輪：オーリーブ灰 底：オーリーブ 面：灰白	1mm以下の灰色を微量含む	16世紀後半
512	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	8.2	2.15	4.3	70%	灰輪・全輪 質入 高台内輪トチ版 かごそのまま付着	輪：灰オーリーブ・オーリーブ灰 底：灰白	砂粒は殆ど含まない	16世紀後半
513	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	ZBn-2 (10.7)	2.5	5.6	底盤 100%	灰輪・全輪 高台内輪に輪トチ版	輪：オーリーブ灰 底：灰白 面：灰	一部に軽度 16世紀後半 火傷する		
514	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	10.6	2.95	6.2	75%	灰輪・全輪 質入 高台内輪トチ版	輪：浅黄 底：オーリーブ 面：オーリーブ 輪：灰白	砂粒は殆ど含まない	16世紀後半
515	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b3	236 下層	10.3	2.6	5.7	75%	灰輪・全輪 質入 高台内輪トチ版 輪輪付着	輪：灰白 底：灰白	砂粒は殆ど含まない	16世紀後半
516	国77 国80	廻口直造 系縦隔壁	2 E10b2	236 下層	10.3	2.8	6.0	90%	全輪 高台内輪に輪トチ版 灰輪	輪：オーリーブ灰 底：灰白 面：灰黄	細密	16世紀後半
517	国77 国80	縫合輪 蓋	2 D10y2	236 中層	—	7.6 /2.7cm	—	10%	C環部は上方に弧状 縫合口 9本	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	3~9mmまでの白色小塊を 微量・2mm以下の白色・褐色 色斑を中量含む	15世紀中期
518	国77 国80	縫合輪 蓋	2 E10a2	236 中層	67.6	7.3 以上	—	口縫部 5%	口縫部は外唇 縫合部外面に扁平な 主・外唇に輪状の凹部3条	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	4mm以下の灰黒・白色粒を 少額含む	反転復元 16世紀後半
519	国77 国80	縫合輪 蓋	2 E10	ZBn-2 上層	64.6	6.7 以上	—	口縫部 5%	口縫部は外唇・外唇外面に 輪状な主唇・外唇に輪状の凹部3条 自然輪付着	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	5mmまでの黑色粒を多く含む 1mm以下の白色を多く含む	16世紀後半
520	国77 国80	縫合輪 蓋	2 E10a3	236 中層	—	8.9 以上	—	—	口縫部は外唇 縫合部外面に扁平な 主唇・外唇に輪状の凹部3条	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	1mmまでの白・黒色粒を中 量含む	16世紀後半
521	国77 国80	縫合輪 水口蓋	2 E10b3	236 中層	65.6	8.5 以上	—	—	口縫部はくぐらのうな輪状 輪をすりながら外唇に張り 外唇口部 ・糞部に自然輪付着	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	2mm以下の白色粒を少量含む	反転復元 16世紀後半
522	国77 国80	縫合輪 小皿	2 D10y2	Z-2 中層	—	5.9 以上	5.0	50%	灰輪は均整系 手縫の輪を削り取る 灰輪は均整系 手縫の輪を削り取る	内：灰赤 外：灰赤 面：灰白	1mm以下の白・白・黒色粒を 少額含む	16世紀後半 火傷する？
523	国77 国80	青磁 蓋	2 E10a3	236 下層	—	2.75 以上	4.4	底盤 100%	底盤 高台内輪	輪：オーリーブ灰 底：灰白 面：灰白	細密	16世紀中期 濃地鉄鉻文
524	国77 国80	青磁 蓋	2 D9y2	236 中層	—	5.3 以上	6.0	底盤	高台内輪部 体部外面部切削蓮瓣 文・見込部鉄鉻文・田代花文	輪：オーリーブ灰 底：灰白 面：灰白	16世紀中期 濃地鉄鉻文	
525	国77 国80	青磁 蓋	2 D10a2	236 中層	—	2.45 以上	4.8	底盤 100%	高台内輪部外面部切削蓮瓣 文・見込部鉄鉻文にアベラスク 風の文様	輪：オーリーブ灰 底：灰白 面：灰白	16世紀中期 濃地鉄鉻文	
526	国77 国80	青磁 蓋	2 D10y2	236 中層	(17.0)	5.1 (9.6)	1.0%	輪は厚く長い質入 口縫部はわずか に外反 外唇口部下に段・洗削部 を削る	輪：明るい灰 底：明るい灰 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文	
527	国77 国80	青磁 蓋	2 E10b3	236 下層	(11.0)	3.3 以上	—	口縫部 33%	口縫部 口縫部内側し 端部を外方 に張り 游遊輪状の把手	輪：灰オーリーブ・暗オ 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
528	国77 国80	白磁 蓋	2 E10b2	236 中層	(11.2)	2.1	6.6	20%	口縫部外反 裝材の輪を削り取る	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
529	国77 国80	白磁 蓋	2 E10b3	236 下層	(12.1)	3.0	(6.0)	30%	口縫部外反 裝材の輪を削り取る	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
530	国77 国80	白磁 蓋	2 E10b2	236 下層	(13.0)	3.0	(7.6)	35%	口縫部外反 裝材の輪を削り取る	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
531	国77 国80	白磁 蓋	2 E10b3	236 下層	(15.5)	3.1	(9.0)	30%	口縫部外反 裝材の輪を削り取る	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
532	国77 国80	白磁 蓋	2 E10b3	236 下層	(5.4)	2.6 以上	—	口縫部 30%	体部から口縫部は西朝式の外唇 部は上方に張り 体部縫隙3条 以上	輪：灰白 底：灰白 面：灰白	細密	反転復元 濃地鉄鉻文
533	国77 国80	宋青白 蓋	2 E10b3	236 下層	13.1	4.6	5.4	75%	高台付近部 装材部の目輪形 体部外壁草文	輪：青白 底：青白 面：青白	細密	泉州窑 16世紀末

遺物觀察表（上器類）

法量の（）内は復元した大きさ 色調の内・外・面は「面」を省略している。色調は土色帖を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	団・団級番号	種類	調査地区	遺構番号	法量			残存率	形態・技法	色調	地土	備考
					口径cm	高さcm	底径cm					
534 国77 国80.50	染付 碗	2 E1062	236中 下唇	(13.8)	5.2	5.3	30%	高台から高台内・見込部露胎 部内外面輪広の網彫	火照する 体輪・露胎・断・灰白	織密	反転復元 済地窯室 16世紀末	
535 国77 国80.51	染付 碗	2 E1062	236	(13.5) 以上	—	—	75%	高台付近露胎・見込部底の目袖彫 体部外面草花文	長脚・青灰 輪・露胎・灰白	織密	一貫未焼元 済地窯室 16世紀末	
536 国77 国80.51	染付 皿	2 E1062・13	230 下唇	15.4	3.4	8.8	80%	口縁部外反 全輪 肩付の輪を割り取る 体部外面草花文 見込部 丁字文	長脚・青灰 輪・灰白 輪・にぶ・黄透	織密	既燒既窯 16世紀既平	
537 国77 国80.51	染付 皿	2 E1063	236 下唇	(15.6)	3.4	(8.7)	40%	口縁部外反 全輪 肩付の輪を割り取る 体部外面草花文 見込部 丁字文	長脚・青灰・暗赤灰 輪・リーフ・灰 透影・灰白	織密	反転復元 既燒既窯室 16世紀既平	
538 国77 国80.50	染付 皿	2 E1063	236 下唇	(11.4)	3.0	(4.6)	25%	口縁部外反 高台内露胎 見込部 底の目袖彫	長脚・青灰 輪・灰白 輪・にぶ・樹	織密	反転復元	
539 国77 国80.51	染付 丸皿	2 E1062	236 下唇	9.8	3.1	3.6	75%	移設・外成部露胎 体輪は鍔で 貫入・引じて 両面に縁部下に割れ 目・見込部に花咲の立彫 底部の内れおり	長脚・青灰 輪・灰白 輪・露胎・灰 透影	ざっくりしている	済地窯室 16世紀末	
540 国77 国80.51	染付 杯	2 E1062	236 下唇	(5.1)	4.15	2.3	75%	移設・外成部露胎 体輪 外面飛匁文	長脚・青灰色・明透色 輪・灰白 透影	織密	一貫未焼元 既燒既窯室 16世紀既平	
541 国77 国80.51	染付 杯	2 E1063	236 下唇	—	2.3 以上	2.6	底部 100%	全輪 肩付の輪を割り取る 体部 外面樹木文 見込部花文 高台内 外面飛匁文	長脚・明透色 輪・明透灰 透影	織密	一貫未焼元 既燒既窯室 16世紀既平	
542 国77 国80.51	染付 杯	2 E1063	236 下唇	(6.4)	3.55	2.7	70%	全輪 肩付の輪を割り取る 体部 外面草花文 見込部山水文 高台内 外面飛匁文	長脚・明透色・暗青色 輪・明透灰 透影・灰白	織密	一貫未焼元 既燒既窯室 16世紀既平	
543 国78 国80.51	染付 盤	2 E1063	236 下唇	(19.5)	3.05	9.8	50%	全輪 口縁部は回向 直付の輪を 割り取る 珠砂付高台内露胎 ンナ痕・中央部・直貫露胎 路 体部外面草花文 内面口縁部立彫 文・柱文 見込部網彫文	長脚・明透色・暗青色 輪・明透灰 透影	織密	反転復元 既燒既窯室 16世紀既平	
544 国78 国80.51	染付 盤	2 E1062	236 下唇	(20.0)	3.1	(10.6)	15%	全輪 口縁部は回向 直付の輪を 割り取る 珠砂付高台内露胎 ンナ痕・体部外面草花文 内底口 縁部宝文・花文 見込部網彫文	長脚・明透色・暗青色 輪・明透灰 透影・断・灰白	織密	反転復元 既燒既窯室 16世紀既平	
545 国78 国80.51	染付 盤	2 E1062・3	236 下唇	(19.2)	3.25	9.6	25%	全輪 口縁部は回向 直付の輪を 割り取る 珠砂付高台内露胎 ンナ痕・体部外面草花文 内底口 縁部宝文・花文 見込部網彫文	長脚・明透色・暗青色 輪・明透灰 透影・断・灰白・白	織密	反転復元 既燒既窯室 16世紀既平	
547 国84	染付 杯	1 E9	057北	(7.8)	2.6 以上	—	20%	竹文	長脚・青灰色 輪・明透リーフ灰 透影・灰白	織密	反転復元 既燒既平	
546 国84	染付 碗	1 E9	042西	(10.4)	3.6 以上	—	20%	印判手 井桁文	長脚・青灰 輪・灰白	織密	反転復元 既燒既平	

遺物観察表（石器・石製品）

2000 g を超す資料は、kgで表示する

報告書 番号	国 内版 番号	種類	調査区 地名	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g・kg	石材	残存率	備 考
S1	国30 国版35	打製石器 石器	E9	003-c 床面	2.5 以上	1.25	0.55	1.95 g	サヌカイト	90%	有茎・基部一部欠損
S2	国30 国版35	打製石器 石器	E9	003-c 床面	4.0	1.4	0.5	2.91 g	IVI?	100%	有茎
S3	国30 国版35	打製石器 石器	E9	0.96 以上	4.5 以上	1.7	0.4	6.02 g	サヌカイト	90%	003 穴建物内 有茎・刃部先端・基部一部欠損
S4	国30 国版35	打製石器 石器	E9	104 床面	3.7 以上	2.75	0.6	3.13 g	サヌカイト	90%	004 穴建物内 有茎・基部一部欠損
S5	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	024 E9	12.0	5.5	0.8	89.20 g	燧石片岩	98%	刃部第一部欠損・尋2箇所両側から 片面の研削跡第一部
S6	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	003-d E9	10.7	7.8	3.8	375.26 g	細粒砂岩	100%	円錐を平裁して刃部を形成 刃部は潰れる
S7	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	068 床面	7.7	5.3	5.0	281.70 g	砂岩	100%	有溝・溝・溝幅 2.0 ~ 2.6cm
S8	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	003-e E9	10.7	7.9	2.2	299.30 g	砂岩	100%	両側・両小口に敲打痕 両面：使用痕なし
S9	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	159 E9	16.8	15.1	6.3	2.56 g	砂岩	(100%)	003 穴建物内 片側の小口使用時に砸破か 片面・両側・ 小口に敲打痕
S10	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	003-d E9	12.45	3.7 ~ 5.1	2.3	197.70 g	細粒砂岩	100%	片面・両面に敲打痕
S11	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	003 床面	32.0	21.2	10.0	10.14 kg	細粒砂岩	100%	両面打痕・研磨面 片側曲面裏面 使用痕著 脱色の外 部斑
S12	国30 国版35	石器碎材	E9	003	17.7	16.0	7.8	2.78 kg	IVI	100%	一部打ち欠いた痕あり
S13	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	024 E9	25.1	14.4	5.8	2.88 kg	砂岩	100%	表面：研削痕・比熱する 研磨：わざに最打痕 小口： 敲打痕・研磨
S14	国30 国版35	磨製石器 石器	E9	024 E9	22.8	11.2	9.3	3.13 kg	砂岩	(100%)	片側の小口使用時に砸破か 片面・片側・両小口にわざか な研磨
S15	国31 国版35	磨製石器 石器	E9	024 E9	24.4	20.3	11.0	8.24 kg	細粒砂岩	100%	片面・両面に敲打痕 減薄する
S16	国31 国版35	磨製石器 石器	D9	143 (右側)	32.5	21.5	9.5	8.12 kg	細粒砂岩	100%	028 穴建物内 片面大きくむね・研磨面 片面敲打痕 焼成する
S17	国31 国版35	磨製石器 石器	E9	028 北 D9	10.7	9.2	4.5	599.20 g	砂岩	100%	両面・両側・両小口に敲打痕
S18	国31 国版35	磨製石器 石器	E9	028 北西 D9	15.5	10.2	5.0	1111.17 g	砂岩	100%	両面・両側・両小口に敲打痕
S19	国31 国版35	磨製石器 石器	E9x16	146 E9	12.7	6.2 ~ 6.6	4.7	715.84 kg	砂岩	(100%)	028 穴建物内 片側打痕後も使用 両面・両側：敲打痕 剥離・V字状にむね・研磨 打痕より 工具として利用か？
S20	国31 国版35	磨製石器 石器	D9y16	145 E9y16	8.7	5.16	4.9	335.83 kg	砂岩	100%	028 穴建物内 片側小口に研磨
S21	国31 国版36	磨製石器 石器	E9	068 E9	10.1	9.1	2.1	217.32 kg	細粒砂岩	100%	片面 研ぎ目 砂状の刃部 面無敲打痕？
S22	国31 国版36	磨製石器 石器	D9x15	277 E9	14.7	11.7	6.0	1539.44 kg	砂岩	98%	両面・両側・両小口に敲打痕 片面に欠け有
S23	国31 国版36	磨製石器 石器	D9y15	277 E9	21.3	12.7	3.4	1339.04 kg	砂岩	100%	両面・片側・片小口に弱い敲打痕
S24	国31 国版36	磨製石器 石器	E9h17 g17	905	13.2	12.0	6.4	2.10 kg	開レイ岩	(100%)	片面・片側：敲打痕剥離 清狀に伴ひ 工具として利用か
S25	国38 国版38	石製品 石器	D1051	260 D1051	4.3 以上	2.7 以上	0.4 ~ 0.8	9.88 g	粘板岩	100%	両面使用 面に沿って切り込み
S26	国38 国版38	石製品 石器	D9r17	268 D9r17	15.8 (15.8)	10.5 (19.0)	7.0 以上	151.72 kg	滑石	100%	口縁底部は上方に面 口縁部下に断面台形の凸 製作 口縁外部は下方に面 口縁部下に断面台形の凸 製作 内部はスクリュー取付穴と丸み 入れ道物
S27	国48 国版48	石製品 石器	E9d21	001-a E9	13.7 (18.7)	8.5 (9.5)	8.3	711.81 kg	細粒砂岩	25%	口縫底部は上方に面 器壁部に 反転復元
S28	国53 国版45	石製品 石器	E9h16	027 E9	19.4 以上	12.0	7.4	5.02 kg	粘板岩	100%	断面の上白 滑木孔に方形(新め)の装飾 大阪府ミノバ 右切り口
S29	国53 国版45	石製品 石器	E9h18	1	25.9 以上	21.4	20.8	16.5 kg	細粒砂岩	?	断面の上白 滑木孔に方形(正位)の装飾 大阪府ミノバ 右切り口
S30	国58 国版46	石製品 石器	D9p15	2	25.9 以上	21.4	20.8	16.5 kg	細粒砂岩	95%	四方切字
S31	国73 国版49	石製品 石器	E9t1	261 E9t1	18.5 13.3	18.5 13.3	5.0	3.66 kg	粘板岩	100%	断面の上白 滑木孔に方形(正位)の装飾 大阪府ミノバ 右切り口
S32	国78 国版47	石製品 石器	E1062	236 E1062	5.1 以上	3.0 以上	0.8 以上	12.15 kg	砂岩	45%	丸中する
S33	国78 国版51	石製品 石器	E9b2	11.5 以上	3.85	1.55	121.5 kg	細粒砂岩	100%	片小口欠損 両面・両側面使用	

遺物観察表（鍛冶関係・炭化物）

報告書 番号 番号	国 内版 番号	種類	調査区 地名	遺構 層位	長 cm	幅 cm	厚さ cm	重さ kg	備 考
C 1	国38 国版38	■	2	260 下層	12.7 以上	7.6 × 7.75	-	-	円筒形・片端欠損 片端ガラス質の切壁付着 外表面板状工具ナメ 謙諱時代か？
C 2	国48 国版44	炭化米	1	001 E9e20	6.6 以上	7.4	6.2	-	三角形を呈する おにぎり 一部欠損
C 3	国44 国版44	鐵津	001-b	11.5 下層	11.5	10.0	6.5	503.5	楔型
C 4	国44 国版44	鐵津	1	001 上層	13.0	9.5	7.5	1145.8	-

遺物観察表（木器・木製品）

樹種同定は、保存処理作業をおこなった（株）山口生物研究所によるものである。

報告書番号	固有名	種類	調査区画	遺物種類	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	残存率	備考
W1 固34 固36	骨物 部材	2	260 下層	アヌラロ属	往25			1.3	65%	孔4箇所 木釘2箇所残る 片面部有凹痕 在面部面が多い 保存処理
W2 固34 固36	骨物 部材	2	260 下層	アヌラロ属	往(32.4)			1.1	20%	孔3箇所 横1箇所残る 片面部有凹痕 在面部面多い 保存処理
W3 固34 固36	木製?	2	260 下層	アヌラロ属	往11	3.2	0.15~0.35			根り 面による腐?
W4 固34	へら状木製品	260 下層	マツ属 (二葉松類)	53.0以上	1.4~6.3	1.5~3.0	70%			全体的に面取りをおこなう 保存処理
W5 固38 固38	前歯 部材	2	260 下層	アヌラロ属	29.1	13.7以上	0.6~0.8			孔4箇所 横1箇所残る 片面部有凹痕 保存処理
W6 固38 固38	前歯 部材	2	260 下層	ヒノキ属	27.8	4.9以上	0.8			孔1箇所 横1箇所残る 片面部有凹痕 保存処理
W7 固38 固38 (内芯袋)	骨物 骨物	2	260 骨壙トレンチ	コウヤマキ牛	13.1	1.0~2.2	1.0~2.2	98%		基部円錐状 身底部角柱状 頭部三角形で身部との間に2本の溝 頭部に隙を堵す 保存処理
W8 固48 固48 固48	漆塗 漆塗	2	001 中・下層	コナラ節	口径 ~	高さ 8.0以上	底径 8.8	80%		土圧で変形 高さ内に×印 内朱 外黒・朱で墨文 保存処理
W9 固48 固48	著	1	001-b 下層		30.3	0.7	0.7			100%
W10 固48 固48	著	2	001 中層	スギ	22.8	0.8	0.6	100%		一部炭化 保存処理
W11 固48 固48	著	1	001-b 下層		21.6以上	0.6	0.5			
W12 固48 固48	著	1	001-b 下層	スギ	23.5	0.7	0.5	100%		保存処理
W13 固48	著	2	001 中層		21.2以上	0.7	0.7			欠損
W14 固48	著	2	001 中層		25.5	0.7	0.6	100%		
W15 固48 固48	着状木製品	1	001-b 下層	スギ	22.8	0.9	0.6	100%		保存処理
W16 固48 固48	着状木製品	1	001-b 下層	スギ	21.5	1.0	0.7	100%		保存処理
W17 固48 固48	骨物?	1	001 下層		11.0以上	4.55以上	0.5~0.6			底板
W18 固48 固48	骨物?	1	001-b 中層	マツ属 (二葉松類)	往17.0		厚さ 3.2~3.8			底板 保存処理
W19 固48 固48	柄物 部材	1	001-b 中層	スギ	58.5	2.7	1.4	100%		孔2箇所 保存処理
W20 固49 固49	柄物 部材	2	001 中層		27.0以上	5.7以上	1.1			底板 20% 木釘頭
W21 固49 固49	柄物 部材	2	001 中層		30.0以上	7.3以上	1.3			茎板? 20% カシイ札1箇所 木釘頭 番
W22 固49	柄物 部材	2	001 中層		22.9以上	5.9以上	1.2			木釘頭 札1箇所・補修孔?
W23 固49	柄物 部材	2	001 中層		18.3以上	4.3以上	0.9			茎板? 20% カシイ札1箇所・補修孔?
W24 固49 固49	骨物?	2	001 中層		26.2	15.0以上	0.6~1.0			底板? 50% 1枚板
W25 固49	柄物 部材	2	001 中層		29.6以上	4.4以上	0.8~1.1			木釘孔3箇所 番の描みまたは前歯の足か?
W26 固49 固49	柄物 部材	001 E9 b 25	スギ	12.0	0.2	0.5				台形状 札1箇所 保存処理
W27 固49 固49	柄物 部材	2	001-b 下層		10.8	4.7	0.5			札2箇所
W28 固49	柄物 部材	2	001 下層		24.5以上	4.8	0.2			札1箇所
W29 固49	折歯 部材	2	001 下層		25.0以上	1.7	0.5			札2箇所 内端に鋸突あり 無板
W30 固49 固49	不明	1	001 下層	ヒノキ属	31.5	1.5~3.9	0.6	90%		羽子板状 保存処理
W31 固49 固49	柄物	1	001-b 下層	マツ属 (二葉松類)	36	8~10	8~10			柄部 保存処理
W32 固49 固49	謙	2	001 E10 b 2	往(19~26)	3.5	3.5				柄部 3分割 1か所能合不可 保存処理
W33 固51	柄物	1	019 下層		5.5~	1.4	0.2			内部基部 保存処理
W34 固55	著	2	258 D10a1	アヌラロ属	往33.1	8.8以上	0.7			柄部 目貫 1孔残る 保存処理
W35 固55	柄物 部材	2	258 D9a23	アヌラロ属	8.9	7.1	0.7			底板 保存処理
W36 固55	?	2	258 D9a23		58.3以上	3.2~5.3	1.6~2.5			棒状 全体面取り
W37 固58 固46	漆器 漆器	2	259 D9c24	コナラ節	口径 ~	高さ 6.5以上	底径 ~			底板 30% 内朱 外黒・朱で文様(松葉?) 反転復元 保存処理
W38 固58 固46	漆器 漆器	2	259 D9a22	コナラ節	口径 ~	高さ 5.4以上	底径 ~			内朱 外黒・朱で文様 反転復元 保存処理
W39 固58	漆器 漆器	2	259 D9p24	ニガキ	口径 ~	高さ 5.3以上	底径 ~			内朱 外黒・朱文様(星) 反転復元 保存処理
W40 固58 固46	漆器 漆器	2	259 南壁トレンチ	モクレン属	口径 ~	高さ 2.3以上	底径 5.3			内・外朱 高台黒 反転復元 保存処理
W41 固59 固46	柄物 部材	2	259 D9g22	スギ	往31.3			1.7		底板 80% 細化 5枚を木釘で繋ぐ 保存処理

遺物観察表(木器・木製品)

施標定は、保存修理作業をおこなった(株)古田生物研究所によるものである。

順次番号	固有番号	種別	調査区段	遺構	層	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備考
W42	固有46	折敷 部材	2	D9p25	下層	19.2	3.0	0.1		縫孔
W43	固有46	折敷 部材	2	D9p25	中層	ヒノキ属	34.5以上	21.5以上	1.0	底板 木釘縫 保存処理
W44	固有46	折敷 部材	2	D9p25	下層	22.7	6.6以上	0.5		
W45	固有46	工具 部材	2	D9p24	下層	シラキ属	9.5	1.8~2.5	1.8~2.5	特部 95% 繊維か? 金具(カツラ)一部残る 保存処理
W46	固有46	模状木製品	2	D9p16	下層	アワブキ属	20.1	2.5~4.0	1.5~2.3	100% 繊維残る 保存処理
W47	固有59	木製状木製品	2		下層		27.2以上	2.3	0.3	先端尖る
W48	固有46	櫛脚	2	D9p16	下層	72.3以上	19.0	15.7		方形 先端尖る
W49	固有46	櫛脚	2	D9p15	下層		77.2以上	24.0	22.6	丸太 斜凹・基部は削り直す
W50	固有61 固有47	曲物	1	008	下層	アヌナコ属	径5.5	高32.8		厚さ0.3cmの板5枚を正面に巻き縫で組じ、更に上下にタガ状の板を巻いて糊・木釘で留める 保存処理
W51	固有62 固有47	舟印枠	1	008	最下層	ヒノキ属	109.0	30.0		
							115.9	28.8	3.0	ほぼ100% 4枚を舟印加工して方形に組み合わせる 保存処理
							115.8	28.5		
							118.0	30.5		
W52	固有62 固有47	著	1	008	曲内		20.8	0.5	0.4	100%
W53	固有62 固有47	著	1	008	曲外		19.8以上	0.8	0.4	
W54	固有62 固有47	著	1	008	曲外	アヌナコ属	21.8	0.7	0.4	100% 保存処理
W55	固有62	著	1	008	曲外		15.4以上	0.5	0.4	
W56	固有62	著	1	008	曲外		14.0以上	0.7	0.3	
W57	固有64	部材	1	E9	026 底		14.5以上	3.8以上	1.15 底板 30%	木釘縫
W58	固有68 固有48	折敷 部材	1	070		アヌナコ属	28.2以上	4.6以上	0.1~0.3	底板 縫 縫孔 保存処理
W59	固有68 固有48	折敷 部材	1	070			24.1以上	5.3以上	0.3	側板 在5箇所 固端鍵状になる
W60	固有68	部材	1	070		アヌナコ属	26.5以上	2.85以上	1.2	縫孔? 木釘? 保存処理
W61	固有68	部材	1	070		スギ	7.8	7.6	1.7	円盤状 保存処理
W62	固有68 固有48	部材	1	070		スギ	21.5	2.3~3.6	1.3	14箇所の孔 木釘縫 保存処理
W63	固有68 固有48	桶(舟印枠)	1	070	底	スギ	口径44.6 高38.2		底径38.0 側板 100% 100% 100%	底は無し タガ3箇所(竹割)は縫合 縫さ0.5~0.8cmの細長い板材を2枚貼り重ねる 保存処理
W64	固有68 固有48	舟印枠	1	070	底	コウヤマキ	66.0	22.5		
							65.7	16.0	0.35~0.45	側面 無面に組み合わない穴あり・再利用か? 保存処理
							64.9	21.8		
							64.8	16.4		
W65	固有71 固有49	折敷 部材	1	131	ヒノキ属	24.4以上	12.7以上	0.4~0.9	底板	縫 縫孔 丸物閣
W66	固有71 固有49	?	1	131	アヌナコ属	20	2.4	0.6		孔.2 小孔.3 保存処理
W67	固有71 固有49	?	1	131	スギ	19.9	2	0.6		孔.2 小孔.3 保存処理
W68	固有71 固有49	柄杓 部材	1	131	アヌナコ属	31以上	0.5~1.8	0.9	柄	小孔.1 保存処理
W69	固有71 固有49	?	1	131			42.5以上	19.2	1.4	底化 孔.2 蔭所(斜め)
W70	固有71 固有49	?	1	131			27.5	15.6	2	斜め方向の孔.2
W71	固有71 固有49	眉骨	1	131	眉骨+タケ 茎+底板	幅0.3~0.8 厚さ0.08~0.15	長さ約18.4の持を10枚要で組じる 細が一部残る			保存処理
W72	固有78 固有51	漆器 梅	2	D10x2	二刀半	口徑12.0	3.4以上	-		3分割 朱漆 文様 反板複数 保存処理
W73	固有78	著	2		236 下層		24.3	0.6	0.45	100% 断れる
W74	固有78	著	2	E10b2	236 下層	スギ	21.3	0.8	0.7	100% 保存処理
W75	固有78 固有51	折敷 部材	2	D10y2	中層	28.7	8.8以上	0.3~0.5	底板 2分割 孔.1	
W76	固有78 固有51	折敷 部材	2	E10b2	下層	アヌナコ属	14.1以上	4.0	0.3	側板 縫縫 縫縫 保存処理
W77	固有78 固有51	柄杓 部材	2	D10y2	中層	アヌナコ属	径6	高5.0	厚さ0.1を 3重	側板 縫縫 保存処理
W78	固有78 固有52	柄杓 部材	2	E10b2	下層	アヌナコ属	径8.5	径7.8	厚さ0.5	底板 保存処理
W79	固有78	曲物 部材	2	D10w2	下層	径40.0	高6.5	厚0.2	側板	10個の鏡片に分析 木釘 縫

遺物観察表(木製品)

樹種同定は、保存処理作業をおこなった(株)古山生物研究所によるものである。

報告書 番号	固 定番号	種類	調査区 域地区	調査 部位	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備考
W80	9878 固86 52	部材	2 E1063	236 下削		20.6以上	4.1以上	1.4	底板 25%	釘穴
W81	9878 固86 52	アカトリ(櫟 JL)	2 E1062	236 下削	タワ風	26.3以上	3.9~17.1	1.5~4.3		破損が著しい 保存処理
W82	9879 固86 52	下駄	2 D10w2	236 下削	トネリコ属	17.3	8.7	1.3~4.7		方形孔 保存処理
W83	9879 固86 52	?	2	236 下削	コウヤマキ	41.6	2.0~4.8	3.0~4.0		楕孔 釘穴 保存処理
W84	9879 固86 52	部材	2 E1062	236 下削	マツ属 (二葉松類)	47.0	3.5	3.5	未定?	釘穴 方柱状 保存処理
W85	9879 固86 52	部材	2 E1063	236 下削		26.2以上	4.4	1.6		板状 孔1
W86	9879 固86 52	?	2 E1062	236 下削		18.3以上	6.2	0.2~0.6		孔2 底化
W87	9879 固86 52	?	2 E1062	236 下削		23.4	1.7	1.3		棒状
W88	9879 固86 52	建築部材 柱	2 E1062	236 下削	マツ属 (二葉松類)	76.1以上	24.0	22.9		方形 柱穴 底化 保存処理
W89	9879 固86 52	建築部材 柱	2 D10w2×2	236 下削	マツ属 (二葉松類)	217.4	11.7	8.8		切欠き 柱穴 保存処理

遺物観察表(金属製品・錢貨)

報告書 番号	固 定番号	種類	調査区 域地区	調査 部位	長 cm	幅 cm	厚 cm	重 量	備考
M1	固38 固38	鉄製品 刀子	2 D1062	260 下削	13.1 以上	1.4	0.2	23.8	刃部先端部破損 納部に目釘孔
M2	固48 固43	銅製品 銅金具?	1 E9120	001 下削	6.65	3.7	2.4	29.4	厚さ1cmの板を輪状に合わせる 納底状・ハート形の装飾環
M3	固58 固46	鉄製品 刀	2 D9x24	259 下削	19.7	0.55	0.45	24.0	断面方形 納部縁い折れ
M4	固58 固46	鉄製品 刀	2 D9x24	259 下削	8.9	0.5	0.5	9.1	断面方形 納部縁い折れ
M5	固58 固46	鉄製品 合口刀	2 D9x24	259 下削	12.35	0.7	0.7	32.1	断面方形 実ツ付省
M6	固58	銅製品 切引	2 D9x25	259 下削	3.7	2.1	0.05	2.2	梢円形 薄い板を切り抜く 孔は底2.7cm・幅0.8cm
M7	固71 固49	合金製 小判	1 E1062	131 底	8.3	1.4	0.45	10.0	厚さ0.05mmの板を袋状にする 片面に「大藏造作」の総合金(真鍮?)製
M8	固78	鉄製品 刀子	2 E1062	236 下削	7.2以上	1.25	0.15	3.2	刃部先端部破損 納部に目釘孔2箇所 1箇所は封死る
M9	固82 固82	鉄製品 刀子	2 E1062	001-a 上削	2.27	2.29	0.10	2.8	黄土がり悪く英文不鮮明 緑の緒はほとんどない 模範品? 刃跡621年
M10	固82 固82	鉄製品 刀子	1 E9120	001-a 上削	2.43	2.42	0.11	1.5	草書 黄土がり悪く英文不鮮明 緑の緒はほとんどない 模範品? 刃跡1068年
M11	固82 固82	鉄製品 刀子	2 D9x17	259 下削	2.40	2.39	0.11	3.71	真書 緑の緒は全くない 模範品? 刃跡1078年~1085年
M12	固82 固83	鉄製品 元通販?	2 D1062	236 下削	2.27 以上	2.43	0.10	1.93	草書 黄土がり悪く英文不鮮明 緑の緒はほとんどない 模範品? 刃跡1078年~1085年
M13	固83	銅貨	1 D9	266 底削				8.89	4~5枚が付蔵

遺物觀察表(瓦)

色調は土色鉢を基にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	固 形 品 名	種類	調査地区	調査 層位	長 さ cm	幅 さ cm	厚 さ cm	様 法	色 調	胎 土	備 考		
T1	固形34 固形36	軒丸瓦	2	263 直径 67.2上	3.4	外区：陶器南文 内区：珠文 内区：被付罐单文	内外断：灰白	0.5mm以下の灰色微粒を少量含む	白匂時代				
T2	固形34	軒丸瓦	2	263 直径 67.2上	2.5	内区：複合罐单文	内外断：灰白・灰黄	1mm以下の灰色粒・赤色氧化物を多く含む	白匂時代				
T3	固形34	平瓦	2	263 5.8 以上	6.3 以上	2.2	凸面觸目 凹面ナデ?	内外：灰白・に赤い相 断：灰白・黄褐色	0.5mm以下の灰色粒・赤色氧化物を多く含む	白匂時代			
T4	固形34	平瓦	2	263 6.9 以上	5.3 以上	2.6	凸面ナデ? 凹面触目	内外：浅黄褐・に赤い相 断：灰白	1mm以下の赤色化粧を少量含む	白匂時代			
T5	固形35 固形36	平瓦	1 042直	10.6 以上	6.3 以上	2.0	凸面觸目 研付着 内区(研付)自	内外断：灰白	3mmの白色擦り傷、1mm以下の 研付、白色粉を多く含む	破砕 器・白色粉を多く含む 混入遺物			
T6	固形35 固形36	平瓦	2	289 8.4 以上	10.8 以上	2.0	凸面面 板状工具ナデ	内外：灰・斯：灰褐	研磨、砂粉をほとんど含まない	混入遺物			
T7	固形35 固形36	平瓦	2	295 9.3 以上	9.0 以上	2.2	凸面觸目 凹面布目	内外断：灰白・淡黄	1mm以下の灰・黑色粒・赤色化粧 粉を多く含む	混入遺物			
T8	固形35 固形36	平瓦	1 E9615	082 以上	17.0 以上	2.5	凸面触かし觸目 凹面布目	内外断：灰白	3mm以下の黑色粒を多く含む	混入遺物			
T9	固形35 固形36	平瓦	1 E9619	001 上刷	19.5 以上	14.7 以上	2.7	凸面觸目 凹面布目	内外：灰・斯：灰白	1mm以下の白色微粒を少量含む	混入遺物		
T10	固形35	丸瓦	E9	057北 上刷	14.0 以上	10.6 以上	2.0	凸面ナデ? 凹面布目 内区(研付)自	内外断：灰白	0.5mm以下の灰色微粒と赤色化粧 粉を多く含む	混入遺物		
T11	固形80 固形53	軒丸瓦	1 E9e19	001-b 上刷	21.5 以上	13.4 以上	長さ 20.5 以上	内区：陶器單文 外区：二重輪削内に珠文 24個	外：灰白・灰 断：灰白	3mm以下の灰色粒を少暈含む	混入遺物が 羅倉・南北朝時代		
T12	固形80 固形53	軒丸瓦	2 D9g15	259 下刷	21.5 以上	16.5 以上	長さ 12.5 以上	三巴：尾は長く堅がる 底：26個 丸外キヘラ ミガキ 内面コビキ	外：黑・内：灰黄	1mm以下の灰色微粒を少暈含む	室町時代		
T13	固形80 固形53	軒丸瓦	2 D9g19	261 埋戻し一括	21.5 以上	14.5 以上	長さ 31.3 以上	三巴：尾は長く堅がる 直文26個か 丸外側へラ ミガキ 内面コビキ ブ リ 間六引	外：灰・斯：灰白	1mm以下の灰・白色粒を少暈含む	室町時代		
T14	固形80 固形53	軒丸瓦	2 D9g15	259 下刷	21.5 以上	16.5 以上	長さ 16.5 以上	三巴：尾は長く堅がる 直文26個 丸外側へラ ミガキ 内面コビキ ブ リ 間六引	外：暗灰・斯：灰白	1mm以下の灰・白色粒を少暈含む	室町時代		
T15	固形80 固形53	軒丸瓦	1 E9d21	001-b 上刷	21.5 以上	15.5 以上	長さ 19.6 以上	三巴：尾は長く堅がる 直文24個か?	外：灰・暗灰・斯：灰白 断：オリーブ	2mm以下の灰色微粒を多く含む 1mm以下の白色微粒を少暈含む	室町時代		
T16	固形80	軒丸瓦	1 E9d21	001-b 上刷	21.5 以上	15.0 以上	長さ 11.0 以上	三巴：尾は長く堅がる	外：灰・斯：灰・板	2mm以下の灰色微粒を多く含む	室町時代		
T17	固形80	平瓦	2 E10b1	001 上刷	21.5 以上	13.0 以上	長さ 3.6 以上	草文 卵桶形窓	外：灰・灰・斯：灰白 断：灰白	3mm以下の白・白・黑色粒を多く 含む	混入遺物が 羅倉時?		
T18	固形80 固形53	斜平瓦	2 D9	148 上刷	21.5 以上	14.5 以上	長さ 3.9 以上	斜平瓦	外：灰・暗灰 断：灰白	1mm以下の灰・黑・白色粒を多く 含む	混入遺物が 羅倉・南北朝時代		
T19	固形80	軒平瓦	1 E9	001 サブレト2 上刷	21.5 以上	13.8 以上	長さ 8.0 以上	斜平瓦内面草文	外：灰・斯：灰白	1mm以下の白・灰色粒を少暈含む	混入遺物が 羅倉・南北朝時代		
T20	固形80	斜平瓦	1 E9g19	001-b 中刷	21.5 以上	13.5 以上	長さ 25.5 以上	不均整変形草文 中心飾りナデ?	外：灰・斯：灰白	2mm以下の白・灰色粒を少暈含む 1mmの褐色斑 1個	室町時代		
T21	固形80 固形53	斜平瓦	1 E9g19 h19	001-b 上刷	21.5 以上	13.5 以上	長さ 24.5 以上	不均整変形草文 中心飾りナデ?	外：灰・斯：灰白 断：灰白	1mm以下の灰・白・白色粒を少 暈含む	室町時代		
T22	固形80	斜平瓦	1 E9k22	001-b 上刷	21.5 以上	14.2 以上	長さ 4.1 以上	草文 卵桶形窓	外：灰・暗灰 断：灰・板	1mm以下の灰色粒を微量含む	室町時代		
T23	固形80 固形53	斜平瓦	2 D9b17 h19	259 下刷	22.4 以上	22.5 以上	長さ 17.7 以上	均整草窓 中心飾り?	外：灰・暗灰 断：灰白	3mm以下の灰色粒を少暈含む	室町時代		
T24	固形80	丸瓦	2 E9b25	001 上刷	31.3 以上	13.5 以上	1.8	内面被付工具ナデ 内面コビキ ブリ 呼り組	外：灰・斯：灰白	1mm以下の灰色微粒を少暈含む	室町時代		
T25	固形80	丸瓦	1 E9c20	001-b 中刷	30.3 以上	14.0 以上	2.3	内面被付工具ナデ 内面コビキ ブリ 呼り組	外：灰・斯：灰白	2mm以下の灰色粒を多く含む	室町時代		
T26	固形81 固形53	丸瓦	2 E9b25	001 中刷	33.0 以上	14.2 以上	2.2	内面被付工具ナデ 内面コビキ ブリ 呼り組	灰・灰白・斯：灰白	1mm以下の灰色微粒を多く含む	室町時代		
T27	固形81 固形53	丸瓦	1 E9d20	001-b 中刷	32.0 以上	14.0 以上	2.2	内面被付工具ナデ 内面コビキ ブリ 呼り組	灰・灰白・斯：灰白 断：灰白	1mm以下の灰色粒を少暈含む	室町時代		
T28	固形81 固形53	丸瓦	1 E9d25	001 中刷	31.5 以上	13.0 以上	2.2	内面被付工具ナデ 内面コビキ ブリ 呼り組	外：灰・斯：灰白	1mm以下の灰色粒を少暈含む	室町時代		
T29	固形81 固形53	平瓦	1 E9d21	001-b 上刷	30.5 以上	26.0 以上	2.2	板状工具ナデ?	外：灰・灰白 断：灰白	1mm以下の灰色粒を少暈含む 9mmの黒色擦り傷 2個 3~5mmの黒色擦り傷	室町時代		
T30	固形81 固形53	平瓦	1 E9c22	001-b 上刷	30.1 以上	24.9 以上	2.25	板状工具ナデ?	外：灰・暗灰・黑 断：灰白・灰白	1mm以下の灰・黑色粒を多く含む	室町時代		
T31	固形81 固形53	平瓦	1 E9b25	001 上刷	29.8 以上	25.4 以上	2.2	板状工具ナデ?	外：灰・暗灰・黑 断：灰白・灰白	1mm以下の灰・黑色粒を多く含む	室町時代		
T32	固形81 固形53	平瓦	1 E9d21	001-b 上刷	30.3 以上	25.7 以上	2.3	板状工具ナデ?	外：灰・斯：灰白	1mm以下の灰色粒を微量含む	室町時代		
T33	固形81 固形53	鬼瓦	2 E10b2	236 下刷	25.2 以上	13.5 以上	1.1	コビキ A	外：灰・灰 断：灰白	1mmの大約1個 7mmの大約 1個の黒色擦り傷 2個 3~5mmの黒色擦り傷	室町時代?		
T34	固形81 固形53	鬼瓦	1 E9b18	001-b 上刷	29.4 以上	20.4 以上	2.25	タテコ E15.5以上	内下部：複合瓦片 近方 内下部：竹皮文による透雕	外：灰 断：灰白・灰白	1mm以下の灰色粒を多く含む	室町時代	
T35	固形81 固形53	鬼瓦	1 E9g19	001-b 上刷	15.8 以上	12.1 以上	1.1	有上透雕 竹皮文による 透雕	灰 断：灰白	1mm以下の灰・白色粒を少暈含む	室町時代		



1. 遺跡近景
(南東上空から)



2. 調査区 1
(南上空から)



3. 調査区 1
(上空から)



1. 調査区 2
(北上空から)



2. 調査区 2
(上空から)



3. 調査区 2
(東上空から)



1. 調査区1 西側
遺構検出状況
(北から)



2. 調査区1 東側
遺構検出状況
(南東から)



3. 調査区1 全景
(北西から)

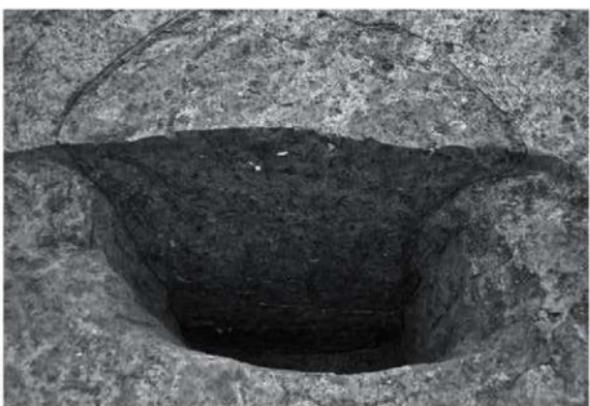




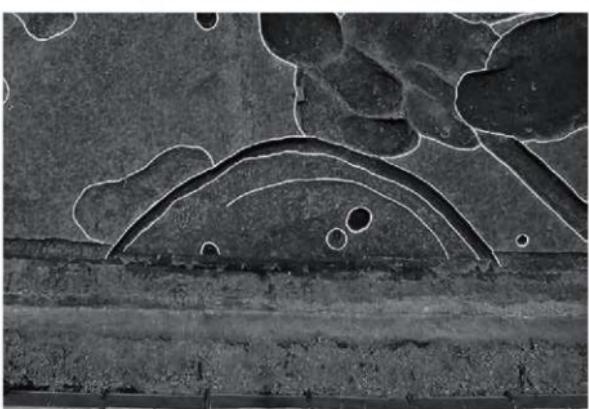
1. 003 売穴建物
(上空から)



2. 003 売穴建物
遺物出土状況
(南から)



3. 003 売穴建物内
172 土坑断面
(南から)





1. 024 壓穴建物
(東から)



2. 024 壓穴建物
炭化木・遺物検出状況
(南東から)



3. 024 壓穴建物内
153 土坑断面
(南西から)



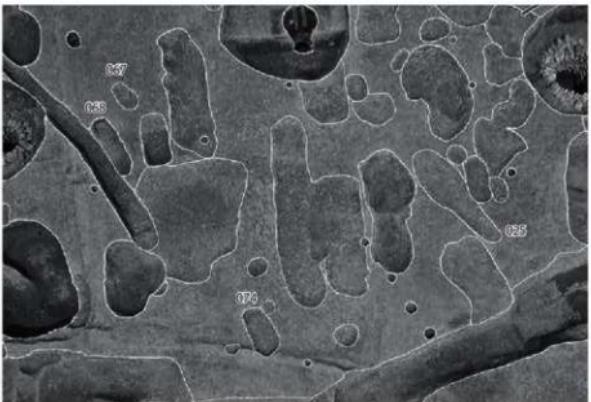
1. 028 壁穴建物
(西から)



2. 028 壁穴建物内
143 土坑断面
(南から)



3. 028 壁穴建物内
145 土坑断面
(北から)



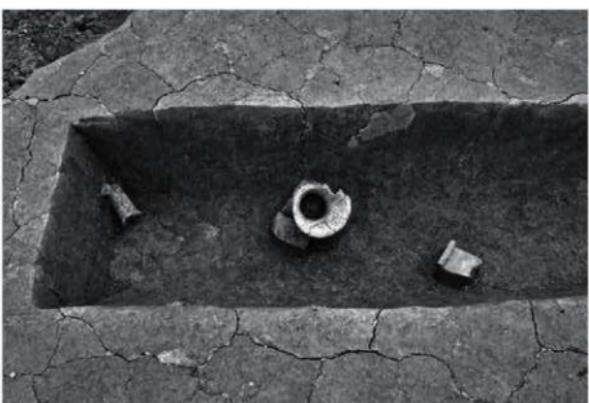
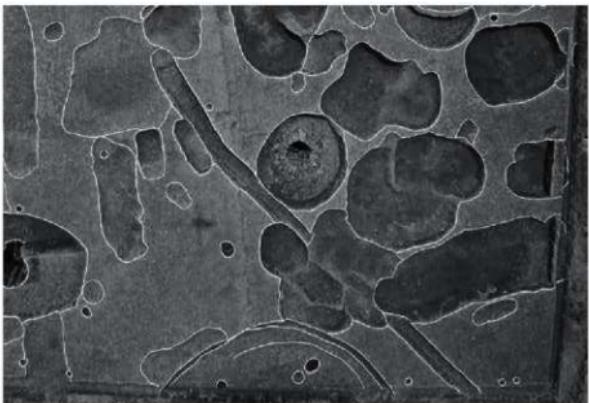
1. 弥生時代の土坑
(上空から)



2. 068 土坑
遺物出土状況
(北東から)



3. 293 土坑 断面
(南西から)





1. 266・270溝
(上空から)



2. 270溝
遺物出土状況
(東から)



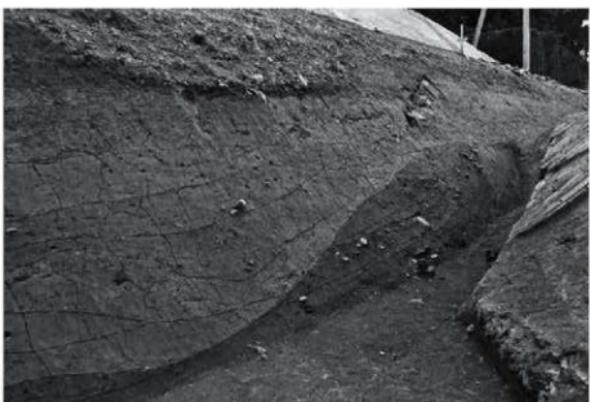
3. 266・270溝 断面
(東から)



1. 263 溝
(上空から)



2. 263 溝 断面
(南西から)



3. 260 谷状遺構 断面
(東から)



1. 295 井戸
(北東から)



2. 295 井戸 断面
(北東から)



3. 295 井戸
井戸側
(北東から)



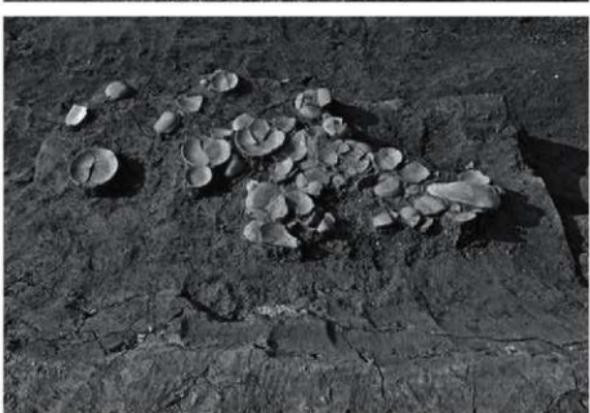
1. 001 堀
(上空から)



2. 001 堀 A-A' 断面
(東から)



3. 001 堀 C-C' 断面
(南から)

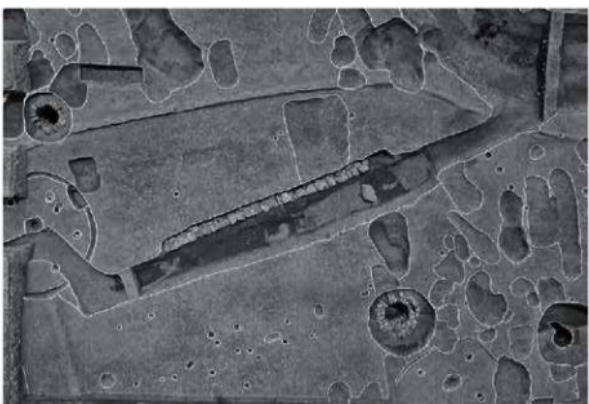




1. 019 堀
(東から)



2. 019 堀 D - D' 断面
(東から)



3. 027 堀
(上空から)



1. 027 堀内
石垣
(北西から)



2. 027 堀内
石垣
(北東から)



3. 027 堀 断面
(北東から)



1. 258・259 堀
(南から)



2. 258・259 堀
(北から)



3. 258 堀 断面
(南から)



1. 259 堀 断面
(南から)



2. 259 堀内
橋脚造構
(南から)



3. 259 堀内
橋脚造構
(西から)



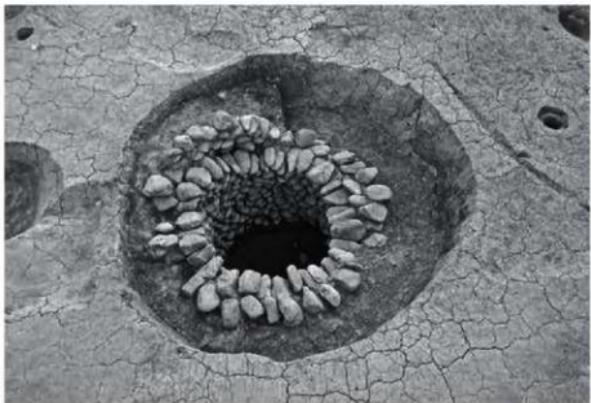
1. 008 井戸
(西から)



2. 008 井戸 断面
(西から)



3. 008 井戸内
方形枠・曲物
(西から)



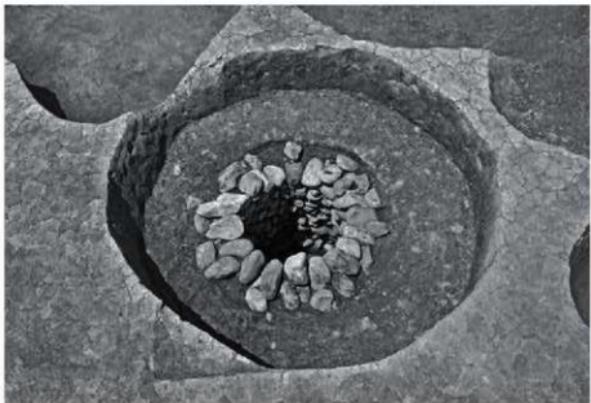
1. 026 井戸
(東から)



2. 026 井戸 断面
(北から)



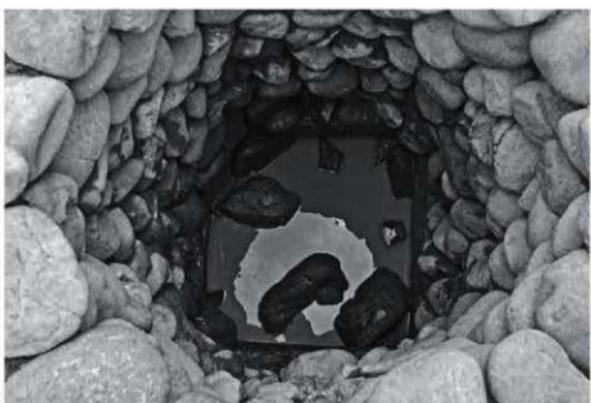
3. 026 井戸内
(東から)



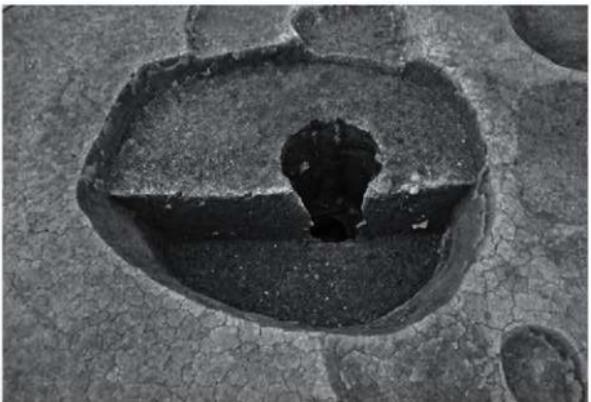
1. 048 井戸
(東から)



2. 048 井戸 断面
(東から)



3. 048 井戸内
(東から)



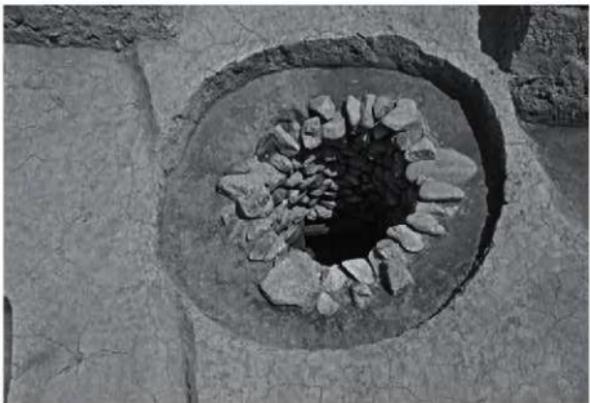
1. 070 井戸
(南から)



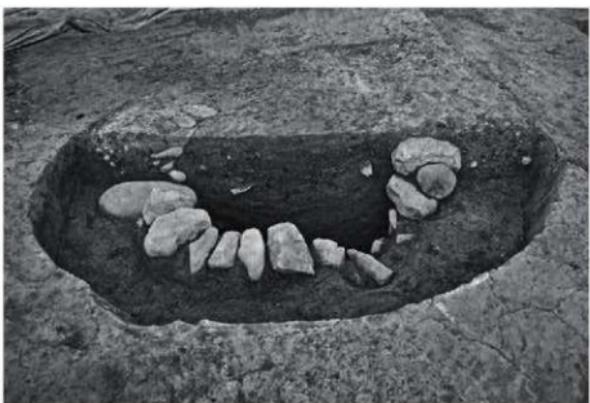
2. 070 井戸 断面
(南から)



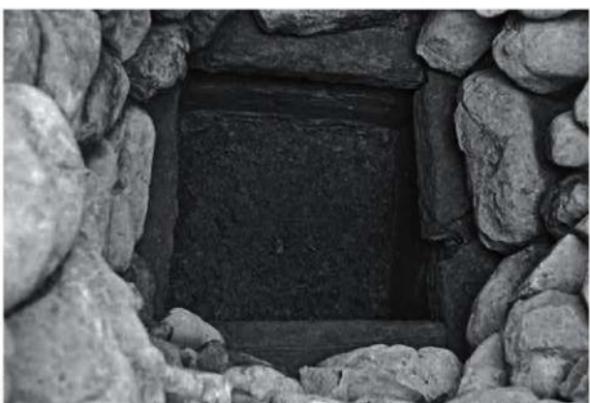
3. 070 井戸内
(西から)



1. 131 井戸
(西から)



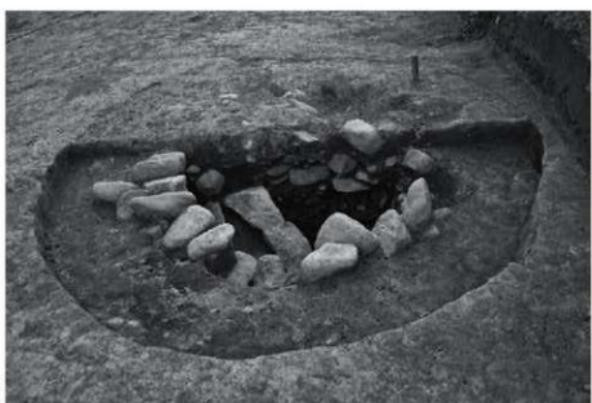
2. 131 井戸 断面
(東から)



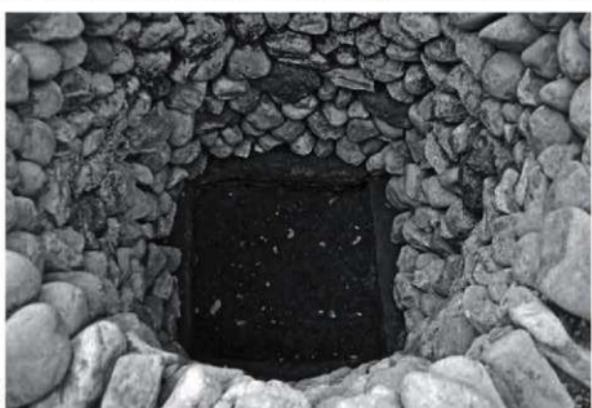
3. 131 井戸底
(東から)



1. 261 井戸
(南から)



2. 261 井戸 断面
(東から)



3. 261 井戸内
(北から)



1. 268 井戸
(南から)



2. 268 井戸 断面
(南から)



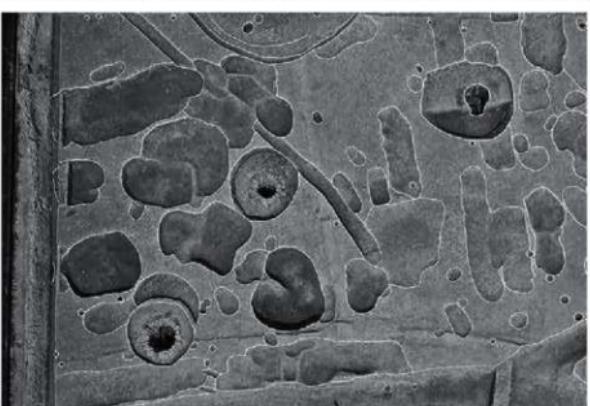
3. 268 井戸底
(南から)



1. 236 池
(上空から)



2. 236 池 断面
(北東から)



3. 調査区1 近世土坑群
(上空から)



1. 調査区 2 近世土坑群
(東から)

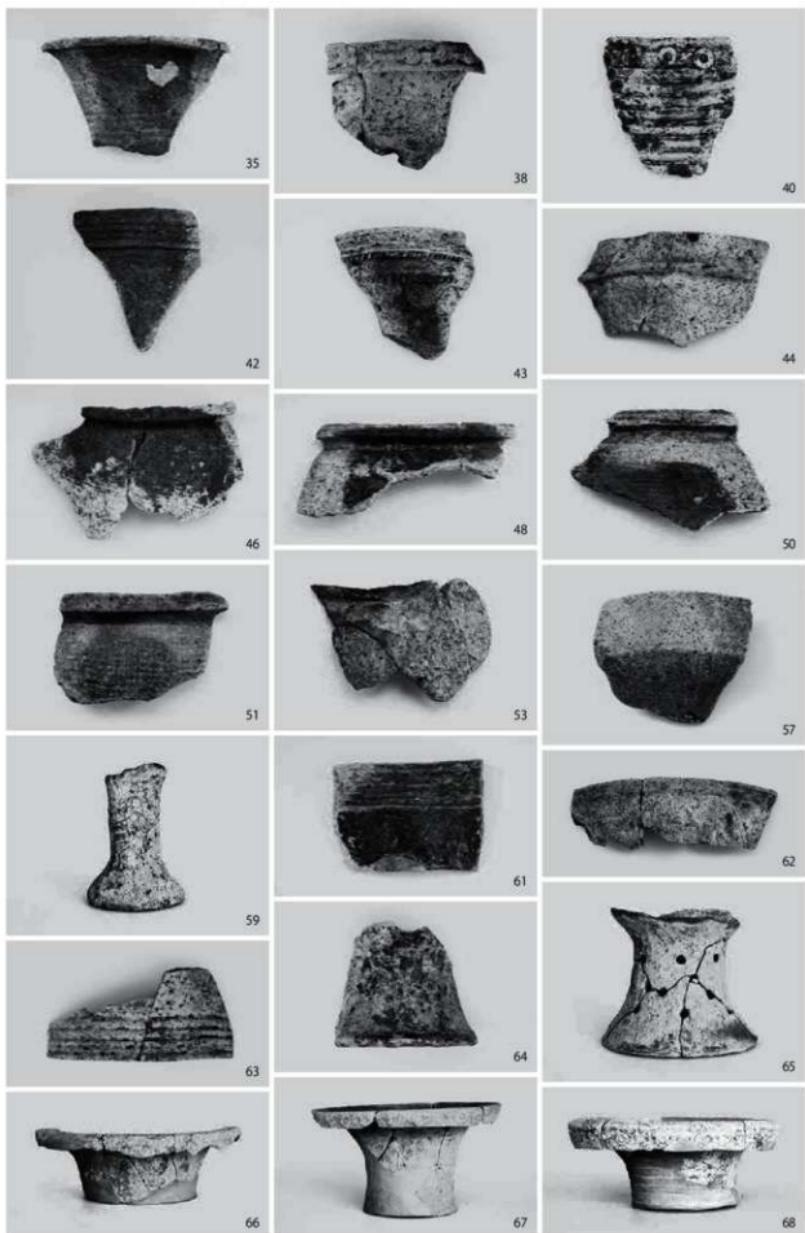


2. 042 土坑 断面
(東から)



3. 057 土坑 断面
(南から)











116



117



118



121



122



123



125



126



127



128



129



131



134



135



136



137



138



139



140



141



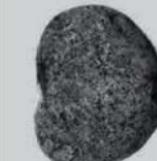
142







S21



S22



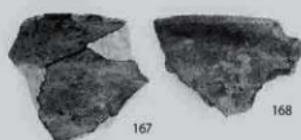
S23



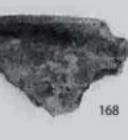
S24



T1



167



168



165



169



170



172



171



W3



W1



W2



T7



T5



T9



T8



184 ~ 207



184



185



186



187



188



189



190



191



192



194



195



196



197



198



199



202



203



204



205



206



207



208 ~ 230



208

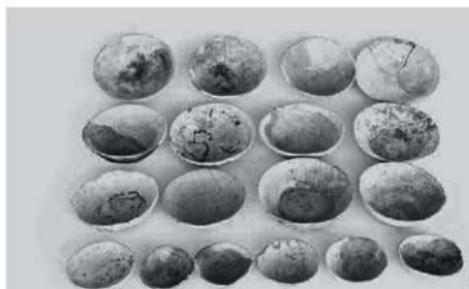


209



210





234～251



234



235



236



237



238



239



240



241



242



243



244



245



246



247



248



249



250



251



254～324



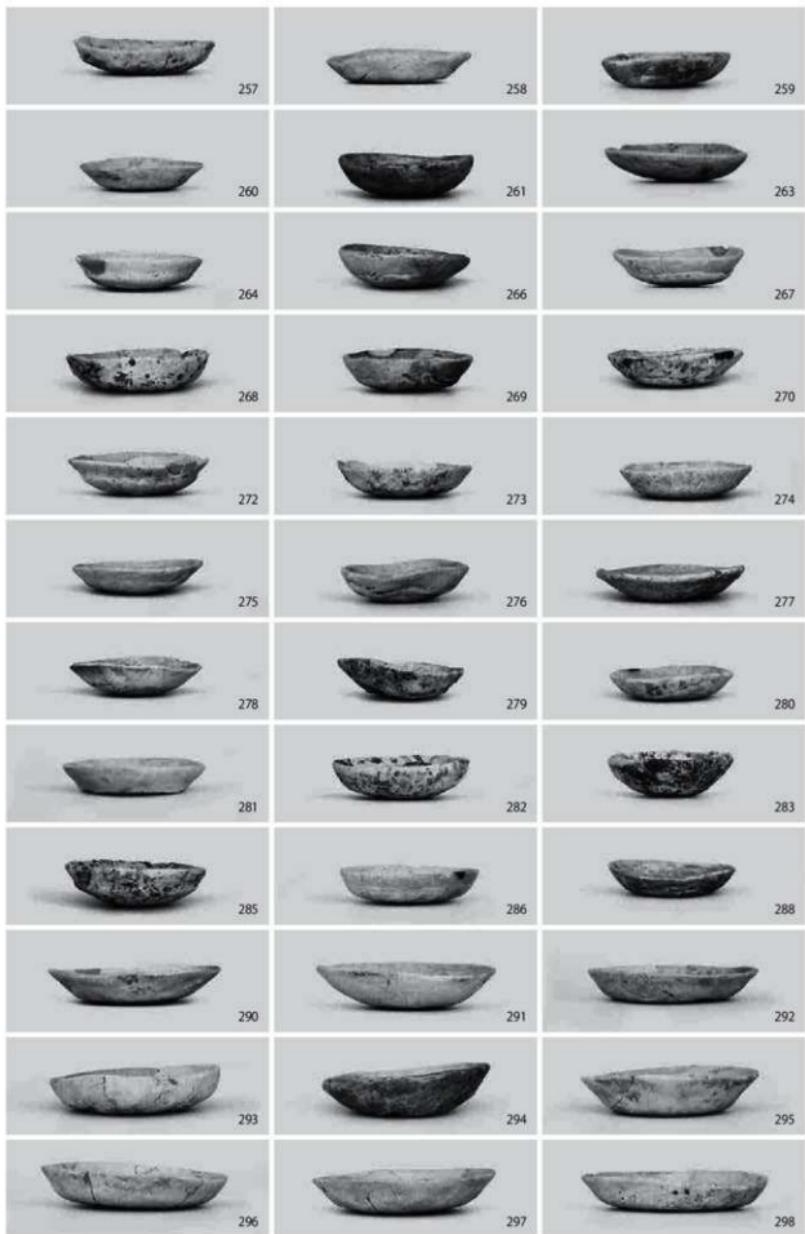
254



255



256





299



300



301



302



303



305



307



306



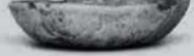
308



309



310



312



313



314



315



316



318



319



320



321



323



324



325



326



327



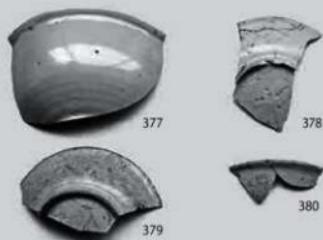
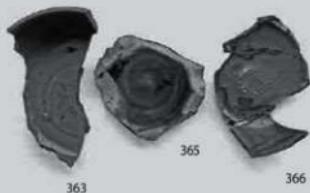
329

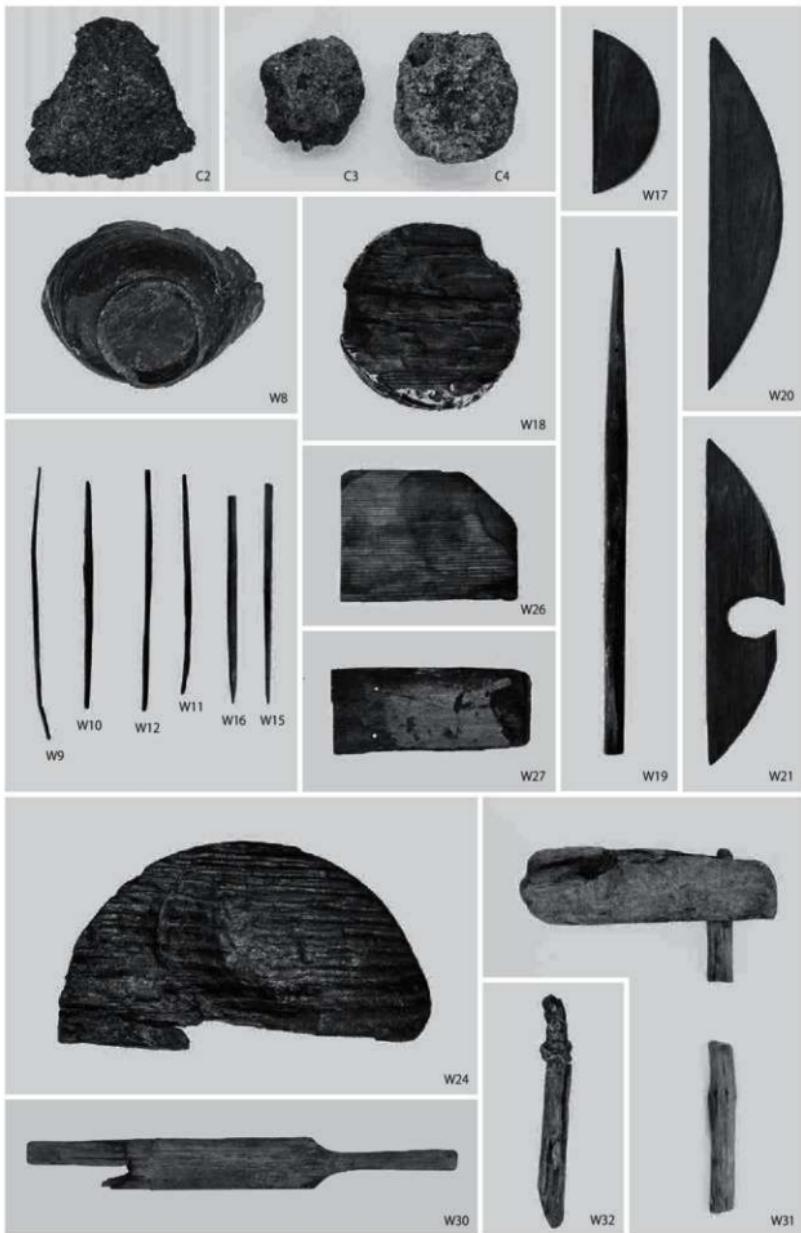


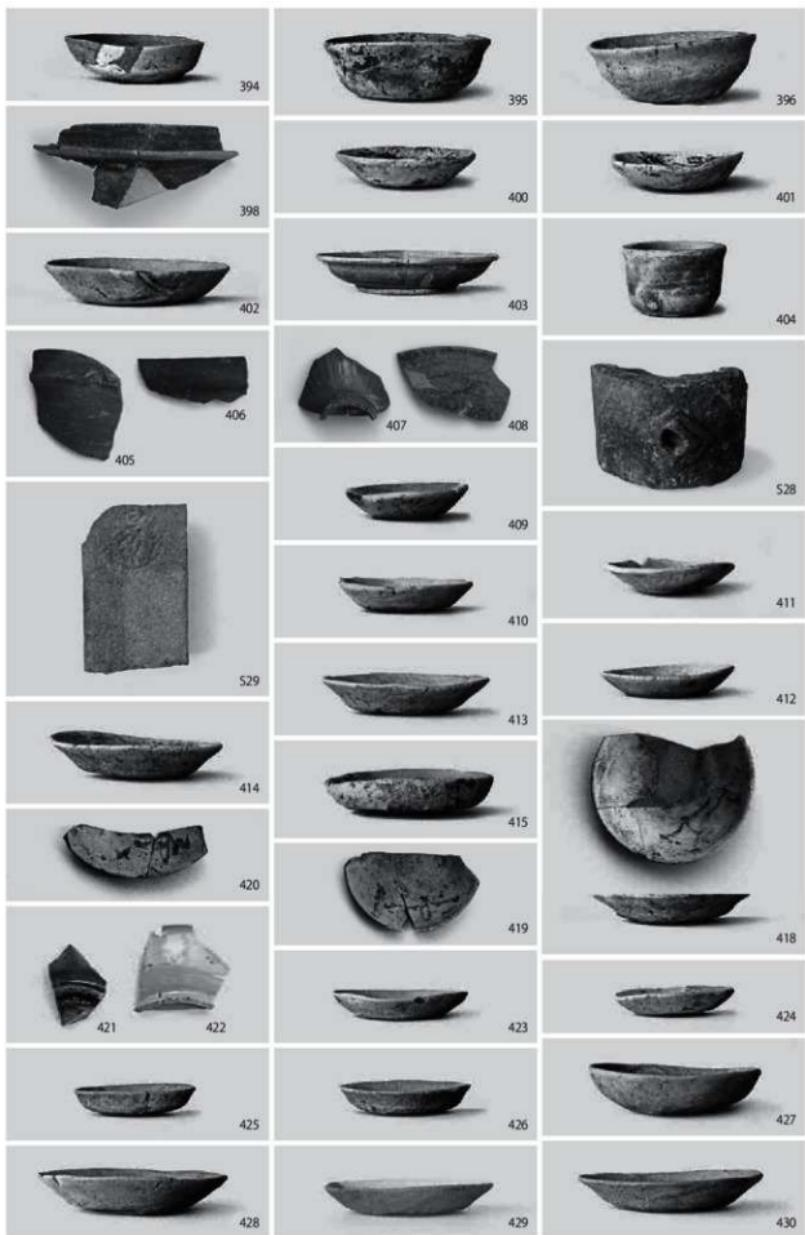
350



353













W58



W59



W62



W63



W64



465



466



467



468



469



470



471



472



473



474



475



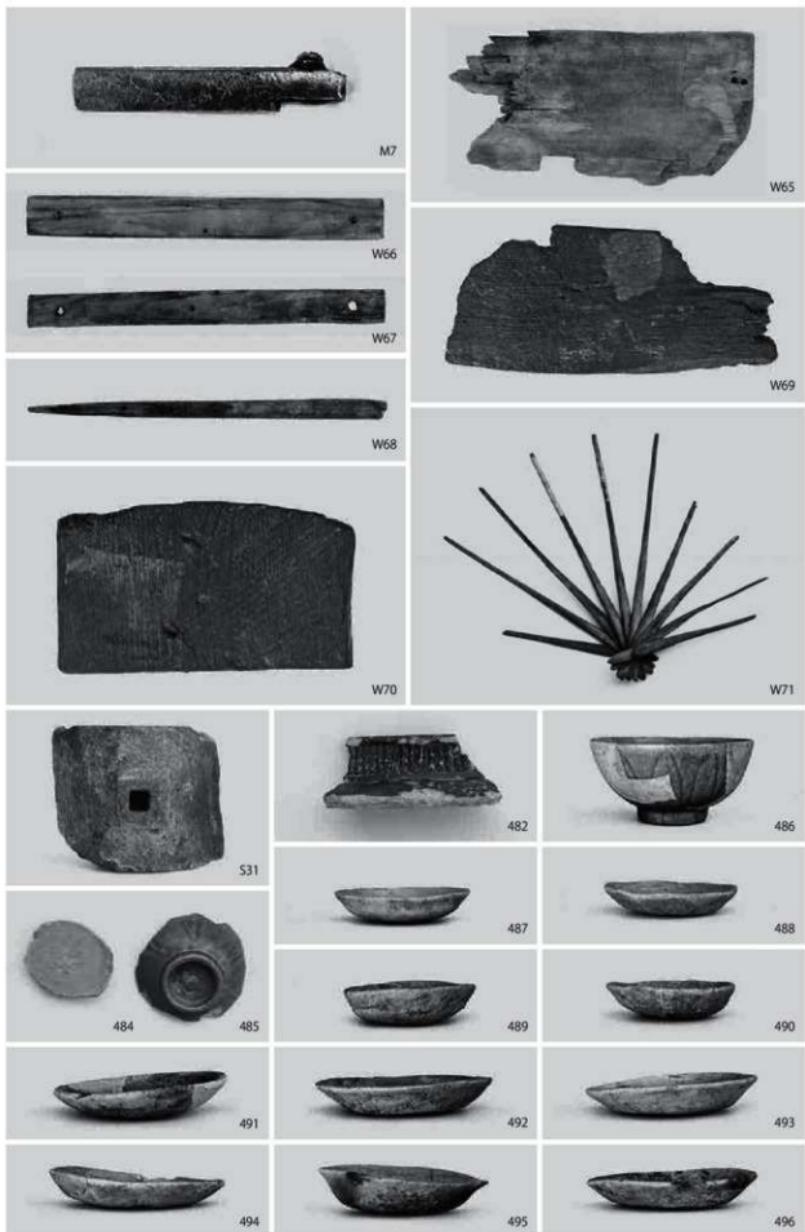
476



477



478







535



536



540



542



542



540



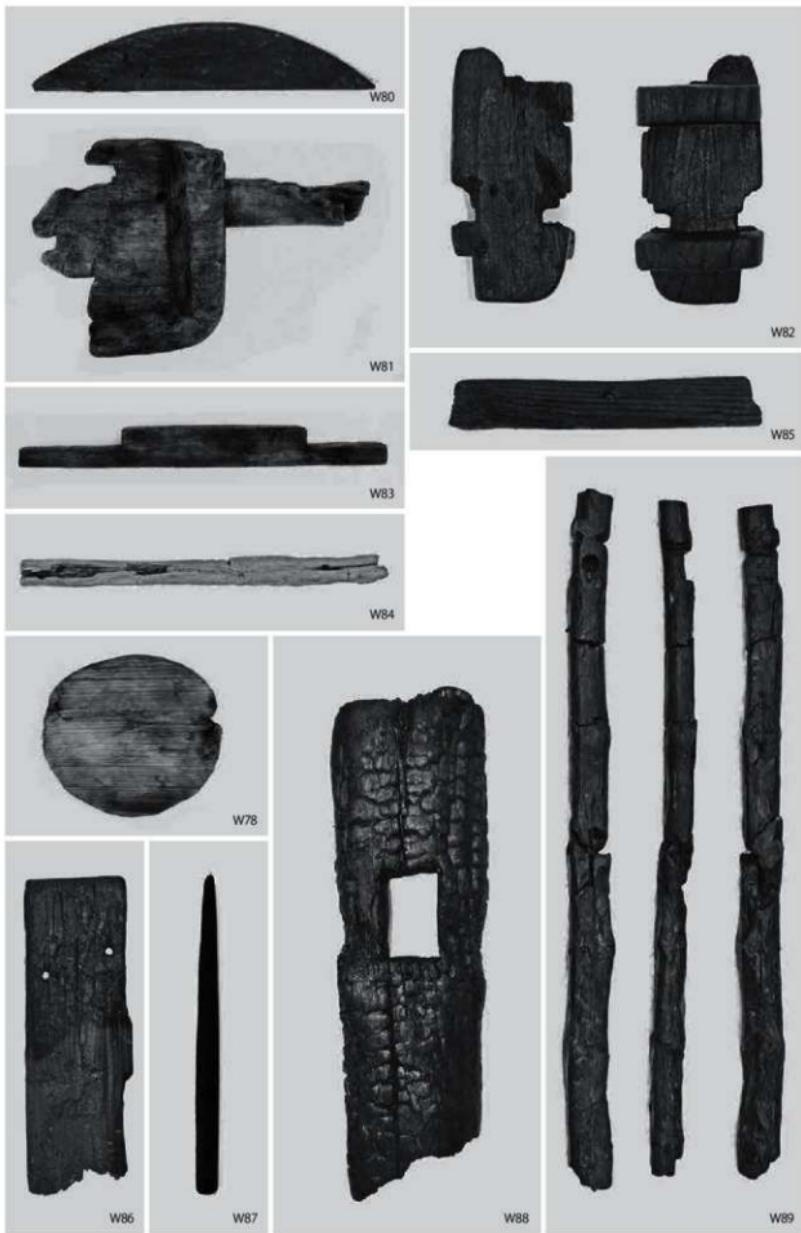
W77

W72



W76

W75





報告書抄録

小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡

—湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書—

発行年月日：2016年3月31日

編集・発行：公益財團法人和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の1

印刷・製本：株式会社 協和
和歌山県海南市南赤坂5-3